

創立六十周年記念誌

東高への十年

千葉県立千葉東高等学校



## 校歌

沢田繁二作詞  
石黒脩三作曲

ニシヤロンの花とたたへたる  
古きつたへの谷の百合  
清きほこりを移し植え  
学びの園につちかひぬ  
深きまなびのかたなくば  
汝をみなごをとめさびせし

ニアルプの山のこぼしきを  
ふみやぶりたるますらをの  
強きこころを打ち樹て  
学びの庭にはぐくみぬ  
はげしきわざをつまざれば  
汝をのこらをとこさびせし









本校全景



# 東高の風景



平成12年（第53回生学年団）



授業 平成12年



平成5年



ブラスバンド部文化祭発表 平成13年



文化祭クラス発表「演劇」  
平成11年度





1年生キャンプ 平成5年



2年生修学旅行 平成4年



陸上競技大会 平成6年



入学式1学年団 平成7年



マンドリン部定期演奏会  
平成12年度



音楽部文化祭発表 平成13年



通信制玄関



第45回卒業式 平成13年



体育祭集会風景



体育祭開会式



1組研修会（千葉公園）平成13年



夏季合宿（湯の丸山山頂）平成13年





授業 書道



音楽



美術



平成13年度校内展



通信棟全景



定通総合文化大会（長生高校）平成12年



# 記念式典

於 本校体育館  
時 十一月十日(土)



全景



実行委員長挨拶



学校長挨拶



感謝状贈呈



招待者



記念品



ブラスバンド部式典序曲

# 祝賀会

於 ホテルサンガーデン千葉  
時 十一月十日(土)



開式の辞



司会



万歳三唱

# 記念行事 芸術鑑賞会

於 千葉県文化会館  
時 十二月十三日(木)



金管アンサンブル



バレエ



展示用パネル書道室



ガラスケース中央廊下1~3階

# 記念事業 芸術鑑賞設備





創立60周年（平成13年度）全日制課程在職職員



創立60周年（平成13年度）通信制課程在職職員



## 不易と流行

…六十年の伝統の継承と  
新しい千葉東高校の創造…



校長 曾川 定雄

新たな世紀二十一世紀がスタートしたその記念すべき二〇〇一年に、千葉県立千葉東高等学校は創立六十周年を迎えました。

奇しくも、この二〇〇一年は文部科学省が「教育新生元年」と位置付けた年でもあります。周知のごとく、いじめや不登校、学級崩壊、青少年による凶悪事件の続発、学力水準の低下等々、わが国の教育は近年深刻な状況に直面しています。文部科学省は教育改革国民会議の最終報告（二〇〇〇・十二）を受け、人間性豊かな日本人の育成、創造性に富む人間の育成、新しい学校づくりなどを目指した「二十一世紀教育新生プラン」を策定し、教育改革を果敢に実行しようとしています。

千葉県においても、県民が「学ぶ喜びに満たされる社会」の実現を目指し、二〇二五年を目標年次とする教育長期ビジョン「千葉の教育」夢・未来二〇二五」を策定（一九九九・九）し、積極的に改革に乗り出しています。特に、昨年度からは県立高校再編計画策定懇談会等により、県立高校の再編計画や開かれた学校づくりの推進等が具体的に論議され、通学区域の拡大や女子高の共学化等の諸施策が順次実施に移されております。

このように、国を挙げての教育大改革の時に、六十周年という節目を迎えたことに不思議な因縁を感じております。本校は一九四一年、市町に開校、以来幾多の変遷を経て、現在は文武両道を実践する県下有数の進学校として、また、県下唯一の通信制課程を有する公立校として、確固たる地位を築いております。しかし、更なる充実発展のためには、その地位に甘んずることなく、二十一世紀にふさわしい新しい価値観を見だし、育てていくことが必要です。

本校では、一九九九年から将来検討委員会等により、国や県の動向を踏まえ、完全学校週五日制への円滑な移行や新学習指導要領の趣旨を十分に生かす教育を実施する方策等を慎重に検討し、着実にその成果を上げております。具体的には、二〇〇〇年十一月に地域・同窓会や保護者の方々と本校教職員との懇談会「東雲ネット・さわやかミニトーク」の第一回会合を開催し、貴重な御意見を幅広く頂きました。また、千葉大学との連携により、本校生徒が千葉大の講座を受講し、その成果を本校の単位として認定することが可能となり、二〇〇一年度は七名の本校生徒が千葉大で学んでおります。この他、週五日制による授業時数の減

少やセンター試験五教科七科目受験への対応として、二〇〇二年度から一週間の授業時間を三十一単位時間としました。現在は、二学期制が今後の本校にとって有効な制度であるか否か、また、本校独自の「総合的な学習の時間」の内容・構成等々について検討を進めております。一方、生徒数が急増中の通信制課程については、その教育内容充実のため独立校化等の検討も進行中であります。今後、いわゆる「不易と流行」の精神にのっとり、本質をしっかりと見極め、時代に即応した更なる発展の基礎を築く学校運営に努めていきたいと考えています。

本誌では、六十周年記念事業の一環として、五十周年以降の十年間に的を絞って、写真を中心に本校の歩みを記録することを意図しました。作成にあたり、同窓生の皆様や旧職員等、多くの方々に御協力頂きました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。本誌が、輝かしい本校の歴史の一コマを後世に伝え、今後の本校の発展の資となれば幸いです。

# 総目次

口 絵  
巻頭言

## 第一章 創立六十周年記念事業

第一節 式典(挨拶・式辞・祝辞)……………3

第二節 記念行事(式典・祝賀会・芸術鑑賞会)……………9

第三節 記念事業設備(芸術鑑賞設備)……………16

## 第二章 沿革・年表

第一節 沿革史(創立から五十周年まで)……………24

第二節 年表(10年のあゆみ)……………26

## 第三章 回想・記録

第一節 回想……………49

第二節 全日制課程の記録……………62

第三節 通信制課程の記録……………151

第四節 同窓会の記録……………180

## 第四章 資料編

第一節 現況……………187



# 東高点描

---



第二（教室）棟とプール



春の正門



トレーニング場



タイムカプセル埋没地



雪のグラウンド



昇降口

第一章 創立六十周年記念事業

第一節 式典（挨拶・式辞・祝辞）

母校創立六十周年を祝う

実行委員長・同窓会会長 井戸川 浩 …… 3

式 辞 …… 校長 曾川 定雄 …… 4

祝 辞 …… 千葉県高等学校校長協会監事 山田 大三 …… 5

生徒会代表挨拶 …… 生徒会長 大武亮太郎 …… 7

謝 辞 …… 第十四代校長 高橋 浩司 …… 7

第二節 記念行事（式典・祝賀会・芸術鑑賞会）

一 実行委員会組織 …… 9

二 実行委員会の活動記録 …… 9

三 記念式典・祝賀会 …… 10

四 記念行事芸術鑑賞会 …… 14

第三節 記念事業設備（芸術鑑賞設備）

一 芸術鑑賞設備委員会委員 …… 16

二 芸術鑑賞設備概要 …… 16

三 芸術鑑賞設備が決まるまでの経緯 …… 16

四 芸術鑑賞設備について …… 17

## 第一節 式典（挨拶・式辞・祝辞）

### 母校創立六十周年を祝う

実行委員長・同窓会会長 井戸川 浩



千葉東高等学校創立六十周年記念式典を迎えるにあたり心からのお祝いを申し上げますとともにご挨拶申し上げます。

はじめに、本日ここに記念式典を挙げるにあたりまして、ご多用中にもかかわらずご臨席を賜りました山田県高校協会監事様、歴代校長先生、学校医の先生方はじめ多数のご来賓の皆様にご心からお礼申し上げます。

本校は、昭和十六年四月に千葉市立千葉高等女学校としてスタートしてから六十年。人間で言えば還暦を迎えたことになり、さしずめ「赤いチャンチャンコ」で祝ってもらえる星霜を重ねたことになりました。

この間、本校はあの悲惨な大東亜戦争を乗り越え、昭和二十五年に県立移管とともに男女共学となり千葉県立千葉第三高等学校、同三十四年には千葉県立千葉東高等学校とそれぞれ改称され今日に至っております。

また、業態的には全日制普通高校のほか通信制の併設や現在の若葉看護高校の前身である衛生看護科の併設などがあり、県下でもユニークに総合高校として機能してまいりました。

県当局をはじめ関係諸機関、ならびにPTA、同窓会、通信制振興会の多大なご支援と、立派なリーダーシップを発揮された歴代の校長先生

方や優秀な教師陣にも恵まれ、これに応えて文武両道の指導目標を達成し豊かな学園生活を送って社会に送り出された卒業生すなわち同窓会会員は、おかげさまで通信制、看護科を含め二万六千人を超え各界で活躍しております。

十年前の平成三年には創立五十周年を盛大に祝いました。その記念式典での挨拶で、前任の小西会長は「この五十年を礎とし、更に六十年、七十年、・・・百年と記念日が迎えられることを切望いたし、また同時に同窓会としても微力ながら従前にも増して協力をさせていただいたく思います」と結んでおります。

あれから十年・・・。

あっという間でしたが、六十周年を迎えることができました。母校の創立六十周年を祝う記念事業について何ができるか、何をすればいいか多くの方々のご意見をお聞きし、かつ多くの同窓生の方々から浄財のご寄付をおおぎ、校舎の耐震改造工事に伴い、やや暗くなる教室や廊下に潤いを得るために芸術鑑賞設備を設置しようということになり、学校、同窓会、PTA、振興会の四者から構成される記念事業実行委員会が結成され、費用分担をいたしました。

事業内容としては①六十周年記念誌編集委員会、②芸術鑑賞委員会、③記念式典等委員会、④芸術鑑賞設備委員会の四つの専門委員会を設置し、それぞれ教務繁忙の中、鋭意準備を進めていただいたご担当の先生方のおかげで今日を迎えることができました。厚くお礼を申し上げたいと思います。

終わりにあたり、在校生の生徒の皆さんにひとこと申し上げます。

二十一世紀を担う若き俊英に対する社会の期待は大きく、本校に課せられた使命もまた大なるものがあります。どうか本校の教育目標であります文武両道の精神を体現され、社会に役立つ立派な人物になっていただきたいと念願しております。今から四十年後、皆さんは五十七歳前後

の年齢に達しておられるでしょうし、社会のいたるところで重要なポジションを占めて大活躍しておられることと思います。願わくば四十年後の千葉東高校創立百周年記念行事を盛大に祝っていただきたいと思ひます。私たちも今後、皆さん方とともに学校、PTA、同窓会、通信制振興会の一層の発展を期して、惜しみなく母校支援を継続してまいりますことを申し上げてご挨拶といたします。

## 式 辞

### 校長 曾川 定雄

本日、ここに千葉県立千葉東高等学校創立六十周年記念式典を挙げるに当たり、千葉県高等学校長協会監事千葉県立佐倉高等学校校長山田大三様をはじめ多くのご来賓の方々のご臨席を賜り、かくも盛大に式典を行い得ますことは、学校を挙げてこの上もない喜びでございます。

本校は昭和十六年に千葉市立高等女学校として市内港町で開校いたしました。

当時は、昭和十四年にイギリス・フランスのドイツへの宣戦布告、昭和十六年には日米間の戦争が始まるという第二次世界大戦の真直中でありました。このような緊迫した世界情勢の下で、本校が開校出来たことは、当時の千葉市民の教育に対する熱意の賜物と深く敬意を表する次第であります。



そして終戦後、国を挙げて復興に努める中で、学校教育制度も新しくなり、千葉県においても公立高等学校の整理統合が行われました。本校も昭和二十五年に県立移管となり、男女共学の千葉県立千葉第三高等学校として新たにスタート致しました。昭和二十九年にはそれまで千葉第一高等学校と千葉第二高等学校にあった通信教育部が統合され本校に併置されました。昭和三十六年には校名が現在の千葉県立千葉東高等学校と改まり、その後、昭和四十一年に時代の要請を受け、准看護婦の養成課程である衛生看護科が本校に設置されました。ここに本校は、全日制の課程に普通科と衛生看護科、通信制の課程に普通科という、二課程三学科を置く県下で最大規模の時代を迎えました。その後、衛生看護科は、その教育内容や施設設備などの更なる充実発展を目指し、昭和五十六年に若葉看護高等学校として本校から分離独立してまいりました。

顧みますと昭和十六年、地域を挙げての教育への熱意の中から誕生し、以来今日に至るまでの六十年間、同窓会・PTAなど多くの方々の暖かく力強いご支援と、歴任教職員の熱意ある指導、並びに生徒の皆さんの「文武両道の実践」により、現在の名実共に県下に誇れる高等学校としての揺るぎない地位を築くに至っております。そして今、全日制二万七十八名、通信制六千百十三名、合せて二万六千九百九十一名の卒業生の方々が、国の内外、各界各層で大いなる活躍をされております。

さて、本校のこの記念すべき式典において、ご来賓の方々から祝意と激励をいただく在校生の皆さんに対し、校長として一言申し添えたいと思ひます。皆さんには、先人の願いや努力、勢き心に思いを致し、一人一人が随所に主体性を持って心身の練磨や個性の伸長に努め、進展する社会を担い得る人物に成長することを決意してもらいたいです。この決意が皆さんの前途を洋々たるものへ導くと共に、意欲と活気に満ちた千葉東高等学校を作り、伝統校としてさらに発展するための盤石の礎を築くこととなります。今、世界は日々に、そして大きく進展しており、

皆さんの活躍の場は世界中至るところに用意されています。皆さんの大いなる活躍を期待致します。

しかしながら、二十一世紀は今まで以上に地球的規模での問題を数多く抱えています。例えば、アメリカの中枢部を襲った同時多発テロに象徴される様々なテロや地域紛争、地球温暖化等の環境問題、さらには国際的な経済の危機的状況など、そしてそれぞれに関するあふれるばかりの情報や考え方が、様々なメディアを通して、私たちに寄せられます。こうした時代にあって、私たちはこの多数の情報について、それが正しいものか否か、事実関係をどのように判断するか、データの深いところにあるものをどのように読み取るか、など慎重に検討し、判断し、実行に移す力を身に付けていかなければなりません。しっかりとした判断をせずに、ただ風評に流されているだけではありません。二十一世紀の社会を担う皆さんは、こうした思考力・判断力・実践力をしっかりと身に付けてほしいと願います。

本校では、この六十周年を機に、生徒教職員が一体となって、これまでの良き伝統を継承しつつ、地域社会に開かれた、そして地域社会から信頼される学校となるように、従前にも増して積極的に魅力ある学校作りに努める所存であります。ご来賓の皆様を始め、地域の方々、保護者や同窓会の方々には、なお一層の厳しいご指導と暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、この六十周年記念事業を推進してくださいました六十周年記念事業実行委員会委員長井戸川浩様をはじめ実行委員の皆様にご心より御礼申し上げます。お陰をもちまして、PTA・同窓会・学校が一体となって本日を迎えることが出来ました。また、ご多用にもかかわらず、本日の式典にご臨席賜りましたご来賓の皆様にご厚く御礼申し上げます。式辞と致します。

平成十三年十一月十日

## 祝 辞

千葉県高等学校長協会監事 山田 大三



本日ここに、千葉県立千葉東高等学校の創立六十周年記念式典が挙行されますことを、心からお祝い申し上げます。

式典に当たり、千葉県高等学校長協会を代表して、一言御挨拶申し上げます。

千葉東高等学校は、太平洋戦争直前の昭和十六年、千葉市立千葉高等女学校として創設され、戦後、県立の男女共学校として千葉県千葉第三高等学校と校名を改めた後、昭和三十六年には、現在の千葉県立千葉東高等学校となりました。また、県下唯一の通信制課程の併設や衛生看護科の設置と分離・独立という変遷を経て現在に至っております。

この間、社会は、端的に言えば、戦中・戦後の激動期をくぐり抜け、東西対立の冷戦構造の世界において、華々しい経済成長を果した時代と言えます。また、生活水準が上がり、あらゆる分野で画一化が進み、大量生産・大量消費が謳歌された時期でもありました。教育面では、全国的にも生徒数が増加し、高校進学率も上昇して、多くの高等学校が新設されました。

千葉東高等学校が六十周年を迎えた現在、わが国は安定したグローバル経済への構造転換や国際社会でのリーダーとしての役割が強く求められ、変革の時を迎えております。教育界においても、社会構造の変化に応じた改革のときを迎えております。こうした今、学校教育に求められ



ているのは、生徒一人一人の個性を伸ばし、ゆとりと充実の中で、「生きる力」を育むことであります。また同時に、地域コミュニティの再生と、成熟し安定した社会の構築も求められております。そのためには、何よりも、時代の動きを的確に把握し、変化に柔軟に対応できる人材の育成が必要であります。

千葉東高等学校の教育方針は、人間性が豊かで、実践力と調和に富んだ人物を養成することと伺っております。この方針のもと、「文武両道」の精神を第一とするとともに、学校行事・部活動等にも積極的に取り組み、様々な分野で成果を上げていることもよく承知しております。これも、進取の気性に富む教育熱心な先生方の適切な御指導のもと、聡明なる生徒諸君の日々の努力により、なし得たものと拝察しております。この千葉東高等学校の伝統ある「文武両道」の校風は、県民の皆さんの認めるところであり、県下で一目も二目も置かれる高い評価を得ている所以でもあるでしょう。さらに、二万六千名を越す優秀な卒業生の皆さんが、今現在、社会の第一線で活躍していることが、その何よりの証明であろうと考えております。

この千葉東高等学校創立以来六十年の歴史に加えて、新しい時代に対応する新教育課程の編成や大学との連携教育のほか、地域との協力・連携等、他校に先駆けて、時代の変化に即応した新しい取り組みを着実に進めていることも聞き及んでおります。伝統に甘んじることなく、常に時代の求めるものを教育に取り入れていこうとするこうした姿勢が、正に、千葉東高等学校の名を県下にとどろかせ、一層輝かせるものであります。そして、先生方並びに生徒の皆さんは、この千葉東高等学校の歴史の一こまに参画しているのであり、ひいては千葉県の高校教育の躍進に大きく寄与していることに、自信を持っていただきたいと思います。ところで、生徒の皆さんは、「狭き門」という言葉を知っていますか。皆さんの中には読んだことのある人もいます。フランスの作

家アンドレ・ジイドの作品名で、この言葉自体は「聖書」にあります。小説には、『狭き門から入れ。滅びに至る門は大きく、その路は広く、これに入る者は多い。生命に至る門は狭く、その路は狭く、これを見いだす者はまれである。』とあります。努力を惜しまず、苦難の道をとってこそ、その人の真価がわかる、という趣旨です。私は、皆さん一人一人の才能は、日々の努力の積み重ねと、ひるむことなく苦難に立ち向かい、それを乗り越えようとすることで、さらに開花するものと確信しております。皆さんは、自己の信ずるところに従い、自らの可能性を試すつもりで、思う存分生きてください。そしてそのことが、千葉東高等学校の更なる飛躍を保証するものとなり、社会に貢献することになるのです。

伝統として継承すべきは継承し、さらに、新たなる時代の要請に柔軟に対応するこの千葉東高等学校の姿勢は、必ずや保護者や地域の方々の熱い期待に応えるものとなるでしょう。そして、千葉東高等学校がこの六十周年をひとつの契機として、今後更に発展し、益々躍進しますことを、私は本日改めて確信いたしました。

校長先生を始め、教職員の皆様におかれましては、今後とも、社会の変化を見据えた魅力ある学校作りに務められるとともに、地域に密着した千葉東高であるようお願い申し上げます。また、保護者・同窓生及び地域の皆様方には、従来にも増して、御支援・御協力をこの千葉東高等学校に賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、御列席の皆様方の御健勝をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成十三年十一月十日

## 生徒代表挨拶

生徒会長 大武 亮太郎



本日は、多数の皆様にご臨席戴き、本校の創立六十周年を祝って下さいまして本当にありがとうございます。生徒一同を代表して心より感謝申し上げます。

今年、千葉東高校は創立六十周年を迎えることになりました。その六十年とい

う長さを思う時、本校の伝統の重みを感じます。そしてその間に社会へ羽ばたかれた数多くの卒業生の活躍の上に今日の千葉東高があることを思うと、私達在校生も身の引き締まる思いが致します。六十年前といえば、ちょうど日本が太平洋戦争に突入した年でもあります。十年前に出されました本校創立五十周年記念誌を見えますと、そこには日立蘇我工場へ勤労動員に行く生徒代表の宣誓文があり、本でしか知らない歴史を、実に身近な思いで再認識致しました。六十年後の今日、それを思いますと、私達は平和で豊かな環境の中で勉強できて大変幸せです。

今年平成十三年は二〇〇一年、新しい世紀の幕開けの年でもあります。本校にとってこの二重に節目となる時に私達が在籍したことは、偶然と言えば偶然ですが、この日を新たな出発点とし、さらなる前進への決意の日として意味づけることもできるように思えるのです。

来賓の皆様、卒業生の皆様、そして先生方、この六十周年の記念の日に立ち会えたことを嬉しく思います。そして、今後ともよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

生徒を代表いたしました一言感謝の気持ちを申し上げます、挨拶と致します。

平成十三年十一月十日

## 謝辞

第十四代校長 高橋 浩 司



千葉東高等学校、六十周年記念、おめでとうございます。このおめでたい席で、感謝状を戴いたことを本当に感謝しております。私は、この学校に在籍したのは二年間でしたが、この学校に対する強い思いがあります。ただ今、井戸川委員長より百周年のお話が出ました。私は、この学校に掛けた願いは、百周年記念事業の記念講演は、本校の卒業生でかつノーベル賞の受賞者であること、そうなることを期待しております。この学校からノーベル賞受賞者を出すこと、これが次の百

周年記念に向かっての、この学校の夢であり、課題だろうと思っております。百周年記念事業に向かって益々発展するということは、具体的には何か。百周年記念事業には、この中の誰かがノーベル賞の受賞者になることです。これを、私は期待しております。

当時、私はこの学校で二つのことしか全校生徒に言いませんでした。一つは何か、「人人皆器なる」人人（にんにん）というの、人々です。皆さんひとりひとり皆が、器であります。自分は器ではない、自分は駄目だと思っちゃいかんと。それとも一つです。「切に思ひたる事は必ず遂ぐべし」ですが、これは、「切に切に願ったことは必ず遂げる」という意味です。この二つの言葉を私が見たのは、「正法眼蔵随聞記」というものの中で。で、その「正法眼蔵随聞記」というのは、道元禪師

が話したことを、懐契（えいじょう）が書いたものです。皆さん間違えないでね、大学（入試）の時に。そういうことで、私は百周年を大変期待しております。諸君は、百周年の時には何歳ですか？ 数えてみてください。五十六歳か七歳ですか。私は、百十歳であります。是非百十歳になって、百周年に、このお祝いの席に出ることを今から、準備をして長生きをするようにしております。

今日の感謝状を戴いた人の代表として、感謝状どうもありがとうございます。千葉東高等学校の益々の発展を祈りまして、私の感謝の言葉と致します。どうもありがとうございました。



記念品（ソーダガラスペーパーウエイト）



## 第二節 記念行事（式典・祝賀会・芸術鑑賞会）

### 一 実行委員会組織

#### （一）役員（平成十三年度）

（役員名）	（氏名）	（団体・職）
実行委員長	井戸川 浩	同窓会会長
副実行委員長	松本 俊二	前PTA会長
	井下田 博	振興会会長
	曾川 定雄	校長
常任委員	小林 美代子	同窓会副会長
	高橋 一郎	同窓会副会長
	山中 操	同窓会常任幹事
	堤 健一	前PTA副会長
	安井 玲子	PTA会長
	吉田 久美子	PTA副会長
会 計	長谷川 直和	振興・同窓会副会長
	石橋 康郎	同窓会会計
	佐々木 陽子	PTA監査
監 事	澤田 繁信	同窓会監査
	吉田 妙子	PTA副会長
	岩本 達雄	振興会監査
（二）事務局		
事務局長	高野 だいわ	全日制課程教頭
	湯目 千津	通信制課程教頭

#### 六十周年記念誌 編纂委員会

林 久雄 図書部長（代表）  
小川 巧 生徒会指導部長

#### 芸術鑑賞委員会

田島 洋一 進路指導部長  
八角 憲男 通信制課程総務部長  
萩原 正男 教務部長（代表）  
小川 巧 音楽担当教諭

#### 記念式典等 委員会

渡邊 都詩紀 生活指導部  
栗原 剛 総務部長（代表）  
矢代 正人 生活指導部長

#### 芸術鑑賞設備 委員会

戸次 恒治 第一学年主任  
都塚 好輝 第二学年主任  
宇藤 八重子 第三学年主任

#### 庶務・会計

中山 俊彦 管理部長（代表）  
皆川 修一 保健厚生部長  
嘉村 英子 美術担当教諭  
林 一己 書道担当教諭

#### 二 実行委員会の活動記録

小安 弘子 事務長  
何木 美子 事務主査

平成十一年四月十五日

「六十周年記念事業準備委員会」の設置が学校長より「校内運営委員会」に諮問される。

平成十一年十月四日

第一回準備委員会……委員（委員長）鈴木芳之助（全日制）教頭、事務長他三名、（通信制）教頭他二名。  
検討項目……(1)事業計画 (2)予算 (3)組織等について

平成十二年一月二十日

第二回準備委員会

検討項目……(1)組織づくり (2)事業計画 (a)記念誌 (b)芸術鑑賞

会 (c)記念式典、祝賀会 (d)記念事業(校舎の耐震

改造に併せて壁面装飾を行う) (3)予算と募金計画

平成十二年五月十六日

全体会……1、「創立六十周年記念事業実行委員会」の発足について

(1)記念事業 (2)会則 (3)役員

2、今後の進め方について

(1)予算 (2)同窓会、PTA、振興会の各総会への対応

(3)実行委員会の開催計画

平成十二年七月七日

第一回実行委員会

1、組織について(決定)

役員は同窓会、PTA、振興会の役員から選出する。監事は

委員長の任命とする。事務局をつくり、専門委員会が事業を担

当する。全日制、通信制の職員をバランスよく配置する。

事務局……(1)事務局長(教頭二名) (2)記念誌四名 (3)芸術鑑

賞四名 (4)記念式典等九名 (5)芸術鑑賞設備五名

(6)庶務会計(事務長、主査)

2、予算について

3、事業内容について

平成十二年十二月一日

第二回実行委員会

1、事業の進捗状況について、各専門委員会より報告

(1)記念誌 (2)芸術鑑賞会 (3)記念式典等 (4)芸術鑑賞設備

2、今後の予定

平成十三年五月十一日

第三回実行委員会

1、六十周年記念事業計画等の承認(各専門委員会の活動状況報

告)について

(1)事業計画と概算額について(事務局) (2)記念誌の発行につい

て(記念誌編纂委員会) (3)芸術鑑賞会の開催について(芸術鑑

賞委員会) (4)記念式典の開催について(記念式典等委員会)

(5)芸術鑑賞設備について(芸術鑑賞設備委員会)

2、今後の予定について

平成十三年十月二十三日

第四回実行委員会

1、事業計画の進捗状況について

(1)記念誌編纂委員会 (2)芸術鑑賞委員会 (3)記念式典等委員会

(4)芸術鑑賞設備委員会

2、今後の予定について

三 記念式典・祝賀会

(一) 記念式典等委員会委員

全日制 総務部長 栗原 剛(代表)

生活指導部長 矢代 正人

学年主任 (一年) 戸次 恒治

(二年) 大塚 好輝

(三年) 宇藤 八重子

総務部 林 一己・内田 久美子

通信制 総務部長 八角 憲男

総務・生徒指導 下永 義明

(二) 式典出席者

- (1) 招待者 七十名(校長協会一、歴代校長六、地区高等学校長二十一、歴代PTA会長一、同上新旧役員八、振興会同上四、同窓会同上十三、学校医二、旧職員十二、地区自治会長二)
  - (2) 教職員 百十名(全日制七十二、通信制三十八)
  - (3) 生徒 千六十五名(全日制千六十、通信制五)
  - (4) 保護者 六十名
  - (5) 実行委員 十六名
- 合計 千三百二十一

(三) 祝賀会出席者

来賓十八名、実行委員十六名、地区高等学校校長十九名、旧職員九名、同窓会十三名、保護者三十二名、職員五十四名、合計百六十一名



(四) 式典挙行日(平成十三年十一月十日)の日程

(1) 式典(会場・本校体育館)

○職員、生徒

- 8:20~8:40 職員写真撮影・打ち合せ。8:40~各係の業務開始。9:00~9:10 SHR(式典のしおり配布)。  
9:15~9:30 生徒入場着席完了。9:30~9:40 諸注意  
10:00 式典開始。11:20 式典終了。11:20~生徒はHRにて記念品受領後下校

○来賓、参列者

- 9:00~9:30 受付【控室】校長室(校長協会、歴代校長、PTA会長、学校医、正副実行委員長) 応接室(実行委員) 通信棟二階(PTA、振興会、同窓会役員、地区自治会、絵画) 通信棟三階(地区高等学校長) 視聴覚室(旧職員)  
9:40~9:55 来賓、参列者入場着席完了。  
10:00~11:20 祝賀会会場へ移動。

(2) 祝賀会(会場・ホテルサンガーデン千葉)

○会場までのバス運行について

- 学校から会場まで二便 11:30、12:00  
会場から千葉駅まで(帰り)二便 15:30、16:00  
○祝賀会 13:00~15:00

(五) 式典次第(式典の流れ)

式場の所定の位置に、音楽部、吹奏楽部、一般生徒が着席した後、地区高校長、PTA、同窓会、振興会、地区自治会役員、保護者、実行委員、職員が着席する。綴帳をおろしたまま、案内係が来賓、主催者をステージ上に誘導し、全員が着席を完了する。吹奏楽部が「式典序曲」を演奏した後、綴帳を校歌の伴奏とともに掲げ、音楽部が校歌を合唱する。校歌は、一、二番を合唱しその後ハミングに



なる。

式典の司会進行は、体育科矢代正人教諭と、放送委員会から二年六組の服部香菜枝、一年一組の西野千晶さんが担当した。

(音楽部による校歌ハミング)

「私たちの千葉県立千葉東高等学校は、太平洋戦争開始の昭和十六年の春に創立され今年六十周年を迎えました。この間、激しい社会の動きの中で、幾多の変遷を重ねながらも、多くの方々の暖かい御援助に支えられて、文武両道の校風を育んでくることができました。これまでに、我が校を巣立っていった卒業生は、二万六千九十一名を数えます。」

(校歌ハミングはここまで)

「今日、私たちはこの記念すべき日に出席できる喜びと、温かく見守ってくださいました皆様への感謝の念と、そしてこの二十一世紀に千葉東高校がさらに、活気に満ちたすばらしい学校になるように願いをこめて、ここに集いました。」

「本日のこの式典の進行を担当しますのは二年六組服部香菜枝と一年一組西野千晶です。不手際もあるかも知れませんが、よろしくお願いたします。」

「では開式の言葉を実行委員会副委員長 松本俊二様をお願いいたします。」

(松本俊二様中央へ)

「気を付け・・礼(終わって)・・礼」

「はじめに、国歌を斉唱いたします。御起立いただき吹奏楽部の前奏に続きお願いたします。」

(国歌伴奏は吹奏楽部が行う。)

「ありがとうございます。御着席下さい。」

「続きまして、本校校長 曾川定雄が式辞を申し述べます。」

(校長 中央へ)

「気を付け・・礼(終わって)・・礼」

「次に、創立六十周年を記念するさまざまな事業を、中心となって推進していただきました実行委員会委員長の 井戸川浩様の御挨拶をお願いいたします。」

(実行委員長 中央へ)

「気を付け・・礼(終わって)・・礼」

「引き続き、公務御多忙の中を本日の式典に御臨席下さいました、千葉県高等学校校長協会監事 山田大三様に御祝辞をいただきたいと思います。」

(山田大三様 中央へ)

「気を付け・・礼(終わって)・・礼」

「本日御臨席いただきました御来賓の御紹介と祝電の御披露を、実行委員会常任委員 安井玲子様をお願いいたします。」

(安井玲子様 中央へ)

(来賓紹介) (ステージの来賓のみ紹介・フロアの来賓はグループ

名のみ紹介。詳細につきましては、お手元の印刷物で御承知下さいますようお願いいたします。)

(祝電披露)

(ここで、祝電を御披露させていただきます。——  
そのほかたくさんの方々から同趣旨の電文を頂戴して

おります。この会場の入り口の所に掲示いたしまして、御披露に代えさせていただきます。」

「ありがとうございます。では、引き続き感謝状の贈呈式を行います。進行を本校教諭 矢代が行います。」

(実行委員長・校長中央へ)

「本校創立六十周年記念式典にあたり、ただ今から、本校教育の推進に御尽力され、多大な貢献をされた方々に感謝状を贈呈いたします。では、本日御出席いただいた方のお名前を読み上げさせていただきます。」

(千葉県立千葉東高等学校創立六十周年記念事業実行委員長及び校長 感謝状贈呈)

「創立五十周年以降 歴代校長 高橋浩司様 畠田侑兒様

荒川 昇様 長妻孝治様

同じく 歴代PTA会長 佐々木伸行様

同じく 校医 斎藤 暁様 茂手木直忠様」

「以上の方々を代表いたしまして、高橋浩司様 中央へお願いいたします。」

(七名に賞状贈呈)

(実行委員長・校長代表者席に戻る)

「ここで、感謝状をお受けされた方々を代表して、本校元校長、高橋浩司様よりお言葉がございます。」

(高橋浩司様 中央へ)

「気を付け・・礼(終わって)・・礼」

「ここで、私たち生徒を代表して、本校の生徒会長 大武亮太郎が御挨拶いたします。」

(生徒会長 中央へ)

「気を付け・・礼(終わって)・・礼」

「最後に吹奏楽部の伴奏により校歌を斉唱いたします。教職員・生徒は御起立ください。指揮は、小田洋祐です。」

「(終わって) 御着席ください。」

「長時間御協力ありがとうございました。ここで、閉式の言葉を実行委員会副委員長 井下田博様お願いいたします。」

(井下田博様 中央へ)

「気を付け・・礼(終わって)・・礼」



(綴帳は下げずに)

「長い間本当にありがとうございました。これで創立六十周年記念式典は全て終了しました。御協力ありがとうございました。」

(司会)

「ありがとうございました。それでは係の先生方、お客様を御案内ください。」

「保護者の方はそのまま玄関へお進み下さい。」

(吹奏楽部による音楽演奏《K点を超えて》で退場する)

#### (六) 祝賀会

祝賀会次第(ホテルサンガーデン千葉、三階 平安の間)

- (1) 開会の言葉 高橋 一郎(実行委員・同窓会副会長)
- (2) 主催者挨拶 井戸川 浩(実行委員長・同窓会会長)
- (3) 来賓祝辞 相川 勝衛(第十代校長)
- (4) 乾 杯 佐々木伸行(元PTA会長)
- (5) 校長謝辞 曾川 定雄(学校長)

(懇 親)

- (6) 万歳三唱 松本 俊二(副実行委員長・元PTA会長)
- (7) 閉会の言葉 岩本 達雄(監事・振興会監査)

#### (七) 記念品

- (1) ソーダガラスペーパーウェイト 二千七百五十個
- (2) シャチハタネームペンストライプタイプ 十六本

#### 四 記念行事芸術鑑賞会

##### (一) 芸術鑑賞委員会委員

- |        |               |
|--------|---------------|
| 教務部長   | 萩原正男(代表)      |
| 音楽担当教諭 | 小川 巧(生徒会指導部長) |
| 生活指導部  | 渡邊 都詩紀        |
| 教務部    | 細川 信          |

##### (二) 芸術鑑賞「音楽鑑賞会」

十二月十三日(木)千葉県文化会館大ホールにて、創立六十周年記念行事芸術鑑賞会が開催された。

芸術鑑賞委員会と協議し、今回は記念にふさわしいものとして、音楽鑑賞会とし「金管・バレエ・打楽器アンサンブル」を計画した。ジャパンアンサンブルカンパニーの斡旋により、祖堅方正ブラッサンサンブル・東京小牧バレエ団、打楽器アンサンブル"phonix"の演奏を鑑賞することになった。

当日の参加者は全日制および通信制の生徒、職員、保護者、招待者を含めて千三百名ほどの人数となり、千葉県文化会館のホールはほぼ満席となった。演奏は華やかで、生徒の鑑賞態度も良かった。第一部は、小編成のブラッサンサンブルながら、豊かな音量と、確かな技巧で親しみのある曲を聞かせ、第二部は美しいバレエのハイレイトと続き、休憩後、第三部は打楽器アンサンブルの演奏、そして第四部は楽しい合同演奏で締めくくった。公演の内容を次頁に示す。

(文責・小川 巧)



(三) 公演内容

第一部 10:30 ~ 11:00

祖堅方正ブラスアンサンブル

- 1 ルネッサンス舞曲集より二組 (スザート作曲)
- 2 フランス舞曲集より二曲
- 3 小フーガ ト短長 (バッハ作曲)
- 4 G線上のアリア (バッハ作曲)
- 5 熊蜂の飛行 (リムスキーコルサコフ作曲)
- 6 剣の舞 (ハチャトリアン作曲)
- 7 聖者の行進 (ジャズ)

第二部

11:00 ~ 11:30

小牧バレエ団&ブラスアンサンブル

- 1 白鳥の湖より  
序曲  
四羽の白鳥  
オデット (一羽の白鳥)
- 2 胡桃割り人形より  
小序曲  
スペインの踊り  
アラビアの踊り  
トレパック (ロシアの踊り)

休憩 11:30 ~ 11:40

第三部

11:40 ~ 12:20

打楽器アンサンブル "phonix"

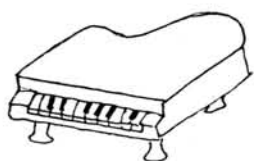
- 1 セレブレーションとコラール (ニール・ポンテ作曲)
- 2 ラグタイム
- 3 オンザ・カントリロード (山本祐介作曲)
- 4 ノック アンド クリック (山本祐介作曲)
- 5 スカラムシューよりブラジル (ミオー作曲)
- 6 ラテンメドレー

第四部

12:20 ~ 12:30

祖堅方正ブラス&phonix (②&③)

- 1 シング シング シング (祖堅ブラスのみで演奏)
- 2 三匹の猫より "バレジ"
- 3 スパイ大作戦  
(映画: ミッションインポッシブルのテーマ)



### 第三節 記念事業設備 (芸術鑑賞設備)

#### 記念事業芸術鑑賞設備

##### 一 芸術鑑賞設備委員会委員

管理部長 中山俊彦(代表)  
保健厚生部長 皆川修一  
美術担当教諭 嘉村英子  
書道担当教諭 林一己  
事務長 小安弘子

##### 二 芸術鑑賞設備概要

校舎耐震改造工事後の廊下の壁面をギャラリー風に裝飾する。

具体的には

###### ① 展示ケース

教室棟一階中央廊下 二五〇×七〇〇×六〇 一箇所

教室棟二階および三階中央廊下 二五〇×三〇〇×六〇 それぞれ一箇所

###### ② 壁面パネル 十七箇所

を設置し、書道作品や美術工芸作品を展示する。

##### 三 芸術鑑賞設備が決まるまでの経緯

###### (一) 準備委員会での案検討

平成十一年度に鈴木芳之助先生を委員長とする六十周年記念準備委員会が設けられ、記念事業の内容が検討された。六十周年にあたる平成十三年度には、校舎の耐震改造の大規模な工事が予定されていた。阪神淡路大震災規模の大地震がきたとき、現在の校舎では倒

壊の恐れがあり、廊下の壁面や教室の窓そして一階の教室間に耐震用の補強材を取り付けることにより安全な校舎に改造しようとする工事である。そのため、現在の窓は小さくせざるを得ない状況になった。準備委員会では、無機質の壁に囲まれた空間では人間工学的におよび教育環境としてふさわしくないとのことで、六十周年記念事業として潤いを与える空間を創る「壁面裝飾」に取り組むことが提案された。

具体的には

###### ① 予算は一千万円程度

② 平成十二年度 デザイン案の検討と決定、総予算の算出

平成十三年度 改修工事の終了後、着工

平成十四年度以降 継続事業として毎年の卒業生記念事業とする

###### ③ イメージプラン

階の名称	壁面裝飾	関係ジャンル	テーマ
四階 金属の階	アルミ裝飾	音楽関係	歌と安らぎ
三階 布の階	布地裝飾	書道関係	日本画 自然と人生
二階 木の階	木板裝飾	美術絵画	版画 人物と表情
一階 石の階	石ガラス裝飾	工芸	花と草木

が内容であった。

###### (二) 芸術鑑賞設備委員会

平成十二年度になり、準備委員会は実行委員会に改編され、記念事業は芸術鑑賞設備委員会の担当となった。構成は代表 管理部長(中山)、主たる分掌として保健厚生部(宍倉)、美術担当教諭(嘉村)、書道担当教諭(林)そして準備委員会から事務長(古川)の五名であった。十月に設備委員会の会議がもたれた。その席上、準備委員会の案が検討され、記念事業として壁面裝飾に取り組むこと

が確認された。しかし次の観点から、

- ① イメージプランを実行するには一千万円の予算では不足する。
- ② 記念事業を数年間に渡って継続していくには、担当者等が変わり無理がある。

- ③ 芸術鑑賞設備の維持に不安がある。

イメージプランの見直しが検討された。イメージプランの内容はすばらしいもので、新しい校舎を建設するときには教育空間としての学校に潤いを与えるものでぜひ採用していきたいアイデアであった。見直しの結果、

- ① 壁面装飾として美術作品、書道作品を架ける壁面パネルを設置する。
- ② 中央廊下には、美術や工芸や書道の作品または玄関前の展示ケースに収められている優勝旗などを展示する展示ケースを設置することとなった。芸術性の高い作品や生徒たちの作品、運動系や文化系の活躍の結果を展示することにより、生徒たちに身近な記念事業になるし、これからずっと生徒たちの歩みとともにそのときを映す大切な記念品になると考えた。

耐震工事は二年間にわたる。芸術鑑賞設備も完成までには二年間かかる。記念式典で一部のみしか紹介できないのが残念であるが、千葉東高校のこの十年間の歩みをとどめるものとして完成した芸術鑑賞設備を多くの人により活用され、長く生徒に親しまれるようになることを祈念する。

#### 四 芸術鑑賞設備について

##### 一、展示ケースについて

二五五 cm × 五七〇 cm × 六〇 cm を一箇所

外部スチール製メラミン焼付塗装／上部、腰部シート仕上げ

内部木軸合板パネル、ヘンプクロス糊り仕上げ

二五五 cm × 三〇〇 cm × 六〇 cm を二箇所

外部スチール製メラミン焼付塗装／上部、腰部シート仕上げ  
内部木軸合板パネル、ヘンプクロス糊り仕上げ

展示ケース内に工芸品等を置くためのさいころ台を準備

六〇 cm × 六〇 cm × 四五 cm

八 mm ガラス引き違いではかま錠を設置

##### 二、壁面パネル十七箇所

一五〇 cm × 三八〇 cm

二六三 cm × 三八八 cm

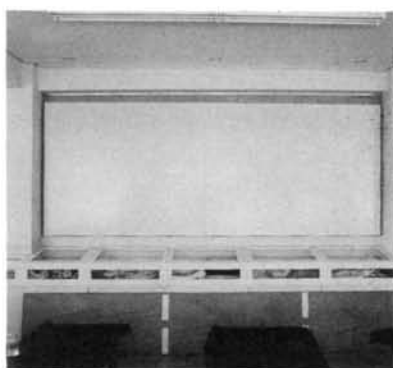
五〇 mm ビッチ有孔ボード ウレタン塗装

壁面パネルに関しては二年にわたる工事のため製造過程で色の違いが出ないように、一期工事終了後一括発注し、未工事部分に関しては保管し工事終了後設置の予定である。

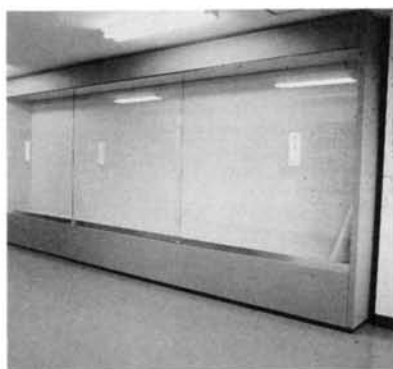
(文責・中山 俊彦)

##### 資料 1

##### 書道室壁画パネル



##### 展示ケース (一階)

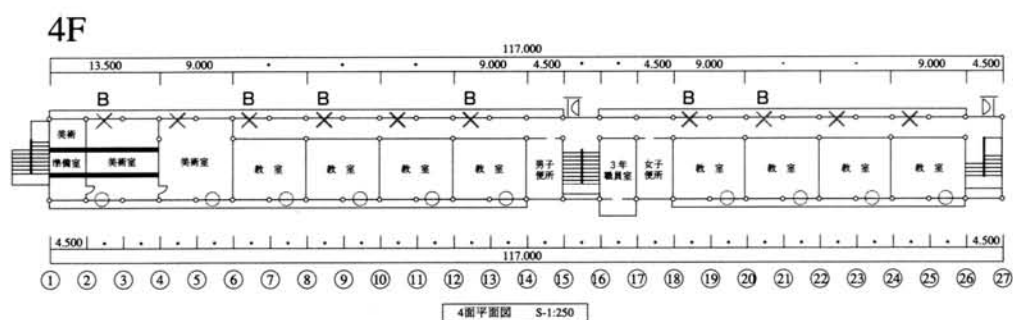
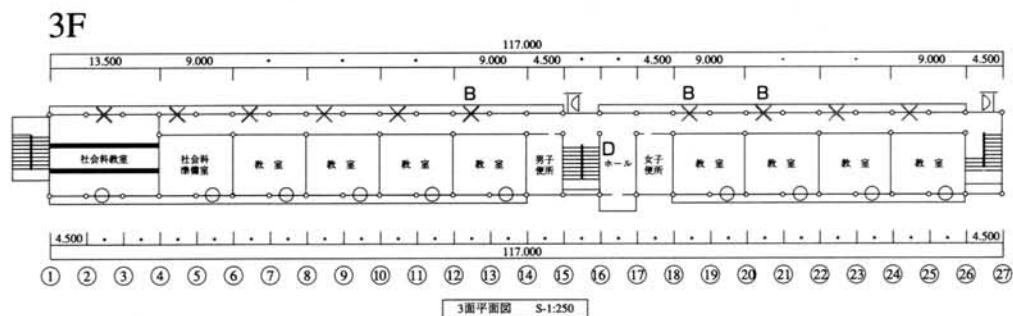
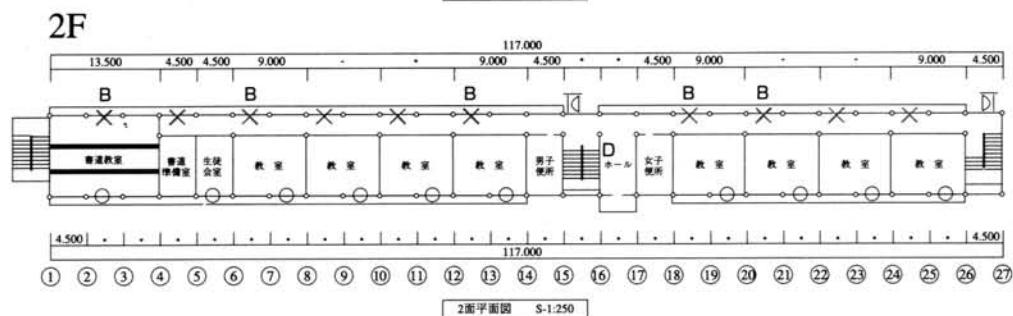
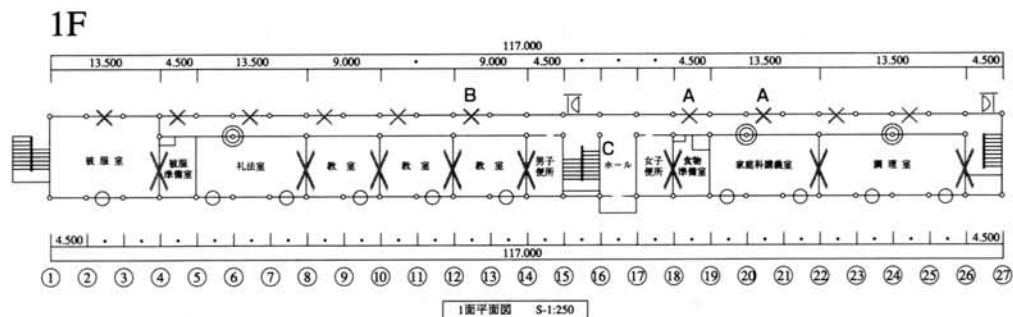






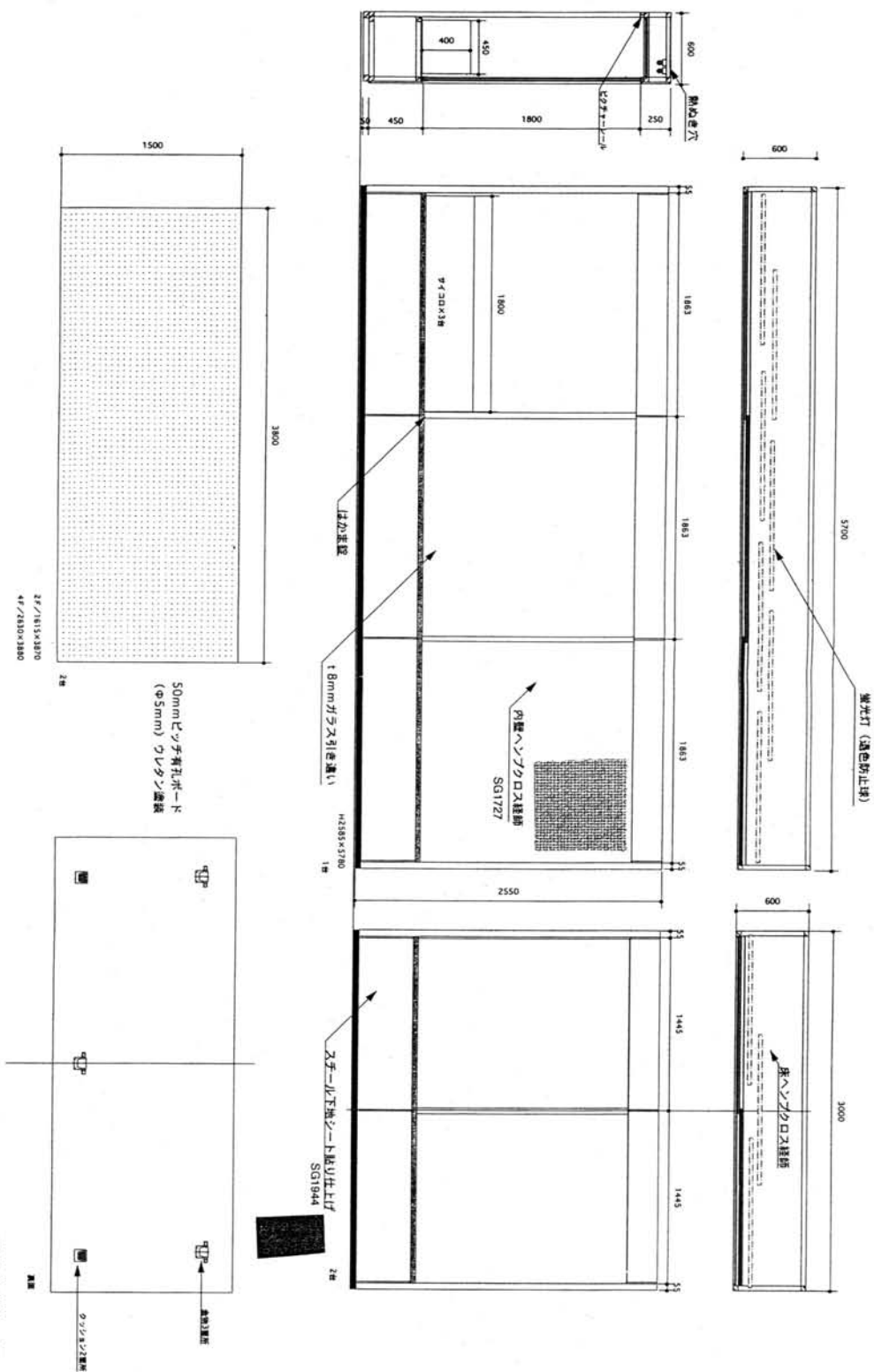
資料 2 展示ケース写真（二階、三階）





○	鉄骨ブレース補強	A	展示パネル 大
×	鉄筋コンクリート	B	展示パネル 小
⋈	教室間切り補強壁	C	展示ケース 大
◎	鉄板巻補強柱	D	展示ケース 小
太線	床スラブ		

資料 4 展示ケース及び展示パネル設計図



千葉東高校一期工事

S=1:30



第二章 沿革・年表

第一節 沿革史

創立から五十周年まで

第二節 年表

全日制課程10年のあゆみ

平成四年度

五年度

六年度

七年度

八年度

九年度

十年度

十一年度

十二年度

十三年度

通信制課程10年のあゆみ

..... 24

..... 26

..... 26

..... 28

..... 30

..... 32

..... 34

..... 36

..... 38

..... 40

..... 42

..... 44

..... 46

# 東高点描



中庭



テニスコート



体育館



第三棟から見たプール



焼却炉



沿革年表 創立から五十周年まで

全日制課程

- 昭16・1・15 千葉市立千葉高等女学校（四年制）設立認可  
 16・4・8 第一期生四学級220名の授業が千葉市港町19で始まる。  
 20・3・1 第一回生214名卒業。（この間、第一、二、三校舎で分散授業）  
 7・7 港町第一校舎戦災。（昭21・4・1 五年制高等女学校となる）  
 23・4・1 新学制により千葉市女子高等学校（4・7 現在地に移転）  
 5・15 千葉市立女子高等学校開校式（創立記念日）  
 25・4・1 県立移管により千葉県立千葉第三高等学校（男女共学、6学級240名募集、5・1 男子帽章制定。11・10 第一回文化祭）  
 26・11・2 本館、運動場竣工並びに創立10周年記念式典挙行。校歌制定  
 27・5・30 女子制服制定（26・1・19 第一回耐寒マラソン）  
 29・4・1 第一学年7学級280名定員となる。通信教育の部設置。  
 30・7 グラウンド拡張工事（9月完了）  
 32・8・31 体育館兼講堂落成（昭59・8 撤去）  
 36・4・1 千葉県立千葉東高等学校と校名変更  
 37・4・1 第一学年8学級400名定員となる。  
 38・4・1 第一学年9学級450名定員となる。  
 41・4・1 衛生看護科（一学級40名）設置  
 42・4・1 普通科第一学年8学級400名定員となる。  
 10・13 新校舎第一期工事（鉄筋コンクリート4階建教室棟）完了  
 43・7・26 プール（25m七コース）落成  
 44・3・10 衛生看護科第一回生31名卒業  
 4・19 いわゆる「生徒心得第9条問題」、9・30 学園封鎖事件起こる。  
 45・3・20 新校舎第二期工事（鉄筋コンクリート4階建管理棟）完了  
 46・3・30 新体育館兼講堂落成  
 11・2 創立30周年並びに新校舎落成記念式典挙行

通信制課程

- 昭23・4・1 県立千葉高等学校及び千葉女子高等学校に通信教育部を設置、国語（甲）を開講  
 26・8・31 千葉県高等学校通信教育規則公布、即日施行。  
 29・4・1 県立千葉第三高等学校に統合して通信教育部を設置  
 6・13 統合設置後の第一回入学式を挙行。新入学者311名  
 30・4・1 通信教育による高等学校卒業資格付与認可  
 4・11 校舎改築第一棟落成により、通信教育部は、新室へ移転。  
 6・6 千葉刑務所通信教育講座開校式。国語・書道・簿記・珠算の4教科を開講（毎月1〜2回出張面接指導）  
 10・17 文部省より協力校実験学校に指定される。  
 31・8・18 第一回合宿スクーリング（1泊2日、鹿野山神野寺、参加生徒42名）  
 32・3・1 通信教育部第一回卒業式（卒業生3名）  
 34・4・9 通信制独自の帽章、バッヂ、ボタン制定  
 5・11 文部省実験校に指定される。  
 35・4・1 NHK通信教育高校講座放送研究委嘱校となる。  
 5・22 通信制専用校舎竣工。第一回地区面接指導（銚子・館山で実施）。  
 5・24 県職員通信教育簿記開校式（勤労会館にて・受講者124名）  
 36・4・1 千葉県立千葉東高等学校に校名変更  
 10・31 学校教育法の改正により、通信制の課程となる。  
 37・7・15 生徒会機関紙「雑草」創刊号発行  
 10・21 第一回体育祭（参加生徒200名）  
 38・7・6 読売教育賞（定時制、通信制部門）受賞。  
 39・4・12 第一回本校スクーリング（以後毎月1回、出校生徒平均300

昭47・3

進学率が急増、この年度より就職模試中止。

48・3

日米高校生交流プログラム開始（カルフォルニア州・ブッカー高校）

50・4・1

千葉市内五校の総合選抜による普通科第一学年生入学

52・11・24

P.T.A.研修会「共通一次テストについて」（共通一次始まる）

53・4・1

単独選抜にもとる。（新校は47・59年の12年間で千葉地区内に

普通高校が15校設立された。総合選抜の影響による進学実績の向

上と教職員の努力と相俟って本校は進学校に成長した。（50周年

記念史より）

9・1

東高施設整備三箇年（第一〜三期）計画案確定

54・2

第一期（焼却炉移設、防球ネット、駐車場、避難路設置）完了

55・4・24

第二期（通信棟、部室15、駐輪場建設、旧第一棟撤去）完了

12・11

第三期（校門通路移設、グラウンド大改修、構内植樹緑化、旧

通信教育施設撤去）完了

56・9・14

中庭整備および造園工事完了

11・4

創立40周年記念式典挙行

58・3・24

衛生看護科離別式

59・3・7

グラウンド整備工事（防砂塵、防球ネット、散水設備）、県道沿

いブロック壁全面改築、図書閲覧機の増設等なされる。

4・1

普通科第一学年9学級40名定員となる。（衛生看護科生徒募集停

止。県立若葉看護高等学校開設に伴い衛生看護科移転

玄関に校章設置（同窓会寄贈）3・26格技館落成

60・3・20

衛生看護科記念碑除幕式挙行（3・31衛生看護科廃止）

61・3・8

体育館改修工事完了

8・31

普通科第一学年9学級42名定員となる。

62・4・1

セミナーハウス完成。樽並木沿いの万年壁の改築完了

63・3・25

グラウンド全面改修及びテニスコート整備

平元9・9・5

普通科第一学年9学級40名定員となる。

2・4・1

教室棟大規模改修工事完了

11・30

体育倉庫兼部室（10室）完成

3・3・28

創立50周年記念式典挙行

11・9

昭39・4・29

名）本年度より「通信制のしおり」を廃止、「生徒手帳」を発行

植草学園家政専門学院生徒47名、国立准看護学院（千葉

生徒（18名）を集団で入学許可。

学習規制、教育課程の一本化（5年卒業を標準化）

卒業式単独で挙行（卒業生80名）。

通信制振興会発足。

新校舎第一期工事竣工（鉄筋コンクリート4階建）

新校舎第二期工事竣工

創立30周年記念並びに新校舎落成記念式典挙行

第一回新入生合宿研修（東金青年の家）実施（66名）以後、

平成5年度迄毎年実施。

被服科設置（定員45名）、植草学園と技能連携実施（54年

4月1日募集停止）。

第一回市原刊務所通信教育講座（簿記会計）開校式（10名）

合宿研修（国立中央青年の家（161名）以後、毎夏実施。

修学旅行実施（130名）以後、毎年実施。

託児施設を設ける。（55年3月31日廃止）

不二学院と技能連携実施。（53年4月1日募集停止）

NHK学校放送研究委嘱校となる。

通信制職員室34・16㎡増築竣工（55年4月撤去）

通信制新棟校舎竣工

新校舎へ移転、旧通信制校舎の撤去。

千葉東高等学校創立40周年記念式典挙行

「通信制のしおり」再発行

一組保護者会実施

セミナーハウス開館式（全日制・通信制合同）

夏季合宿研修（白樺湖方面）。この年から国立青年の家を

やめてホテルを利用。

県教育委員会表彰団体部門受賞。

千葉東高等学校創立50周年記念式典挙行

3・11・1

11・8

## 平成4年度・1992

校長	嵐田侑児
教頭	大島起
事務長	高浦昌洸
1学年主任	鈴木芳之助
2学年主任	犬田勝昭
3学年主任	平松生夫

## クラス担任

1-1	馬場 勇	2-1	長谷川 充	3-1	富田 慶一
2	田邊 義博	2	木村 香住	2	伊藤 毅
3	大田 紳一郎	3	述村 民雄	3	越川 芳雄
4	中安 均	4	須藤 信夫	4	先田 賢紀智
5	押塚 功明	5	内田 寛	5	津嶋 英也
6	谷口 哲也	6	古市 純久	6	坂井 幸夫
7	外山 貢	7	土屋 修	7	大迫 太徳
8	梅井 泰宏	8	北河 貞治	8	長野 一徳
9	松本 孝	9	秋山 岩雄	9	池田 和夫

## 行事

## 【1学期】

- 4/7 入学式 (409名入学)
- 4/10 新入生歓迎会
- 4/30 生徒総会
- 5/11 校内球技大会
- 5/14 遠足 (1年 成田・2年 鎌倉・3年 浅草)
- 5/18 前期生徒会役員選挙
- 5/22~26 中間考査
- 5/29 スポーツテスト、身体測定
- 6/4 PTA総会
- 7/8~11 期末考査
- 7/21~23 1年生キャンプ  
(西湖・津原キャンプ場)

## 【2学期】

- 9/12・13 第29回東雲祭
- 9/29 第25回陸上競技大会
- 10/23~27 中間考査
- 11/12 PTA研修会 (早大、根津美術館 72名)
- 11/18 後期生徒会役員選挙
- 11/25~28 2年生修学旅行 (京都・奈良)
- 12/9~14 期末考査
- 12/16 芸術鑑賞会 (宮間利之とニューリード)

## 【3学期】

- 1/16・17 センター試験会場
- 1/19 未来メッセージ50除幕式
- 1/27~30 3年生学年末考査
- 2/3 第24回校内マラソン大会  
(天台 男子10km、女子6km)
- 3/10 卒業式 (第45回生 407名卒業)
- 3/11~16 学年末考査
- 3/4~4/1 日米高校交流派遣  
(イロンデクォイト高 13名)

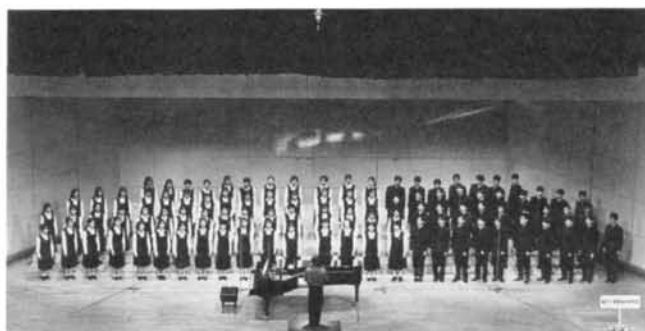
## 音楽部 第45回全日本合唱コンクール

全国大会初出場 銀賞受賞 顧問 小川 巧

本校音楽部は、前顧問の井辻先生により花を開くことができたものです。NHKコンクール千葉県大会での十年連続金賞という偉業は大変なものです。今年十一年連続で金賞を受賞できたのも、ひとえに井辻先生の薫陶の賜でしょう。全国大会にまで進めることができたことは、教職員はじめ関係するすべての人達のお蔭です。それと同時に、榎本潤さんという卒業生の存在が大きく、彼なくしては全日本合唱コンクール全国大会初出場はありえないことでした。また、同窓会、PTA、教職員そして部員の保護者の皆様方が、多額の後援募金をして下さり、誠にありがとうございました。これほどまでにご協力戴けたことに心より感謝し御礼申し上げます。  
(PTA会報81号より抜粋)

## 音楽部全国大会後援募金について

ラグビー部の先例に倣いPTAと同窓会で募金を行った。同窓会、PTA、教職員、部員保護者等から四百九十三万三千円の募金を戴いた。



仙台市サンプラザホール



# 50年後の千葉東高校へ贈る 未来メッセージ50

## 一、趣旨

創立50周年記念行事の一環として、全校生徒の手で未来に向けてのメッセージを書き、それをタイムカプセルに50年間保管して創立百周年の時の資料として活用してもらおうと同時に執筆者に返却してもらう。(略) また、メッセージ以外にも現在の学校生活等の資料を収納して、50年後のための資料とする。

二、タイムカプセル埋設場所 彫刻「時空の標」の地(セミナーハウス隣)

三、開封時期 西暦二〇四二年十一月(収納一九九一年十一月九日)

四、タイムカプセルの材質・FPR、形状・球形(直径一、一八〇ミリメートル)

## 五、収納品目録

- (1) メッセージ類……第14代、15代校長、平成三年度生徒会長(佐々木克昌)、教職員三名、平成二年度卒業生・423名、同三年・434名、同通信・30名、平成四年度三学年410名、二学年・412名、一学年・409名。
- (2) 各部所の収納物リスト……校務分掌①総務部19点、②教務部2点、③管理部、④生徒指導部、⑤進路指導部2点、⑥生徒会指導部、⑦図書部6点、⑧事務室、⑨保健室6点、教科①国語2点、②社会3点、③数学、④理科5点、⑤保健4点、⑥英語3点、⑦家庭8点、委員会①文化、②美化、③新聞、④図書、部、同好会①文学6点、②音楽、③美術2点、④マンドリン、⑤吹奏楽、⑥食物手芸、⑦写真、⑧剣道、⑨野球5点、⑩ラグビー、⑪水泳3点、⑫ソフトボ-



卒業記念彫刻「時空の標」

## 六、千葉東高校の皆様へ

- ル3点、⑬JRC、⑭漫画研究。各クラス①1-4、②1-5、③1-6、④1-8、⑤2-4、⑥2-7、⑦3-1、⑧3-3。
- 通信制課程①東高通信、②生徒会誌「雑草」。

(3) その他……制服(男・女)各一組

(1) 創立50周年当時の職員、生徒一同の思いを理解され、カプセルのことを代々言い伝えてくださるようお願いいたします。(2) カプセルを西暦二〇四一年十一月、創立百周年に開封して下さい。(3) 収納品は有効にお使い下さい。メッセージ類は可能な限り、本人またはそのご家族にお返し下さるようお願いいたします。また、出来ることなら印刷製本して公表して下さい。

(タイムカプセル委員会)

## 卒業記念品の彫刻とタイムカプセルに関して

学年主任 平松生夫

創立50周年を機会に創立百周年時に開封する事を前に、タイムカプセルが企画されました。(略)「タイムカプセル埋設場所に彫刻を置く」このアイデアを、タイムカプセル委員会、三学年、生徒の卒業準備委員会に諮り、PTA3学年委員会で決定して戴きました。(略) 彫刻の作者は遠藤洪平六氏(モダンアート協会所属)です。彫刻の題名「時空の標」、テーマ「時の移行を空間で表現し、真ん中が現在で、左の短い後に反った曲面が過去を、右の長くて前にせり出る曲面は未来を表現しました。」大きさ、作品本体・たてよこ約70cm、奥行35cm、台座・高さ150cm、一辺25cmの角柱。材質、作品本体・白御影石、台座・つや消しステンレス(卒業記念ネームプレート付)

この彫刻が創立百周年の開封時期まで、本校セミナーハウスの前に生き続けてほしいと願ってやみません。(未来メッセージ50より)

平成5年度・1993

校長 嶋田 侑 兒  
 教頭 大島 起  
 事務長 高浦 昌 洸  
 1学年主任 坂井 幸 夫  
 2学年主任 鈴木 芳之助  
 3学年主任 犬田 勝 昭

クラス担任

1-1 菅野 政敏	2-1 外山 貢	3-1 辻村 民雄
2 松村 謙	2 田邊 義博	2 内田 寛
3 小出 秀樹	3 松本 孝	3 長谷川 充
4 伊藤 毅	4 大田紳一郎	4 須藤 信夫
5 上野 一仁	5 馬場 勇	5 越川 芳雄
6 内田久美子	6 谷口 哲也	6 土屋 修
7 長野 一徳	7 梅井 泰宏	7 阿部 雅人
8 中山 俊彦	8 中安 均	8 木村 香住
9 向笠 勝也	9 押塚 功明	9 秋山 岩雄



文化祭



P T A 研修会「筑波大学」見学



マラソン大会(天台)

行事

【1学期】

4/7 入学式(399名入学)  
 4/30 生徒総会  
 5/19~22 中間考査  
 5/27 スポーツテスト、身体測定  
 6/3 P T A 総会  
 6/12・13 第30回東雲祭  
 (校舎改修工事のため1学期実施)  
 6/22 前期生徒会役員選挙  
 6/30~7/27 日米高校交流受入れ  
 (イロンデクォイト高 5名)  
 7/7~12 期末考査  
 7/21~23 1年生キャンプ  
 (西湖・津原キャンプ場)  
 7/7~17 大規模改修二期工事  
 (第一、三棟)物品移動作業

【2学期】

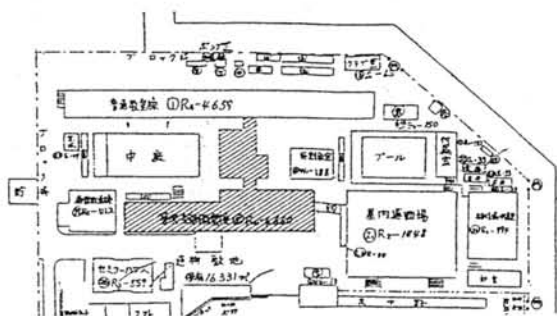
9/30 第26回陸上競技大会(天台)  
 10/22~26 中間考査  
 10/28 校内球技大会  
 (サッカー、ハンドボール、バレーボール)  
 11/18 P T A 研修会(筑波大、牛久シャトー68名)  
 11/19 後期生徒会役員選挙  
 11/25~28 2年生修学旅行(京都・奈良)  
 12/9~14 期末考査  
 12/20 大規模改修二期工事完了  
 12/20~1/21 同上復元移動作業  
 12/18 芸術鑑賞会(藤原歌劇団、ブッチーニ  
 「ラ・ボエーム」4幕)

【3学期】

1/15・16 センター試験会場  
 1/27~31 3年生学年末考査  
 2/1 第25回校内マラソン大会  
 (午後天台 男子10km、女子6km)  
 3/10 卒業式(第46回生 411名卒業)  
 3/11~16 学年末考査  
 3/1~29 日米高校交流派遣  
 (イロンデクォイト高 13名)  
 3/30 コンピュータ室完成(生物講義室を転用)



大規模改修工事（玄関）



## 校舎（一棟・三棟）

# 大規模改修始まる

校舎の老朽化に伴い平成二年度の二棟（教室棟）改修に続き、一棟（管理棟）と三棟（中央通路部分）△図の斜線箇所▽の大規模改修工事が夏休みより始まります。生徒が毎日利用する生徒昇降口と二棟への通路だけは八月三十一日までに完了する予定ですが、その他の箇所については、二学期いっぱいかかる予定です。その為に両棟にあった各科の職員室、教室等が工事期間中全て移動し、また、学校に来校された際に受付を行う事務室もセミナーハウスに移動します。その他、多数の職員室が移動しますので、ご用の際は事務室でご確認下さい。また、工事車輛の出入りの関係で駐車場並びに学校への出入口等が大幅に変更される予定ですので、工事箇所周辺の通行には充分ご注意ください。（事務室より）

（PTA会報 83号）

## 平成五年度 校舎改修第二期工事について

（七月二日付、管理部文書より抜粋）

### 【移動日程】

月日（曜）	搬出・移動を行う箇所
七月七日（水）	図書室
〃九日（金）	の書籍
七月七日（水）	七日↓三年一・二・三組
〃九日（金）	八日↓三年四・五・六組
〃九日（金）	九日↓三年七・八・九組
十二月二日（月）	一棟3階 物理室（非常階段利用） 生物室（中央階段利用）
十二月四日（水）	一棟1階 保健室、2階 教務室・会議室（非常階段利用） 図書室、3階 化学室（中央階段利用）
十二月五日（木）	一棟1階 事務室・応接室・校長室・職員玄関
十二月六日（金）	三棟1階 体育教官室・女子更衣室・生徒昇降口
十二月七日（土）	一棟4階 地学室・生徒指導室、三棟2階 視聴覚室・放送室
十二月八日（日）	三棟3階 進路室
十二月九日（月）	残務作業日

### 【移動日程】 校舎復元移動計画（十二月十六日付、管理部文書より抜粋）

（移動計画の詳細、他は省略）

月日（曜）	復元を行う箇所
十二月二十日（月）	事務室①、校長室、応接室、会議室、地学室①、視聴覚室
十二月二十一日（火）	教務室、保健室、印刷室、セミナー2階北側、三年職員室
十二月二十二日（水）	事務室②、物理室①、音楽室、地学室②、体育教官室
十二月二十四日（金）	雨天予備日
一月十日（月）	廊下、階段、通路の整理
一月十七日（月）	物理室②、生物室、化学室
一月十八日・十九日	図書室……小体育館より書籍入りダンボール箱を2階中央通路に並べる。
一月二十一日（金）	



平成6年度・1994

校長 嶋田 侑 兒  
 教 頭 下 地 正 信  
 事務長 近 藤 公 壽  
 1学年主任 吉 田 正  
 2学年主任 坂 井 幸 夫  
 3学年主任 鈴 木 芳 之 助

クラス担任

1-1 古水 裕之	2-1 小出 秀樹	3-1 外山 貢
2 栗原 剛	2 伊藤 毅	2 押塚 功明
3 長谷川 充	3 長野 一徳	3 大田紳一郎
4 池田 和夫	4 内田久美子	4 馬場 勇
5 戸次 恒治	5 向笠 勝也	5 田邊 義博
6 富田 慶一	6 松村 謙	6 中安 均
7 坂本 光雄	7 菅野 政敏	7 梅井 泰宏
8 田島 洋一	8 中山 俊彦	8 谷口 哲也
9 阿部 雅人	9 上野 一仁	9 松本 孝



文化祭



陸上競技大会(天台)



修学旅行(保津川下り)

行 事

【1学期】

4/7 入学式(381名入学)  
 4/27 生徒総会  
 5/2 校内球技大会(ハンドボール・長縄跳)  
 5/16 前期生徒会役員選挙  
 5/20~24 中間考査  
 5/26 スポーツテスト、身体測定  
 5/31 遠足(1年成田・2年鎌倉・3年葛西)  
 6/2 PTA総会  
 6/30~7/27 日米高校交流受入れ  
 (イロンデクォイト高 7名)

【2学期】

9/17・18 第31回東雲祭  
 10/12 第27回陸上競技大会(天台)  
 10/21~25 中間考査  
 11/10 PTA研修会(慶應大、人形博物館65名)  
 11/23~26 2年生修学旅行(京都・奈良)  
 11/30 後期生徒会役員選挙  
 12/9~14 期末考査  
 12/16 芸術鑑賞会(狂言「二人袴」)

【3学期】

1/14・15 センター試験会場  
 1/27~31 3年生学年末考査  
 2/2 第26回校内マラソン大会  
 (天台 男子9km、女子6km)  
 3/10 卒業式(第47回生 409名卒業)  
 3/13~16 学年末考査  
 3/3~29 日米高校交流派遣  
 (イロンデクォイト高 13名)

# 新学習指導要領に即した 東高の教育について

校長 高田 侑 児

平成六年度から、高校教育は新しい学習指導要領に基づき、学年進行で新たに展開がなされます。

東高のこれまでの教育については、大学等への進学実績、毎年八五％を超える生徒の生徒会・部活動への参加や全国、関東大会等での活躍、卒業生の社会での多彩な活動状況などからみると、評価できることが多々あると思います。

ところで、最近の高校入学生徒数の減少傾向、私立高校の動向、社会の人材ニーズの変化、学校週五日制の実施の拡大、平成九年度からの大学入試制度の改革、生涯学習の観点からの高校教育の改善などの諸条件を考えると、東高としても、新しい発想に立った対応が必要と考えます。

当面、平成六年度からの新しい教育内容による指導については、(1)生徒の進路や個性の伸長のために、教科・科目の選択幅を拡大したこと、(2)国際化や大学入試等への対応から英語の聞き取る能力を養うオーラルコミュニケーションBや日本文化・伝統への理解を深めるための古典講読を新設したこと、(3)情報化への対応から、特にコンピュータ等の情報手段の活用能力を数学、理科などで養う学習の導入、(4)社会の変化の下での家庭生活の在り方を学ぶための家庭科の男女必修等が新しい特徴です。これに併せて教育の一層充実のために将来構想検討委員会を設け、昨年の先進的高校の視察結果等を踏まえ検討を始めたところです。

検討内容は文系、理系のコース別け、教科指導の改善、補習授業の取扱い、進路指導体制の整備、東高の卒業生にふさわしい人間性の育成などにについてです。

今年度から始めたボランティア講座の例のように、社会的、自然的な体験学習を拡充し、学力向上と併せて、人間性豊かな生徒の育成に今後とも努めたいと考えます。

(PTA会報 86号)

## 関西大震災募金

### 生徒会による義援活動報告

あの一月十七日から二日後、生徒会では大震災についての対応を話し合った。衣料援助などの話もだが日本国内での災害では具体的な物資よりもお金の方が良いだろうということで、募金を全校で行うことにした。生徒会新聞で呼び掛け、各クラスごとに二十、二十一日の二日間集めた。一万円を超えるクラスもいくつかあり、先生からの募金も加えると全校での総額は「二十八万七百七十二円」にもなった。お金は日本赤十字社を通じて被災地に届けられた。

JRCで年末に行っている「赤い羽根募金」などとは比較にならないほど、多額なお金だが、しかも短期間に集まったということは、今回の地震への関心の高さの表れだと思う。確かにこの平和な日本であれだけの災害が起きたのだから他人事ではない。できる限りの事はしてあげたいと思う人は多い。実際、地震後のニュース報道などで、様々な立場の人が、様々な形でボランティア活動をしている(私達は募金という形で)のを見ると心救われる気がする。

昇降口黒板の掲示



ただ僕が一番主張したいことは関心をもち、手助けするのはこの地震だけなのかということ。先程「赤い羽根募金」について触れたが、一週間集めたとしても四万円程度である。もちろん金額の問題ではないのだが・・・この地震と同じくらい様々な出来事に関心をもち解決していくという心を皆でもちたい。

(生徒会・岩永武夫)  
(PTA会報 88号)

平成7年度・1995

校長 荒川 昇  
 教頭 下地 正信  
 事務長 近藤 公壽  
 1学年主任 越川 芳雄  
 2学年主任 吉田 正  
 3学年主任 坂井 幸夫

クラス担任

1-1 住田 健司	2-1 富田 慶一	3-1 菅野 政敏
2 大田紳一郎	2 古水 裕之	2 内田久美子
3 秋葉ひろみ	3 坂本 光雄	3 上野 一仁
4 高山 雅夫	4 長谷川 充	4 松村 謙
5 布施 明人	5 田島 洋一	5 須藤 信夫
6 外山 貢	6 池田 和夫	6 伊藤 毅
7 宇藤八重子	7 戸次 恒治	7 小出 秀樹
8 梅井 泰宏	8 阿部 雅人	8 中山 俊彦
9 谷口 哲也	9 栗原 剛	9 向笠 勝也



◀ 校内球技大会（ハンドボール）



◀ 一年生キャンプ（富士西湖）



◀ 卒業記念  
 （日展評議員 浅見錦龍先生）

行事

【1学期】

4/7 入学式（368名入学）  
 4/26 生徒総会  
 5/2 校内球技大会  
 5/11 スポーツテスト、身体測定  
 5/16 前期生徒会役員選挙  
 5/17 遠足（1年成田・2年鎌倉・  
 3年大学見学会）

5/25～30 中間考査  
 6/1 PTA総会  
 6/16～25 日米高校交流受入れ  
 （ジョンストン高（テキサス）5名）  
 7/7～12 期末考査  
 7/21～23 1年生キャンプ  
 （西湖・津原キャンプ場）

【2学期】

9/16・17 第32回東雲祭  
 9/28 第28回陸上競技大会（天台）  
 10/4 芸術鑑賞会  
 （岡田知之のパーカッションアンサンブル）  
 10/20～24 中間考査  
 11/10 PTA研修会（早大、江戸東京博物館70名）  
 11/16 後期生徒会役員選挙  
 11/25～28 2年生修学旅行（京都・奈良）  
 12/11～14 期末考査

【3学期】

1/13・14 センター試験会場  
 1/26～31 3年生学年末考査  
 2/8 第27回校内マラソン大会  
 （天台 男子9km、女子6km）  
 3/8 卒業式（第48回生 402名卒業）  
 3/11～14 学年末考査  
 3/2～27 日米高校交流派遣  
 （イロンデクォイト高 生徒16名、  
 教師2名）  
 3/25 防砂ネット、グラウンド植栽工事完了



合格発表

と問題が提起され教育制度改革の中で討論はされている様であります。今だに具体的に「これだ」というものはありません。人間この世に生を受け最初に教育する人間は両親であります。学校の教育も大事であります。先ず自らの家庭教育を見直し、親子が真に話し合い、人間としての生き方を考えてみてはいかががでしょうか。

(PTA会報 90号)

## 「道徳教育」を改めて見直す

PTA会長 岩坂省三

本年は阪神大震災から始まり、オウム真理教事件と社会不安が続き、又、政治は相変わらず重要問題が先送りされ続き、経済も長きに渡る低迷状態のまま一年が終わろうとしています。この中で教育的な観点から見てやはり一番気になった問題はオウム真理教問題ではないでしょうか。何故学歴のある若者があの様な大事件を起こしたか。ドイツの哲学者カントは「あらゆる宗教は道徳をその前提とする」という言葉を残しておりますが、道徳とは何か、社会に於いて人々が、善と悪、正と邪を正しく行動する為の規範であり、宗教と道徳の違いは、道徳は人間の道としての慈悲、愛を説くが宗教は神、仏の教えとして説く。道徳はあくまでも人間相互の関係として守らねばならない。人間は皆人間としての義務を果たして人間といえると思えます。オウムに走った彼等の教養は宗教と道徳の何かさえ知らなかったからだと思います。

最近の家庭教育、学校教育に於いても知育偏重という点に関して色々

「啐啄の機」という言葉があります。啐とは鶏が卵を孵化させる時、卵の中の雛が殻を破って外に出ようとする時に、その卵の中からコツコツとつくことであり、啄とは、卵を抱いている牝鶏が、外から時を同じくして、殻をつき破ることをいい、両方の呼吸がびったり合うことをいったものです。

もし親鶏のつつきが遅ければ、雛は中で窒息してしまふし、つつくのが早すぎれば、まだ雛になる準備のできていないのが生まれてくることになって、これもまた死んでしまうことになります。

早すぎず、遅すぎず、まさにこの時というタイミングが「啐啄の機」ということになります。

人が成長していく過程でも同じことがいえるかと思いますが、学ぼうとする意欲の旺盛な時に、どれだけ学ぶことができるか、ということは人の一生を決定するといってもいい程重要なことです。

特に高校期は体も心も、そして頭脳も、急速に成長していく時期であり、伸びようとするエネルギーは素晴らしいものがあります。

東高の生徒諸君が、中途半端に妥協することなく、自らの力を信じて、その可能性に挑戦してほしいと願ひ、そのために、学校として何ができるのかを、私達教師は常に考えておられます。御承知の様に、新学習指導要領の実施に伴って教育内容が改訂され、五日制も月一回実施されることになりました。

二十一世紀が目前に迫り、社会は急速な変容を遂げつつあります。これからの日本が、そして世界が、どう変わっていくかを予測するのは、大変むづかしいことですが、どのような状況にも主体的に対応できる、たくましい人間の育成を目指して努めてまいります。

会員の皆様の御支援・御協力をお願いいたします。(PTA会報 89号)



平成8年度・1996

校長 荒川 昇  
 教頭 須藤 武  
 事務長 近藤 公壽  
 1学年主任 馬場 勇  
 2学年主任 越川 芳雄  
 3学年主任 吉田 正

クラス担任

1-1 長野 一徳	2-1 梅井 泰宏	3-1 富田 慶一
2 押塚 功明	2 外山 貢	2 長谷川 充
3 橋本 眞	3 住田 健司	3 池田 和夫
4 鶴沢 勝	4 田邊 義博	4 戸次 恒治
5 武藤 守夫	5 宇藤八重子	5 坂本 光雄
6 吉村 英和	6 秋葉ひろみ	6 栗原 剛
7 萩原 正男	7 布施 明人	7 古水 裕之
8 上野 一仁	8 高山 雅夫	8 田島 洋一
9 松本 孝	9 大田紳一郎	9 阿部 雅人



◀ 文化祭



◀ 卒業記念「旅立ち」土肥満先生を囲んで



◀ 日米高校交流派遣 (イロンデクォイト高校)

行事

【1学期】

- 4/8 入学式 (367名入学)
- 4/26 生徒総会
- 5/2 校内球技 (東雲スポレク) 大会
- 5/9 スポーツテスト、身体測定
- 5/14 遠足 (1年 成田・2年 鎌倉・3年 浅草)
- 5/17 前期生徒会役員選挙
- 5/23~28 中間考査
- 5/29 PTA総会
- 7/6~10 期末考査
- 7/20~22 1年生キャンプ (西湖・津原キャンプ場)
- 7/29~8/20 日豪高校交流派遣 (ビューバンク高 生徒16名、教師2名)

【2学期】

- 9/14・15 第33回東雲祭
- 10/3 第29回陸上競技大会 (天台)
- 10/19~23 中間考査
- 11/8 PTA研修会 (筑波大、牛久シャトー 66名)
- 11/15 後期生徒会役員選挙
- 11/20~23 2年生修学旅行 (京都・奈良)
- 12/9~12 期末考査
- 12/13 芸術鑑賞会 (演劇「夏の夜の夢」)

【3学期】

- 1/18・19 センター試験会場
- 1/24 推薦入試 (第1回 54名)
- 1/28~31 3年生学年末考査
- 2/14 第28回校内マラソン大会 (天台 男子9km、女子6km)
- 3/10 卒業式 (第49回生 383名卒業)
- 3/11~14 学年末考査
- 3/1~26 日米高校交流派遣 (イロンデクォイト高 生徒16名、教師2名)

## 日米高校交流プログラム

## イロンドンデクオイト高校との交流十周年

東高で日米高校交流プログラムが始まったのは、今から二十四年も前のことです。最初の姉妹校はカリフォルニア州のブクサー高校で、派遣は五回、受け入れは三回ありました。次にペンシルベニア州のチャールズ・ボエム高校とメディルベア高校へと移り、派遣のみ四回ありました。次はヴァージニア州のトマス・ジェファソン高校で、派遣が一回、受け入れは二回でした。

現在のニューヨーク州のイロンドンデクオイト高校（以下I高校と記す）は、姉妹校交流を始めて今年でようやく十年目を迎えることになりました。十年間の派遣と受け入れの数には幾分偏りがありますが、多数の生徒と教員を交換し、友情を深めると同時に、さまざまな文化交流を通して相互理解を進めてきました。

I高校への派遣総数 一三六名		I高校からの受け入れ総数 三七七名	
62年度	石井 栄教諭以下12名	63年度	ジョージ・ハマスレイ先生 以下8名
63年度	渡辺 隆教諭以下12名		
元年度	清水 攻教諭以下13名	元年度	ケネス・バルー先生 以下4名
2年度	吉田 秀樹教諭以下11名	2年度	パトリシア・アキューリ 先生以下3名
3年度	先田賢紀智教諭以下13名	5年度	ジャクリーヌ・ムーニー 先生以下5名
4年度	菅野 政敏教諭以下13名	6年度	ジェームズ・キンセラ先生 以下7名
5年度	池田 和夫教諭以下13名		
6年度	坂本 光雄教諭以下13名		
7年度	矢代 正人教諭・ 松本 孝教諭以下18名	9年度	パトリシア・ブラジル先生 以下10名
8年度	大谷 芳孝教諭・ 内田久美子教諭以下18名		

(注) I校への派遣は9年度で終了した。

## アメリカを見てつくづく考えた

引率教諭(地歴科) 大谷 芳孝

## アメリカへ行って初めてわかったこと

授業については次の項で触れるとして、興味があったのは高校がちょっとした社会のミニ版だということである。校内に食堂や購買があるのはもちろんだが、銀行があり、自動車修理工場(もちろん授業用だが教員もここで直せる)があり、建築工房があり、芸術関係の施設設備は潤沢だ(音楽関係の先生だけで六人もいる)。楽団、装置、照明などを自分でミュージカルを上演してしまおう。図書館に二台あるパソコンは生徒が自由にインターネットを操作できるとか、パソコンをOHPにつなげてスクリーンで様々の映像を見られるなど先進的な部分ももちろんあった。生徒たちは机上の勉強だけでなく、高校の学習が社会に出ていく練習としての性格を持っているという印象であった。従って教育とはそのためのサービスであるというイメージが強い。先生方のサービス精神は旺盛である。これはアメリカ人気質でもあるのだが……。

## 改めてわかったこと、少人数教育

(略) サービスを徹底させるなら少人数しかない。私が見た授業は平均二十人、コーラスの四十四人を別にしたら三十人以上の授業は見なかった。一人ひとりに目が行き届き、生徒もそれがわかるからいい意味での緊張があり、質問や討論が自然、かつ活発に展開される。全校生徒千人人中精神障害者が一割いて、おまけに入試はないから成績もかなり落差がある。しかし寝ている生徒は見なかった。

## 日本についての認識の低さ

使っている教科書や地図帳には日本がわずかしかなかった。日本地図に至ってはページの半分だった。在米中に新聞の一面には日本の政治問題が載ったのを見ない。教師も十三人の Social Studies の何人かは日本の認識がややあるが、他教科の先生(全校約百二十人)は日本のことを知らないし、知ろうとする意志も弱いようだ。図書館を見ても本屋を見て日本は単なる世界の一つの国扱いだ。よく言えばアメリカは世界の国々を等しい重さで見ている。しかし日本はアメリカ一辺倒だからアメリカのマスコミにとっては魅力がないのだろう。(略)

私はホストファミリー宅では時には意識的に日本語を用い、片言英語で日本の社会のことなどを話してきた。国際理解とはなにかを考えながら。

(国際交流新聞10号より抜粋)

平成9年度・1997

校長 長妻孝治  
 教頭 須藤武  
 事務長 国吉従子  
 1学年主任 菅野政敏  
 2学年主任 馬場勇  
 3学年主任 越川芳雄

クラス担任

1-1 小出 秀樹	2-1 鶴沢 勝	3-1 住田 健司
2 勝又 邦夫	2 武藤 守夫	2 田邊 義博
3 長嶋由美子	3 押塚 功明	3 布施 明人
4 松村 謙	4 松本 孝	4 外山 貢
5 栗原 剛	5 嘉村 英子	5 高山 雅夫
6 曾野 学	6 橋本 眞	6 宇藤八重子
7 細川 信	7 上野 一仁	7 秋葉ひろみ
8 内田久美子	8 長野 一徳	8 梅井 泰宏
9 矢代 正人	9 萩原 正男	9 大田紳一郎



◀ 修学旅行 (奈良大仏殿)



◀ 昼食風景 (うどんすき)



◀ 各学年の記念論文・紀行文集

行事

【1学期】

- 4/8 入学式 (367名入学)
- 4/30 東雲スポレク大会  
(サッカー、ハンド、バレー、チームジャンプ)
- 5/2 生徒総会
- 5/8 スポーツテスト、身体測定
- 5/14 遠足 (1年 ディズニーランド・2年 鎌倉・3年 上野)
- 5/23~28 中間考査
- 5/29 PTA総会
- 5/30 前期生徒会役員選挙
- 7/1~24 日豪高校交流受け入れ  
(イロンデクォイト高 10名)
- 7/7~10 期末考査
- 7/20~22 1年生キャンプ  
(西湖・津原キャンプ場)

【2学期】

- 9/13・14 第34回東雲祭
- 10/2 第30回陸上競技大会 (天台)
- 10/18~22 中間考査
- 10/29 文化講演会「活かして生きる」  
萩生田千津子氏
- 11/7 PTA研修会 (慶應大、品川水族館 65名)
- 11/14 後期生徒会役員選挙
- 11/25~28 2年生修学旅行 (京都・奈良)
- 12/9~12 期末考査
- 12/16 芸術鑑賞会  
(狂言、大蔵流 山本会「二人袴」他)

【3学期】

- 1/17・18 センター試験会場
- 1/28~31 3年生学年末考査
- 2/5 第29回校内マラソン大会  
(天台 男子9km、女子6km)
- 3/10 卒業式 (第50回生 362名卒業)
- 3/11~16 学年末考査
- 2/28~3/25 日米高校交流派遣  
(イロンデクォイト高 生徒16名、教師2名)
- 3/27 通信棟新校舎竣工 (562㎡)

## 千葉東高新聞

復刊第1号

平成10年3月10日発行

(題字は清代・何子貞の書より集字)

学校新聞より

## 修学旅行 11月25日～28日



一九九七年十一月二十五日、京都・奈良三泊四日の修学旅行が幕を開けた。

## 清水寺

私たちのクラスは、夜と昼の二度、清水寺に行った。特に、二日

目の夜に行ったときは雷雨に見舞われて、大変だったが、雷の中の紅葉、清水の舞台からの景色は、恐ろしさすら漂っていて、絶景だった。使い捨てカメラでは、夜景をきれいに写すことができず、残念だった。

四日目は時間に余裕があったため、じっくりと見て回ることができた。恋愛の神様がいるという地主神社には、必ず行くと良い。ここのおみくじでは、よく凶が出るので、覚悟を決めてから引こう。そして、願いのかなうといわれる三つの水は、どれがどれだか書いていないのでご注意ください。

## 聖護院御殿荘

修験者の総本山として知られている聖護院。この門跡の境内に、

御殿荘という大きな旅館がある。ここが、私たちの泊まった宿だ。

ちなみに、この社長さんは、住宅金融債権管理機構の社長として活躍する、弁護士の中坊公平さんだったりする(とっても有名な人なのだ)。この旅館は、とても立派だった。食事もおいしい。キャンプとは天と地の差だったから、より感動は大きかった。

ところで、旅館の部屋が先生方の部屋の隣りだと、当然だが真夜中に部屋でにぎやかにすることができない。新二年生の諸君は、なるべく先生方から遠い部屋になることを祈ろう。そして、楽しい修学旅行にしよう。

## 食べ物で綴る京都

修学旅行の楽しみの一つ、「京都の味覚」について、取り上げてみよう。

一日目の昼食はクラス別。うちはうどんすきだった。おいしいしおかわりできるし、結構満足できるはず。そして、部屋に着くと、おやつに八ツ橋が。さすがは聖護院。夕食はすき焼きで、デザートにはアイスもついている。お風呂の後にはコーヒータン、実に至れ

り尽くせりである。

二日目は班別行動。嵐山に行く人は、駅前のコロケ屋さんへどうぞ。試してみる価値あり。夕食には、飲茶・カツ・グラタン等々。女子には十分すぎる量だ。

三日目も班別行動。昼は、関西では有名という「餃子の王将」で食べた。安くてうまい、おすすめである。夕食は懐石料理。そしてデザートにはなぜかミスタードーナツ。この日のおやつにはおもしろもあった。

最終日。清水寺の近くで湯豆腐を食べた。炊き込み御飯もおいしくて文句なし。清水寺の近くで売っている清水焼も、焼きたてアツアツでおいしい。

京都に行ったら一度は食べたい抹茶ソフト。お土産には抹茶プリンが1押しだ。漬物物というのもいい。八ツ橋は言うまでもない。祇園の鴨川岸の八ツ橋屋で買うとその場でお茶と八ツ橋をいただけるサービスもある。

最後に。お菓子は現地で購入できるので、行きの分だけ持っていけば足りる。うどん・豆腐嫌いの人は十一月までに克服しておくことをお勧めする。(担当・二年一組)



平成10年度・1993

校長 長妻孝治  
 教頭 樋口眞孝  
 事務長 国吉従子  
 1学年主任 戸次恒治  
 2学年主任 菅野政敏  
 3学年主任 馬場勇

クラス担任

1-1 古水 裕之	2-1 勝又 邦夫	3-1 長野 一徳
2 梅井 泰宏	2 長嶋由美子	2 松本 孝
3 加藤ひで子	3 内田久美子	3 上野 一仁
4 渡邊都詩紀	4 矢代 正人	4 吉村 英和
5 嘉村 英子	5 田島 洋一	5 橋本 眞
6 大谷 芳孝	6 小出 秀樹	6 押塚 功明
7 鈴木 宏	7 栗原 剛	7 武藤 守夫
8 住田 健司	8 細川 信	8 萩原 正男
9 高山 雅夫	9 曾野 学	9 鶴沢 勝



◀ 入学式(二学年職員紹介)



◀ 留学生授業風景(書道)



◀ 変化した中庭の風景(通信棟新校舎完成のため)

行事

【1学期】

- 4/7 入学式(362名入学)
- 4/28 東雲スポレク大会  
(サッカー、バレー、ハンド、チームジャンプ)
- 4/30 生徒総会
- 5/7 スポーツテスト、身体測定
- 5/14 遠足(1年成田・2年鎌倉・3年浅草)
- 5/22~27 中間考査
- 5/28 PTA総会
- 7/6~9 期末考査
- 7/13 前期生徒会役員選挙
- 7/20~22 1年生キャンプ  
(西湖・津原キャンプ場)
- 7/27~8/20 日豪高校交流派遣  
(ヴィンセント高 生徒16名、教師2名)

【2学期】

- 9/12・13 第35回東雲祭
- 10/6 第31回陸上競技大会(天台)
- 10/21~26 中間考査
- 11/13 PTA研修会(早大、深川資料館 45名)
- 11/18 後期生徒会役員選挙
- 11/25~28 2年生修学旅行(京都・奈良)
- 12/9~12 期末考査
- 12/16 芸術鑑賞会  
(新国立劇場 合唱団・オペラなど)

【3学期】

- 1/16・17 センター試験会場
- 1/28~30 3年生学年末考査
- 2/5 第30回校内マラソン大会  
(天台 男子8km、女子5.6km)
- 3/10 卒業式(第51回生 367名卒業)
- 3/11~16 学年末考査
- 2/27~3/24 日米高校交流派遣  
(メアリーマウント高 生徒11名)

# 会報一〇〇号に思う

校長 長妻 孝治

昭和四一年七月に発行されて以来、三三年間の歴史をもつPTA会報も今回で一〇〇号の発行となります。長きにわたり発行に携わった方々に対し敬意を表する次第です。

昭和四二年に現在の本校校舎の建設が始まったとのこと、この会報は、現在の校舎と共に歩んできたと言えるのではないかと思います。

会報第一号でPTA会長、中村作次郎氏の、「新校舎建設という大事業が実現に向かって第一歩を踏み出しました。」という書き出しで始まるあいさつ文からも推察できます。

また、会長は、当時の生徒に対し、勉強不足に憂慮を示し、ベストを尽くし有名大学へ合格することを期待していると述べ、続いて、「利己心でこり固まっていない」「不人情でない」美德をもった真に有用な社会人として成長することを期待すると述べています。

三三年前の第一号での会長のあいさつ文は、今でも生き続けているように思われます。

特に後段に述べられていることは、時代を越えて価値あるものでありましょう。

今後とも、学校と家庭との連携を深め協力して思いやりの心、正義感や公正さを重んじる心等が育まれるよう努めてまいりたいと考えます。

会誌初版当時に比べまして生徒の進学に対する意識も変わり、会長の言う「有名大学」に多数進学し、県下でも屈指の進学校として名を馳せている現状にあります。これも偏に生徒達の努力はもろんのことと先生方、PTA会員の方々のご尽力のお陰だと考えます。

しかし、少子化に伴い今後県内公立高校のあり方等が検討され、その変容が推察されます。どのようなものになろうとも、PTA会員の皆様のご支援、ご協力を賜りながら、本校の更なる発展に努めなければならぬと思っております。

学校と保護者とのふれあいを深めることを目的とするこの会報が今後とも末長く役目を果たすことを願っています。(PTA会報 100号)

## 国立大学志望者増加 第一学年進路志望調査結果

一年生の進路志望調査が一月に実施され、次のような結果となった。今年の特徴として、二つあげることができる。

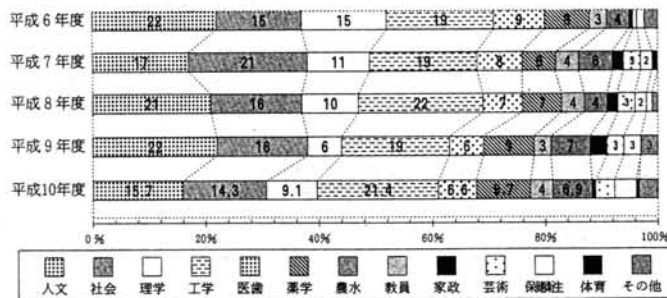
第一に、進学志望先は、昨年と同様に国立大学が多く約九割を占めた。第二に、文系学部志望者の割合の減少である。例年は、人文、社会合計で三十七、八%の志望があったのに、今年は三十%である。長引く不況を反映して、就職有利といわれている理系を志望するものがさらに増えたのであろうか。

調査期日 平成11年1月18日

調査対象 第一学年在籍生徒 (364名)

回答数 363名

1. 高校卒業後の進路 進学 362名 就職 1名
2. 進学志望先 (第1志望) 国立大 326名 (89.8%) 私立大 29名 (8%)
3. 志望系統 理系 186名 (51.2%) 文系 127名 (35%) 未定 50名 (13.8%)
4. 志望学部系統 (第1志望、過去5年間の比較)



第一学年では、この一年、職業について考えるための様々な機会や資料を与えてきた。いよいよ、第二学年では、その夢を実現するための学部、大学の選択、そして、その大学の養成へと進んでいくわけだが、自分の将来のことなのだから、普段の勉強にしても与えられたものをこなすだけではなく、自分から研究していく姿勢が必要だと思う。今後の各自の積極的な活動を期待したい。  
(進路指導室だより 54号)

平成11年度・1999

校長 曾川 定雄  
 教頭 樋口 眞孝  
 事務長 古川 博則  
 1学年主任 宇藤 八重子  
 2学年主任 戸次 恒治  
 3学年主任 菅野 政敏

クラス担任

1-1 押塚 功明	2-1 鈴木 宏	3-1 勝又 邦夫
2 阿部 雅人	2 加藤ひで子	2 長嶋由美子
3 笹島 茂樹	3 梅井 泰宏	3 内田久美子
4 布施 明人	4 嘉村 英子	4 小出 秀樹
5 植木 喜重	5 古水 裕之	5 矢代 正人
6 菱木みどり	6 渡邊都詩紀	6 田島 洋一
7 武藤 守夫	7 高山 雅夫	7 栗原 剛
8 鶴沢 勝	8 大谷 芳孝	8 曾野 学信
9 松本 孝	9 住田 健司	9 細川 信



文化祭(東雲茶会)



日豪高校交流受け入れ(歓迎会)



授業風景(化学)

行事

【1学期】

- 4/7 入学式(362名入学)
- 4/28 東雲スポレク大会  
(サッカー、バレー、チームジャンプ)
- 4/30 生徒総会
- 5/12 スポーツテスト、身体測定
- 5/13 遠足(1年成田・2年鎌倉・3年浅草)
- 5/14 前期生徒会役員選挙
- 5/21~26 中間考査
- 5/27 PTA総会
- 6/14~24 日米高校交流受け入れ  
(メアリーマウント高 11名)
- 7/6~9 期末考査
- 7/20~22 1年生キャンプ  
(西湖・津原キャンプ場)

【2学期】

- 9/11・12 第36回東雲祭
- 9/17~26 日豪高校交流受け入れ  
(ビューバンク高 5名)
- 10/5 第32回陸上競技大会(天台)
- 10/21~26 中間考査
- 11/5 PTA研修会(筑波大、牛久シャトー 46名)
- 11/25~28 2年生修学旅行(京都・奈良)
- 12/9~14 期末考査
- 12/15 芸術鑑賞会(シェイクスピアシアター)
- 12/21 後期生徒会役員選挙

【3学期】

- 1/15・16 センター試験会場
- 1/27~31 3年生学年末考査
- 2/2 第31回校内マラソン大会  
(天台 男子9km、女子6km)
- 3/10 卒業式(第52回生 363名卒業)
- 3/13~16 学年末考査
- 3/1~25 日米高校交流派遣  
(クラークストン高 生徒11名)



表紙タイトルイラストデザイン  
(昭和35年卒 北川 広志)

「シャロンの花」は、校歌の歌い出しです。昭和二六年、創立十周年記念に制定されました。当時教頭でいらした沢田繁二先生作詞のこの校歌は、他校にはない美しい響きを持つ詩で綴られています。同窓会報を創刊するにあたり、懐かしい言葉「シャロンの花」をタイトルに致しました。シャロンは、イスラエル西部の地名です。その地に咲く白い可憐なシャロンの花は、旧約聖書で純潔の象徴とされています。

## 同窓会報「シャロンの花」

### 第4号発刊ご挨拶

会長 井戸川 浩

同窓会の皆様はじめ恩師の先生方におかれましては、お元氣でお過ごしでしょうか？ 同窓会報「シャロンの花」第4号をお届けいたします。これまで1号から3号までを発行しましたが、多くの先輩、同窓生から「毎号楽しみにしている」という励ましのお手紙をいただき感激しております。

また、同時にお願いしている「同窓会活動維持基金」と「創立六〇周年記念事業基金」につきましても、多額の温かい浄財をお寄せいただいております。ご寄付いただいた皆様の母校を思い愛する気持ちの深さに、役員一同深い感銘を覚えております。ありがとうございます。

東高同窓会は卒業生が既に二万五千名を越え、多くの方々各界で活躍されています。そうした同窓生の動向や母校の動静、かわいい後輩である在校生の活躍ぶり、同窓会の活動の状況などをこれからもお知らせすることに、皆さんが母校で学んだことを誇りに思うようがとしいただければ幸いです。

今後とも、ひとりでも多くのOBの皆さんの物心両面にわたるご協力を得て、紙面の充実を図って行きたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いたします。

## 教育界の

### 新しい動きと千葉東高校

校長 曾川 定雄

二十一世紀が間近に迫った現在、教育界は大きな変革期を迎えています。文部省は中教審や教課審の答申を受けて、完全学校週五日制のもとで、「ゆとり」の中で、「特色ある教育」を展開し、生徒に自ら学び自ら考える「生きる力」を育成することをねらいとする新学習指導要領を去る三月に告示し、「総合的な学習の時間」や教科「情報」等を新たに設けました。また、県教委は、二〇二五年を目標年次として、学校教育、社会教育、文化、スポーツさらには福祉、環境、町づくりなど総合的・長期的な視点に立った「教育長期ビジョン」策定（九月公表予定）に取り掛かっています。

本校でもこうした新しい動きに、積極的且つ適正に対応するとともに、これまでに築いてきた「文武両道」等の東高の良き伝統と実績を継承し、より充実した、時代の要請に適う高校とするため、この四月に将来計画委員会を設置し、具体的な検討をはじめました。

また、本校は二〇〇一年に創立六〇周年を迎えます。これを機に、これまでの輝かしい伝統を再確認し、さらなる飛躍を目指すため、この四月に創立六〇周年記念事業準備委員会を設置し、PTAや同窓会の役員の方にも委員として参加して頂き、相互に連携を密にして意義ある内容とするべく準備をはじめました。

さて、本年も生徒の①学力の充実、②自律的行動と責任ある態度の育成、③基礎体力の向上、を本校の努力目標として教育活動を推進するとともに、生徒一人ひとりの進路希望の実現のために積極的な活動を行っています。ただ、最近の生徒は進学に関しては、ややもすると安全を考へ過ぎ、実力を十分に発揮できていない傾向があります。生徒一人ひとりが自分を信じ、思い切って大きな夢を描き、その夢の実現のために全力で、継続的に努力するよう、指導をしていきたいと考えています。

どうぞ、保護者の皆様には、東高の今後の充実発展のために、様々な観点から忌憚のないご意見をいただければ思っております。

(PTA会報 101号)



## 平成12年度・2000

校長	曾川 定雄
教頭	高野 だいわ
事務長	古川 博則
1学年主任	大塚 好輝
2学年主任	宇藤 八重子
3学年主任	戸次 恒治

## クラス担任

1-1	佐藤 光男	2-1	鶴沢 勝	3-1	鈴木 宏
2	小久保法子	2	松本 孝	2	住田 健司
3	曾野 学	3	武藤 守夫	3	勝又 邦夫
4	藤平 真	4	笹島 茂樹	4	渡邊都詩紀
5	竹林 靖浩	5	菱木みどり	5	高山 雅夫
6	細川 信	6	布施 明人	6	加藤ひで子
7	佐藤 啓之	7	植木 喜重	7	嘉村 英子
8	谷島 直美	8	押塚 功明	8	梅井 泰宏
9	小出 秀樹	9	阿部 雅人	9	古水 裕之



文化祭



スポレク大会(バレーボール)



活躍する部活動(山岳部)

## 行事

## 【1学期】

- 4/7 入学式(366名入学)
- 5/2 東雲スポレク大会  
(サッカー、バレー、チームジャンプ)
- 5/8 生徒総会
- 5/10 スポーツテスト、身体測定
- 5/17 遠足(1年成田・2年鎌倉・3年浅草)
- 5/19 前期生徒会役員選挙
- 5/25~30 中間考査
- 6/1 PTA総会
- 7/6~11 期末考査
- 7/20~22 1年生キャンプ  
(西湖・津原キャンプ場)

## 【2学期】

- 9/9・10 第37回東雲祭
- 10/12 第33回陸上競技大会(天台)
- 10/20~24 中間考査
- 11/9 PTA研修会(慶應大、フジTV 71名)
- 11/17 後期生徒会役員選挙
- 11/24~27 2年生修学旅行(京都・奈良)
- 12/8~13 期末考査
- 12/14 芸術鑑賞会(狂言「二人袴」他)

## 【3学期】

- 1/20・21 センター試験会場
- 1/25~30 3年生学年末考査
- 2/8 第32回校内マラソン大会  
(天台 男子9km、女子6km)
- 3/9 卒業式(第53回生 361名卒業)
- 3/12~15 学年末考査
- 2/28~3/25 日米高校交流派遣  
(フォートヘイズ高 生徒11名)
- 3/28 テニスコート改修工事完成

## 「世界的視野」

PTA会長 松本俊二

今年も余すところわずかで。ミレニアムの最大イベントであるオリンピックやパラリンピックでは、世界の強豪に臆することなく、自らの力を信じ応援をプレッシャーでなく味方にして、競技を楽しみながら結果を出し、達成感に浸る選手達のさわやかな表情が、見る者に大きな感動を残しました。

世界中の政治や経済が混沌としている昨今、日産のゴーン氏やサッカーのトルシエ氏等、国内での外国人トップが目立ちます。しがらみで実力を発揮できない日本人トップに比べ、両氏や栄冠を手にした選手達に共通する意志の強さ、経験やデータに基づいた時代を感じ取る確かな自信と行動、プレッシャーを受けとめる強靱な精神力等は、国籍や世代を越えて学ぶべき点がある様です。ノーベル賞を受賞された白川教授も研究の土壌を日本におかず、評価も国内より国際社会で認められた背景を鑑みて、政治・スポーツ・医学・経済界などの分野でも、発想を自由に発表できる開かれた場の必要性を強く感じ、その柔軟な感覚が成功への可能性に繋がると確信します。

金融機関や企業の再編成、雇用の多様化が加速し、インターネットの普及で時差もなくなり、世界に目を向けなければ取り残されます。当校の教育目標の一つに「国際的視野を持つ人物の育成」とあり、長年生徒の海外派遣や留学生を受け入れる体制が整っており、国際的感覚を養う素地を作っています。同時に比類なき日本古来の文化や伝統を軽んじる事なく、大人社会の倫理観の是正を恐れず、世界的視野を持ってスピード行動のできる心身共に健全な若者が輩出される事を望んでいます。

宇宙滞在も絵空事でない二十一世紀を担う我が子供達は、いじめやゆがんだストレスの発散等という弱者を攻撃する事で快感を覚えるより、他者と違う事を恐れず堂々と自分の意見を主張し、世界に目を向け、議論し、様々な分野で他国と対等に渡り合える青年に育てて欲しいものです。

(PTA会報 105号)

## 私の一言

東高生は概して学習意欲が高い。授業が終わると質問の列ができる。教員としてはうれしい限りである。しかし、気になることもある。ときに答えを求めものに性急すぎではないだろうか。正解にたどり着くまでには長い道程がある。多くの前提条件があり、その上に様々なルールが重なって、やっとな一つの答えがでてくるのだ。その道程を省こうとしてはいけないか。無駄なことはしたくない、近道して楽にゴールにたどり着きたいという気持ちに負けてはいないか。

そこでぐっところえてほしい。自分の頭でじっくり考えることをもっと大事にしてほしいのだ。時には考える努力に対して得たものがあまりに貧弱に思えることもあるかもしれない。しかし社会に出てから本当に必要なのは、答えを得る能力より自分の力で考える能力だと思う。「早く答えを得たい」という考えは、「人間外見を飾っておけば中身はどうでもいい」というのと似てどこか寂しい。

十代後半という、最も感受性豊かで頭も柔軟な高校時代、何のために勉強するのか。それは「受験のため」以上に「考えることを学ぶため」ではないだろうか。人間の中身を磨くために。「考える」基礎となる知識を磨くために。「考える」基礎となる知識も、すばらしい記憶力を誇るこの時期だからこと、(我々には)羨ましいほどすばらしい吸収できるのだ。大いに勉強してほしい。その経験を糧に、何事も自分の頭でしっかり考えられる人間に成長してほしいと願っている。

進路室だより

第59号



入学式

平成13年度・2001

校長 曾川 定雄  
 教頭 高野 だいわ  
 事務長 小安 弘子  
 1学年主任 戸次 恒治  
 2学年主任 大塚 好輝  
 3学年主任 宇藤 八重子

クラス担任

1-1 渡邊都詩紀	2-1 小久保法子	3-1 布施 明人
2 平澤 憲彦	2 曾野 学	2 植木 喜重
3 加藤ひで子	3 佐藤 光男	3 武藤 守夫
4 廣井 修司	4 小出 秀樹	4 押切 功明
5 長嶋由美子	5 藤平 真	5 菱木みどり
6 中川 雅彦	6 佐藤 啓之	6 鶴沢 勝
7 善養寺千秋	7 竹林 靖浩	7 住田 健司
8 梅井 泰宏	8 谷島 直美	8 笹島 茂樹
9 張能 正昭	9 細川 信	9 阿部 雅人

行事

【1学期】

4/7 入学式 (365名入学)  
 4/26 スポーツテスト、身体測定  
 5/2 東雲スポレク大会  
 (サッカー、バレー、チームジャンプ)  
 5/9 生徒総会  
 5/11 前期生徒会役員選挙  
 5/16 遠足 (1年成田・2年鎌倉・3年浅草)  
 5/24~29 中間考査  
 6/7 PTA総会  
 6/24~28 日米高校交流受け入れ  
 (クラークストン高 5名)  
 7/6~10 期末考査  
 7/20~22 1年生キャンプ  
 (日光・菅沼キャンプ場)

【2学期】

9/15・16 第38回東雲祭  
 10/11 第34回陸上競技大会 (天台)  
 10/19~23 中間考査  
 11/7 PTA研修会 (早大、竹久夢二館 79名)  
 11/10 60周年記念式典  
 11/25~28 2年生修学旅行 (京都・奈良)  
 12/7~12 期末考査  
 12/13 60周年記念行事芸術鑑賞会  
 (金管・バレー・打楽器アンサンブル)

【3学期】

1/16 後期生徒会役員選挙  
 1/19・20 センター試験会場  
 1/25~30 3年生学年末考査  
 2/6 第33回校内マラソン大会  
 (午後天台 男子9km、女子6km)  
 3/8 卒業式 (第54回生 362名卒業)  
 3/11~14 学年末考査  
 3/30 トレーニング場完成



◀ 耐震大規模改造 (夏休み中物品は廊下に その一)



◀ 一年生キャンプ (日光白根山登山)



◀ トレーニング場新設工事 (平成十四年三月完成予定)

## 学校完全週五日制並びに新教育課程への

### 東高としての対応について

校長 曾川 定雄



いよいよ平成十四年度から学校完全週五日制が、さらに翌十五年度からは新学習指導要領に基づく新教育課程がスタートします。制度上だけではなく、教育の内容・質においても大きな変革となります。

今学校に求められているのは、生徒一人一人の個性を生かし、その能力を伸ばす教育での作成に取り組んでおります。す。そのために、各校では独自の教育内容を設定し、特色ある教育課程

本校では、平成十一年度に「将来計画委員会」（委員長 林 久雄教諭）を設置し、早い段階から様々な検討を重ねて参りました。ほぼ一〇〇%の生徒が四年生大学への進学を希望しております。当然、今後予想されるセンター試験の五教科七科目受験への対応も必要です。生徒の個性を十分生かすとともに、この進学希望を実現させ、保護者や地域の方々から寄せられる熱い期待に十分応えたいと考え、基礎・基本を徹底させた上に、各教科科目をより深く高度に学ばせ、真に「自ら学び自ら考える力」を育成することを目標としました。

具体的に、本校は次のように変わります。

①週五日制により減少する授業時数を確保するため、火曜日のみ七時間目を設け、週三十一単位時間とする。

②学校設定科目として「大学における学修」を設け、千葉大学で学んだ成果を本校の単位として認定する。

③教科「情報」は、三年次に「情報C」を二単位履修とする。  
今後、「総合的な学習の時間」の具体的な内容や、授業時数確保の方策としての二期制の適否など、本校の実情を踏まえた上で検討を進めていくことになっております。また、校内LANを整備し、各教室か

らインターネットへの接続を可能とする計画も立ております。創立六十年の歴史と伝統ある本校は今、大きな変革の時を迎え、職員一同、心を合わせて鋭意努力しております。保護者の皆様におかれましても、御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。  
(PTA会報 104号)

### 創立六十周年記念実行委員会報告

#### 一、組織

母校の創立六十周年を祝う記念事業について学校、同窓会、PTA、振興会の四者から構成される記念事業実行委員会が結成された。

委員の構成は実行委員長に井戸川同窓会会長、副実行委員長に松本PTA会長、同井下田振興会会長、同曾川校長を、その下に同窓会、PTAから常任委員・監事を出し事務局長に高野教頭（全日制）湯目教頭（通信制）を置き、それぞれ①六十周年記念誌編纂委員会、②芸術鑑賞委員会、③記念式典等委員会、④芸術鑑賞設備委員会の四つの専門委員会と庶務会計を小安事務主幹にお願いした。

#### 二、事業内容

（平成十二年十二月二日第二回実行委員会にて関係者出席のもと、下記概要が決定された。事業総費用一、六〇〇万円見当。これを同窓会、PTA、振興会で負担する。）

- ① 六十周年記念誌 平成十四年三月刊行予定
- ② 記念事業
  - 全日制で通常実施の「芸術鑑賞会」の拡大実施
  - 平成十三年十二月十三日（金管・バレエ・打楽器演奏）
  - ③ 記念式典・祝賀会
    - 小規模に本校で実施、祝賀会も同様小規模に実施。
    - 平成十三年十一月十日 十時～十五時
  - ④ 芸術鑑賞設備
    - 校舎耐震改修工事に伴う廊下側採光難解消のため壁画をギャラリー風に装飾する。費用概算一、〇〇〇万円
    - 完成予定、平成十四年十二月（耐震改修工事と関連）



# 通信制課程 10年のあゆみ (平成四年～平成十三年)

- 平成4年4月 入学式 (新入生250名 転編入生267名)  
 5月 一組宿泊研修 (尾瀬方面 87名参加)  
 7月 夏期合宿 (61名参加)  
 7月 県定通陸上大会で陸上部女子団体優勝  
 11月 修学旅行 (京都・奈良2泊3日 25名)  
 5年3月 卒業式 (154名)  
 4月 入学式 (新入生167名 転編入生228名)  
 5月 組宿泊研修 (東金青年の家 49名参加)  
 7月 夏期合宿 (猪苗代方面 68名参加)  
 7月 県定通体育大会で陸上部、卓球部女子団体優勝  
 11月 修学旅行 (金沢方面2泊3日 18名)  
 6年3月 卒業式 (150名)  
 4月 入学式 (新入生244名 転編入生256名)  
 4月 学校間連携事業開始 (千葉商業高校)  
 7月 夏期合宿 (白樺湖方面 77名参加)  
 11月 修学旅行 (京都・神戸方面2泊3日 54名)  
 7年3月 卒業式 (191名)  
 4月 入学式 (新入生195名 転編入生265名)  
 7月 夏期合宿 (富士方面 42名参加)  
 11月 修学旅行 (京都・奈良2泊3日 20名)  
 8年3月 卒業式 (158名)  
 4月 入学式 (新入生180名 転編入生324名)  
 6月 県定通体育大会陸上部、バレーボール部男子総合優勝  
 7月 夏期合宿 (菅平方面 26名参加)

- 平成8年11月 修学旅行 (参加希望者少なく中止)  
 9年3月 卒業式 (194名)  
 4月 入学式 (新入生241名 転編入生332名)  
 4月 通定併修制度、通信協力校制度開始  
 6月 県定通陸上大会でバレーボール部男子・女子優勝  
 7月 夏期合宿 (福島五色沼方面 43名参加)  
 11月 修学旅行 (沖縄方面2泊3日 33名)  
 10年3月 通信棟新校舎竣工 (562㎡)  
 3月 卒業式 (206名)  
 4月 入学式 (新入生215名 転編入生387名)  
 7月 夏期合宿 (中山道・馬込方面 45名参加)  
 11月 修学旅行 (京都・奈良2泊3日 14名)  
 11年3月 卒業式 (195名)  
 4月 入学式 (新入生206名 転編入生361名)  
 6月 定通体育大会 (サッカー、女子ソフトテニス、女子バレーボール各部優勝)  
 7月 夏期合宿 (富士五湖方面 45名参加)  
 11月 修学旅行 (京都・奈良2泊3日 18名)  
 12年3月 卒業式 (242名)  
 4月 入学式 (新入生220名 転編入生367名)  
 7月 夏期合宿 (裏磐梯高原 24名参加)  
 11月 修学旅行 (安曇野・木曾方面 24名)  
 13年3月 卒業式 (247名)  
 4月 入学式 (新入生290名 転編入生253名)

第三章  
回  
想  
・  
記  
録

第一節 回想

一 歴代校長

百周年に期待する

第十四代校長 高橋 浩司……………49

思い出す三年間

第十五代校長 高田 侑兒……………50

東高回想

第十六代校長 荒川 昇……………51

自由闊達な生徒に接して

第十七代校長 長妻 孝治……………52

二 全日制課程旧職員

支えられてこそできた仕事

国語科 坂井 幸夫……………53

姉妹校交流を振り返って

英語科 池田 和夫……………55

三 通信制課程旧職員

通教夜話

初代主事 秋山 利雄……………56

究極のサービス業と通信

英語科 秋山 久子……………57

生徒と「格闘」していた頃

数学科 下村 國生……………59

四 物故者回想旧職員

故 松村謙先生の想い出

地歴科 越川 芳雄……………60

第二節 全日制課程の記録

一 教育課程……………62

二 進路……………81

三 国際交流……………90

四 特別教育活動……………96

五 分掌……………125

六 教科……………137

七 PTA活動……………145

第三節 通信制課程の記録

一 教育課程……………151

二 在籍生徒数……………153

三 相互交流事業、外部との連携……………157

四 学習会について……………158

五 夏季合宿研修……………159

六 体育祭……………159

七 本校通信制の今後……………160

八 特別活動……………161

九 振興会活動の記録、役員表一覧……………174

第四節 同窓会の記録

一 近年の同窓会活動……………180

二 同窓会報……………181

「シロンの花」が発行されるまで……………183

三 同窓会役員一覧……………183

## 第一節 回想

### 一 歴代校長

#### 百周年に期待する

第十四代校長 高橋 浩 司



創立六十周年をお祝い申し上げます。創立五十周年の記念式典が、つい、きのうのように思い出されます。

教職最後の学校が千葉東高等学校でした。二年間の短い間ではありましたが、ちょうど、創立五十周年に当たっていたので、その記念事業を行うという幸運に恵まれました。

五十周年の記念式典は殆んど生徒の手によって行われましたが、まことに見事な、司会・進行ぶり、記念歌の合唱も心に響くすばらしいものでした。ご臨席の来賓の方々から大変なおほめの言葉をいただいたものでした。

五十周年記念事業の大きな柱は、ノーベル賞の利根川進博士の講演と、五十年後の百周年に返す、在校生の作文をタイムカプセルにすることでした。五十周年という記念すべき年に在校した生徒諸君が五十年後の百周年には元気な姿を見せて欲しい、そして、五十年前に書いた作文を、できれば担任の先生方から受取って、母校の百周年を祝って欲しいという願いをこめた事業であったのです。また、百周年の時には、その記念講演を卒業生によって行って貰いたい、しかも、それはノーベル賞の受

賞者であって欲しいという願いで、利根川博士に講演をお願いしたのでした。千葉東高等学校の卒業生からノーベル賞受賞者を、というのが、百周年に向けた夢でした。市立高女から、千葉三高、と発展して来た歴史を顧みると、次なる飛躍は、ノーベル賞受賞者を育てることが、千葉東高等学校の進むべき道であり方向であろうと考えての利根川博士の記念講演だったので。

創立六十周年を迎えた千葉東高等学校が百周年に向けて、知的好奇心に溢れる生徒、失敗を恐れない冒険心に富む生徒が育って行くことを、期待するものです。

一九三三年、三〇〇年に亘って探求されて来たフェルマーの最終定理「 $n$ が2より大きい整数に対して  $x^n + y^n = z^n$ 」を整数  $x, y, z$  は存在しない」が、アンドリュー・ワイルズによって証明されたのです。アンドリュー・ワイルズは、子供時代に町の図書館で、このパズルに出会って胸の高なりを感じ、三十年後の一九三三年に見事に解決したのでした。ノーベル賞以上のこの証明の発見が、子供時代の夢から出発したことに私は感動しました。生徒達の夢に力を貸し、それを伸ばしてやる学校、それが千葉東高等学校であることを期待して、六十周年記念のお祝いとします。





## 思い出す三年間

第十五代校長 高田 侑 児



このたび創立六十周年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。

私は平成四年から三年間在職しました。その頃の東高は、全日制については、県内公立高校で有名進学校の一つとして評価され、通信制は定時制とは逆に生徒数が増加しつつあり、生涯学習、高校中退者等に対応する教育機関としての役割が大きい状況でした。このことは歴代校長をはじめ、教職員の方々の御尽力の賜物と考えておりました。そこで私は赴任に際して、出身校でもあり期待と共に重い責任を感じました。

当時、東高は全日制、通信制の生徒数はそれぞれ約千二百名で、高校一校分の敷地に、言わば異質の二つの高校が共存する状態でした。共に県高校教育の重要な位置にあることからして、私は、両課程の生徒に満足できる教育が行えるよう条件整備と円滑な学校運営に心を配るよう努めました。

平成四年度では、懸案の五十周年記念行事の一つ、「未来メッセージ50」のタイムカプセルの埋設が印象に残ることでした。前校長高橋浩司先生の御意向も伺い、先生方とも協議する中で、結果的には、平成四年度全日、通信双方の入学生のメッセージを追加封入すること、四年度卒業生記念品のミニュメントを埋設場所に併設することになりました。

このことについては三学年主任で美術担当の平松先生の発想、尽力に負うところ大でした。五年一月、遠藤洪平六先生の「時空の標」のミニュメントの完成を待って、セミナーハウス脇に併設し、五十周年記念行事の全てが終了しました。ミニュメントは新しい東高のシンボルとして五

十年後の生徒への贈物の目印として、日に映えることになりました。

平成五年度は、全日制の管理・特別教室棟の大規模改修、パソコン教室等の新設、通信制では狭隘な施設の拡充や家庭科男女必修等に対応するため、三階建校舎の増築の設計と県への要望など、施設面での仕事に力を注いだ年でもありました。

特に大規模改修では、委員会を組織し、高浦事務長、管理部長金澤先生を中心に工事に当たった物の品移動、期間中の授業、執務場所の配置等を綿密に作りました。そのため移動等は整然と出来ましたが、財産の多い図書や理科の先生方には御苦労をかけました。また生徒の協力もあり、汗だくになって移動作業等に携ってくれた生徒の姿は今でも感謝とともに印象に残っております。そして十二月に無事工事は終了しました。

さて、東高全日制では大学、短大等への進学指導の充実は重要な柱で、進路指導部長渡辺先生を中心にした指導資料の作成や学年集会などを通して、きめ細かな指導が定着しておりました。しかし、この頃、大学等への現役生徒の合格率が下降気味となり、更に生徒減少期を控えての私学の動向等からして、東高の教育体制の見直しが必要と、先生方ともども考えました。平成五年度始めに校内に「将来構想検討委員会」を設置し、六年度からの教育課程改訂との調整を図りつつ、幅広い視点から進路指導の在り方を協議することになりました。二学期には委員の先生の近県の有名進学校の視察の実施を行うなど、研究協議を重ねました。その結果七年二月の職員会議に、学習習慣の早期定着、人間教育の充実、実力テスト活用の見直しや補習授業復活などを含めた総合的学力向上の方策が提案され、翌年度からの実施が確認されたのです。読書指導、ボランティア活動の拡充等も継続研究協議として示されました。言わば東高発展の種播き作業とも言える仕事で、忘れられない思い出です。

一方、通信制では多様な生徒の実態、挫折しやすい学習環境等に配慮し、「卒業」を目標にしての指導を先生方と共に行った三か年でした。

平素のレポート学習、スクーリングの他に、合宿行事、体験発表会、運動会など多くの行事を企画して、そこの生徒との対話や人間的触れ合いを大切に、種々の生活体験等から生まれる生徒の自信や社会性を育てようとする教育実践は、通信教育に初めて接した私には貴重な体験でした。体験発表会での生徒の生活体験談、感動的な卒業式、放課後に校外学習会で夜遅くまで指導に当たられていた何人かの先生の姿などは、教育の原点と言えるものを改めて実感させられました。

明るい生徒の姿、自由な校風、活発な部活動、特に全国レベルで活躍した音楽部、伝統あるラグビー部の活動やJRCの奉仕活動、更に生徒が情熱を燃す東雲祭、米国高校との国際交流などの学校行事、これらのことは、東高全日制についての忘れ難い思い出です。

在職中は、外部教育関係団体の仕事も多く、落着かぬ校務運営でしたが、当時の教職員の皆さんやPTA、同窓会関係の方々の御協力には深く感謝しております。県の高校再編の動きもありますが、東高全日制、通信制教育が、良き伝統を踏まえ更なる発展をされますよう祈念します。

## 東高回想

第十六代校長 荒川 昇



千葉東高校が、創立六十周年を迎えると同じました。本当におめでとうございます。

私が東高に勤務したのは、平成七年度、八年度の二年間。東高六十年の歴史からみればとるに足らない時間の経過に過ぎませんが、私自身にとっては大変充実した二年だったと、今思い返しているところです。

太平洋戦争開戦の年、昭年十六年に開校した本校は、千葉市立高等女子学校、県立千葉第三高等学校、そして現在の千葉東高等学校と三度の校名変更を行っております。現在の東高が、県下有数の進学校としてその評価を高めていることは申すまでもないことですが、同時に、二十九年から設置されている通信制課程、四十一年から六十一年まで設置されていた衛生看護科の存在も六十年の歴史の中で忘れてはならないことではないかと思えます。私が赴任した時に感じた、ガリガリの普通科進学校というよりは、どこかゆったりとした昔風の高等学校という印象は、こうした本校の生い立ちが形づくってきたものかも知れません。

東高での勤務は、充実していた反面、多忙を極めるものでした。よく東高は生徒も優秀だから楽でしょうといわれたものですが、その都度、いやけっこう忙しくて大変ですと答えていました。朝、職員朝会の前に普通科・通信制の教頭さん、事務長さんとの打ち合わせを済ませ、五分間の普通科職員朝会、その後二階から一階に下りて通信制の朝会へと息つく間もない日課が続きます。初めにこの日程を聞いた時には、大丈夫なのかなと思っただけですが、案ずることはありませんでした。会議の運営が極めて機能的で、連絡事項はすべて事前に板書してあり確認するだけ、殆んどの場合五分以内で朝会を終えることができました。こうした傾向は職員会議等でも同様であり、会議に提出される議題はすでに各部・学年等で十分練り上げられているため審議は極めてスムーズで、職員会議が三十分を超えることはめったにありませんでした。

高体連の会長や全国通信制研究会の常務理事といった役職を兼ねていた私にとって、こうした学校運営を教頭さんや先生方に信頼してお任せできるということは大変にありがたいことでした。

もう一つ、東高で印象に残っていることは、部活動や学校行事等に積極的に参加する生徒が大変多かったということです。文化系、運動系と併せると八〇%以上の生徒が部活動に参加していたのではないでしょう

か。放課後、それまで静かだった校内が一転して部活動の活気に満ちていく様子は、東高には文武両道という言葉がまだ生きているなということとを改めて感じさせる時間でした。

夏休み明けで準備の時間も十分に取れない中で開かれる文化祭も、短時間でよくここまで仕上げるものだと感心させられました。クラス単位で発表される演劇の出来栄は素晴らしいものでしたし、何よりも生徒達が、東高の学校生活を心から楽しんでる状況が伺えて、教師冥利に尽きる思いがしたものです。

教育改革が叫ばれています。戦後五十六年という歳月のひずみが、我々の社会、そして家庭にさまざまな影響を及ぼし、今、学校でその矢面に立っているということなのでしょうが、授業時数や学習内容を大幅に削減して、教育改革の目標である「生きる力」をはぐくむことは可能なのか、私立高校との競合ということだけを考えてみても、これからの公立高校の行く手は多難といえます。

時流に流されず、教育の原点を見据えて、先生方も生徒諸君も東高の新しい歴史を刻んでほしい。かつて本校に籍を置いた者の一人として東高の発展を心から願っています。

## 自由闊達な生徒に接して

第十七代校長 長妻孝治



平成九年四月、身の引き締まる思いで長い伝統を持つ千葉東高に着任した。今思い返せば、生徒は、自由な雰囲気の中で明るく伸びやかに学校生活を楽しんでいるように感じたのである。

全日制の課程における進路指導においては、進学を主に学力向上を図るべく先生方が熱心に取り組んでおり、生徒は授業を大切に組み組んでいる学校であった。また、部活動においても、生徒は先生方の指導のものと熱心に活動しており、各種大会において好成績を上げていたのも強心に残る思い出である。このように、千葉東高生徒は、学力向上と部活動を両立できる生徒集団であるように思われる。

私は在任中の九月末、真っ黒に日焼けしたテニス部の三年生の一人に、受験希望校を聞いた。その生徒は、即座に「東京外国語大学です。」と答えてくれた。私は、毎日遅くまで練習に励んでいるこの生徒の希望が叶えられるか心配であった。やがて受験期に入り、結果が進路指導部から報告された。その中に、先の生徒は、希望どおり合格していたのである。そのほか陸上部、文芸部の部活動に熱心に取り組んでいた生徒など希望校を聞いた生徒の結果は、目指す目標達成ということであり、文武両立している様をまざまざと見ることができ感激したものである。

このように、文武両立を可能にするには、先生方の生徒に希望を叶えてやろうという使命感と一致協力する指導体制があったことによるものと、今更ながら感謝しているところである。

また、通信制の課程においては、私の在任中、校舎が新築完成し、授業展開の上では、全日制の課程との共用部分が減り幾分楽になったが、一三〇〇余名と言う生徒数は、全日制高校一校分に該当し、毎日生徒の登校がないとしても、生徒に窮屈な思いをさせたことは確かだった。

このような環境の中で、先生方は、昼夜をいとわず学習内容の定着を目指し多量の添削、出張学習、部活動の指導など熱心に取り組んでいる姿を見るに付け、頭の下がる思いがしたのも記憶の中に鮮明に残っている。折しも、本県将来展望を踏まえた公立高校の在り方及び当面する諸課題について協議する千葉県高等学校将来計画協議会が設置された。その中の検討課題の一つに、「定時制・通信制課程の充実の在り方」が上げ

られたのである。この協議会に千葉東高の現状から見て、通信制課程を  
一校として独立させてはどうかという意見を申し上げたが、その実現は  
多難である。是非実現されることを願っている。

また、在任中教育課程審議会の学習指導要領についての答申があり、  
この中で、今までにない改革が発表された。卒業に必要な総単位数の減  
少、新しい科目の設置、総合的な学習の時間の教育課程への位置付け等々  
である。

現行の学習指導要領では、受験加熱への反省を込めた「ゆとりある教  
育」を前提にして高校教育が実施されてきた。しかし、世評によれば、  
生徒の学力低下をきたしているという評価も成されている。いま、各高  
校においては、総単位数の減少、新しい科目、総合的な学習の時間等を  
生徒の学力向上に如何に結びつけるかという観点からの教育課程編成に  
努めていることと思う。

しかし、千葉東高生徒にあつては、文武両道、日頃のものに対する集  
中力によりどのような場面にも対応し、目指す人生目標を達成できるも  
のと信じている。

六十周年を期に千葉東高のますますの発展を祈っている。



## 二 全日制課程 旧職員

### 支えられてこそできた仕事



国語科 坂井幸夫

学校という組織の中で、一つの仕事を成し遂  
げるには、実に多くの人びとの力を借りなけれ  
ばできるものではない。

千葉東高校に勤務した十年間において、幾つ  
かの仕事をさせていただいたが、印象に残るものを一つ挙げるとするな  
らば、それは図書館のコンピューター導入に尽きる。

平成九年四月、校務分掌は図書部を希望した。実のところ、その一年  
前の平成八年、勤務年数も八年を数えており、最後に私のできる仕事を  
と考えて、密かに図書館のコンピューター化を計画していたのである。

分掌は希望どおり図書部になった。しかし、この新しい企画が動き始  
めるには、まず、司書の佐瀬先生にコンピューター導入を理解してもら  
い、協力してもらうことが必須条件であった。蔵書入力作業から生徒へ  
の細かいコンピューター指導まで、とても私ひとりではできるものでは  
なかったからである。不安（佐瀬先生はコンピューター対して抵抗感  
を持っていらっしやるのではないかという）を抱きながら企画をうち  
明けたところ、先生は導入に対してとても積極的であり、「賛成ですよ」  
という心強い言葉を聞き、この企画の実現の確信を得たのである。

問題は予算であった。まずはプログラムソフト（市販ソフトであるC  
ASA）、これについては、佐瀬先生の了承を得て図書部予算を当てる  
ことで対応ができたが、ハードのコンピューター本体については今年度

は手の打ちようがなかった。やむを得ず、古い機種だが自宅で使用していたNEC9801FAが駆り出された。

早速、CASAソフト(MS-DOS版)の契約と購入を済ませ、プログラムのインストールと同時に図書目録の入力に取りかかったのが、平成九年六月頃だったろうか。佐瀬先生がてきばきと書名や著者・発行所等を入力している姿を見て、その速さに驚いたことを今でも鮮明に覚えている。私も放課後などには、入力作業に掛かりきりになっていた。このように、実現化に向けて一段と加速化して行った。

四月当初、図書館の蔵書数はおよそ三万冊と聞いていた。私の計算では、蔵書すべてを入力完了するのに二年を考えていた。勿論、図書委員会の生徒の協力を得ての話である。図書委員会は各クラスより二名選出され、全員で五十四名となる。この図書委員会による蔵書整理が毎学期一回(テスト終了後の三日間)行われるのである。この機会に図書委員(一・二年生)による蔵書入力作業を実施した。佐瀬先生にお願ひして、図書目録カードを二〇〇枚ごとに分け、図書委員一人ひとりに割り当てたのである。

問題は生徒による入力作業であった。コンピュータ四十五台を使つての一斉入力が始まった。私はワープロも十分に使っていない生徒に、入力マニュアルを配布し、事前指導を一分程度した位では、入力作業は遅々として進まないだろうと懸念していた。ところが、なんと早い生徒では二日間(午後半日)で二〇〇冊の目録カードの入力が完了してしまつたのである。そして、今回の一斉入力作業で完了したカードは七二〇〇枚にも上つたのである。しかも、この図書委員による入力作業は、この後も数回続くのである。

私はこの作業を終了して初めて、生徒の理解力の速さと集中力の高さを感じるとともに、DATA入力という地道な作業をしっかり引き受けて、築き上げていった図書委員の努力を無駄にはできないと痛感した。

彼らの協力なくしては到底完成するものではなかったのである。

ところで、当時、長妻校長先生は図書館に来られることが屢々あった。私はこの時とばかり、現状報告とコンピュータやプリンター等の購入予算を強くお願いしたところ、平成十年三月希望を認めていただき購入が実現された。さらに、同年五月には、バーコード読み取り機も導入され、生徒一人ひとりにバーコード付きカードを配ることで、図書の出し作業は飛躍的に向上した。また、生徒の学期ごとの貸し出し状況や利用図書状況等のデータも簡単に一覧表印刷となり、広く図書情報の提供も可能となった。さらに、未返却図書生徒への通知書も打ち出されるところにも、蔵書検索機能も充実し、著者や件名による検索処理の利便性も一段と高まったのである。

今、振り返ってみると、このコンピュータ導入計画が実現にまで辿り着くことができたのは、一言で言えば「人に恵まれていた」からと言えるかも知れない。いろいろな人に助けられたことと変革期の図書システムに関わることができたのは、私が千葉東高校に勤務できたということに尽きるように思う。私にとって、千葉東高校の十年間は充実した毎日であったと同時に、多くの人に支えられてきた十年間であったと噛みしめている。

最後に、この紙面をお借りし、多くの方々に厚く御礼を申し上げます。「ありがとうございました」





## 姉妹校交流を振り返って

英語科 池田和夫



名門校である千葉東高に赴任したのが平成元年度であったが、三年目が過ぎたとき国際交流の仕事の子安雅博先生から引き継ぐことになった。以後八年間続けさせていただいたが、とりわけ姉妹校交流の思い出は尽きない。

すでに米国ニューヨーク州のイロンデクォイト高校との交流が五年間続いており、平成五年度には生徒十二名を引率して同校を訪問。ロチェスターの三月は雪も多く、時々ブリザードに見舞われる気候であったが、担当のジョージ・ハマスレイ先生は熱心で、毎年多くのプログラムを用意してくれていた。ホームステイや学校生活にも慣れると、出発前に用意していった日本文化を生徒といっしょに授業で発表。授業は討論中心、コミュニケーション重視で、質問も多く、こちらも改めて日本の社会や文化についてもっと学ぶ必要性を感じた。一ヶ月近くの滞在で強い絆で結ばれたホストファミリーとは空港で涙の別れとなり、生徒達を飛行機に誘導するのも大変であった。派遣希望者が三倍の年もあり、後に引率教員二名、生徒十六名を派遣することになったが、教員にもよい研修になり、授業に役立ったことは言うまでもない。

留学生の受け入れは一学期の期末考査にぶつかるともあったが、多くの家族の方々に引き受けていただき強い限りだった。全校集会を開き、歓迎会や送別会は生徒が準備し、音楽部、吹奏楽部にも協力していただいた。留学生は日本語がよく分からないまま授業に出ることもあつ

たが、工芸、書道、調理、華道などの特別授業も用意していただいた。サマーキャンプへの参加もできた。受け入れる側にとっても実りの多い交流ができたと思う。

米国からの受け入れのない年もあり、平成八年度に日本に関心の高いオーストラリアとの交流を開始した。夏休みに菅野政敏先生と引率。メルボルの冬は雪も降らず、ビューバンク校では新しい発見の毎日で感動に満ちた交流ができた。この年、国際教育交換協議会の「日米高等学校交流プログラム」は「海外高等学校姉妹校交流プログラム」に名称が変わったが、この派遣の持つ意味は大きかったと思う。昭和四十八年度の派遣以来、二十五年間姉妹校交流が続いた千葉東高は、平成九年に同協議会より「永年継続表彰」を受けた。全国の代表であった。十年にはシドニー市郊外のヴィンセントリア高校に派遣、十一年にはビューバンク校から教員・生徒五名を受け入れることができた。

やがて十一年間続いた米国イロンデクォイト高校との交流も終わり、ニューヨーク市中心部にあるカトリックのメアリーマウント校、デトロイト市郊外にある日本語を教えるクラークストン高校へと交流校が移った。連絡には国際電話、ファックスの他、電子メールが役立つようになった。また生徒間でもITを活用した相互交流が始まるようになった。

県の国際交流事業の指定校にもなり、国際化推進セミナーが始まった平成十一年度には千葉Aブロックの事務局もさせていただいた。感受性の豊かな高校生の時期に、異文化体験や文化交流を通して国際理解を深めることは、将来、国際社会の中で生きていく上で自信を与えるであろう。卒業後、海外の大学へ留学した者もいた。米国から日本の大学に留学し、千葉東高をなつかしがって訪ねてくれた者もいた。環境、人権など国際問題も多い時代に、千葉東高の国際交流がさらに発展することを祈ってやまない。

## 通教夜話

初代主事 秋山利雄

「通信教育でお世話になっております、K子の父親でございます。突然に、ぶっつけでお邪魔して申し訳ございませんが、何とか先生のお力添えをお願い致したく参りました。失礼かと存じましたが、お許し下さい。」と、来訪の挨拶があった。

その日は、久しぶりに本校スクーリングもなく、のんびりさせて貰うかと思っていた日曜日の正午前の来客で些か周章てたが、初対面の挨拶としては何か思いつめた様子になった。

× × ×

「通信教育」と云う耳馳れない教育制度は、米国教育使節団報告書などによる中等教育の開放と云う思想から、教育の民主化として、「いつでも」「どこでも」「好きなものを」と、明るいイメージのキャッチコピーで、昭和二十三年五月に誕生した。しかし、準備不足と云うのか、開講科目は「高等国語一上」の二科目だけで、学習の手引きとなる「学習指導書」はなく、学校も生徒もどうしてよいのかわからず、「開店休業」が続いた。待望の学習書が出来たのは、その年の十二月であった。またこの年の六月、従来文部省の社会教育局企画課で所管されていた高等学校通信教育は、初等中等教育局中等教育課に移管されることになり、関係者の努力による逐年実施科目が増加されたが、学習書が検定制度の上に発行部数も少ないので、当時は引受ける出版社も乗り気でなかった。昭和二十七年に入り、勤労青少年教育振興法の制定をめざして運動を

展開した。その成果として、二十八年八月に定時制と併せて「高等学校定時制及び通信教育振興法」が成立し、「働きながら学ぶ。」と、教育が勤労とセットされることになった。

昭和三十五年四月一日、「高等学校通信教育の実施科目の拡充ならびに同通信教育による卒業について」と云う、文部事務次官の通達により、通信教育のみによる高等学校の卒業が認められることになった。これを承けて各県の実施校では学習書の発刊が待ちきれなくて、補助教材と称して独自のガリ版刷りの学習書を作製し、通信教育第一号卒業生をめざして、激しい先陣争いが展開されることになった。

× × ×

「K子は素直な子でして、野良仕事もよく手伝ってくれますし、親として何ひとつ不服を云う点はないんですが、最近、通信教育の数学が面白いらしく、明日の野良もあるのですが、夜は早くねるように申しております。その夜は珍らしく早く床に入ったのですが、夜中に納屋の方に灯が見え不思議に思ってしまったところ、なんと、娘がロウソクをつけて本を読んでいるではありませんか。近頃の新聞によりますと、通信教育とやらで千葉の高校が卒業出来るそうですね。私の処は分家でございます。本家の総領は中学を出ただけで農業をやっております。分家の分際として誠に顔向け出来ないこととなります。田舎とはそう云う処なんです。それにK子は一人娘でございますので、千葉の高校卒業となりますと、養子の来手がなくなってしまうのです。

先生。何とかして止めるように言い聞かせてもらえないものでしょうか、……………。」家内が入れ替えたお茶を味わうように飲み終ると、憑きものが落ちたような和やかな顔となり、玄関で重ねて「お願い申し上げます。」と挨拶して帰って行った。

× × ×

駅を出ると、車が迎えに来ていた。会場に着くと、なんと四十数人の

男女が拍手で迎えてくれた。こんなに多くの人が通信教育の卒業生かと聞くと、「吾々の集りは、卒業とか中退とかにかゝりなく、スクーリングに往復する列車の中が楽しかったもんで、毎年こうやって集ってるんです。地区同窓会と呼んでるんです。」

K子が主婦として貫録十分な姿を見せている。相変らず屈託ない笑顔で仲間と話している。「二人の男の子は大学生、私は村の生活改善指導員で駆廻っています。」と、リングが転がるように笑った。

## 究極のサービスマンと通信

英語科 秋山 久子



通信制を知ったのは、昭和三十八年東高で教育実習をした時である。全日制と通信制の先生方がソフトボールの試合をした。畠山教頭先生から「やせっぽちだけど頑張れよ」と肩をたたかれたことと英語の亀先生の授業風景と渡り板の向こうに通信制があるのだということだけが印象に残った。

市立船橋、若松、横橋の三高を経て憧れの通信制に転動できたのは、教員生活二十五年目のこと。そんなに喋らなくてもいいという職業に転職を考えて三十代に司書の資格を取ったのだが千葉県では司書教諭の免許を発売していなかった。本職の英語教育をはじめ翻訳家養成講座などいろいろな通信講座で勉強して行くうちに赤ペンでレポート添削や講評を書く仕事をしてみたくなり、通信制への転勤希望を出し続けて五年目、佐久間先生の紹介で黒米先生（昨春御逝去）の後任となることができた。当時は寝たきりの舅を在宅介護していたので時間休暇の取りやすい職

場を望んでいた。しかも誠意と情熱をモットーにした自分に合った通信制で、「定年までいたい」と宣言したのだが、始業式、入学式、スクーリング十六日、試験六日、体育祭、卒業式、入学選考等々、年間二十日以上の日曜出勤があるのに驚いて、続けられるか心配だった。

全日制にいた間は、ひたすら週休二日制を願いつつ日曜日を楽しみに生きていたのに、通信制では九月など「敬労の日」しか休めず、しかもスクーリングは絶対休めない「サーカス稼業」と呼びたい程で、身体的にも精神的にも緊張感でくたくたになった。

授業とホームルームで六時間立ち通し、昼食に十分位腰掛けられただけといった日もある。しかも全日制で一週間かけてやる一課分を五十分でやるのだから、周到な準備をした上、教材資料を入れた大きなケースを肩にかけてテープレコーダーを持って教室を渡り歩き喋りまくる。言い残すと次が二週間後になってしまうのだから、ハウ・トゥ・ティーチに心を砕く。普段がレポート添削だけという自由な時間がある反面、日曜との落差が余りにも大きい。何事もなく無事にと、毎回ヒヤヒヤして必死な思いのスクーリングだから年配の生徒の苦勞が痛いほど分かる。家庭や仕事の都合をつけて登校するのは並大抵ではない。貴重な授業を聞き漏らすまいとテープにとる主婦生徒、お喋りする十代の生徒を注意してくれる中年生徒、卒業を目指して学ぶ態度は皆真摯で謙虚である。次第に大人の生徒が少なくなり、全日制からの転入・編入の生徒が増えてきていたが、教師が全力投球すれば生徒はしっかり応えてくれるから報われる思いがした。通信での一年目が終わる頃（一九九〇年）、朝日新聞の投書欄「声」に、「通信制高校生と学び合う楽しみ」という見出しで、四十八歳教員として載った。「・・・私は今、年齢も仕事も異なる通信制高校の大勢の人に接し、さまざまな感激と共に学び合っている。十代から五十代の生徒が学ぶ通信制高校は、定時制より年配者が多い。カルチャー講座で学ぶのとは違い、単位を修得するという目的がある。スクーリング（面

接授業)や、レポートの提出、また試験を受け八十単位を得なければ卒業できない。家庭での自学自習が主であるから主婦や勤め人には学習時間を作るのが大変であろう。まず、その学習意欲に感服している。年間十六回しかない授業だから、貴重な一時間である。そのため十分な学習で学び得ることは、生徒のレポートからも気づかされる。気づいて学んで、学んで気づくという謙虚な姿勢で、いろいろな人生経験を持つ人たちと学び続けたい。』

通信生に自信と誇りを持ってもらいたいと思い、翌年は「ひととき」欄にも投書したところ、「五十女の修学旅行」という見出しで載った。学校は安心と自信のもてる所にと、自称独善的中年女教師は、倉部先生から受け売りの「教員は究極のサービス業」と称し、骨身を惜しまず尽くし通信のPRに努め出した。

「生徒の熱意に応援を」という見出しで学習会の記事も投書した。

『通信制高校の生徒が、それぞれの地区の公民館などで週に一、二回、夜自主的に学習会を開いている。教員も時折、自主的に出張指導する。生徒が待っていると思うと万難を排して行かねばならない。少人数ながら楽しそうに集まり、熱心に勉強し、質問してきたりすると、来て良かったなと思う。「職員室で食べてください」と茶菓子をどっさりもらって帰ることも。生徒の熱意に教員側がもっと情熱を持って応えたいものだが、いつも数人の決まった人だけが寂しい』と。

平成元年着任時は家庭科の小出先生が職員室でおいしい味噌汁を作った。翌年から引き継ぎ、家庭でも職場でも味噌汁を作り、「息抜きと仕事で同じことをする幸せ人間」の私の気分転換、ストレス解消になった。独身の男性職員が材料を買ってきてくれて十種類の具沢山の野菜汁だ。味噌は市原刊務所へ講師でいらっしやった生駒先生が刑務所手作りのをいただいてきて下さった。クラス、学年、全校生にも味噌汁のサービスは広がり、生徒会の校内展(文化祭)では豚汁で大盛況になった。

通信制の図書室を整備し、蔵書目録を作り終え後任に引き継ぎ、三年目から「東高通信」の編集、生徒会の顧問、「雑草」の編集などで多忙ながら充実感を味わった。「生活体験発表会」「予餞会」などでも生徒会の人達と実生き生きと作業ができて、「何でも一生懸命やれば楽しくなる」と実感でした。

「ジス イズ ザ ラースト」(これが最後)と心に決め、教員生活三十一年目を、恒吉先生の学年の素晴らしい四組生と充実した最後の年を過ごすことが出来た。陸上で全国大会に出た須藤さんの提唱で実施した卒業記念マーチは最も印象的だ。阪神大震災の義援金を募りマラソン距離を皆でリレーした。一月末最終試験を終えた午後、お汁粉と味噌汁を作って激励した。そして一九九五年(平成七年)三月九日の「ひととき」欄に、「通信制を巣立つ顔・顔」と、私の最後のPRが載った。

『私は通信制高校に勤めて六年目になる。卒業式を前に思い返すと、今年もさまざまな生徒達の顔が浮かんでくる。会社員のHさん(四十代)は、入学以来十九年目の卒業となる。「かろうじて高一の娘より先に卒業できます」と言う。十五歳で入学してきたIさん(女性)は、九年かかった。「今年こそ」と心死だった。レポートの提出期限の朝には、会社への出勤前にタクシーで提出に来た。一月には、高熱を押して試験を受けに来た。「赤点をとったら、熱心に教えて下さる先生に申し訳ない」と、四十歳代の主婦達は言っていた。小学校でも中学校でも登校拒否をしてきた女性は、入学してきたのが二十歳の時。「はたちになったら高校へ行こうと決めていました」と彼女は言っていた。今年の卒業生の最高齢者は、六十四歳の主婦である。足が不自由だが、車いすで、関西への修学旅行にも参加した。若い男子生徒たちが車いすを押した。夜間中学卒の彼女は「学びたい。高卒の資格をとりたい」との一心で四年間、頑張ってきた。会社員だった五十二歳の四年生は、昨年十一月に急性心不全で突然亡くなった。「息子に付き合っ」と、一年だけのつもりで

入学したが、学が楽しさを知って、順調に単位を取り続けていた。この春には彼も卒業するはずだった。たった一年間の在籍でも、「ここで学べて本当に良かった」と言ってくれる生徒は多い。今年も十二日、百九十一人の卒業式が行われる。』

憧れてなった教職を通信制で卒業できたのは本当に良かったと思う。ただ、「先生にはリストラがなくていいですね」と、中年会社員の生徒に言わしめるような同僚教員がいたことだけが心残りである。

## 生徒と“格闘”していた頃

数学科 下村 國生



一見物騒な表題であるが、かつて数学の教師として通信制の生徒の補習指導に悪戦苦闘していたことを意味している。

私が千葉東高校通信制に在職していたのは、平成元年四月から平成十一年三月までの十年間である。従って通信制の事について書く材料は十年分あることになる。紙数に限りがあるので、補習指導の事を中心に書いてみたい。

通信制に学ぶ生徒は年齢や生活環境が様々であるばかりか、基礎学力や学習意欲の個人差はそれらに増して大きい。このことはレポートを添削しているだけではよくわからなかったが、試験や再試験の答案を見る度に痛感した。自分でレポートを作成できない、試験になかなか合格できない、そういう生徒が少なくないのだ。こういう生徒達を何とかしようと考えた。その一方でレポートが提出できないばかりか、スクーリングさえ登校しない(できない)人も相当数いる。そういう生徒一人一人

にレポート作成やら試験の合格の手伝いをする。あるいは親身になってスクーリング時の登校を促す。(そうすることがマイナスになる生徒だっているだろうし、逆に毎日のように登校させないと十分に指導の効果があがらない生徒だっているだろう。)しかし現実問題として、これらの事を実行に移すことは不可能に近いといっよい。

レポートを添削し、スクーリングでは普通に授業をこなしていくだけでよいのだろうか。赴任してからの一、二か月は心の中で自問自答していた。そして辿りついた結論は『一生懸命がんばっている生徒にはできるだけ力になろう』という事だった。

定期試験は年間三回行われ、その結果は試験終了後の最初のスクーリング時に生徒に知らせることになっていた。そこで不合格の生徒には、試験結果と一緒に再試験、補習の案内文を添付しておくことにした。

その結果で単位修得か否かが決まることが多い第三回定試直後の補習や再試験の時が、生徒は最も真剣に取り組んでいたように記憶している。しかし私の脳裏に未だに鮮明に蘇ってくるのは、七、八月に行った補習指導のことである。

この時期は送られてくるレポートも比較的少なく、時間的にも余裕が生まれるため、少人数の日でもたっぷり時間をかけて行った。補習の場所は職員室の真上の52番教室、51番教室を使用した。暑さの中、セミナーハウスの壁面に反響されたプラスチックの音には閉口した。現在のよう

に独立した通信棟が無かった時で、やむを得なかったと思うが、そういう環境の中で生徒と“格闘”したことが妙に懐しく思い出されるのである。このような補習は学習内容を理解させることを一応建前としているが、実際のところ、試験に合格させることが主な狙いであった。これとは別にレポート作成をサポートするのを主な目的にした補習を行った。三年目の時に、二組生の全クラスの数学I(二)を担当した。この学年は年輩の女性を中心に学習熱心な生徒が多く、補習を、と強く乞われた。平日の



仕事や家事で出校できない人もいて、日曜スクーリングの放課後に一時  
間半ほど時間を割いた。学習意欲が高く、比較的基礎学力が具わってい  
る生徒が多かったので、教えていて実際楽しかった。

当時のことをいろいろ思い出しながら書いてあるが、着任して五年間位  
は、自分でも感心するほどよく補習をしたなあとと思う。通信制で年を重ね  
るにつれて、生徒が自分でレポートを提出できるように心掛けたことがい  
くつかある。一つはレポートの問題作成で、誘導形式の空所補充問題を増  
やしたことであり、もう一つはレポートの評価にE判定（再提出の意味）を  
付けることは相変わらず多かったが、不合格のレポートにはより懇切丁寧な  
ヒントを与えるようにしたことだ。（というとは体裁はよいが、実際はコピー  
したものを鑑み用紙に糊で貼って添付することが多かったが。）年々通信制  
への転編人生が増えるのに伴い、教務や試験についての内規が改訂され、  
どの科目も試験の合格率は着実に上昇していったようである。また、履  
修認定制度も導入された。そんなことで補習の回数は徐々に減っていつ  
た。というより私の補習に対する熱が冷めたという方が本当かもしれない。  
最後に学習会について触れてみたい。学習会とは、県内の公民館を会  
場にして夜間行われる生徒による自主的な学習活動であって、都合のつ  
く教師が出向いて学習を援助している。私が担任した年は、千葉、船橋、  
市川、柏、茂原、鎌ヶ谷、八街の七つの学習会が活動しており、三年ほ  
どして成田学習会も誕生した。私は学習会にできるだけ足を運ぶように  
した。学習会と一口にいても、参加者数や会の雰囲気はさまざまであ  
る。二十人以上も参加する所もあれば、ほとんど毎回責任者一人だけと  
いう学習会もあった。（行ってみたら、誰もいなくてそのまま帰ってきた  
ことも何度かあった。）学習会では数学以外の教科について聞かれた  
り、学習面、学校や友人関係、家族のことなど一身上の諸々について話  
を聞かされることも多かった。これは年間の出校日数がわずかに二十数日  
という通信制の高校では、スクーリング時に教師が生徒の相談に乗るこ

とが殊の外難しいためなのかもしれない。今思い出してみると、生徒と  
話をして生徒から教えられたこともたくさんあったと思う。

現在実際に活動している学習会は、四か所ほどになってしまったよう  
である。一人で勉学に勤しむというのは正統な姿かもしれない。IT社  
会といわれ、近い将来通信制の学習手段として、パソコンやインターネッ  
トが益々普及していくと思われる。たとえそういう時代であっても、良  
き仲間との人間的な絆は、いつまでも失ってはならないものではないだ  
ろうか。こう考えると生徒数が増加する一方で、それに反比例するよう  
に学習会の活動が下火になっていくのは、やはり寂しい気がする。それ  
はともかく、千葉東高校通信制で学ぶ生徒の皆さんは、レポートを中心  
とする教科の学習に励むだけでなく、学校行事や部活動、学習会などに  
も積極的に参加して、良き仲間との絆を育んで欲しいと願っている。そ  
れがやがて人生で掛け替えのないものになると思うからである。

#### 四 物故者回想旧職員

### 故 松村謙先生の思い出

地歴科 越川 芳雄



松村先生は昭和二十九年五月二十八日、香川  
県三豊郡豊浜町にお生まれになり、昭和五十二  
年三月国学院大学文学部史学科を卒業され、千  
葉県の社会科教員となられました。初任校は市

立千葉高校、昭和五十六年には市立稲毛高校、六十三年には若葉看護高  
校に移られ、千葉東高校には平成五年四月から勤務されました。若葉看  
護高校では生活指導部長として活躍されたとうかがっております。千  
葉東高校在職中は主に進路指導部に所属し、コンピューターを駆使して

の進路資料作成に尽力されました。忙しい時期になると、夜遅くまで残業されているお姿を拝見したものでした。茶道部顧問としても面倒見が良く、部員たちに慕われておりました。教科指導に卓見をお持ちの先生は、学校外においては県から委託されて教科研究員を昭和六十年より二年間お務めになり、平成元年からは初任者研修、経験者研修の指導助言者としても良きアドバイザーとして活躍されました。本校でも地歴科の初任者であった吉村英和先生の指導教官を一年間務められ、その懇切丁寧な指導は端から見ても、二人の関係はあたかも「師弟関係」のようだと表現されるような心暖まるものがありました。永年の千葉県教育に尽くした功績により、海外研修も経験され、将来は千葉県の教育界を支える幹部職員として囑望されていました。

私と松村先生とは採用が同期で、五年経験者研修会で冷や汗をかきながら研究授業を行った私を、終了後先生の音頭で有志でさりげなく慰勞してくれる会を開いてくれたのが最初の御縁でした。千葉東高校で先生とは五年間、机を並べて勤務させていただきました。ともに日本史を担当することが多かったため何かと先生には教材等の問題で意見をたたかわせたものでした。先生に勧められて読んだ本は非常に有益で、今でも授業に活用させてもらっています。先生は自他共に認めるヘビースモーカーで、社会科研究室では喫煙できないルールを私が提案してしまつたため、先生には好きな煙草を十分楽しめない状況にしてしまつたのが、今でも心残りです。先生は酒の方はあまり飲まれませんでした。決して付き合



故 松村先生

いは悪くはなく、二次会では自慢のものを披露してくださいました。先生の第一の想い出といえは歌が非常にお上手だったことで、先生からうかがった話では、古水裕之先生（英語科）とよく市立稲毛高校の時は行きつけのスナックに飲みに行ったが、マ

マさんが先生の歌声に惚れ込んでいて、その店では先生がリクエストに応じて歌いさえすれば、先生のキープしたボトルには自動的にウィスキーが補充されていたそうです。本校でも歓送迎会などで先生が歌うと、酒席の会話が中断して皆聞き惚れるようなすばらしい声でした。

そのような先生が直腸ガンに冒されていると知らされた時は本当に驚きました。しかし早期発見で手術も無事に済み、予定よりも早く退院され、お元気な姿をまた教壇に見た時は我々はほっとしたものでした。思えば、この時責任感の人一倍強い先生はかなりご無理をなさったのかもかもしれません。夏場の暑い時期、かなり疲労している様子の先生の姿に一抹の不安を感じないではありませんでした。そして再発・入院。先生は今度は手術に頼らず、ご自身の体の自然治癒力に賭ける治療を選択され、三重県四日市の山下外科内科病院に入院されました。その先生を励ますべく、吉村先生が発案者となり総勢七人で平成十一年八月五日から七日にかけて四日市に先生をお見舞いしたのが、先生との最後の想い出となつてしまいました。その時の先生は痺せてはいらっしゃいましたが非常にお元気で、リハビリを兼ねて四日市周辺の歴史を研究しているんだと、収集した沢山の資料を見せてくださいました。その詳細な資料を拝見し、改めて先生の学究の徒としての執念を感じ、絶対に病から回復してみせるとの固いご決意も感じたものでした。この時先生は自ら車を運転され、数々の史跡を案内してくださいました。東海自然歩道の急な上りの山道では我々の先頭に立って軽々と山道を歩かれ、夜は久し振りに自慢のものを披露してくださいました。先生のお元気な姿に一同安心して帰葉し、翌年夏またお見舞いに伺おうかと相談していた矢先に、先生の訃報が届いたのです。私と先生とはほぼ同年代なので、先生の死には人一倍肅然として襟を正しむるものがあります。常にやさしい微笑みを絶やさず、人にやさしかった先生、どうか安らかに眠りください。

平成十二年七月六日逝去（享年四十六歳）

## 第二節 全日制課程の記録

### 一 教育課程

#### 1 全日制課程普通科

平成四年度からの十年間における教育課程の変遷を振り返ると、平成六年度に行われた改訂が大きなものと言えよう。これは学習指導要領の改訂に伴うものであった。それ以外の改訂は、より円滑に効果的に学習を進めるための「微調整」とも言うべきものであった。以下にその概要を記す。

##### 平成四年度（資料1・2）

平成四年度以来行われていた教育課程である。平成元年度の改訂については、「五十年史」に詳しく説明されているのでそちらを参照されたい。

##### 平成六年度（資料3・4）

学習指導要領の改訂に伴い、本校教育課程も改訂された。原則として新しい学習指導要領に示された科目・標準単位数に則りつつ、従来の教育課程における教科バランス・学習の質や量・コース設定等ができるだけ生かすよう工夫されている。

☆ 「『ゆとり』あるカリキュラムを……」との学習指導要領改訂の主旨を受けて、縫履修単位を九十九単位から九十六単位へと減じた。

☆ 男女共同参画社会の実現という理念の下、家庭科が男女共修

となり、また、体育の履修単位における男女差が解消された。

☆ 総履修単位が三単位減り、家庭科が実質二単位増加した分については、国語・社会・数学・理科・英語より均しく一単位ずつ（※）減じた。

※ 社会は三年文系で二単位、理科は三年理系で二単位、それぞれ減らしている。

##### 平成十一年度（資料5）

施設・設備の不十分さ、また一人の教諭による美術との同時授業展開の困難さ等により、芸術選択から「工芸」が除かれた。

##### 平成十二年度（資料6）

学校週五日制の完全実施を視野に入れた学習指導要領の次期改訂を先取りしての文部省よりの指導に基づき、「特別活動」の中の「クラブ活動」が除かれた。これに伴い総履修単位数も九十六単位から九十三単位に減げられた。

（文責・谷島 直美）



## 資料 1

## 平成元年度～5年度

教科	科目	1年	2年	3年		計				
				A	B	A		B		
国語	国語 I 現代文 古典	5	2 3	3 3○	2 ○	5 5	8～6	18～16	5 4	5～3 14～12
社会	現代社会 日本史 世界史 地理 倫理 政治・経済	4	4	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	4 6～0 4 6～0 2～0 2～0	18～16	4 4～0 4 4～0 2～0 2～0	12	
数学	数学 I 数学 II 代数・幾何 基礎解析 微分・積分 確率・統計	5	3 3	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	5 5～0 3 3 3 3	16～14	5 3 3 3 3	19～17	
理科	理科 I 物理 化学 生物学 地学	4	2 2	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	4 7～2 7～2 5～0 5～0	13～11	4 8～2 8～2 6～0 6～0	18～16	
保健体育	体育 保健	男4女2 1	男4女2 1	3	3	男11女7 2	男 13 女 9	男11女7 2	男 13 女 9	
芸術	音楽 I 音楽 II 音楽 III 美術 I 美術 II 美術 III 工芸 I 工芸 II 工芸 III 書道 I 書道 II 書道 III	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	※ 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2～0 2～0 2～0 2～0 2～0 2～0 2～0 2～0 2～0 2～0 2～0 2～0	6～4	2～0 2～0 2～0 2～0 2～0 2～0 2～0 2～0 2～0 2～0 2～0	4		
外国語	英語 I 英語 II 英語 II B 英語 II C	6	3 2	2 4○	2 4	6 5 6～4 2	19～17	6 5 4 2	17	
家庭	家庭一般 食物	女 2	女 2	女○		女 4 2～0	女6～4	女 4	4	
特別活動	ホームルーム クラブ活動	1 1	1 1	1 1	1 1	3 3		3 3		
計		33	33	33	33	99		99		

註 1 A・Bはそれぞれ文科・理科類型を、※印は選択科目を示す。

2 男子の体育実技には格技（柔道・剣道のいずれかを選択必修）が、ふくまれます。

## 選択科目講座内容

文系選択科目		理系選択科目	
古典	「漢文を読む」 ①『史記』、『十八史略』を読んで、広大な中国大陸を舞台に織り成される人間模様や権謀術数の限りを尽くす天下取り、根強く生きる人間の息づかいに接する。 ②漢文の読解力を高め、知識を深める。	美術Ⅲ 工芸Ⅲ	美術・工芸合同で、授業内容を選択することで進める。次の分野から2つを選択し個人単位で作品を制作する。 ①絵画(油絵、水彩、デッサン) 美術 ②版画(木版、金属版) 美術 ③デザイン(基礎デザイン、ポスター) 美術工芸 ④工芸(陶芸、木工、鎌倉彫り) 工芸
	理系の倫理と同じ内容で、先哲によって展開された思索のあとを具体的にたどる。 1学期は主として現代人の精神生活を今もって規定している古代ギリシャ、インド、中国思想とユダヤ、キリスト、イスラム教など「思想の源流」について。2学期以降は「2つのR」に始まる西洋近代の思想とその発展としての現代の思想(社会主義、実存主義、プラグマティズム、現代ヒューマニズムなど)について。更に、そうした世界の思想の流れを背景に、日本の思想的伝統と明治から現代に至る思想状況について学習する。	書道Ⅲ 英語ⅡB 食	篆・隸・楷・行・草書・仮名より好きなものを選択し、古典の臨書・創作を半紙、小画仙紙半切にて制作する。 長文読解、具体的な内容は未定だが、物語、エッセイ、伝記等の中から担当者が決定する。真に英語を熱心に勉強しようとする意欲のある生徒を望む。(他に選ぶものがないので仕方なしに英語を選択するような生徒はお断わり。) 昼休みに続いている時間は調理実習を毎週行う。あとの1時間は、その時間内でできる実習や食品加工的なものを取りあげたりする。今年は通年で個人研究を進めているので何時間か当てている。調理実習は、だいたい献立調理である。評価はペーパーテスト、実技テスト、レポートにより行う。費用は材料費1回平均300～350円。
数学Ⅱ	国公立2次試験あるいは私立大学の入試で数学を必要とする者のための講座である。 基礎解析と代数・幾何の演習を行う。 なお、希望者が多い場合は試験を行う。	物	
物理	選択必修の3単位の進行と併せ、十分に説明し切れなかった事項、実験、演習を行う。 特に、普遍的な法則から具体的な現象を理解し説明する能力を養い、物理的自然観を持つことに主眼をおく。	理系選択科目	
化学	時間数の関係で授業(3単位)で扱えない所の補充を行い、センター試験レベルに対応できるようにする。	古典	「古文を読む」 ①我国の代表的古典である『枕草子』、『徒然草』、『源氏物語』、『和歌』などを通して「あわれ」や「をかし」の世界に接する。 ②古文の読解力を高め、知識を深める。
生物	選択必修生物の時間内だけでは不足しがちな実験実習の補充と受験対策を中心とする。	数学Ⅱ	理学部、工学部、医学部等を受ける者のために微分・積分の演習を行う。 希望者が多い場合は試験を実施する。
地学	選択必修(3単位)で不足している内容(主に地球の大気、地球の歴史)を講義、演習等で補う。	物理	問題演習を中心に、物理的思考力の養成に努める。
音楽Ⅲ	1学期:各自が自由に選んだ歌曲を練習し発表する。 2学期:J.S.バッハの「マタイ受難曲」鑑賞を中心に、中世ルネサンス音楽の合唱作品に取り組む。 3学期:上記の続き。 (希望者には楽典問題の添削をしても良い。)	化学	問題演習を通じてより理解を深める。(2年次履修内容も含む)国公立2次試験、私立理系レベルに対応できる力を養成する。
		生物	選択必修生物の授業時間内だけでは不足しがちな、実験・実習の補充、各自の個別テーマによる自由研究を、主に行う。
		地学	地学の全範囲について演習を中心に授業を展開する。内容はセンター試験レベル以上のものである。



平成6年度～10年度

教科	科目	標準 単位数	1年	2年	3年		計		
					A	B	A	B	
国語	国語 I	4	4				4	4	
	国語 II	4		4			4	4	
	国語表現	2							
	現代文	4			4	3	4	3	
	現代語	2							
	古典 I	3							
地理歴史	古典 II	3			3		3		
	古典講読	2			○	○	0~2	15~17	
	世界史 A	2			○	○			
	世界史 B	4	4		○	○	4~6		
	日本史 A	2							
	日本史 B	4		○	○	(2)	○	0~6	
公民	地理 A	2							
	地理 B	4		○	(4)	※①	○	0~6	
	現代社会	4							
	倫理	2			2	2	2	4	
数学	政治・経済	2			2	2	2	4	
	数学 I	4	4				4		
	数学 II	3		2			※①	2	
	数学 III	3			3	3	○(2)	3	
	数学 A	2	1	1				2	
	数学 B	2		2				2	
理科	数学 C	2			○(2)	3	0~2	13~15	
	総合理科	4			※②				
	物理 I A	2							
	物理 I B	4	○	○		(3)	○	0~4	
	物理 II	2			○	(3)	○	0~5	
	化学 I A	2					※②		
	化学 I B	4	○	○	(4)	(3)	(3)	0~4	
	化学 II	2			○	(3)	(3)	+○	0~5
	生物 I A	2					※③		
	生物 I B	4	○	(4)	○		(3)	○	0~4
	生物 II	2			○	○	(3)	○	0~5
	保健体育	地学 I A	2						
地学 I B		4	○	○		(3)	○	0~4	
地学 II		2			○	○	○	0~5	
体育		7~9	3	3	3	3	9	11~13	
保健		2	1	1			2	11	
音楽 I		2	○				0~2		
音楽 II		2		○			0~2		
音楽 III		2			○		0~2		
美術 I		2	○	(2)			0~2		
美術 II		2		○	(2)		0~2		
美術 III		2			○		0~2		
芸術	工芸 I	2	○				0~2		
	工芸 II	2		○			0~2		
	工芸 III	2			○		0~2		
	書道 I	2	○				0~2		
	書道 II	2		○			0~2		
	書道 III	2			○		0~2		
	英語 I	4	3				3		
	英語 II	4		2	2	2	4		
	外国語	2					2		
	外国語	2	2				2		
家庭	外国語	2					2		
	ライティング	4			4	4	4~6		
	ライティング	4		3			3	16~18	
	家庭一般	4	2	2			4		
	生活技術	4							
	生活一般	4							
特別活動	食	2			○	○	0~2	4~6	
	教科単位数計		30	30	30	30	90	90	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	3	6	
	クラブ活動		1	1	1	1	3	6	
合計			32	32	32	32	96	96	

(注1) A・Bはそれぞれ文科・理科類型を、※印は、印の中から1科目選択。  
 (注2) 男子の体育実技には格技(柔道・剣道のいずれかを選択必修)が、ふくまれます。

## 自由選択科目の内容

(平成8年度の資料より)

古典講読(文系)	古典を更に深化させ、専門性を重んじます。昨年は漢文を開講し大修館発行「史記・十八史 略を扱いました。漢文の実力の伸長を目的に、「演習」を中心に単語・語法を再確認してゆきます。一学期は漢文の読み方、二学期は読解・問題演習に力点を置きます。
古典講読(理系)	古典の基本的事項を中心として、応用まで幅広く学習してゆくことになります。センター試験対応ということで、教科書に準拠しながら、一学期前半は古文(毎時間文法小テスト)の授業を、中間考査以降は漢文(プリント)の授業を実施します。共に基礎的事項を学習するように展開していきます。漢文については文法事項を中心にした問題演習による解法解説をします。二学期中間以降は入試問題演習・解説の予定です。
世界史B	1年次の授業を受けて19世紀ヨーロッパから初めます。一口に言えば近・現代史です。授業は受験対応を基本にして、場合によってはテーマ別学習(例「キリスト教史」「アイルランド史」「中国儒教史」など)を付随して行うこともあります。
日本史B	日本史を学ぶ上での最終目標は、現在の日本の社会・文化が、何故・どのような形で出来上がったかを知ることです。その意味でも近・現代史は特に重要です。2年次に履修した日本史では原始・古代からの日本の歩みについて学習してきたわけですが、それが基礎になってこそ初めて、近・現代史も理解できるのです。したがって3年次の授業では、近・現代史を中心に行います。特に近年、戦後50年を経過して、アジア・太平洋戦争の問題、日本の植民地支配の問題、戦後補償の問題などがマスコミ等でも大きく取り上げられています。こうした問題を諸君自ら考えられるような授業を展開します。
地理B	大学受験のための演習なので、センター・二次・私大の試験で地理が関係する人が受講して下さい。
数学(文系)	数学ⅠAⅡBの範囲で、文系の国公立大学2次試験の数学や、私立大学の数学の記述問題を受験科目とする人を対象にして問題練習を行います。
数学(理系)	数学ⅠAⅡBⅢCの範囲で、医学部、工学部、理学部数学科・物理科等を志望しているような難易度の高い数学が必要な人向けの問題練習を行う予定です。
物理Ⅱ演習	講義を聞いて理解するだけでは十分な実力は養えません。実力を養うためには問題を解くことが必要です。この講座は、そのようなことを主眼においた、演習中心の講座です。1・2年次に物理ⅠBを、3年次に物理Ⅱを選択している者を対象としています。
物理Ⅱ講義(理系)	この講座は理系理科選択の物理ⅠBと連動しているため、理科選択で物理ⅠBを選択した者は必ず受講しなければならない講座です。
化学Ⅱ	演習中心の講座です。より深い理解を得て、実力を養うためには問題を解くことが必要です。
生物Ⅱ	3単位の生物Ⅱと同じですが、2単位で実施します。将来「生物」を必要とするような学部・学科へ進学を希望する者は、できるだけ3単位で選択してください。
地学Ⅱ	天文・気象・地球物理学分野を主に学習します。
音楽Ⅲ	授業内容はかなり高度で、音声・ピアノ・楽典を中心に進めています。声楽も発声からオペラアリアまで、幅広く高度な技術が求められます。オペラ全曲(1曲)研究・オペラアリアの研究・アンサンブル(鍵盤楽器特にピアノ中心の二重奏)・二重唱曲集を中心に進めます。1・2年の音楽と大きく程度が違います。受験勉強の合間の心休めと考えることの無い様にして下さい。声楽と器楽との両方に深い関心を持つ者でないと大変になります。
美術Ⅲ	1学期油彩画技法による模写(F8号キャンパス)、2学期は彫刻(木彫類)、3学期は額の着色・塗装仕上げの予定です。美術Ⅰ・Ⅱで学んだことを基礎としてより高度なものとなります。
工芸Ⅲ	1学期透視図及び住宅設計図などの製図、2学期は住宅模型の制作、3学期は家具のレタリングを行います。工芸Ⅰ・Ⅱで学んだことを基本にその応用としてより高度な内容を取り扱います。
書道Ⅲ	漢字・仮名・篆刻の中より自由選択で学習します。創作は条幅作品中心に学習します。
英語リーディング	長文読解を中心とした演習形式の授業を行っていますが、使用教材等は担当者によって異なります。長文読解だけでなく、文法・作文演習・センター試験問題演習等を含める予定です。
食物	2年次までに学習した家庭一般を基礎として、調理実習を中心に展開します。「よりよい食生活の創造」をテーマに、調理技術の習得のみにとどまらず、食習慣・マナー・食糧問題・環境問題等幅広い視点から食生活について考えます。また、各自が題材を設定し、研究を進め、レポートを作成する課題研究を平行して行います。

平成11年度

教科	科目	標準単位数	1年	2年	3年		計				
					A	B	A	B			
国語	国語 I	4	4				4	4			
	国語 II	4		4			4	4			
	国語表現	2									
	現代文	4			4	3	4		3		
	現代語	2									
	古典 I	3									
地理歴史	古典 II	3			3		3				
	古典講読	2			○	○	0~2	15~17	0~2	11~13	
	世界史 A	2									
	世界史 B	4	4		○	○	4~6		4~6		
	日本史 A	2			○	○	0~6		0~6		
	日本史 B	4		○	○	(2) ○	○	0~6			
公民	地理 A	2		○	(4)	※①	○	10~12	0~6	8~10	
	地理 B	4		○	○	○	○	0~6			
	現代社会	4									
	倫理	2				2	2	2	2	4	
数学	政治・経済	2				2	2	2	2	4	
	数学 I	4	4					4			
	数学 II	3		2			※①	2			
	数学 III	3			3		3 ○ (2)	3	3~5		
	数学 A	2	1	1				2	2		
	数学 B	2		2				2	2		
理科	数学 C	2			○ (2)		3	0~2	13~15	16~18	
	総合理科	4			※②						
	物理 I A	2									
	物理 I B	4	○	○		(3)		0~4	0~4		
	物理 II	2			○	○	(3)	○	0~5	0~5	
	化学 I A	2					※②				
	化学 I B	4	○	○	(4)		(3) (3)		0~4	0~4	
	化学 II	2			○	(3) ○	(3)	○	0~5	0~5	
	生物 I A	2				※③		+	○	0~5	
	生物 I B	4	○	(4)			(3)		0~4	0~4	
保健体育	生物 II	2			○	○	(3)	○	0~5	0~5	
	地学 I A	2					(3)		0~4	0~4	
	地学 I B	4	○				(3)		0~4	0~4	
	地学 II	2			○	○		○	0~5	0~5	
	体育	7~9	3	3	3		3	9	9	11~13	
	保健	2	1	1				2	2	11	
	芸術	音楽 I	2	○					0~2	0~2	
		音楽 II	2		○				0~2	0~2	
		音楽 III	2			○		○	0~2	0~2	
		美術 I	2	○	(2)				0~2	0~2	
美術 II		2		○	(2)			0~2	0~2		
美術 III		2					○	0~2	0~2		
工芸 I		2					○	0~2	0~2		
工芸 II		2		○				0~2	0~2		
工芸 III		2				○	○	0~2	0~2		
書道 I		2	○					0~2	0~2		
外国語	書道 II	2		○				0~2	0~2		
	書道 III	2				○	○	0~2	0~2	4~6	
	英語 I	4	3					3	3		
	英語 II	4		2	2	2	4	4	4		
	オーラルコミュニケーションA	2									
	オーラルコミュニケーションB	2	2					2	2		
家庭	オーラルコミュニケーションC	2									
	ライティング	4			4	○	4	○	4~6	4~6	
	ライティング	4		3				3	3	16~18	
	家庭一般	4	2	2				4	4		
	生活技術	4									
	生活一般	4									
教科	食物	2			○	○	0~2	4~6	0~2	4~6	
	単位数計		30	30	30	30	90		90		
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	3	6	3	6	
	クラブ活動		1	1	1	1	3	6	3	6	
合計			32	32	32	32	96		96		

(注1) A・Bはそれぞれ文科・理科類型を、※印は・印の中から1科目選択。  
 (注2) 男子の体育実技には格技(柔道・剣道のいずれかを選択必修)が、ふくまれます。

平成12年度

教科	科目	標準 単位数	1年	2年	3年		計	
					A	B	A	B
国語	国語 I	4	4				4	4
	国語 II	4		4			4	4
	国語表現	2						
	現代文	4			4	3	4	3
	現代語	2						
	古典 I	3						
地理歴史	古典 II	3			3		3	
	古典講読	2			○	○	0~2	15~17
	世界史 A	2						
	世界史 B	4	4		○	○	4~6	
	日本史 A	2						
	日本史 B	4			○	○	0~6	
公民	地理 A	2		(4)	○	○	0~6	10~12
	地理 B	4			○	○	0~6	
	現代社会	4						
数学	倫理	2			2	2	2	4
	政治・経済	2			2	2	2	
	数学 I	4	4				4	
	数学 II	3		2		※①	2	
	数学 III	3			3	3 ○ (2)	3	
	数学 A	2	1	1			2	
	数学 B	2		2			2	
理科	数学 C	2			○ (2)	3	0~2	13~15
	総合理科	4			※②			
	物理 I A	2						
	物理 I B	4	○	○		(3)	0~4	
	物理 II	2			○	○	0~5	
	化学 I A	2				※②		
	化学 I B	4	○	○ (4)		(3) (3)	0~4	
	化学 II	2			○	(3) ○	0~5	
	生物 I A	2				※③		
	生物 I B	4	○ (4)	○		(3)	0~4	
	生物 II	2			○	○	0~5	
保健体育	地学 I A	2				(3)	0~5	
	地学 I B	4	○	○		(3)	0~4	
	地学 II	2			○	○	0~5	
	地学	4	○	○		(3)	0~4	
	体育	7~9	3	3	3	3	9	11~13
	保健	2	1	1			2	11
	音楽 I	2	○				0~2	
	音楽 II	2		○			0~2	
	音楽 III	2				○	0~2	
	美術 I	2	○ (2)				0~2	
芸術	美術 II	2		○ (2)			0~2	
	美術 III	2				○	0~2	
	工芸 I	2						
	工芸 II	2						
	工芸 III	2						
	書道 I	2	○				0~2	
	書道 II	2		○			0~2	
	書道 III	2				○	0~2	4~6
	英語 I	4	3		2	2	3	
	英語 II	4		2	2	2	4	
外国語	オール・コミュニケーション A	2						
	オール・コミュニケーション B	2	2				2	
	オール・コミュニケーション C	2						
	ライティング	4			4 ○	4 ○	4~6	
	ライティング	4		3			3	16~18
家庭	家庭一般	4	2	2			4	
	生活技術	4						
	生活一般	4						
教科	食	2				○	0~2	4~6
	単位数計		30	30	30	30	90	90
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	3	3
合計	計		31	31	31	31	93	93

※①  
イ)世界史B  
日本史B、  
地理Bの選  
択は、1・  
2年の時に  
履修した科  
目と同一の  
科目とする。  
ロ)教科内選  
択として、  
世界史B、  
日本史B、  
地理Bの各  
々を選択し  
た者が自由  
選択科目と  
して教科内  
選択科目と  
同一の科目  
を選択する  
事はできな  
い。

※②は自由  
選択として、  
7教科15科  
目から1科  
目を選択履  
修すること  
とする。

※③  
物理II、化  
学II、生物  
II、地学II  
の選択は、  
その科目の  
I Bを履修  
した科目の  
中からしか  
履修できな  
い。

※①は自由  
選択として、  
7教科15科  
目から1科  
目を選択履  
修すること  
とする。

※②  
「注1」  
「I B」は、  
1~3年で  
同一科目を  
選択履修す  
ることはで  
きない。  
「注2」  
3年では  
7科目の中  
から2科目  
を選択履修  
することと  
する。  
「注3」  
3年で  
「I B」を  
選択で1単  
位減で履修  
させるねら  
いは、  
「I B」+  
「II」の標準  
単位(6単  
位)の枠内  
での授業で  
展開をより  
円滑に進め  
ることにあ  
る。

(注1) A・Bはそれぞれ文科・理科類型を、※印は○印の中から1科目選択。  
(注2) 男子の体育実技には格技(柔道・剣道のいずれかを選択必修)が、ふくまれます。

## 2 学検・推薦入試

平成九年より推薦入試が始まり、毎年五十四名が合格し、それぞれが各クラスの中位から上位をしめ、クラスの雰囲気作りに一役買っている。

平成十三年度からは、中学の学区の変更があり、隣接の学区も受験可能となり、本校では、新しいエリアから三十五名の入学生があった。

(文責・萩原 正男)

### 入学状況

年度	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年
受験者数	500	541	477	541	514
合格者数	410	399	381	368	368
倍率	1.5	1.4	1.3	1.5	1.4

年度	平成9年		平成10年		平成11年		平成12年		平成13年	
	推薦	学検	推薦	学検	推薦	学検	推薦	学検	推薦	学検
受験者数	236	467	142	441	157	442	122	410	143	383
合格者数	54	310	54	308	54	311	54	312	54	312
倍率	4.4	1.5	1.6	1.4	2.9	1.4	2.3	1.3	2.7	1.3





### 3 学校説明会

平成四年度から平成七年度までは、中学校へ学校説明会の案内状を特には送らず、来校の連絡があった生徒たちを対象に、随時全体説明と校内の案内をした。

平成八年度より、前年度における来校者数の急増を受け、学校説明会を行うこととし、学区内の中学校へ学校説明会の案内文を送った。

セミナーハウスを会場として、夏休みの七月に二日、八月に一日の計三日間、一日二回行い、六回で七百二十人余りの中学生に全体説明をし、校内の案内をした。平成十年度まで同様に行っていたが、年々、来校者数が増えていった。

平成十一年度は、セミナーハウスで七月二十八日、二十九日の二日間、四回、会議室で七月三十日の一日に四回という離れ業を行って、千百名余りの中学生と少数の保護者に対応した。会議室における全体説明は、熱中症の出るほどの熱気であった。

平成十二年度は、中学校の学区の変更があり、また隣接学区が受験可能となり、中学校への学校説明会の案内も二百五十校余りに増えた。説明会場も体育館を使用することとし、教務部だけでは対処が難しくなり、全校の協力で行うようになった。七月二十八日（体育館）に二回、多くの教員と多くの部活動の生徒たちとで学校説明会を作り上げ、九百人余りの中学生と少数の保護者に対応した。二学期に入ってから、九月十六日、九月三十日、十月七日の三日間にセミナーハウスで計七回、説明会を行い、この年度は総数千六百九十名余りの中学生や保護者の方々に学校全体の説明をし、校内を案内した。

平成十三年度は、七月三十日の二回の説明会（体育館）には、千百六十名余りの中学生と保護者の参加があった。校内は耐震工事のため雑然としてはいたが、校内見学の生徒、保護者の視線には熱いものが

あった。これからの日程としては、九月二十九日の二回の説明会（セミナーハウス）では、二百五十名余りの参加が予定されている。十月六日の二回の説明会（セミナーハウス）は、募集中であるが、定員一杯の二百四十名は予想される。

二〇〇一年八月六日 （文責・萩原 正男）

◀ 会議室にて



▶ 体育館にて



# 千葉東高校案内

千葉県立千葉東高等学校  
2001年7月30日

## 1. 千葉東高の概略 東高ってどんな学校

- (1) 創立 昭和16年4月1日 千葉市立千葉高等女学校として港町19で始まる。
- (2) 課程 全日制普通科 1学年9クラス 定員360名  
※通信制普通科(4年制)も併設(月に2回程度の日曜日スクーリング有り)
- (3) 教員 校長 1名 教頭 1名 教諭 59名 計61名  
学校長 曾川 定雄
- (4) 入学状況

年 度	平成8	平成9		平成10		平成11		平成12		平成13	
		推薦	学校	推薦	学校	推薦	学校	推薦	学校	推薦	学校
受験者数	514	236	467	143	441	157	442	122	410	143	383
合格者数	368	54	310	54	308	54	311	54	312	54	312
倍 率	1.4	4.4	1.5	2.7	1.4	2.9	1.4	2.3	1.3	2.7	1.3

(5) 日課

SHR	1限目	2限目	3限目	4限目	昼休み	5限目	6限目	SHR清掃
8:30	8:45	9:45	10:45	11:45	45分	13:20	14:20	15:15
8:40	9:35	10:35	11:35	12:35		14:10	15:10	15:35

(6) 教育課程・学校行事・部活

- ・パンフレット「SCHOOL GUIDE」を見て下さい。
- ・PTA会報を抜粋したプリントを見て下さい。

## 2. 卒業生の数 2001年に創立60年目を迎えました。

昭和16～	昭和23～	昭和25～	昭和36～	合 計
市立高等女学	市立女子高	県立千葉三高	県立千葉東高	
763	37	3060	16218	20,078名

(昭和41～61年の看護科を含む。通信制は含まず。)

## 3. どんな進路が多いか ほとんどの人が4年制大学へ進学しています

進路別	平成9年3月		平成10年3月		平成11年3月		平成12年3月		平成13年3月		
	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	
生 徒 数	383	200	362	198	367	162	363	175	361	164	
合 格 者 数	国公立大	65	41	50	56	56	56	63	46	42	39
	私立大	352	471	410	548	353	377	343	387	333	346
	準大				2		2			4	4
	短大	15	13	13	2	9	4	8	4	10	
専門・各種学校	3	2	4	1	3	2	6	1	5	1	
現役進学者数%	185		200		192		199		177		
	48%		55%		52%		55%		49%		
就 職	0		0		0		1				
その他(浪人)	198		162		175		164		184		

※私立大学は延べ合格者数

#### 4. おもな大学の合格者数

自分が進みたい道を見つけて頑張った

##### 国公立大

大学	年度		13.3		10.3		11.3		12.3	
	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪
北海道		1	1	3	1	4				3
東北	1	2	1	5		2	2	4		
茨城	2		1		1		1			
筑波	3	1	1	3	2	1	1	3		
埼玉			1		1	1	2	2		
千葉	17	15	21	7	25	14	32	11		
お茶の水		4	2		2		2			
電気通信	1		2	5		4				
東京				3		1				
東京医歯				1		1	1			
東京外語		1	4	1	3	2	2			
東京学芸	1	1	2	1	1		2	1		

大学	年度		13.3		10.3		11.3		12.3	
	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪
東京工業	2	1	2	3		7	1			
東京水産			2		1		1			
東京農工	1	1	2	4	3	4	1	7		
一橋							1	1		
横浜国立	3	2	4	2	3	3	4	2		
名古屋				2			1			
京都		2								
神戸				1						
東京都立	2	1	1	3	1		2	2		
横浜国立					2		1	1		
その他	9	7	3	12	10	12	6	9		
合計	42	39	50	56	56	56	63	46		

##### 私立大

※私立大学は延べ合格者数、また指定校推薦合格者も含まます

大学	年度		13.3		10.3		11.3		12.3	
	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪
青山学院	10	7	17	15	7	2	11	5		
学習院	15	13	10	15	23	7	20	9		
北里	4	2	1	9	1	4	1	3		
共立薬科		2	1	3	1	1	1	2		
慶応	6	5	7	18	11	13	10	4		
國學院		2	1	8	2	1	1	4		
駒澤	1	3	15	7	6	8	3	5		
芝浦工業	6	8	2	2	2	8	6	13		
上智	10	8	9	20	12	13	12	12		
成蹊	5	8	17	9	3	3	2	5		
成城	1	1		1	2	2	1	3		
専修	2	7	4	19	2	6	4	3		
中央	16	20	17	27	14	14	8	15		
津田塾	5		4	2	1		8	1		
東京女子	12	5	13	2	15	3	10	6		

大学	年度		13.3		10.3		11.3		12.3	
	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪
東京農業	7	3	10	5	3	8	1	14		
東京薬科	1	1		2		2	1	4		
東京理科	19	35	12	52	9	44	13	43		
東邦	25	15	13	14	14	11	11	23		
東洋	1	5	4	9	6	4	4	6		
日本	13	31	17	42	18	26	21	42		
日本女子	17	6	16	3	17	6	11	4		
法政	22	25	25	21	24	20	18	9		
明治	41	38	45	46	47	44	29	33		
明治学院	8	3	9	8	11	6	3	10		
立教	13	14	27	18	28	14	22	10		
早稲田	25	23	22	49	24	40	31	32		
立命館	1	1	4	17	3	7	9	7		
その他	47	55	88	105	47	60	71	60		
合計	333	346	410	548	353	377	343	387		

## 個性を伸ばす 多彩な部活動



県大会で賞状する  
バドミントン部

文化祭への出演を目指して  
劇団中の美術部

遠征大行儀  
嵐と共演する  
ラッパ部



定例講演会など  
開催するクラフ  
ト部

高い部活動加入率  
毎年 **80%** 以上

### 文化系

- 文学
- 物理
- 化学
- 生物
- 地学
- 音楽
- 吹奏楽
- マンドリン楽
- 美術
- 写真
- 演劇
- ESS
- 食物手芸
- 芸術
- コンピュータ

### 運動系

- 陸上
- 水泳
- バドミントン
- バレーボール
- サッカー
- ラグビー
- ソフトボール
- 野球
- テニス
- 卓球
- 柔道
- 剣道
- 山岳

### 同好会

- 歴史研究
- JRC
- 漫画研究
- 蘭学
- フオータソング
- 囲碁
- 空手道
- ジャズソング

# SCHOOL GUIDE

学校案内



## 千葉県立千葉東高等学校

昭和16年創立、平成13年に100周年を迎えました。

〒263-0021 千葉市船毛区豊町1-18-52  
TEL 043-251-9221 FAX 043-255-6575  
URL <http://academic.jp/niyasi/>

## 教育方針

人間性の豊かな、実践力に富んだ人物を育成することを目指しています。

生活態度の確立助成  
進路指導の強化充実  
男女共学の長所発輝  
努力目標とその達成



高いレベルを自習する英語



図書館で学習



コンピュータ室で課中の授業



個別教室を使う授業の展開

学力を飛躍させ、生徒が自律的行動を責任をもってとれるようになることを目指し、基礎体力の向上をはかっています。

## 千葉県立千葉東高等学校





平成13年6月13日

関係中学校長 様

### 千葉県立千葉東高等学校学校説明会の実施について

千葉県立千葉東高等学校  
校長 曾川 定雄

紫陽花の花が映える頃となりましたが、貴職におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃、本校の教育活動の推進に御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、この度、本校におきましては、下記要領にて高校説明会を実施し、本校の教育方針、教育課程、学校行事などを御案内させていただきたいと考えております。

つきましては、本校受検希望者に、このことについてお知らせのうえ、希望者をとりまとめたいただければ幸甚でございます。お忙しい中、恐縮でございますが、趣旨を御理解いただき、生徒の安全面への御指導を含めまして御協力くださいますようお願い申し上げます。

#### 記

#### 1. 期日・場所

月 日	回	時 間	人 数	場 所
7月30日(月)	1回目	9:00~10:20	600名	本校体育館
	2回目	10:30~11:50	600名	
9月29日(土)	3回目	13:30~14:50	110名	本校セミナーハウス
	4回目	15:00~16:20	110名	
10月6日(土)	5回目	13:30~14:50	110名	本校セミナーハウス
	6回目	15:00~16:20	110名	

7月30日第1、2回は、全校あげて行いますので、ぜひ、この機会にお越しください。

2. 内容 学校紹介・質問 約40分(教育方針、教育課程、学校行事、授業、進路、部活動などについて)  
校案内 約40分(施設見学、および部活動見学)

#### 3. 申し込みについて

- (1) 申し込み(訂正)期間、および時間 ○が受け付ける説明会です。

申し込み受付 月・日	申し込み受付時間	説 明 会		
		7月30日	9月29日	10月6日
7月12日(木)~7月13日(金)	9:00~16:00	○	○	○
9月13日(木)~9月14日(金)	9:00~15:30		○	○

- (2) 申し込み方法

電話で下記専用回線へ「中学校名、希望日、回、人数、担当の先生名」をお知らせください。

**☎ 043-290-7660** (郵送およびFAXでは受付できません。)

上記専用回線の電話のみの受付となりますので、恐れ入りますが、話し中の場合は再度おかけくださるようお願いいたします。

- (3) 日時・回の決定について

申し込み時点で決定します。各回とも定員がありますので、お手数ながら、

第2希望以下についてもお考えください。

※ 千葉東高校ホームページ <http://academic1.plala.or.jp/higasi>

(ホームページにも、詳しい学校紹介を掲載しています。御参考にしてください。)

#### 4. その他

- (1) 上履き持参

(2) 交通案内 ・JR西千葉駅から、「ゆりの木通り」を作草部方面へ徒歩12分、またはバスで3分。

・モノレール作草部駅からJR西千葉駅方面へ徒歩5分。

(3) 東雲祭(文化祭)は、9月15日(土)、16日(日)です。

(4) 担当 ・教務部(教務主任 萩原 正男)

平成13年度学校説明会実施要綱

1. 期日 平成13年7月30日(月)

2. 場所 体育館

3. 日程 8:30～9:00 第1回受付 資料・下足袋の配布  
 9:00～10:20 第1回学校説明会  
 9:00～9:05 学校長挨拶 (校長)  
 9:05～9:10 授業・日課 (教務部長)  
 9:10～9:20 進学全般 (進路指導部長)  
 9:20～9:25 学校行事(キャンプ・文化祭) (生徒会顧問)  
 9:25～9:30 部活動 (生徒会顧問)  
 9:30～9:35 国際交流 (総務部担当)  
 9:35～9:40 生活・校則 (生活指導部長)  
 9:40～10:20 校舎・部活動見学

10:20 第1回学校説明会を終了します。校舎外に出て下さい。

10:00～10:30 第2回受付 資料・下足袋の配布  
 10:30～12:00 第2回学校説明会  
 10:30～10:35 学校長挨拶 (校長)  
 10:35～10:40 授業・日課 (教務部長)  
 10:40～10:50 進学全般 (進路指導部長)  
 10:50～10:55 学校行事(キャンプ・文化祭) (生徒会顧問)  
 10:55～11:00 部活動 (生徒会顧問)  
 11:00～11:05 国際交流 (総務部担当)  
 11:05～11:10 生活・校則 (生活指導部長)  
 11:10～12:00 校舎・部活動見学

12:00 第2回学校説明会を終了します。校舎外に出て下さい。

平成13年度 学校説明会部・同好会活動公開一覧

部・同好会名	場 所	説明	デモ演技	備考
コンピュータ	コンピュータ室	随時		
マンドリン	通信棟4階	時間指定	2, 3曲	説明時間 10:00～10:20 11:40～12:00
吹奏楽	通信棟3階			
野球	グラウンド			
陸上競技	グラウンド	随時		
ラグビー	グラウンド			
ソフトボール	多目的グラウンド			
剣道	小体育館2階			
卓球	小体育館1階	随時		
ジャグリング	中庭	随時	有	

## 学校説明会の実施について … 9月29日（土）…

### 【1】全体日程

11:00～	椅子並べ 教務部全員（ソフトボール部員応援）
13:00～	第1回目受付開始（資料配布）
13:30～	第1回目説明開始
14:30～	第2回目受付開始（資料配布）
15:00～	第2回目説明開始
16:00～	椅子片づけ（ソフトボール部員応援）

### 【2】説明会

	1 回 目		2 回 目	
	開始時間	担 当	開始時間	担 当
受付（資料配布）	13:00	谷島、古水	14:30	谷島、古水
挨拶	13:30	高野教頭	15:00	高野教頭
説明	13:35	萩原	15:05	萩原
校内見学	14:10	細川、佐藤	15:40	細川、佐藤
終了	14:50		16:20	
参加申込数	120名		129名	
司 会	古水		古水	

## 学校説明会の実施について … 10月6日（土）…

### 【1】全体日程

11:00～	椅子並べ 教務部全員（ソフトボール部員応援）
13:00～	第1回目受付開始（資料配布）
13:30～	第1回目説明開始
14:30～	第2回目受付開始（資料配布）
15:00～	第2回目説明開始
16:00～	椅子片づけ（ソフトボール部員応援）

### 【2】説明会

	1 回 目		2 回 目	
	開始時間	担 当	開始時間	担 当
受付（資料配布）	13:00	谷島、古水	14:30	谷島、萩原
挨拶	13:30	高野教頭	15:00	高野教頭
説明	13:35	萩原	15:05	古水
校内見学	14:10	細川、佐藤	15:40	細川、佐藤
終了	14:50		16:20	
参加申込数	120名		120名	
司 会	古水		萩原	

#### 4 コンピュータ室の整備

##### 一、コンピュータの導入（平成五年度）

本校のコンピュータ教室は平成五年度に新規に整備され、平成十二年度にすべての機器が更新された。この間の経緯について、記録をたどってまとめてみたい。

国際化・情報化、科学技術の進展など、著しく変化した社会に対応した教育や、生徒の多様化・個性化に対応した教育の推進が求められ、本校においてもコンピュータ導入が検討された。

コンピュータの導入に際しては、まず平成三年度に数学科 秋山岩雄先生を委員長に、十三名の委員からなる「コンピュータ導入検討委員会」が設置された。この委員会では、はじめに全職員対象にアンケート調査を行い、①設置場所をどこにするか、②コンピュータ機器の利使用方法、③要望・意見 について調査を行っている。この段階での最大の問題点は、やはり①の設置場所であった。候補として挙げられたのは、会議室・生物講義室・礼法室・通信棟の一教室などであったが、それぞれ一長一短があり、判断を下すのはたいへん難しかったと聞く。ちょうど校舎の大規模改修と時期が重なり、コンピュータ導入もそれに歩調を合わせようということで、決定は翌年に持ち越された。翌平成四年、改めて議論を重ねた結果、最終的に生物講義室に決定した。生物講義室は教師用と生徒用計四十六台のコンピュータ室としては狭かったので、コンピュータやプリンタの配置を工夫することによって問題の解決をはかったと聞く。また、準備室を隣接して設置できないという問題は残ったが、当時の状況の中では、最善の選択であったと思う。

しかし、平成十五年度から新教科「情報」が開始されると、準備室が隣接していないということが、コンピュータ室を積極的に活用する

上で支障となるおそれが懸念されている。

当初の活用計画としては、各分野から次のような項目が挙げられた。

##### 《学習指導》

- ・国語 漢字演習、古典文法演習 等
- ・社会 地理学習、各国のデータベース検索 等
- ・数学 図形、計算演習 等
- ・理科 実験シミュレーション、計測、実験データ処理 等
- ・保健体育 体力テスト、健康診断の分析 等
- ・芸術 デザイン、色のシミュレーション 等
- ・英語 スペル、英文法の学習・演習 等
- ・家庭 栄養計算、被服のデザイン、統計分析 等

##### 《データ処理等》

- ・学力検査、各種テストの成績処理
- ・アンケート処理への活用
- ・進路指導等個人データの保存・活用
- ・各種資料の保存・活用
- ・必修クラブにおける活用
- ・部活動等における活用

コンピュータの指導者については、当時の職員のうち約四十五％程度が一応の取り扱いが可能で、そのうち八名が生徒の学指指導にあたるができる、との記録がある。これは先生方



旧コンピュータ室の様子

が、常日頃から県情報教育センター主催のコンピュータ講習会や校内研修等を通して、指導力向上に努めていた結果であると思う。

平成五年度になり、生物講義室から生まれ変わったコンピュータ室に、生徒用マシン四十六台、教師用マシン一台をはじめとする新しいコンピュータ機器が設置された。生徒用のマシンは、NEC製PC-9821Ce、「キャンビー」という愛称のついたもので、120MBのHDDやCD-ROM装置を内蔵し、WINDOWS3.1が搭載された、当時としては十分な機能を持つ最新型のモデルであった。これらのマシンをNEC製「PCゼミ」でLAN接続して、データの送受信が可能な環境を整えた。プリンターはいち早くモノクロ・レーザープリンターを三台導入、その他にもイメージ・スキャナ、MOディスクドライブ装置、レーザーディスク・プレーヤー、VTR装置、書画カメラ、マークシートリーダー装置など、マルチメディアを扱うに十分な機器が整えられた。

同時にソフトウェアの充実も図られ、ワープロ・表計算・データベースなどの統合ソフト、プログラム言語ソフト、DTPソフト、オーサリングソフトなどが導入された。

コンピュータの導入後は、主に理科を中心に、実験データの処理、実験の事前指導のための画像提示、プログラム作成などの学習指導に利用されたほか、コンピュータ同好会（平成十三年度に部に昇格）の活動も盛んで、文化祭や生徒会行事における活動発表のための作品づくりに活用された。さらに、通信制の「文書処理」の授業においては毎週ワープロなどの実技指導が実施されている。

残念ながら、先に挙げた学習指導における活用の面では、十分とは言えないかもしれないが、各教科で新しい取り組みを模索しているところである。一方、各種データ処理の面では、教務室や各教科準備室等にパソコンの整備が進み、成績処理などに円滑な活用が図られている。

## 二、コンピュータの更新（平成十二年度）

さて、導入当時は最新型といわれた機器も老朽化が進み、特に社会現象となったインターネットへの接続環境の必要性も高まってきたところで、平成十二年度に機器更新が実施されることになった。すでに平成十五年度から始まる新学習指導要領に基づいてすべての高等学校に教科「情報」が新設されることが明らかにされており、その授業に対応できる機器の整備という視点が求められることになった。なお、この機器更新にあたっては、県から次のように留意事項が示された。

- (1) 生徒の情報活用能力を育成するためのものとして活用する。
  - (2) 各教科・科目などで生徒の主體的な学習活動の道具として、あるいは、教師の学習指導の道具として効果的に活用する。
  - (3) 情報に関する教科・科目、特別活動などでコンピュータリテラシーの育成に活用する。
  - (4) 学校経営事務の高度化・効率化を図るために活用する。
  - (5) ネットワークシステム等の活用により、学習の個別化など多様な教育方法の開発・利用を行う。
  - (6) 平成十一年三月に告示された新学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒の情報活用能力を育成できるよう機器構成等に配慮する。
- また、今回の機器更新事業では、初回の導入時と比較して次の点が大きく変化した。
- (1) 従来の「買い取り」方式から、「メンテナンス・リース」形式に変更になる。契約期間は五年間を予定し、一年ごとに更新される。
  - (2) リース契約期間内での機種の変更や周辺機器の追加、ソフトウェアの追加・変更などはできない。
  - (3) 導入する生徒用パソコンは四十台とする。その他に教師用二台、サーバー用コンピュータを別途整備する。



けては高山孝教論(現県立千葉高教頭)、昭和四十八年度から昭和五十三年度までの、進路関係における変化の最も激しい時期に強力な指導をした朝日伊豆雄教論、昭和五十四年度からは、ますます増加する進学熱をしっかりと受けとめ、全生徒の進路の自己実現の成功に夢をかける桜井功造教論、という大物の各進路指導主事の方々に率いられ、成長を続け、今日の姿になりました。

現在、進路指導部では、桜井進路指導主事のもとで、渉外、運営を担当する金子澄兄教論、進路情報を担当する橋本正教論、資料関係を担当する南部博昭(筆者)、渡辺陽教論、進路相談、会計を担当する三塚隆昭、福田靖教論、就職を担当する織原勝二郎教論、衛生看護科担当の田村照子

#### △資料の見方▽

(1) 千葉東高校卒業生の進路状況(普通科)について

△卒業年度▽ 例えば、昭和四十八年度とは、昭和四十九年三月に卒業式を迎えた生徒のこと。以下資料(2)(3)も同じ。

△進学者▽ 当該年度における現役卒業生の中の実進学者

△教育訓練機関等▽ 専修学校進学者等を含む。

△就職者▽ 防衛大学校等への進学者を含む。

△過年度卒業者の進学状況▽ 当該年度以前に卒業した生徒全体の当該年度における進学状況

なお、昭和四十七年度については、資料の一部が欠けているので、正確を期すため、割愛した。

教論の計九名が、連絡を密にし、日ごろ、教鞭を執る間も惜しみ、各方面で研鑽しております。

資料の読者には、(1)、(2)、(3)の表から、過去十か年間の千葉東高校の発展の状況と変化を、推察していただければ、幸いです。

終わりにあたり、今後の千葉東高校の発展、進路指導部の充実を祈るとともに、資料収集に大変な御手数をかけた進路指導部の先生方、また、過去の進路を担当された先生方、及び事務の方々に心から感謝いたします。

## 二進路

平成三（一九九一）年度から平成十二（二〇〇〇）年度までの進路についての情報を「進路のしおり」をもとにまとめました。

この十年間の特徴としては一クラスの定員が減少したために卒業生の数が最も多い時期と比べて七十名ほど減少している。また女子の割合も増加し最近ではほぼ一対一になっている。また国立志向が薄れ、はじめから私立大学希望者が増えている。などが挙げられます。

進路指導の行事等の変遷については分掌のところを言及してあります。

資料について

(1)(2)については進学者数、(3)(4)については述べ合格者数を示していません。(3)(4)の資料については一部一致しないところもありますが（例えば(3)と(4)の九十三年度の浪人私立大学延べ合格者数）どちらが正しいかを判断する資料がないのでそのまま掲載してあります。

最後に、たった十年ではありますが進路のしおりからちょっと外れた情報に関してはほとんど何も残っていないということがわかりました。逆に言えば、毎年進路のしおりの作成に膨大な労力がかかっていますが、これをきっちりと作っておけば七十周年記念誌を作る時の貴重な情報源になると思われれますので、今後も完成度の高いものを作成していきたいと思えます。

（文責・田島 洋一）



(1) 千葉東校卒業生（全日制）の進路状況

卒業年度	91		92		93		94		95		96		97		98		99		00	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
卒業生徒数	430		408		411		409		402		383		362		367		363		361	
	271	159	273	135	232	179	233	176	227	175	238	145	206	156	200	167	203	160	175	186
国公立大	72		64		77		68		53		58		46		49		62		36	
	42	30	44	20	44	33	36	32	27	26	32	26	29	17	24	25	30	32	17	19
私立大	126		123		150		141		139		121		149		137		128		132	
	56	70	58	65	54	96	57	84	55	84	49	72	63	86	55	82	58	70	53	79
準大学	0		0		0		0		1		0		0		0		0		4	
									1										1	3
国公立短大	0		0		0		0		0		0		0		0		2		0	
																	2			
私立短大	5		8		3		5		6		1		2		4		3		2	
		5	1	7		3		5		6		1		2		4		3		2
専修・各種学校	0		1		1		3		3		3		3		3		4		3	
			1		1		2	1		3		3		3		3		2	2	1
就職	0		0		0		0		0		0		0		0		1		0	
																	1			
家事家業	0		0		3		0		0		0		0		0		0		0	
						3														
その他	227		212		177		192		200		200		162		174		163		184	
	173	54	169	43	133	44	138	54	144	56	154	46	114	48	121	53	112	51	103	81

注：卒業年度00とは2001年3月卒業者のこと



(2) 千葉東高校卒業生(全日制)の系統別進路状況

系統	91		92		93		94		95		96		97		98		99		00	
	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短
人文科学	55		46		59		39		46		38		46		41		45		27	
	50	5	41	5	56	3	36	3	42	4	37	1	46		39	2	44	1	26	1
社会科学	57		59		64		71		64		48		67		69		55		56	
	57		58	1	64		69	2	64		48		67		69		55		55	1
理学	20		10		16		15		19		21		8		13		11		13	
	20		10		16		15		19		21		8		13		11		13	
工学	39		42		42		44		36		28		33		29		37		38	
	39		42		42		44		35	1	28		33		29		37		38	
農・水・商船	2		5		9		11		3		8		15		11		2		5	
	2		4	1	9		11		3		8		14	1	11		2		5	
医・歯	1		0		2		1		2		3		2		0		1		2	
	1				2		1		2		3		2				1		2	
薬・保健	12		11		13		14		12		12		10		9		17		17	
	12		11		13		14		12		12		10		9		15	2	17	
家政	2		3		7		4		3		2		6		4		12		6	
	2		2	1	7		4		3		2		5	1	2	2	10	2	6	
教育	9		8		12		10		11		14		6		12		14		8	
	9		8		12		10		10	1	14		6		12		14		8	
芸術	3		3		1		2		2		2		1		2		1		1	
	3		3		1		2		2		2		1		2		1		1	
その他	3		8		5		3		1		4		3		0		0		1	
	3		8		5		3		1		4		3						1	
合計	203		195		230		214		199		180		197		190		195		174	
	198	5	187	8	227	3	209	5	193	6	179	1	195	2	186	4	190	5	172	2

注：卒業年度00とは2001年3月卒業者のこと



## (3) 千葉東高校卒業生(全日制)の合格者延べ人数

学校名	91		92		93		94		95		96		97		98		99		00	
	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪
帯広畜産大															1					1
北海道大		4	2	3	1	3	2	3	3	7	2	2	1	3	1	4		3		1
弘前大					1			1		1					1					1
東北大	11	6	4	9	6	9	2	4	1	4		3	1	5			2	4	1	2
秋田大		1																		
山形大		1									1	1						1	1	1
福島大														2						
茨城大								1		1			1		1		1		2	
筑波大	1	5	2	4	5	4	4	3	7		2		1	3	2	1	1	3	3	1
図書館情報大								1			1	1								
宇都宮大									3		1			1						
群馬大										1						1				
埼玉大	5	3	6	1	4		2	5	2	2	1	1	1		1	1	2	2		
千葉大	34	16	26	18	33	11	41	18	28	21	34	11	21	7	25	14	32	11	17	15
お茶の水女子大	3	3	2		1		3	3	3	1	1		2	2	2					4
電気通信大	2	1		3	2		1			1		1	2	5		4				1
東京大	1	2	3	1	1	3		3		3				3	1					
東京医歯大	1	1		1	1		1	1			3				1	1	1			
東京外大	7	2	4	2	8	1	3	1	5	3	4		4	1	3	2	2			1
東京学芸大	1	1		1	1	1	4	1		2	3	1	2	1	1	1	2	1	1	1
東京芸大	1	1		1						1					1	1				
東京工業大	4	8	3	14	1	7	4	3	3	6		5	2	3		7	1		2	1
東京商船大		1									1				1					
東京水産大									1	1	1		2		1		1			
東京農工大		1	3	1	3	1	2	1			1	1	2	4	3	4	1	7	1	1
一橋大	3	2		3		2		2	3	2	1	1					1	1		
横浜国立大	4	10	4	10	5	8	3	3	2	3	3	1	4	2	3	3	4	2	3	2
上越教育大															1					
長岡技術科学大																				1
新潟大				1	1					1								1		1
富山大		2	1						1											
富山医薬大									1											
金沢大		2	2	1		1			1			1				1	1			2
山梨大	1													1				1	1	
山梨医大				1						1										
信州大	1	1	3	1	1	1	1	1		1					1			2		
岐阜大											1							1		
静岡大	1					1									1					1
浜松医大						1														
名古屋大		1	2		2	4	2	2			1			2			1			
名古屋工大														1						
三重大										2										
京都大			1			2				3		1								2
京都工芸繊維大			1											1						1
大阪大	1	2	2	1		2	1	1												
大阪外大					1															
大阪教育大	1																		1	
神戸大	1	2				1					3		1							
奈良女子大					1															
鳥取大											1									
鳥取医大													1		1					
岡山大						1		2							1		1			
広島大				1																
山口大												1								
徳島大								1					1				1	1		1
香川大															1					
香川医大																1				
愛媛大	1					2		1		1										
高知大										1										
高知医大				1				1		1										
九州大		1				1													1	
九州芸術工科大			1													1				
長崎大						1														
富崎大										1										
富崎医大										1						1		1		
鹿児島大				1																
琉球大									1	1		1				1	1			



学校名	91		92		93		94		95		96		97		98		99		00	
	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪
はこだて未来大												1					1			
宮城大																				
会津大									1											
福島県立医大		3												1						
茨城県立医療大															1					
高崎経大					2															
埼玉県立大																	1	1		
都立保健科学大													1			3				
東京都立大	5	9	2	5	3	3	1	4	3	2	2	1	1	3	1	3	2	2	2	1
都立科学技術大	2	2		1		1		1							1			1		
横浜市立大	1	4	5	6	2	2	3	6	1	1					2		1	1		
富山県立大								1												
都留文科大	1	1		1									1							1
静岡県立大																				
名古屋市立大						1														
滋賀県立大					1						1									
大阪市立大															1					
大阪府立大		1								1					1					
姫路工大						1														
北九州大		1	1																	

北海道医療大						1				3			2	2		1	2			1
北海道東海大	2	1																		
北海道薬大														2						
酪農学園大									1					1			1			1
千歳科学技術大														1						1
青森大															1					1
岩手医大									1							1		1		
東北福祉大										1							1	1		
常磐大											1			1						
国際医療福祉大								1						1	2		2			1
獨協医大														2	2					1
跡見学園女子大				1				1			1	2	1	1	1					
埼玉医大														1						1
城西大						1														
駿河台大						3														
東京国際大										1										
獨協大	3	2	2		14	1	3	2	6	3	4		4	4	1	1	2		1	3
文教大					2		3					2	2	4	1	3	1			2
文京女子大																				1
明海大					1	2			1			2		1						
江戸川大										1										
川村学園女子大												1								
神田外語大	6	1	5		9	1	7	1	8	1	5		3	1	5		1	3		1
淑徳大								1					3	1			3		2	1
城西国際大												1								
清和大															1					
千葉経大										1						1				
千葉工大	1	1	3	9	2	4	2	6	2	5	1	7	6	7	2	8	7	8	4	2
千葉商大		2				1						1				1				2
中央学院大		1																		
帝京平成大														1						
東京歯大								1		1		1				1			1	1
東京情報大				1																1
東京成徳大																				1
麗澤大			1				3		1	2				3	1		2			
和洋女子大		1	2									1	1					1		1
青山学院大	14	20	19	19	10	22	19	5	19	13	11	7	17	15	7	3	11	5	10	7
亜細亜大	1	9	2	4	2	4	2	6	3	2	3	2	2	4		1				1
上野学園大																				
桜蔭林大		3		2		2				1		1								
大妻女子大			3		4				3	1		2	3							
学習院大	7	10	14	10	9	12	11	7	13	8	10	11	10	15	23	7	20	9	15	13
北里大	1		2	1	6	1	5		5	2	2	4	1	9	1	4	1	3	4	2
共立女子大	1	2	2	2	2	2	3	1	1	4	1	1		1	1		2		2	
共立薬大	2	4	2	5	5	1	4	1	2	1	4	1	1	3	1	1	1	2		2



合格年度	91		92		93		94		95		96		97		98		99		00		
	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	
和光大																					
早稲田大	33	58	26	59	23	56	29	60	22	45	26	48	22	49	24	40	31	32	25	23	
学習院女子大										1			4	7		6		2			
麻布大								1	1	2			2	2		2		1		2	
神奈川大	2	6	1	4	3	4	1	3	4	6	1	2	2	4	1	5	2	3		2	
関東学院大				1				2				1	1								
産能大		1										1		1							
昭和音大														1							
マリアンナ医大		1		1							1										
鶴見大				1		1															
東京工芸大																2		1			
東洋英和女学大	2	1	1	1				2	1	1				3		1					
フェリス女大	3		2	1		1	2	1	2		1		4							1	
横浜商大			1	1																	
新潟薬大														1				1			
金沢医大																			1		
北陸大								1						1				2			
岐阜聖徳学園大					1																
常葉学園大						1															
愛知大		1																1			
南山大					1		1				1						1				
日本福祉大								1						1							
藤田保健衛生大														2							
名城大				1							1	1						1			
大谷大		1																			
京都外大								1							1		1				
京都産大			1															1		1	
京都女子大							1			1		1								1	
京都精華大				1																	
京都薬大												1									
同志社大		7		4		14		13		3		6	1	1	2	1	2	1		2	
同志社女子大													1								
ノートルダム女子		1																			
明治鍼灸大																1					
立命館大	2	5		6	1	14	2	6	2	13	5	9	4	17	3	7	9	7	1	1	
龍谷大											1		1	1							
大阪体育大																					
大阪薬大		1												1							
関西大		1		1		2	2	2		1		1	2	3					1	1	
関西外大	1								1												
近畿大									1					1				2			
摂南大				1																	
桃山学院大								1													
関西学院大	1	1	1	5		4	2		1	4		2	1			1					
甲南大		1		1									1	1							
神戸学院大		1																			
神戸女子薬科		1																			
武庫川女子大																				1	
岡山理大																			1		
川崎医大														1							
吉備国際大																1					
九州国際大								3													
産業医大		1																	2		
西南学院大										1											
福岡大														1							
立命館アジア大																	1			1	
南九州大							1			1											
防衛医科大学校		2		1																1	
航空保安大学校			1	1		1															
国立看護大学校																			2	1	
防衛大学校			1	2					1					2		2				2	
海上保安大学校							1												1		
水産大学校																			1		
筑波大医療技短															1	1					
埼玉県大短大部					1					1					1				1		
千葉衛衛生短	1	1						2		1		1					3		3		
神奈川県衛生短															1						
神奈川県栄養短										1											
山梨県立看護短												1									
京都大医療技短	1																				
九州大医療技短						1															

学校名	91		92		93		94		95		96		97		98		99		00	
	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪
埼玉医大短															1	1	1			
順天堂医療短																		1		
昭和学院短			1																	
聖徳大短大部									2											
千葉明德短																				1
和洋女大短大部								1							1					
和洋女短																				
青山学院女短	6	2	6	2	8	1	3	1	5	1	7	1	4	1	1	1	1		1	
亜細亜大短																				
跡見学園女大短							1		2				1				1			
大妻女大短大部	3		1	2	2		1		1	2	2						1			1
共立女短	3												1		2					
駒澤短													1		1					
駒沢女短													1		1					
産能短									1				1							
実践女短	1										1									
昭和女大短大部											1									
女子栄養大短大											1							1		
女子美術短			2												1					
白梅学園短			1																	
聖徳栄養短														1						
玉川学園女短						1														
東京家政大短														1						
東京農大短大部			1						1					1				1		
東邦大医短										1				2						
東洋女短											1									
東洋大短		1						1				1								
東横学園女子短			1																	
日本大短大部									1					1				1		
文化女大短大部					2															
文京女短																				1
武蔵野女子大短			1																	
明治大短	1	1	3	1	1		5	2	4			2	1							3
立教女学院短	1		1		1		1				1	1								
昭和音楽短														1						
東海大医技短											1									
大谷大短		1																		
京都女大短大												1								
文教女子大短															1					
東洋英和女学短						1														
学習院女短	3	1	2	1	3		4		3		2									
東京女医大看短	1																			

(4) 設置者別合格者延べ数

設置者別	91		92		93		94		95		96		97		98		99		00	
	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪
国公立大	94	101	80	96	85	82	80	79	63	76	65	41	50	56	56	56	63	46	42	39
私立大	327	559	339	575	375	582	415	512	360	504	352	471	410	548	353	377	343	387	333	346
準大		2	2	4		2			1						2				4	4
国公立短大	2	1			1	1		2		3		2			1	3	3	1	3	
私立短大	19	6	20	6	17	3	16	3	19	4	15	11	13	2	8	1	5	3	7	
専門・各種学校		2	1	1	1		3	2	3	2	3	2	4	1	3	2	6	1	5	1

注：合格年度00の現は2001年3月卒業生の合格数、浪はそれ以前に卒業した生徒の合格数

## (5) 2001年度進路年間行事予定

月	日	曜	3 学年	2 学年	1 学年	その他
4	17	火		進路集会(進路部長)		
4	24	火	進路集会(進路部長), 進路志望調査			
5	1	火			進路集会(進路部長)	
5	19	土		保護者進学ガイダンス(ベネッセ)		
5	22	火		進路学習会		
6	5	火			進路適性検査	進路室だより, 進路のしおり発行
6	12	火		進路志望調査		
7	3	火	進路集会(2001年度入試の状況)			3年評定平均算出
7	12	木	校外模試①(記述5教科)	校外実力テスト①(3教科)		
7	13	金	校外模試①	校外実力テスト①		
7	16	月	校外模試①			
8			補習			
9	3	月	3学年進路部打合せ			1・2年進路アンケート
9	4	火	第2回進路志望調査			
9	20	木	校内実力テスト(5教科)	校内実力テスト(3教科)		
9	21	金	校内実力テスト			
9	25	火	センター試験出願説明		進路集会	
9	27	木	校外模試②(マーク5教科)			
9	28	金	校外模試②			
9	29	土	校外模試②			
10	10	水	校外模試③(記述5教科)			センター試験出願
10	12	金	校外模試③			
10	13	土	校外模試③			
10	16	火		進路集会		
10	29	月		校外実力テスト②(5教科)		
10	30	火		校外実力テスト②		
10	31	水		校外実力テスト②	校外実力テスト①(3教科)	
11	1	木	校外模試④(マーク5教科)	校外実力テスト②	校外実力テスト①	進路室だより発行
11	2	金	校外模試④	校外実力テスト②	校外実力テスト①	
11	3	土	校外模試④			
11	6	火	一般入試出願説明(担任)			
12						評定平均算出, 調査書チェック
1	18	金	センター試験直前指導			
1	19	土	センター試験			
1	20	日	センター試験			
1	21	月	センター試験自己採点			
1	29	火			進路志望調査	
1	30	水	出願校調査			
1	31	木		校外実力テスト③(マーク5教科)	校外実力テスト②(3教科)	
2	1	金		校外実力テスト③	校外実力テスト②	
2	2	土		校外実力テスト③	校外実力テスト②	
2	12	火		校内実力テスト(3教科)	校内実力テスト(3教科)	評定平均算出
2	19	月		進路学習会		
3	7	木	合否調査			進路室だより発行



### 三 国際交流

#### 国際交流この十年

国際交流と言っても、その扱う範囲は広い。高校生の海外留学が当たり前のこととなったこのごろでは、一年以上の長期留学への参加者も年々増え、扱う団体も把握できない程になる。長期留学については基本的に個人で行うものであるため、ここでは、本校が学校全体として取り組んでいる、姉妹校との短期留学の記録のみを残すこととした。

この十年を振り返ってみると、本校の国際交流は、ニューヨーク州ロチェスター市のイロンデクォイト高校との交流に象徴される。十一年間という長い期間にも及ぶ同一校との姉妹校交流は他に例を見ない。

以下、年を追ってイロンデクォイト高校との交流から、これに続くものとしてスタートしたクラークストン、フォートヘイズ両校との新たな交流までの様子をたどってみたい。

#### 平成四年度

受け入れ なし

派遣 ①平成五年

一九九三年 三月

米国ニューヨーク州、

ロチェスター、

イロンデクォイト高校

引率…菅野 政敏

(英語科)

生徒 十二名



#### 平成五年度

受け入れ ①平成五年

一九九三年 七月

米国ニューヨーク州、

ロチェスター、

イロンデクォイト高校

引率…ジャクリン・ムーニー

生徒 四名

派遣 ①平成六年

一九九四年 三月

米国ニューヨーク州

ロチェスター、

イロンデクォイト高校

引率…池田 和夫

(英語科)

生徒 十二名



平成六年度

受け入れ ①平成六年

一九九四年 七月

米国ニューヨーク州

ロチェスター、

イロンデクォイト高校

引率…ジエイムズ・キンセラ

ヘレン・キンセラ

生徒 六名

派遣 ①平成七年

一九九五年 三月

米国ニューヨーク州

ロチェスター、

イロンデクォイト高校

引率…坂本 光雄

(英語科)

生徒 十二名



平成七年度

受け入れ

なし(この年度は姉妹校からの来校がなかったため、J F I E の紹介で米国テキサス州のジョンストン高校より、教員二名、生徒三名を六月に一週間受け入れた。)

派遣 ①平成八年

一九九六年 三月

米国ニューヨーク州、

ロチェスター、

イロンデクォイト高校

引率…矢代 正人

(体育科)

松本 孝

生徒 十六名

(英語科)

平成八年度

受け入れ なし

☆ このころ、日本の円高による影響で、米国からの交換留学生の数が減少し、受け入れなしの年が続いたため、オーストラリア(以下、豪州)との交換留学を行う。



派遣

①平成八年

一九九六年 八月  
ビクトリア州、  
豪州メルボルン、  
ビューバンクカレッジ

(高校)

引率：池田 和夫

(英語科)

菅野 政敏

(英語科)

生徒 十六名

②平成九年

一九九七年 三月  
米国ニューヨーク州、  
ロチェスター、  
イロンデクォイト高校  
引率：大谷 芳孝

(地歴科)

内田久美子

(英語科)

生徒 十六名



平成九年度

受け入れ ①平成九年

一九九七年 七月

米国ニューヨーク州、

ロチェスター、

イロンデクォイト高校

引率：パトリシア・ブラジル

生徒 九名

I 高との交流十周年

東高で日米高校交流プログラムが始まったのは、今から二十四年前のことです。最初の姉妹校はカリフォルニア州のブクサー高校で、派遣は五回、受け入れは三回ありました。次にペンシルベニア州のチャールズ・ボエム高校とメデルベア高校へと移り、派遣のみ四回ありました。次はヴァージニア州のトマス・ジェファソン高校で、派遣が一回、受け入れは二回でした。現在のニューヨーク州のイロンデクォイト高校は、姉妹校交流を始めて今年でようやく十年目を迎えることになりました。本校からの派遣は毎年続いており、昨年より派遣生の数も少し増えました。一方、交換留学生の受け入れは経済的な事情や関心度の違いなどもあり、途絶えた年もありました。十年間の派遣と受け入れの数には幾分偏りがありますが、多数の生徒と教員を交換し、友情を深めると同時に、さまざまな文化交流を通して相互理解を進めてきました。

(池田和夫・国際交流新聞 第十号 平成九年六月)

☆ しかしながら、この交流は十一年間で終わることになる。



派遣 ①平成十年

一九九八年 三月

米国ニューヨーク州、

ロチェスター、

イロンデクォイト高校

引率…大迫 太

(理科・生物)

古水 裕之

(英語科)

生徒 十六名



I 高との交流中止

今年度は米国イロンデクォイト高校との交流ができなくなりました。十一年間もの長期にわたって交流プログラムを担当してくださったジョージ・ハマスレー先生が事情でおやめになったからです。この間、東高の生徒一四〇名、教員一四名を受け入れてもらい、また交換生徒三〇名、教員七名を派遣してもらいました。相互にホームステイをし、授業に参加したり、フィールド・トリップなど、さまざまな交流活動を通して、両校と両地域間の親交を深め、相互の異文化理解を進めてきました。本校の卒業生の中にはこの短期留学がきっかけになり、再びロチェスターを訪れたり、アメリカの大学に留学したりする人もいます。長年にわたるハマスレー先生の御尽力に感謝の意を表しましょう。

(池田和夫・国際交流新聞 第十二号 平成十年十一月)

イロンデクォイト高の思い出

東高のプログラムで留学を体験した卒業生が再び個人で姉妹校関係者を訪れる、という話をよく耳にする(時には同級生まで連れて!)。十二年間の交流実績があったイロンデクォイト高校のある町、ロチェスターには、引率も含めて三回行ったことがあるが、過去の留学生たちの努力で、いつ行っても東高生たちの評判はすこぶる高い。第二次大戦で日本と戦った経験を持ち、初めは日本に対して複雑な思いを持っていた一人の老人が、毎年毎年近所に訪れるホームステイの東高生たちを見るうちに、日本人に対しての見方を変えた、という話も聞いた。これこそ、東高の国際交流のように、長い年月にわたる草の根レベルの交流でしか成し得ないことだと私は思っている。ロチェスターの町では「チバヒガシ」は、正に日本という国の代名詞なのである。

(内田久美子・PTA会報 第一〇六号 平成十三年三月)

平成十年度

受け入れ なし

派遣 ①平成十年

一九九八年 八月

豪州、

ニューサウスウェルズ州、

ヴィンセンチア高校

引率…大谷 芳孝

(地歴科)

鈴木 宏

(地歴科)

生徒 十六名



☆ イロンデクオイト高校に代わる高校として、ニューヨーク市にある女子校メアリーマウントスクールと姉妹校交流を始めるが、派遣、受け入れを各一度ずつ行つた後、相手校の都合で終了してしまつた。

②平成十一年

一九九九年 三月

米国ニューヨーク州、

ニューヨーク、

メアリーマウントスクール

(高校)

引率…布施 明人

(英語科)

生徒 十名



平成十一年度

受け入れ ①平成十一年

一九九九年 六月

米国ニューヨーク州、

ニューヨーク、

メアリーマウントスクール

(高校)

引率…ジュリー・フィニガン

生徒 十名



②平成十一年

一九九九年 九月

豪州ビクトリア州、

ビューバンクカレッジ

(高校)

引率…ケイ・マッケンズィー

生徒 四名



☆ 新たに見つかった姉妹校はミシガン州、クラークストン高校であるが、相手校の希望で隔年交流しかできない。

派遣

①平成十二年

二〇〇〇年 三月

米国ミシガン州、

クラークストン、

クラークストン高校

引率…橋本 眞

生徒 十名

(英語科)



☆ ようやくもう一つの姉妹校が見つかる。



長く続いた前姉妹校のイロンデクォイト高校との交流が継続できなくなっ  
て以来、毎年交流できる新たな姉妹校探しが懸案であった。昨年の派遣先ク  
ラークストン高校は隔年の交流希望を申し出ており、今年は派遣できない。  
何とかクラークストンとの間を埋める条件で交流できる姉妹校はないかと、  
幹旋団体を通じて探した結果、ようやくフォートヘイズ高校に決定した。こ  
れでこれから先は、姉妹校二校との交流が行えることになった。具体的に言  
うと、二〇〇一年春 フォートヘイズへ派遣、二〇〇一年夏 クラークスト  
ンより来校、二〇〇二年春 クラークストンへ派遣、二〇〇二年夏 フォー  
トヘイズより来校という具合に、このパターンを繰り返し、続いていく予定  
である。  
(内田久美子・PTA会報 第一〇六号 平成十三年三月)

平成十二年度

受け入れ なし

派遣 ①平成十三年

二〇〇一年 三月

米国オハイオ州、

コロンバス、

フォートヘイズ高校

引率：内田久美子

(英語科)

生徒 十名



平成十三年度

受け入れ

①平成十三年

二〇〇一年六月

米国ミシガン州、

クラークストン、

クラークストン高校

引率：バーバラ・ライス

生徒 四名



派遣(予定)

平成十四年／二〇〇二年 三月

米国ミシガン州、クラークストン、クラークストン高校

引率一名、生徒十名派遣予定

(文責・内田久美子)

☆ 追記

平成十四年三月の米国派遣は、同十三年九月十一日の同時多発  
テロ事件の影響で、残念ながら募集中止となってしまった。

#### 四 特別教育活動

全日制課程

##### 【文化系部】

##### 文学部

顧問 宇藤 八重子・谷島 直美

主な活動内容は、年に一回、東雲祭での、文学部発表場所「東風書院」で発表の、(販売もする)文学部誌『かんばねら』と、小型の、装丁もなかなか美しい詩集の発行である。どちらも、部員自らが、原稿を書き、編集し、夏休みの暑い中、汗を流しながら黙々と印刷し、手作業で一冊ずつ心をこめて製本したものである。小さな製本機も購入したが、今のところ、手作りの暖かさの前に、機能を發揮していない。市立高女時代から活動を開始した伝統の文学部は、今日までにも、多くの同人誌を上梓し続けて来た。昭和二十七年から『小径』をオフセットで発行、並行



東雲祭での東風書院



発行中の部誌

して『壁嶺』、手刷りの『原点』等がある。他に多くの個人誌が発行されている。これらの、既に黄ばんで古びた同人誌は、貴重な時代の証言集でもあり、当時の生徒の息づかいが伝わって来る。文芸評論などの力作もある。現在の『かんばねら』は、昭和六十三年に以前の同人誌が、名称を変え、今日に引き継がれたものである。(名前の由来は、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』のカンパネラからではなく、イタリアの哲学者の名前から取ったもの)。かつての『小径』より、版も大きく厚くなり、すべて手作りのものとなっている。

部員は、総勢二十名。日々活発に活動している。原稿は、ほぼ部員全員が自分のパソコンで書いている。手書きがりばん印刷時代を考えると、こういうこともまた、隔世の感がある。また、今後もパソコンを使った新たな活動の幅が広がる可能性もある。ほとんどの部員はペンネームを用いているが、本名で掲載している者もいる。『かんばねら』はまた以前の同人誌の、文学を愛する精神を引き継ぎ、小説、詩、短歌などを意欲的に創作し連載している。一九九九年と二〇〇〇年の誌には、徹底的に調べ、見て書いた「戦争」に関する素晴らしい記録も載っている。

活動場所は、通信棟二階の一室を、漫画研究同好会と一緒に使わせてもらっている。漫画研究同好会と合同で、昨年、平成十二年十一月から月刊部誌『じょばんに』を創刊。志は、「年一回であった部誌発行を毎月にする」ことで、作品の発表の場を広げ、部員の技術向上を図るものです。部誌は無料配布します。部員以外の方からの投稿も大歓迎である。図書室のご好意で、雑誌コーナーに置かせてもらっているが、一週間程度で無くなるほど順調である。今後この勢いで、息の長い部誌となってくれるように願うが、諸事情により現在は隔月刊となっている。四月には、新入生歓迎「じょばんに」を発行している。文学部の存在をアピールするために、春休みに部員が努力して作成するのだが、急激な部員増とはならない。文学部の歴史の中では、部員減少のため、活動休止とい

う時期もあったが、それも乗り越え、連綿と文学部が活動し続けた意義は大きい。その時代を、本校で過ごした同じ年代の生徒たちが、どういう気持ちで、何を考えながら青春を過ごしたかの実に貴重な記録でもある。後の者たちへ先輩から伝えるメッセージである。連綿と引き継がれた文学への志の火を絶やすことなく、続いていくことを願うばかりである。

(文責・宇藤 八重子)

## 物理部

顧問 阿部 雅人・田島 洋一

物理部はこの十年間で大きな変化を迎えました。七〇八年前までは、五十周年誌にもあるように「アマチュア無線の技術とコンピュータ技術の習得を目的」とし、年に二回のアマチュア無線コンテストに参加するなど、活発な活動が行われていました。

その後、アマチュア無線を趣味とする生徒が少なくなり、活動の中心はアマチュア無線からコンピュータに変わっていきました。(三〇四年前まで)しかし、物理部には旧型のコンピュータはなく、また予算も少ないため新型のコンピュータを購入することもできない状況ではコンピュータを使いたい生徒の目的には魅力的な部活動には写らなかったようです。また、当時最新のコンピュータが導入されたエアコン付きのコンピュータ室が整備され、コンピュータ同好会がそこを活動場所にして本格的に活動を開始したのも、物理部から生徒が消えた原因の一つと考えられます。

そして今年度は、とうとう部員がいなくなっていました。また、無線機やアンテナの老朽化が激しく、とうとうアンテナまでおろさなくてはならない状況にまでなっていました。今後は、アマチュア無線免許(コールサイン「J1AMSXG」)の更新を続け、免許の維持を図る一

方、無線、コンピュータ以外の、「物理」に目を向けた物理部を目指して活動していきたいと思えます。

これまで、物理部をご支援くださいました皆様方、誠にありがとうございました。今後ともどうかよろしくお願いいたします。

(文責・阿部 雅人)

## 化学部

顧問 林 久雄・曾野 学

化学部では、実験好きの部員たちが、「何事もまずやってみよう」ということをモットーに、いろいろな化学反応や物質合成、環境測定等を、日々試行錯誤を繰り返しながら行っている。

本校の化学部は、日本学生科学賞第一等多くの受賞歴を持つ、伝統のある部である。この十年間、部員不足のためにまとまった研究ができない年もあったが、全体としては、伝統を受け継ぎ、着実に部としての歩みが続けてきた。

化学部の通常の活動は、各自がテーマを決めて実験を行い、その結果を部誌「MOL」にまとめ、東雲祭等で発表することである。そこで、この十年間の活動をたどるために、「MOL」から研究テーマをピックアップしてみる。

ケミカルガーデン、花火作り、テルミット反応、めっき

カルメ焼き、食品と化学物質、液晶、亜鉛の酸化、金属樹

蛍光体、エステル、酸性雨

これらのテーマからわかるように、各人の興味にしたがって、楽しい実験、新材料、環境問題、身近な現象などの多岐にわたる研究を、思い思いに行っている。この好奇心の広さと、自由度の高さが、東高化学部の特徴である。また、数年にわたる研究(酸性雨の研究など)や、相当詳しく定量的に実験・考察している研究もあり、手間のかかる実験を地

道に行ってきたことが伺える。

現在は、一年生が二人、二年生が五人の計七人の部員が在籍している。まだ地方を養っている段階であるが、部員の探究心は旺盛で、電気を通すプラスチックの合成に取り組むなど、熱心に活動している。今後は、面白い実験を行ったり、授業での疑問点について調べることはもちろんのこと、次のようなテーマについて、継続して研究していく予定である。

種々の機能性高分子、非線形現象（振動反応など）

酸性雨、コロイド溶液の性質と分散および凝集

本来、科学は楽しいもの（欧米ではもともと趣味的なものとして行われていた）であり、化学部の目標も、まずは、実験を通じてさまざまな自然現象を楽しむことにある。また、発見する喜びを体験したり、現象に潜む美しさや複雑さを感じ取ることも、部員にとって貴重な経験になるに違いない。白川博士が初めてポリアセチレンのフィルムを合成でき



化学実験室にて

たのは触媒の濃度を千倍も間違えたからというの有名なエピソードだが、このように、科学上の発見は、偶然がきっかけであることが多い（自然現象は、人間の予測を超えている）。我が化学部も、自然から教わるという気持ちを忘れずに、また、何かのきっかけで思いもよらぬ成果をあげることがを夢見て、今後も粘り強く探究を続けていきたい。

（文責・曾野 学）

## 生物部

この十年間の生理部の活動の中では、平成二〇五年と平成九年、十二年は多数の部員が入部してくれたのでにぎわった。最も多かったのは、平成九年度で、一年生と二年生を合わせると二十五名にも達した。生物部の部員と顧問のこれまでの日々の様子を伝えることで、この十年間の生物部の活動の記録としたい。

生物部としての活動は、それぞれ個人の活動を中心として行った。例えば、モウセンゴケの繁殖と水質の関係、ベンケイソウの増殖の観察、ニンジン組織培養、磯の生物を採取して室内の水槽で飼育観察、イモリの飼育観察、ウサギの飼育観察、窓際にくるメジロの観察、そして、なぜか流星群の観察などがあった。

生物部としての活動の基本として、それぞれが感じる身近な自然、生き物、あるいは身近な生活の中のいろいろな不思議なことを観察することとした。そのため、部としてのまとまったテーマによる継続的な研究活動は行わなかった。

イソギンチャクなど磯の生き物を身近に観察するために、千葉港に採取に行ったり、また、市原の谷津田にイモリを採取に行ったりした。イモリは、その後生物教室の水槽の中で五年目を迎えている。

天津小湊の磯の観察は、五月の大潮のときに日帰りで出かけた。磯で



顧問 木村 孝康

天津小湊にて磯観察会（H5.3卒業生）

はサザエなどがたくさん捕れて喜んでいたら、漁業権があるということで監視人の指導ですべて海へ戻さなければならず、残念だった。タイドプールに落ちてずぶぬれになったりした生徒もいたが、インダタミガイなどを入れて作ったみそ汁はおいしく、楽しい一日を磯で過ごした。

夏休みには、観察旅行をかねて合宿を行った。蓼科高原、伊豆大島、館山などに夏の合宿で出かけたが、部員の数の都合で、定期的に行うことができなかった。館山の北条海岸はウミホテルが多量に採取できるとして全国的にその方面では有名な場所である。暗闇の中、青白くエメラルド色に光り、動く小さな輝きが海から引き上げられると、みんなその美しさに感嘆の声を上げていた。

尾瀬への合宿は、顧問のトラブルによって直前に中止となったが、今となっては最後の生物部の合宿となったかもしれないので、残念だった。バイオテクノロジーのブームということもあって、組織培養の基本にチャレンジした。材料として定番のニンジンを使い五十セットほど準備したが、ほとんどカビたり、途中で分裂が止まったりしてしまっ

た。滅菌するための道具不足や、無菌操作の未熟さなどが、失敗の原因となった。失敗も貴重な体験さ！

焼き芋の研究(?)では、よりおいしく作るために石焼き芋に挑戦し、遠赤外線の効果調べた。

ウサギは、二年間ほど生物室で飼育したためか、多くの生徒たちの癒しのペットとなっていた。

(文責・大迫 太)



生物実験室にて (H 12. 3 卒業生)

## 音楽部



顧問 小川 巧・小久保 法子

長らく音楽部の顧問をなさり、輝かしい実績を重ねられた井辻紀一教師の転勤で、平成四年度より講師の榎本潤氏の指導になりました。その後五年間、平成八年度までピアニストとして多忙中、熱心な指導により全日本合唱コンクール全国大会に二度も出場できたことは、音楽部にとっては大切な財産となりました。

十年前九十名以上いた部員も、ここ数年は半減し、特に男子部員の確保に苦労しています。しかし、千葉県内の高校生による混声合唱団が減少している現状の中、今後も混声合唱を続けたいと努力しています。

活動内容は以前から殆ど変わっていません。毎年三月に開催する定期演奏会をはじめ、千葉県合唱祭、連合音楽会、地区音楽会に出演しています。少年芸術教室にも二回招かれ、全国高等学校総合文化祭(平成五年)にも出演しました。部員にとって励みとなるコンクールにおいては伝統の強みもあってか多くの賞を受賞しました。この十年の主なコンクール結果は次のとおりです。

○全日本合唱コンクール

平成四年度 全国大会出場 銀賞受賞

平成五、六年度 二年連続関東大会出場 銀賞受賞





- 平成七年度 全国大会出場 銅賞受賞
  - 平成八年度 関東大会出場 銅賞受賞
  - 平成九年度 関東大会出場 銀賞受賞
  - 平成十年度 関東大会出場 銅賞受賞
  - 平成十三年度 関東大会出場 銅賞受賞
- NHK全国学校音楽コンクール
- 平成四年度 全国大会出場 銅賞受賞
  - 平成五、六年度 二年連続関東甲信越コンクール出場 奨励賞受賞
  - 平成八、十三年度 六年連続関東甲信越コンクール出場 奨励賞受賞
- 千葉県アンサンブルコンテスト
- 平成五年度 金賞・教育長賞受賞
  - 平成八年度 金賞・教育長賞受賞

平成九年度 銀賞受賞

平成十年度 二チーム出場 金賞及び銀賞受賞

平成十一年度 金賞・教育長賞受賞

平成十二年度 二チーム出場 金賞二・教育長賞一受賞

これまで多くの人々から賜りました種々のご指導、ご協力に厚く御礼申し上げます。

(文責・小川 巧)

## 美術部

顧問 嘉村 英子・細川 信

九月の東雲祭、十一月の総合芸術祭が発表の場で、一年間の活動はこのイベントを中心に展開している。

四月……ポスター、ピラ制作。新入部員、男子部員が何人入るか、毎年部の存亡がかかっているので真剣。

五月……新入生歓迎会及び、美術部伝統の四〇号油彩画制作が始まる。一年生もベニヤと材木を使って初めてのキャンパス作りに張り切る。

六月……いよいよ、東雲祭に出品するための作品制作にとりかかる。

七月……生徒会より依頼された東雲祭のポスター作り。シルクスクリーン印刷の力作ポスターを限られた予算の中で制作。

八月……油彩画制作が佳境に入る。

九月……東雲祭・作品展

十月……総合芸術祭作品制作

十一月……総合芸術祭出品

十二月……大きな行事も終わり

～ ほっと、一息。

三月……自由制作に励む。



3年 野村 優子



3年 友成 静穂

以上が一年間の活動状況である。東雲祭、総合芸術祭ともに、コンクール形式ではないので、実績や記録など華やかなものはないが、平成十二年度に総合芸術祭の静岡大会に県の代表として二名参加したことは、生徒にとっても、部にとっても、とても実り多く、有意義なことであった。これからも、地道な活動を通して、美術大学への進学、あるいは、広く造形感覚をみがき、より良い友人関係を育み、美術的な生涯学習の基礎を培う生徒が一人でも多く増えてゆくことに、顧問としての喜びを感じながら活動してゆきたいと思う。

(文責・嘉村 英子)

書道部

顧問 林 一己・大塚 好輝

千葉東高校には平成二年四月より平成十二年三月まで十年間お世話になりました。その十年間の書道部の活動並びに書道展出品の成績等をここに綴ります。書道部の活動としては、文化祭、高校芸術祭が発表の場となります。又、展覧会では夏に行われる小中高校席書大会、冬の書初大会、成田山競書大会などに出品しました。特に展覧会では個人賞ですばらしい賞を授賞いたしましたので年ごとにまとめてみました。



奥野 知沙



齋田 早希

小中高校席書大会

小中高校書初大会

- |            |                 |         |                 |
|------------|-----------------|---------|-----------------|
| 平成二年八月二十七日 | 最高賞知事賞 一年 村山 和郎 | 平成三年一月  | 最高賞知事賞 一年 村山 和郎 |
| 平成四年八月十九日  | 最高賞知事賞 三年 貝瀬 隆男 | 平成四年一月  | 最高賞文部大臣賞        |
| 平成五年八月十九日  | 三位県会議長賞二年 時田 博之 | 平成五年一月  | 三位県教育長賞三年 渡辺 一博 |
| 平成六年八月二十日  | 二位教育長賞 三年 時田 博之 | 平成六年一月  | 書星会長賞 二年 時田 博之  |
| 平成八年八月十八日  | 最高賞知事賞 三年 山下不二美 | 平成八年一月  | 書星会長賞 一年 黒瀧 慎子  |
| 平成九年八月十七日  | 三位県会議長賞一年 笹本 美香 | 平成九年一月  | 最高賞文部大臣賞        |
| 平成十年八月十六日  | 書星会長賞 二年 小池 和央  | 平成十年一月  | 五位美術会長賞一年 佐藤 宜子 |
| 平成十一月八月十九日 | 最高賞知事賞 二年 谷川 陽子 | 平成十一年一月 | 二位知事賞 二年 笹本 美香  |
|            |                 | 平成十二年一月 | 三位県教育長賞二年 齊田 早希 |

以上の通りで、とてもすばらしい生徒の皆さんでした。

(文責・宮負 一昭)

## マンドリン楽部

顧問 片岡 勝規・木村 孝康・廣井 修司

千葉東高校マンドリン楽部は、年に一度の定期演奏会を中心として年間の活動が実施されています。その定期演奏会は、昭和三十八年に第一回が開催されて以来、衛生看護科が設置された昭和四十一年も、生徒心得九条問題に関わって校舎がバリエード封鎖された、昭和四十四年の学生運動の時代も含めて、毎年欠かさずことなく続けられてきました。そして、来年、二〇〇二年には記念すべき第四十回の定期演奏会を迎えることとなります。昭和五十二年から、定期演奏会は千葉市民会館を会場としてきましたが、市民会館の改装にともない、次回は約三十年ぶりに千葉県文化会館大ホールにて開催の予定です。

マンドリン楽部の運営については、OBの先輩方のアドバイスを受けながら、部員たちが自主的に活動することによって四十年以上にわたる部活動の伝統を受け継いできました。その活動の様子は、十年前の顧問の吉田正先生によって、五十年史に詳しく書かれておりますが、夏休みの合宿がなくなったこと以外ほとんど変わっていません。以下、最近十年間のマンドリン楽部定期演奏会のデータを記載します。

第三十回 平成四年六月四日 出演人数 七十人

部長 本田譲、指揮 日野原孝夫、竹内拓也 コンサートマスター (CM) 鶴岡隆之

第三十一回 平成五年六月二十五日 出演人数 六十七人

部長 佐藤将年、指揮 竹内拓也、岡部貴士、CM 水田貴子

第三十二回 平成六年六月九日 出演人数 四十六人

部長 橋爪毅大、指揮 堀伸平、井坂哲、CM 高橋雅美

第三十三回 平成七年六月二十二日 出演人数 四十六人

部長 西田孝史、指揮 井坂哲、東知宏、CM 梶田準也

第三十四回 平成八年六月二十日 出演人数 四十五人

部長 長谷川学、指揮 東知宏、神山洋、CM 牧野貴臣

第三十五回 平成九年六月十九日 出演人数 三十二人

部長 岡野智朗、指揮 神山洋、CM 赤羽純子

第三十六回 平成十年六月十七日 出演人数 二十九人

部長 佐藤仁哉、指揮 福寿房絵、松井仁司、白崎和也、CM 藤平文

第三十七回 平成十一年六月十七日 出演人数 三十三人

部長 小島哲朗、指揮 白崎和也、白神亘、CM 石井育美

第三十八回 平成十二年六月七日 出演人数 五十二人

部長 海老原亮、指揮 白神亘、三浦雅己、CM 藤原恭子

第三十九回 平成十三年六月十二日 出演人数 五十五人

部長 安井健人、指揮 三浦雅己、川久保祥子、児島亮介、CM 杉安直美

(文責・片岡 勝規)



## 吹奏楽部

顧問 鶴沢 勝・久保田 信子・沢田 健

千葉東高校吹奏楽部にとって最大の行事である定期演奏会は、本年は五月五日に千葉市民会館で開催されました。この定期演奏会も今回で二十九回を数え、来年度は節目の三十回を迎えることとなります。

現在の部員数は、四十七名、そのうち男子は九名で、最近の傾向か、男子が少なくなっているのが目立ちますが、部全体の雰囲気は、明るく、音楽を楽しんで行う意識がサウンドにも現れているのではないかと思います。年間の活動を簡単にまとめると、四月には新入生歓迎のミニコンサートがあり、四月末または五月初めに定期演奏会、八月には吹奏楽コンクール出場があります。定期演奏会で三年生が引退となるため、一、二年生のみによる演奏というハンデがありますが、定期演奏会とやらんで部員が燃える行事です。九月には東雲祭のステージ発表、十二月にはクリスマスコンサート、これについての形式は、校外発表・校内発表あるいは部活動内と様々です。本年度はぜひ校外で演奏技術を発表したいと考えているところです。冬休みが終わると、新年度の定期演奏会の準備練習が始まります。



こういったサイクルで年間の活動が行われています。千葉東高校は通信制併設の高校で音楽系の部活動が三つあり、部員数や練習場の確保の点で難しい面もありますが、その中で、理想のサウンドを求める部員の姿勢は、今も昔も変わっていないのではないでしょう。 (文責・鶴沢 勝)

## 食物手芸部

顧問・長嶋 由美子

部活動は、毎年文化祭を成功させる事に主眼をおき、一年間いろいろなお菓子等の試作を重ね、他の食物団体とは違った手作りの、心尽くしのものを賞味して頂くことが部の心情です。

週一回の活動ですが、オリジナルから流行のクッキー・ケーキなど試作し、夏休み中は数日間、朝の九時から夕方遅くなるまですべてのオーブンを点火し、気温三十度が更に上って調理室で種類のケーキを約三十〜四十台焼き、荒熱を取りホイルで包み、衛生管理上ラップで包み冷凍庫へ、また湿気が気になる薄いクッキーが人気の年は、文化祭の三日前に二百〜三百枚焼き、シリカゲルを使いデリケートなクッキーの保管に苦労したり、部員一同文化祭を乗り切ってきました。

部員は十数名で、最近減少しつつではありますが、文化祭の喫茶店では、家庭的な雰囲気でも賞味して頂き、「お持ち帰り」のケーキ・クッキー等も人気があり、安くて美味しい手作りお菓子を喜んで買って頂き好評でしたが、食中毒O157が発生した年の夏休み下旬、校内の衛生関係者会議で「食」の発表は中止、それを境に「お持ち帰り」が禁止、そして危険な食材使用の禁止、世の中の流れで今まで長く続いてきた、ケーキ・クッキー作り、販売禁止となり、発表内容を検討し日本の食文化の原点となる醤油を使用した「牛丼」がデビューしました。

約百人分を用意し、不安一杯の生徒たちでしたが、開店すると長い行列そして完売。その後毎年牛丼を発表することになりました。

これから先も、衛生面に気をつけて好きなものを作る喜びを知り、家庭的な部活動が続くことを願っています。 (文責・長嶋 由美子)



放課後、通信棟二階の五十一番教室に於いて、ALITに月一回程度参加してもらって行う活動が中心であった。クイズやいろいろなゲームをしながら英語を話す練習をしたり、テーマを決めて英語で話し合いをしたり、ALITの出身国の話、日本の食べ物や年中行事の説明、休みの過ごし方、学校生活、海外経験などについてお互いに意見を交換した。英語での会話に抵抗感がなくなり、多くのことを話せるようになることを目標に活動を継続した。しかし、ALITの参加の無い日本人だけの活動は難しく、「文化比較の英会話」などのテキストを使用したりして、英語の聞き取りを練習した年もあった。

部員の中には交換留学を希望する生徒も多く、姉妹校国際交流行事などでは中心となり、積極的に活動した。

平成十二年からはALITの来校がなくなり、平成十三年度現在は部員がいないため活動は行っていない。

この十年間の顧問、及びALITは次の通りである。

## 顧問

## ALIT

平成四年度	清水 攻、池田 和夫	ケヴィン・ウツノミヤ
平成五年度	辻村 民雄、池田 和夫	キンバリー・サンチャゴ
平成六年度	辻村 民雄、池田 和夫	キリンバー・サンチャゴ
平成七年度	辻村 民雄、池田 和夫	ティム・ウィルス
平成八年度	辻村 民雄、池田 和夫	ロバート・スラットキン
平成九年度	辻村 民雄、池田 和夫	キャシー・ピーターソン
平成十年度	辻村 民雄、池田 和夫	マイケル・アンダーソン
平成十一年度	池田 和夫、橋本 眞	ジェイソン・ボズ
平成十二年度	橋本 眞、佐藤 啓之	
平成十三年度	内田久美子、佐藤 啓之	

(文責・内田久美子)

写真部の活動は全体として地味である。中心となる活動場所は特別棟三階の化学実験室脇にある暗室で、部員数は年によって波はあるが、大まかに言って、少人数でこぢんまりとやっている。実際の活動については自由度が大きく、各部員それぞれのペースで活動をしている。多方面に興味を示し、写真部以外のさまざまな活動に取り組む者もあり、兼部している部員も少なからずいる。

活動の主な内容は、写真の基本的な知識の獲得、写真撮影、フィルムの現像・プリント、作品の展示といったところである。年によって具体的に行われる活動は異なるが、写真撮影では、個人個人単独で撮影を行うばかりでなく、いろいろな土地へ撮影旅行を企画したりもする。フィルムの現像・プリントは、白黒写真が中心となるが、カラー写真を扱える器具がそろっており、それにも挑戦している。最近では、写真もデジタル化の波が押し寄せてきており、パソコンを使い、デジタル画像への取り組みを積極的に行っている者もいる。作品の展示は、秋の東雲祭での発表が中心となるが、春に二階中央廊下にも展示している。その際には、部員の個性あふれる作品が並び、それ以外、そのときのメンバーによってさまざまな活動をする。

写真部の所有する機材は徐々に増え、たとえば部の所有する一眼レフカメラは三台あり、デジタルカメラも一台ある。カラー写真まで扱える暗室用品もある。しかし、これらの



平成13年度 部員



機材をどのように使いこなしてゆくか、どのような活動を部として行ってゆくのかなど、活動の流れを先輩たちに十分うまく引き継がないときがある。ここが少人数の部活動の悲しいところである。これまで培ってきた活動内容や技をうまく伝え、流れを絶やさずに、活発な活動を維持してゆけることを願うばかりである。

平成十三年度においては、一年二名、二年六名の計八名で活動をして  
いる。  
(文責・細川 信)

### 茶華道部

顧問 武藤 守夫・善養寺 千秋・菱木 みどり

平常の練習は、週二回、月曜日と金曜日に宮内美智子先生(華道家元池坊華道教授 宮内香風)の指導で、茶道については、すわり方・歩き方・ふすまのあげ方・用具の扱い方・茶のたて方などの基本を練習しています。

一方、華道については、盛花・自由花・生花正風体・生花新風体を、文化祭の前に練習しています。

現在、茶華道部の部員は、毎年三十名位でとても熱心に活動しています。文化祭では全員浴衣を着て訪れた人をもてなします。普段の練習は礼法室で行います。校内において礼法室は一種独特な雰囲気のある場所です。放課後のひととき、お茶を立てて広い茶室に抹茶の香り、そしてここが学校である事をしばし忘れてしまうような空間となり、なんとも言えず心が和む瞬間です。



茶会の心について少し考えてみたいと思います。

こうした時代にあっても、人を厚くもてなし、人に対する心配りを大切にし、招いた人と招かれた人、または招かれた人どうしがお互いに心を遣いながら、同座しているすべての人たちが、万事に心穏やかになるよう配慮する生活文化が茶道であります。

そのためには準備と後味末を万全にし、たとえ同じ人間が何度集まったとしても、生涯で一度しかない会だからという気持ちで茶会を開くのが茶道で最も大切なところということが出来ます。「一期一会」とは、こうした茶の心を表現したことばなのです。

これからも宮内先生の御指導を中心とし、忘れかけられている相手をお願いするという、日本人の大切な心を、茶華道を通じて伝えていければ幸いに思います。  
(文責・武藤 守夫)

### コンピュータ部

顧問 佐藤 啓之・阿部 雅人

田島 洋一・勝又 邦夫

一、歴代の顧問名・部員数  
(コンピュータ同好会)

平成三年度	渡辺 陽・大迫 太	十七名
平成四年度	〃 〃	十五名
平成五年度	〃 〃	七名
平成六年度	大迫 太	二十五名
平成七年度	大迫 太・田島 洋一	二十三名
平成八年度	〃 〃	十名
平成九年度	〃 〃	十三名
平成十年度	〃 〃	二十名
平成十一年度	〃 〃	十二名

平成十二年度 大迫 太・田島 洋一・佐藤 啓之 八名  
《コンピュータ部に昇格》

平成十三年度 佐藤 啓之・田島 洋一・勝又 邦夫・阿部 雅人 十四名

## 二、活動の内容

初期には、生物教室（現生物実験室）に導入したNEC PC9801UV-9を活用して、BASICによる自作プログラム作成が主な活動で、ゲーム作り等を楽しんでいた。平成五年度にコンピュータ室が整備されると、活動の拠点はコンピュータ室（旧生物講義室）に移ることになる。その後は、文化祭での発表や新入生歓迎行事での作品展示などを核に、部員各自が得意な分野での力を発揮している。一人一人のスキルが高く、かなり高度なレベルの活動ができるのが、東高パソコン部の特徴である。

平成八年度頃には、パソコンと音楽の融合を図り、MIDI (Musical Instruments Digital Interface) に熱心に取り組んだ時期もあった。

また、平成十

一年度には、力のある部員が活動をリードし、新聞委員会との活動とリンクする形で、本格的なDTP (Desktop Publishing) に取り組み、「千葉東高新聞」を月に一度の割合で発



千葉東高新聞

行した。その内容は学校生活の多岐にわたり東高の生徒の活動を紹介したり、問題提起をしたりするもので、本物の新聞顔負けの本格的なものであった。

平成十一年度になると、インターネットへ接続する環境が整ったことを受け、WEB上で東高の紹介をするホームページを作成することになり、そのコンテンツ作成に携わった。「生徒の視点から見た東高の紹介」を主眼に、部員自らの取材・編集による充実した内容のホームページが完成した。その際に体得したHTML (Hyper Text Markup Language) の知識は、現在部員各自が持つHP作りの技術に生かされている。

現在では、CG (Computer Graphics) はもちろんのこと、さらに発展的なVJ (Video Jockey) にまで活動の幅を広げている。今後ますますIT化が進み、コンピュータ技術をコミュニケーションのツールとして利用する時代を迎えるが、高校時代にコンピュータ部で興味ある分野に集中的に取り組む機会を得た部員たちの、将来における活躍が大いに期待される。

## 三、現在の部員による部活動紹介

部長 二年二組 遠山 喬

コンピュータ部は、創立六〇周年という記念すべき年に、晴れて同好会から部に昇格致しました。このように、まだまだ「若い」コンピュータ部について紹介したいと思います。

近年、IT革命の名の下に、各所でコンピュータを中心とした技術が導入されてきています。そして、この流れは暫く続くものと思われまじ。しかし、「だから、今こそコンピュータ部だ」と言うのは、適切だとは思いません。何故なら、私達は時代の流れに乗って活動しているのではなく、更に一歩先、つまり新たな時代の流れを創造すべく活動しているからです。このように書くの大袈裟すぎて信憑性に欠けるかもしれませ



### 部員のCG作品

ん。しかし実際に、私達は世間のニーズではなく、私達自身の創造しようという欲求に添えて活動しているのです。そういった意味で、コンピュータ部はデジタルクリエイターの集りと言えるかも知れません。私達は、「パソコンを使えるようになりたい」という人の入部はあまり歓迎していません。これはパソコンが出来ないから駄目だとう訳ではありません。パソコンを使うのはオペレーターであって、

私達の期待しているクリエイターとは、パソコンを使って「創造」する人の事だからです。つまり問題は、パソコンが出来るか出来ないかではなく、「何をやりたいのか」という事なのです。

今年度は、このように説明をして部員を募った訳ですが、結果として六名の一年生が入部し、全体で二十名近くの比較的大きな部となりました。勿論、部員の数と部活の質、力に直接の関係はありませんが、これだけの人がそれぞれの創造力を出力していると考えると、それがとても大きな力であるということが実感出来ます。

では、具体的な活動について述べてみたいと思います。昨年度から、特に映像を中心としたマルチメディアに力を入れていきます。これは、文化祭の発表のVJから強く感じられると思います。VJとは音楽に合わせて即興で映像を創り出すパフォーマンスの事で、まさに映像と音楽の融合と言えます。

この延長として、学校紹介ビデオの制作が挙げられます。これは新入生歓迎会の為に制作したもので、2DCG、3DCG、動画・サウンド編集

その制作過程の中でプログラム処理、といった日々の活動の集大成と言えます。その日々の努力が報われてか、このビデオは好評を博しました。そして忘れてならないのが、全日制ホームページの制作です。これは情報社会における千葉東高等学校の顔を支えていると言えます。これらは、具象化された私達の活動の一部に過ぎません。繰り返すにりますが、私達の活動は想像すること、そして最終的に「創造」することそのものだからです。

(文責・佐藤 啓之)

### 【体育系部】

#### 陸上競技部

顧問 矢代 正人・萩原 正男・佐藤 光男

六十周年記念誌の発行にあたり、関係各位の御努力、御活躍に感謝申し上げます。

狭いグラウンドにもかかわらず数々の実績を残し、多くのOBを輩出してきたことは、東高の誇りです。以下、記録の掲載につきましては、紙面の都合により県大会入賞レベル以上に限定させて頂きました。

平成四年度……………顧問 古市純久・阿部雅人

(新人大会)

4×400mリレー 3分27秒5 準決勝

鈴木(達)・間瀬・鈴木(智)・中嶋

女子100m 12秒9 準決勝 栗原

平成五年度……………顧問 矢代正人・阿部雅人

(総体)

4×400mリレー 3分23秒49 県9位

女子走幅跳 5m32 県8位入賞 窪田道子

ヤリ投 51m06 県9位 倉山太一

円盤投 36m14 県8位入賞 倉山太一

ヤリ投 53m62 県優勝 倉山太一

女子走幅跳 5m19 県7位 窪田道子

(新人大会)

平成六年度……

顧問 矢代正人・住田健司

(総体) 女子走幅跳 5 m 45 県6位 窪田道子 関東大会

ヤリ投 52 m 28 県3位入賞 倉山太一 出場

円盤投 38 m 18 県6位入賞 倉山太一 (宇都宮)

(新人大会) 4×100 m リレー 44 秒 39 準決勝

土江・青瀧・倉山・佐々木

400 m 49 秒 63 県2位入賞 倉山賢太

平成七年度……

顧問 矢代正人・住田健司・長野一徳

(総体) 400 m H 54 秒 38 県3位入賞 倉山賢太 関東大

200 m 22 秒 45 県5位入賞 倉山賢太 会出場

(新人大会) 400 m H 53 秒 82 関東6位 全国大会出場(鳥取)

200 m 22 秒 00 県5位入賞 倉山賢太

400 m H 53 秒 22 県2位入賞 倉山賢太

4×100 m リレー 42 秒 67 県6位入賞

榊・青瀧・倉山・林

平成八年度……

顧問 矢代正人・住田健司・長野一徳

(総体) 4×100 m リレー 43 秒 05 県9位

4×400 m リレー 3 分 24 秒 22 県10位

予選会 1 時間 16 分 47 秒 15 位で県大会出場

吉田・及川・高瀬・木村・青木

平成九年度……

顧問 矢代正人・住田健司・古谷成通

(総体) 400 m 49 秒 53 県8位入賞 林 正晴

100 m 10 秒 88 県7位入賞 榊 知憲

(女子駅伝) 予選会 1 時間 14 分 23 秒 6 位で県大会出場

平成十年度……

顧問 矢代正人・萩原正男・細川 信

(総体) 800 m 1 分 57 秒 38 県8位入賞 奈良 亘

(新人大会) 800 m 1 分 59 秒 27 県4位入賞 奈良 亘

関東新人大会出場(千葉)

(関東選手権大会) 800 m 奈良 亘 1 分 56 秒 74 関東6位入賞

(新人大会) 女子400 m 60 秒 02 県7位入賞 池田千代

女子4×400 m リレー 4 分 11 秒 05 県6位入賞

栗飯原・田中・丹羽・池田

平成十二年度……

顧問 矢代正人・萩原正男・佐藤光男

(総体) 女子走幅跳 5 m 24 県7位入賞 栗飯原あき

(新人大会) 800 m 1 分 58 秒 70 県9位入賞 山中崇之

女子4×400 m リレー 4 分 10 秒 66 県8位入賞

安川・丹羽・田中・池田

女子400 m 59 秒 89 県6位入賞 池田千代

走高跳 1 m 86 県7位入賞 渡邊 駿

(千葉県クロスカントリー大会) 東大検見川グラウンド

9000 m の部 32 分 42 秒 県5位入賞 山中崇之

(千葉国際クロスカントリー大会) 千葉市昭和の森

ジュニア4000 m の部 12 秒 35 秒 県4位入賞 山中崇之

平成十三年度……

顧問 矢代正人・萩原正男・佐藤光男

(総体) 走高跳 1 m 88 県8位入賞 渡邊 駿

(関東選手権大会・茨城)

女子三段跳 10 m 69 県4位入賞 安川友梨

400 m H 56 秒 72 県5位入賞 笹原雄一

(文責・矢代 正人)



三段跳 安川友梨選手 (茨城・笠松)

剣道部 顧問 皆川 修一・林 久雄・丸田 一朗

六十周年記念の年にあたり、昭和二十五年より始まる本校剣道部の、最近十年間の試合結果を振りかえり、今後の活気ある稽古の糧としたい。

		関東大会	大会	総合予選	大会	新人選	戦
H 4	男子団体	一回戦	一回戦	一回戦	×	一回戦	
	女子団体	三回戦	一回戦	一回戦	×	一回戦	
H 5	男子団体	一回戦	一回戦	×	×	一回戦	
	女子団体	二回戦	一回戦	一回戦	×	一回戦	
H 6	男子団体	三回戦	一回戦	二回戦	一回戦	一回戦	
	女子団体	一回戦	一回戦	二回戦	一回戦	一回戦	
H 7	男子団体	一回戦	一回戦	×	二回戦	一回戦	
	女子団体	二回戦	一回戦	×	棄権	一回戦	
H 8	男子団体	一回戦	一回戦	一回戦	×	一回戦	
	女子団体	一回戦	一回戦	×	×	一回戦	
H 9	男子団体	二回戦	一回戦	×	×	二回戦	
	女子団体					二回戦	
H 10	男子団体			一回戦	×	一回戦	
	女子団体	二回戦	一回戦	一回戦	×	一回戦	
H 11	男子団体	一回戦	一回戦	×	一回戦	一回戦	
	女子団体	一回戦	一回戦	×	二回戦	一回戦	
H 12	男子団体	二回戦	一回戦	×	×	一回戦	
	女子団体	一回戦	一回戦	一回戦	×	一回戦	
H 13	男子団体	二回戦	一回戦	×	×	一回戦	
	女子団体	一回戦	一回戦	一回戦	×	一回戦	

- ・本校発行PTA会報80号～107号より
- ・×はブロック予選敗退を、空欄は記述が無いことを示す。
- ・関東大会は、ブロック予選を行っていない。

個人の県予選試合結果は、  
 H 5 今井英之がブロック優勝で総合体育大会に出場し一回戦。  
 H 7 今井(女子)が総合体育大会に出場し一回戦。  
 H 8 細井恭子がブロック三位で総合体育大会に出場し一回戦。  
 H 11 網島沙織(二年)がブロック三位で総合体育大会に出場し一回戦。  
 H 12 森田浩基がブロック三位で関東大会に出場し一回戦。

齊藤英幸(二年)がブロック七位で関東大会に出場し一回戦。  
 網島沙織がブロック二位で関東大会に出場し二回戦。  
 総合体育大会には森田(三位)・網島(優勝)が出場しそれぞれ二回戦。

H 13 浦田 豪がブロック三位で関東大会に出場し一回戦。

松井裕美がブロック八位で関東大会に出場し一回戦。

齊藤英幸がブロック二位で総合体育大会に出場し一回戦。

県下有数の進学校となった今も、文武両道を志し、男女合わせて十名の経験が無く、新たに挑戦する頼もしい生徒たちで、限られた時間を最大限に生かし、先輩につづくと、その意気込みは素晴らしいものがある。

残念ながら県大会での成績は華やかではないが、部員相互よく協力し合い、切磋琢磨し、ブロック予選を勝ちあがり、県大会によく出場している。今後の課題は、県大会出場で良しとすることなく、さらに上を目指す若者らしい心の強化にあり、輝かしい伝統と栄光を残していたいただいた先輩方に負けぬよう、活気ある活動を実践していきたい。

(文責・丸田 一朗)





## 柔道部

顧問 穴倉 健司

柔道部の活動状況を振り返ってみると、昭和三十二年に関東大会に初出場（県代表三校）し活発な活動が行われてきました。昭和四十四年にも関東大会（県代表六校）に出場した業績を持っています。だが、近年、各県の高校の柔道部員は減少傾向にあります。本校も例外でなく、平成四年に女子部員四名が加わり総勢二十二名の部員で練習に努力してきましたが、平成七年度より入部者が減少しはじめ、現在は三名になってしまいました。そのため自校での練習がままならず、千葉北高校との合同練習にはじまり、現在は千葉西高校、京葉工業高校に合同練習をお願いし活動を続けている現状であります。（文責・穴倉 健司）



平成4年入部の女子団体試合出場メンバー

## サッカー部

顧問 布施 明人・長嶋 由美子・小森 俊介

一九九三年のJリーグ発足以来、日本のサッカーを取り巻く環境が大きく変わったと言われている。サッカー人気の上昇に伴い、選手人口の急増、底辺拡大など、サッカーに関わる者やサポーターにとっては追い風に乘った十年だったように思える。本校サッカー部も多い年は新入生が三十名近く入部し、大所帯での活発な活動が行われてきた。

そして、『Jリーグ効果』は別の意味で、高校サッカーにも影響を及ぼしてきた。高体連とクラブチームの連携により、さまざまな形で交流

の機会が増え、Jリーガーが身近なものになった。例えば、高体連主催で年数回行われる技術講習会では、ジェフユナイテッド市原や柏レイソルのプロコーチが直接、高校の指導者や選手を指導し、今では、個人技術やチーム戦術、最先端のサッカー理論さえも高校のチームに浸透している。教員や生徒は積極的に講習会に参加し、得たものを如何にチームに還元するかが課題になっている。従来、うまい選手が数人いて頑張れば勝つという風潮はすでに時代遅れで、多種多様な練習方法や体力トレーニングの中からチームに相応しいものを採用し、最適な戦術を理解し、実践するかが、高校の部での活動の柱になっている。

また、千葉県の高校サッカーのレベルアップも見逃せない。全国大会では千葉県の代表チームのどこが出てても毎回のよう上位進出し、優勝さえも珍しくない。そして、その成功は一部の強豪校だけのものではなく、地区を挙げての強化策がその背景にあり、本県は全国屈指のサッカー先進県として、認められている。

そのような状況で、千葉東高サッカー部も部員たちは努力を続けてきた。先に述べたようにサッカーの競技人口の急増で部員数の多い中、時間的にもグラウンド面でも限られた条件の中で練習をしている。毎日、基礎技術や体力の強化に意欲的に取り組み、週末の練習試合に臨む。そして、公式戦を目標にして部員たちは頑張り、強豪校の多い千葉市内でも有力校の一つに挙げられている程の成果を上げている。

スポーツのスタートはレクリエーションであり、チームメイトとサッカーを楽しむことが基本であるが、同時に、公式戦がある以上、勝敗にこだわって日頃から自らを鍛え、考えながらプレーをすることを基本理念とし、東高サッカー部は活動をしてきた。学業との両立は当然のこととし、サッカーを単なるスポーツとしてではなく、その体験を通して、自らを高める場であると部員達は考えている。そして今後も、近隣の強豪チームと共に切磋琢磨を続け、意欲的に活動していきたい。

最後に、日頃から、OB会や保護者の方の理解と協力で支えられ、活動できることを感謝し、この場をお借りしてお礼を述べたい。

平成元年からの顧問

長野 一徳 平成一〇～十一年  
大谷 芳孝 平成三〇～三五年  
大田紳一郎 平成四〇～四十二年  
布施 明人 平成六〇  
柳橋 宏和 平成七〇  
長嶋由美子 平成十二  
小森 俊介 平成十三

(文責・布施 明人)

## 卓球部

顧問 竹林 靖浩・廣井 修司・橋本 眞・古谷 成通



世界チャンピオンと勝負(東高体育館にて)

卓球部の活動は、創設された昭和二十六年から現在に至るまで続いている。練習場は、現在のトレーニング場から、昭和六十年に新築された格技館の一階へと移り、日々そこで技術向上に努めている。卓球台も練習試合の際には七台出すことができ、恵まれた環境である。

平成十二年に赴任した時のチーム状況は、男子は二十名、女子は三名と、男女揃って県大会出場を果たし



第78回全国高校サッカー選手権大会  
千葉県大会2次予選進出(平成11年9月)

ており、練習メニューなどを上級生が工夫して全体に指示し、和やかながらも真剣に練習に打ち込んでいた。平成十三年には部員数こそ減少してしまっただが、合理的な練習と遠征の成果が少しづつ現れている。三月に行われた千葉県公立高校大会では、男子が県ベスト8と健闘し、六月の県総体でも個人で四回戦に進み、強豪校のシード選手にフルセットの僅差で負けるも、会場を大いに沸かせた。また八月にはオリンピック金メダリストであり、現役の世界トッププロであるワルドナー選手(スウェーデン)らが本校の体育館を訪れ、試合をしてくれた上にアドバイスをしてくださるなど、大変に思い出深い年となった。

この十年の卓球競技で大きな変化は、高反発力を生む接着剤を使用する選手の隆盛と、従来の三十八ミリボールから四十ミリボールへの変更、そして一セット十一点制への移行、さらに来年度予定されているサービスの制限であろう。これらの大きなルール改正により、選手達はプレースタイルや戦型の修正を求められ、指導者には今が腕の見せ所であるといえる。千葉県高の生徒は伝統的に、自らよく考え、工夫し、環境に適応してきているようである。現在は窮地というよりは、むしろチャンスかもしれない。

今までの顧問の先生方のご努力と、選手達の精進の成果として、ここ十年の県大会以上の戦績を報告させていただきます。

平成三年	関東・総体	ベスト16	総体ベスト16
	新人	団体二回戦	ダブルス高橋・田島組二回戦
平成四年	関東・総体	団体出場	
	新人	団体出場	個人中村・田島 出場
平成五年	関東・総体	団体出場	
平成十一年	総体	団体出場	女子個人 宮川二回戦
	新人	男子団体三回戦	ベスト16

男子ダブルス 和田・松丸 組出場

女子団体 二回戦 ベスト32 個人 宮川 三回戦

平成十二年 関東・総体 男子団体出場 女子個人 宮川出場

新人 男子団体出場

県公立高大会 男子ベスト8

平成十三年 総体 男子団体出場 個人 友田 ベスト32

新人 男子個人 中嶋出場

男子ダブルス 中嶋・大網組出場

(文責・竹林 靖浩)

## テニス部

顧問 笹島 茂樹・戸次 恒治・平澤 憲彦

山口 久美・林 一己

それまで軟式のみだったテニス部は男子が昭和六十年、女子が六十二年に硬式に変わって以来、部員数を年々大幅に増加させながら今日に至り、平成十三年四月には総勢百三十名を越えるまでになった。コートに入りきれず、一年生は校門から続く椿沿いの通路で登下校の生徒達に邪魔扱いされながらボレーの練習をする有様である。しかし、そうした必ずしも恵まれた条件とは言えない中で、よく練習を重ね、めざましい活躍を続けている。平成四年以降の主な戦績は以下の通りである。

まず男子の部では、平成四年、関東大会県予選、総体県予選、新人戦県大会の団体の部でいずれもベスト8に入り、個人でも高橋忍君が関東県予選でベスト32、新人戦県大会でベスト16、ダブルスでも高橋・三木組がベスト8、田中・田中組がベスト16に入った。翌五年には高橋忍君が県大会ベスト6に入って見事インターハイ出場を果たし、団体では前年同様ベスト8に入った。また八年の総体予選では竹安君が二回戦進出、団体も二回戦進出し、新人戦でも団体(石川、安田、権丈、江藤、影山、

長沢)で二回戦進出、石川君がシングルでやはり二回戦に進出、また、公立高大会でも準優勝した。平成十一年の総体県予選では団体(神原、武元、神田、佐々木、磯野)でベスト16に入り、新人戦県大会に団体(竹本、平松、秦、原)で出場した。十二年には総体県予選に団体(上柳、荒川、秦、篠原)で出場し、新人戦大会にも団体(島田、田代、大野、横山)で出場した。十三年にも総体県予選に団体(島田、田代、大野、望月)で出場した。また、ブロック内で行われる一年生大会ではここ五年連続で優勝している。

次に女子の部だが、平成五年の総体県予選の団体の部でベスト16、新人戦県大会に団体で出場、平成七年総体県予選に二回進出、十一年総体県予選で団体(鎗田、横畑、加藤、奥村)の部で二回戦進出、個人でも鎗田あずささんが出場した。十二年には総体県予選で団体(大内、宮坂、林澤、鈴木、藤村)の部に、ダブルスで大内さん、宮坂さんがそれぞれ出場した。十三年の総体県予選では団体(青柳、疋田、丹治、布留川、渡辺)がベスト16に入った。

また、平成十三年一月から三月にかけて十三年ぶりに全面改修が行われ、おかげで雨が降っても翌日にはコートに入れるようになった。平成四年からの顧問は越川芳雄(平成十年まで)、内田寛(十二年まで)、成澤尚子(四年まで)、秋葉ひろみ(五年〜十年まで)、谷島直美(十一年から十二年まで)の諸先生が担当され、現在では戸次恒治(六年から)、笹島茂樹(十一年から)、林一己(十二年から)、平澤憲彦山口久美(ともに十三年から)の四人で担当している。

(文責・笹島 茂樹)



バスケットボール部 顧問 押塚 功明・小久保法子・栗原 剛  
 ここ十年におけるバスケットボール部の県大会の主な戦績

年度	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
顧問	辻村民雄									
	栗原 剛									
男子	馬場 勇									
	小久保法子									
女子	押塚功明									
	石崎	藤井	小谷	草場	諸我	磯貝	広瀬	西村	高橋	小関
戦進出	新人戦でブロック優勝し、 し県大会ベスト16	新人戦でブロック優勝し、 三度の県大会でベスト16	新人戦県大会ベスト16	関東県大会で優勝校の市立 船橋に敗れベスト16	新人戦県大会で千葉商大附 属と延長戦の末惜敗しベス ト16	市内大会優勝、新人戦県大 会で市立柏に二点差で敗れ ベスト16	関東大会で優勝校の東海大 浦安に惜敗	総体県大会で新人戦県ベス ト4の鎌ヶ谷を敗るが、優 勝校の市立柏に大敗	新人戦県大会で八千代松蔭 に接戦の末勝利、総体県大 会三回戦で幕張総合に惜敗	
菅野	星野	杉浦	原田	小林	瀬山	岡田	堀内	尾川	小林	
予選で大敗	経験者一人のなか練習に励 むが惜しくも予選敗退	念願の県大会出場を果たす が、三大会とも一回戦敗退	部員八人で総体県大会ベス ト16	新人戦で県ベスト4の千葉 工商に三点差の惜敗	新人戦県大会で県二位の市 立船橋に惜敗	市内大会優勝、三度の県大 会で全国三位の昭和学院に 惜敗、三大会ベスト16	市内大会優勝、総体県大会 で県ベスト4の東金商業に 二点差の惜敗	予選で念願の千葉経済を敗 り一位通過するが、県大会 で市立船橋に敗退	一年生大会県三位、市内大 会優勝、県大会では県三位 の千葉経済に惜敗	

バスケットボール部では、この十年間、文武両道を目指し、質の高いバスケットを常に心掛けながら、各大会でも表のように好成績を収めてきました。平成十三年度は、男子キャプテン和田・女子キャプテン神田のもと、部員六十名が日々練習に励んでいます。夏期休業中は校内合宿や神奈川遠征を行い、部員全員の団結がより一層深まったなか、次の新入戦での好成績を目指して気持ちを新たに頑張っています。

(文責・押塚 功明)



男子バレーボール部

顧問 小出 秀樹・中山 俊彦

平成四年四月、前顧問の青柳伸一郎先生から部を引き継いで、はや十年が経過しようとしている。この十年間、真剣にバレーボールに取り組み、練習に励もうとする生徒達に恵まれ、しっかりとした活動ができた



平成13年度 内房地区バレーボール大会優勝

ことを幸福に思っている。この十年間のチームを回想してみる。

平成四年、青柳先生から引き継いだチームは宇都宮主将のもと、大変明るく元気のあるチーム。県総体二回戦、シード校八千代松陰高校にフルセットの末、敗れるも力を発揮した好ゲームであった。

続くチームは山本主将のもと上級生が大変まとまりの良いチームであった。平成五年の県総体ではエース坂口の活躍で二回戦に進出。レシーブの要、池田の欠場もあり、再び八千代松陰高校に敗れる。

次のチームは鈴木主将のもと浅野・木下両エースが中心のチームであった。エースの二人は負担が大きく、肩、肘、膝に故障を抱えながら平成六年の県総体では二回戦に進出。シード校二松学舎沼南高校に敗れはしたが最後までよく頑張ってくれた。

続くチームは塚田主将のもと、残念ながら県大会の出場はならなかったが、高校からバレーを始めた者が懸命に練習をし、エースやレシーバーをつとめる、千葉東らしいチームであり、今でも誇りに思うチームである。次のチームは吉田主将のもと、優秀な選手に恵まれたチームであった。

夏の千葉市大会で初優勝、新人大会では惜しくも佐倉高校に敗れるも、平成八年の県総体では二回戦でシード校東海大浦安と対戦、大応援の中、見事勝利し、力のあるところを証明した。

続くチームは島影主将のもと、決して長身のチームではなかったが、上級生が頑張り、千葉市大会三位、平成九年の県総体では、二回戦でシード校市立松戸に敗れはしたが、持てる力を発揮したチームであった。

次のチームは安永主将のもと、上級生が頑張り下級生をひっぱり上げる良いチームであった。新人大会では惜しくも佐原高校に敗れたが、平成十年の県総体では三回戦に進出。シード校西武台千葉に力を出しきった。

続くチームは近藤主将のもと長身選手に恵まれた大型チームであった。長身者の中には高校からバレーを始めた者もいたが、努力を惜しまず、千葉市大会二度目の優勝。新人大会は市立船橋に敗れたものの、平成十一年の県総体では三回戦で八千代松陰をフルセット、あとわずかなところまで追いつめた。敗れはしたが県上位を自負できるチームであった。

次のチームは辻川主将のもと、上級生が四人という厳しい状況の中、四人の頑張りにより千葉市大会三位、新人大会では茂原工業に敗れたものの平成十二年の県総体では三回戦に進出。拓大紅陵とフルセットの激戦の末、敗れはしたが彼らの努力には今でも頭の下がる思いである。

続くチームは同じく上級生が四人の厳しいチームであったが、征矢主将の頑張りと同級生の協力により千葉市大会準優勝、新人大会ベスト16平成十三年県総体では三回戦でシード校佐倉を追いつめる活躍をしてくれた。征矢はじめ上級生四人には本当に頭の下がる思いである。

そして現在、川崎主将のもと上級生と下級生がうまくかみ合ったまとまりのあるチームで、千葉市大会準優勝、内房地区大会初優勝、そして新人大会でベスト8となり、自他共に認めるすばらしいチームに成長している。  
(文責・小出 秀樹)

## 女子バレーボール部

顧問 加藤 ひで子・勝又 邦夫

平成九年度より、坂本教諭から引きつぎ女子バレー部の顧問となり、今年平成十三年度で、五年目になりました。部員数も平成十年ころより一学年二桁代になり、初心者の方も多く入ってくるようになりました。部員達もお互いにいろいろ教え合いながら練習をし、体育館での練習も



活気にあふれていました。

主な大会は、新人戦、関東大会県予選、総合体育大会など三つの大きな大会があります。その他一・二年生の新チームに切り変わった夏に千葉市大会等も行われています。新人戦、総合体育大会では、ブロックから四チーム県大会へ参加できますが、関東大会県予選では、ブロック一チームでありとても厳しいものがあります。このようななか、平成十年度新人戦、十一年度関東県予選、総合体育大会と主将石田の時代には、みごとに三大会とも県大会に出場することができました。県大会での成績は思うような結果は出ませんでした。自分達の力を出しきり頑張りました。(別掲資料参照)

年 度	主 将	大会名	大会成績
平成九年度	鈴木陽子	総合体育大会	一回戦 千葉東 2-1 津田沼 二回戦 千葉東 0-2 文化女子
平成十年度	伊奈珠美	新人戦	一回戦 千葉東 2-0 県立柏 二回戦 千葉東 0-2 敬愛学園
	伊奈珠美	総合体育大会	一回戦 千葉東 2-0 愛国四街道 二回戦 千葉東 2-0 麗澤 三回戦 千葉東 1-2 市川南
平成十一年度	石田麗子	新人戦	一回戦 千葉東 2-1 勝浦 二回戦 千葉東 0-2 柏南
	石田麗子	関東県予選	一回戦 千葉東 0-2 敬愛学園 二回戦 千葉東 2-0 野田北
平成十二年度	久満規子	新人戦	二回戦 千葉東 0-2 市立船橋 一回戦 千葉東 0-2 東区立館浦安
	久満規子	総合体育大会	一回戦 千葉東 0-2 銚子商業
平成十三年度	岡本香寿美	総合体育大会	一回戦 千葉東 0-2 東海大望洋

(文責・加藤 ひで子)



## 野 球 部

顧問 藤田 勝美・大塚 好輝・中川 雅彦・梅井 泰宏

創立六十周年、野球部におきましても、昨年五十周年を迎えて、部活動に精進しています。

さて、昨今の状況を報告させて戴きます。現在、部員数四十名、マネジャー四名の総勢四十四名で活動しています。部員の中には、他校の強豪校においてもレギュラーとして活躍できるような選手も何名か籍し、今後が期待できる状態です。試合成績も、過去の歴代監督が緻密な練習と工夫で、県大会でベスト8、ベスト4と実績を残していたに比べて、現部員も、自分達も諸先輩に続けと、それを「目標」にして日々練習に励んでいます。

「文武両道」ということで、野球部の部員の中には、学校の成績も学年で十番以内に入っている者が数名ずつはおり、部活動に学問にと頑張っています。また、千葉大学や慶應大学で大学野球選手として活躍している卒業生もおり、現役選手の中でも、大学で継続して野球を行いたいと

いう希望者も毎年数名おり、楽しみな部員が多いこの頃です。

練習は、選手達にメニューは与えておりますが、自らが考えて、自らが実践できるようにフリータイムを設けており、指導・助言を受けて、頭で理解した事柄を実践で活用できるよう、個人個人が創意工夫して、「ハイ」という素直な心、「ありがとうございます」という感謝の心で練習に取り組み、励んでおります。

(文責・藤田 勝美)

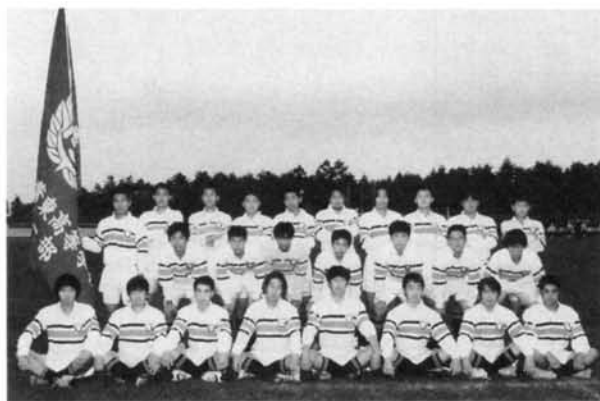
## ラグビー部

顧問 張能 正昭・藤平 真

ラグビー部の創部は、昭和二十六年であり、来年度創設の五十周年をむかえる。千葉県の高校ラグビー界の歴史とともに歩んできているといえよう。歴代の顧問の方々の熱心な指導と、諸先輩方の努力でラグビー

部の伝統と歴史が、作られたと言える。創部時の網島竹治先生をはじめ、小川武久先生(故人)、亀忠夫先生、本城隆先生、外山貢先生(OB)、木村香住先生によってその精神が、引き継がれている。

ここ十年間の戦績は、残念ながら、全国大会出場を目前に道を断たれている。現在、(平成十三年度)部員二十七名と全盛時と比較すると約1/3程度になっているが、顧問部員一同古豪復活を目指し、日々練習に励んでいきたい。



## ◎ここ十年間の記録

年度	春県総体	全国予選	新人大会	備考
4	二回戦敗退	四回戦敗退	県大会出場	
5	準優勝	ベスト4	ベスト4	関東大会出場
6	ベスト8	ベスト4	二回戦敗退	
7	三回戦敗退	三回戦敗退	二回戦敗退	関東大会出場
8	ベスト4	ベスト4	一回戦敗退	
9	二回戦敗退	ベスト8	二回戦敗退	関東大会出場
10	ベスト4	準優勝	二回戦敗退	
11	一回戦敗退	ベスト4	二回戦敗退	
12	二回戦敗退	一回戦敗退	一回戦敗退	
13	二回戦敗退			

## ◎主な成績 全国大会県予選優勝 七回(全国大会出場 四回)

関東大会出場 二十八回

(文責・張能 正昭)

## 水泳部

顧問 鈴木 宏・渡邊 都詩紀・菱木 みどり

水泳は、基本的に個人競技であり、「個」の能力が、そのまま「部」の歴史となるといった意味で、「伝統」のつくりにくい部活動である。この十年をふりかえってみると、大会の「上位」という意味での歴史は一九九八年・一九九九年と飛び込みで関東大会に出場した稲富太樹と、二〇〇一年つまり今年四〇〇メートルと二〇〇メートルの個人メドレーで関東大会、インターハイに出場した山下由莉が、夏の県選手権で県一位になったことが特筆すべきであろう。そうした上位入賞や大会出場のための努力は並々ならぬものがあったと思う。しかも、水泳部の顧問は、専門家が少なく俗に言う「素人」がなる事が多い。東校も御多分にもれず、素人顧問であり、その分生徒が自主的に練習計画をたて、実行して

いつている「自主性」の強い部活動であると思う。県総体や夏の県選手権だけでなく、年二回の七校戦（東邦・佐倉・昭和秀英など七校が集まる定期戦）や八月の初旬（第一日曜日が多い）に開かれるOB戦にいたるまで、生徒、OBが熱心に取り組み、それなりの成果をあげているように思える。顧問もそれに応えるように熱心な先生方が多く、はじめ戸惑っていても、最後には、部の運営を支える力を示されている方々が多い。

先日、今年のOB会が開かれた。三十名強の三十代から十代までのOBが集まり、競泳に、そして「伝統」となっているOBvs現役の水球戦にと楽しい時を過ごした。むろん、OBが企画し現役生や我々顧問団が協力する形であった。しかも、集まったOBたちは「礼節」をわきまえて、我々素人顧問をたて、現役生にすら気をつかっていた。もしかすると、こうした「自主性」と「社会性」のほどよいバランス感覚こそが、水泳部の伝統かも知れないと今、思っている。

（文責・鈴木 宏）

## 山岳部

顧問 高山 雅夫・植木 喜重・芳賀 良治

平成四〜六年までは武田健之介先生が中心となり、夏合宿は北アルプス、南アルプス、中央アルプス等のハードな縦走、春合宿は日光白根山や尾瀬での雪上訓練を行っていた。その当時の部員数は十名前後であり、その大半は男子で女子は一〜二名であった。

平成七年に転任された武田先生の代わりに高山が顧問を引き継いだ。今までの千葉東高山岳部の良き伝統を受け継ぎながらも、部員の意識改革に取り組み、何事に対してもあきらめず一生懸命チャレンジする精神で、準備山行や合宿、高体連主催の大会や講習会に積極的に参加するようになった。低迷していた部員数も三十名近くに増え、女子部員も十数名

となり、男女共に活発な活動ができるようになった。競技登山に対する反対意見が伝統的に強かったが、大会を競技としてとらえるのではなく、自分達が一年間努力してきた成果を審査員に確認してもらう大会としてとらえることにより、大会に向けて部員全員で取り組むようになった。

大会の成績は別表の通りである。男子は平成十年に実に十九年振りに県総体で優勝し、平成十一年には女子も十七年振りに優勝することができた。平成十三年現在、インターハイへ男女共三回ずつ出場し、平成十一年には女子が全国の強豪の中で頑張り、参加四十六校中六位に入賞する大健闘を見せた。翌平成十二年には男子も全国五位に入賞し、涙の表彰台にあがることができた。国体山岳競技でも、平成十一年の熊本国体に三年の大堀可南子が出場し、縦走競技の部で全国八位に入賞した。また、最近、競技人口が急増しているクライミング大会においても、平成十三年に三年の根本千歳が、JOC全国クライミング大会において見事に三位入賞し、平成十四年に行われるアジア大会への出場権を得ている。

大会の成績ばかりを並べると、山岳部の活動が大会中心に思われるが、あくまでも県総体やインターハイの順位は、前述の通り部活動の完成度を確認してもらう「通過点」と考え、最大の部の行事である夏合宿の成功を最大目標として、三年生を含めて全部員で夏合宿に取り組んでいる。また、山行の少ない冬には、伝統の部誌「Cairn（ケルン）」の製作を通して、一年間の活動報告をまとめている。平成八年版（四十二号）か



平成12年 岩手インターハイ出場



平成十一年  
熊本国体8位入賞の  
大堀可南子



平成十年度 夏合宿  
(剣岳)

らは全文ワープロ打ちとし、平成十二年版(四十六号)は、二百ページを超える超大作となっている。OBの個人投稿も盛んであり、内容も写真を多く取り入れて充実した内容となっている。部員も皆明るく、活き活きと活動しており、その活動が平成十三年の「山と渓谷」八月号に特集として三ページに渡って紹介された。これからも全国の見本となるような山岳部の活動を目指して頑張っていきたい。  
(文責・高山 雅夫)

### 山岳部大会成績一覧

年度	顧問	高校総体						国体山岳競技					
		県総体		関東総体		全国総体		県大会		関東大会		全国	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	女子	
平4	武田	19位	不参加					不参加	不参加				
平5	武田・古水	17位	不参加					不参加	不参加				
平6	武田・古水	19位	不参加					不参加	不参加				
平7	高山・古水	18位	不参加					不参加	不参加				
平8	高山・萩原	5位	不参加	出場 (茨城県)				不参加	不参加				
平9	高山・布施	準優勝	不参加	出場 (埼玉県)				優勝 (初)	不参加				
平10	高山・布施	優勝 (5回目)	不参加			7位 (高知県)		優勝 (2回目)	不参加	5位 (栃木県)	5位 (栃木県)		
平11	高山・植木	優勝 (6回目)	優勝 (3回目)			9位 (岩手県)	6位 入賞 (岩手県)	優勝 (3回目)	優勝 (初)	5位 (東京都)	3位 (東京都)		
平12	高山・植木	準優勝	優勝 (4回目)			5位 入賞 (岐阜県)	7位 (岐阜県)	準優勝	優勝 (2回目)		3位 (山梨県)	8位 入賞 (熊本県)	
平13	高山・植木 芳賀	5位	優勝 (5回目)	出場 (茨城県)			7位 (熊本県)	優勝 (4回目)	優勝 (3回目)		4位 (群馬県)		

## ソフトボール部

ソフトボール部は、県高体連ソフトボール専門部委員長の安塚正明教諭（現積橋高等学校）が昭和四十九年四月に愛好会として設立しました。その後、昭和五十四年に部として承認され、昭和五十七年度、五十八年度、五十九年度には県大会ベスト4、ベスト8にはいる輝かしい実績を残しました。

平成五年、本校に赴任した四月当初、過去の栄光とは裏腹に部員数三年四名、二年一名とほとんど活動停止状態でした。前顧問の犬田勝昭教諭の御尽力により、新入生九名が入部し、大会に参加することができました。部が再活動できたものの、経験者が少ない一年生だけでは、なかなか勝つことも難しく、県大会出場が当面の目標でした。

平成六年度以降部員数も増え、練習内容も充実してきました。とはいえものの、本校では日曜日と月曜日はグラウンドが使用できないため、日曜日に練習試合がない場合、週五日のみの練習となります。さらに、予備校、塾、習い事などで全員がそろって練習できる日も少ないなか、技術向上を図ることも至難の業という状況でした。

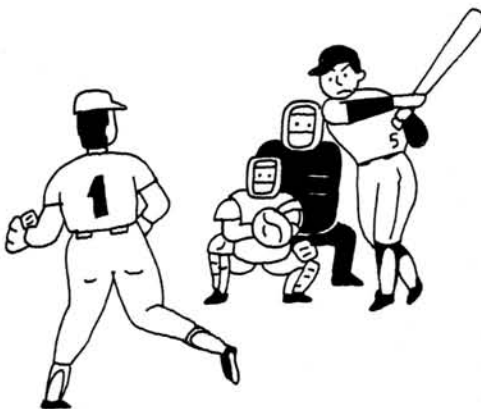
しかし、このような状況でも平成七年度根須牧子主将率いる新チームで臨んだ新人戦で県大会出場をはたし、ベスト16にはいることができました。県ベスト16よりさらに上を目指すには、それなりに激しい練習をしなければ達成できるものではありません。経験者の少ない今日、チーム力を継続させることも難しく、県大会出場も時々ではありますが、県大会出場という部の目標はいましばらく続きそうです。

部の生徒には、高校三年間という短い期間に、ソフトボールの楽しさ、団体競技であるが故に得られる友情・信頼感、個人技術を向上させるための努力とその過程で得られる自信等、何か一つでもその三年間の中で得てほしいと願って指導している今日です。

以下、歴代の主将と県大会出場結果を記載します。

平成六〇七年度	鈴木 富美	県新人戦ベスト16
平成七〇八年度	根須 牧子	県総体出場
平成八〇九年度	武田 円	県総体出場
平成九一〇年度	相内 宏子	県総体ベスト16
平成十〇一〇年度	近藤 明子	県新人戦出場
平成十一一〇一〇年度	武田 水紀	県新人戦出場
平成十二一〇一〇一〇年度	中谷 優	
平成十三一〇一〇一〇年度	内田久美子	

（文責・古水 裕之）





## 【同好会】

### JRC同好会

顧問 鈴木 宏・住田 健司  
久保田 信子・田上 あゆみ

JRC活動は、とてもむずかしい。予算もなく、活動場所も少なく、大会があるわけでも、決勝で優勝をめざすわけでもない。ただひたすらにボランティア活動を行うだけなのである。部員数も不定で、この十年間で、多い時には二十名程度、少ない時はほんの二、三名ということもある。しかも、多くの部員が兼部しており、活動日をとることすらままならない状態である。中学時代ボランティア活動をしていた生徒は沢山いるらしいのだが、現実はとても厳しい。

青少年赤十字（J・R・C）としての活動は、この十年ほとんど同じ内容である。一学期に車椅子などの使用方法や介護の基本について学び二学期には、サンアピリティーでのバリアフリー交流会に参加し、三学期は桜ヶ丘養護学校での交流会へ参加するというものである。もちろん、文化祭や赤い羽根の募金などへの参加は行っているのだが、「全校あげてのボランティアの中心となって」といった活動は、行っていない。そのことについては、顧問の力不足を痛感しているのだが、部員はボランティアの意識も高く、対外的な不定期のボランティア活動にも積極的に参加している。JRCの中央地区（千葉・成田地区）に毎年数名役員として生徒が参加していることは、その一例であろう。

今後の十年をみすえた時、ボランティア活動は重視される方向にあり、JRCとしての活動が転換期をむかえていることも事実である。現在、八名の部員とともに、新しいビジョンを持って次の十年をむかえようと考えている。部員の熱意だけでもっているそんな同好会なのである。

（文責・鈴木 宏）

### 漫画研究同好会

顧問 内田 久美子・佐藤 光男

漫画研究同好会は漫画、イラスト等の製作を通して様々な表現を研究することを目的とし、通信棟2Fの教室において活動を行っている。

具体的には、文学部との合同誌『じょばんに』（隔月刊）の発行であり、見本は図書館に常備されている。また四月には別に、『新入生歓迎



#### 画：平成13年度 同好会員

『じょばんに』を発行するとともに、前年度分の漫画誌『TREASURE』を即売している。九月には東雲祭で、文学部との合同誌『東風書院』及び漫画誌『TREASURE』を発行し、販売している。

平成十三年度は、会長兼会計塚本真理子他、三年生五名、二年生二名、一年生二名の計九名で活動している。会員の数は少ないながらも各自の個性を生かし、来年度以降

の発展に向けて、目下活動中である。

顧問は平成九年度までは北河尚子教諭、大谷芳孝教諭、平成十年度は内田久美子教諭、宇藤八重子教諭であり、平成十一年度以降は内田久美子教諭、佐藤光男が引き継いでいる。

（文責・佐藤 光男）

## フォークソング同好会

顧問 木村 孝康

フォークソング同好会は、生徒会組織の中では一つの同好会として独立しているが、実質的には、マンドリン楽部のソロパートを担当する生徒が編成するバンドである。このような形態にいつ頃から定着したのかは定かではない。ソロパートの担当者は、エレキギター、エレキベース、ドラム、シンセサイザー、マリリンバ、フルートなどを日頃から練習しているのであるから、バンドとして独立しても立派にレベルの高いステージをこなすことができる。

また、名称はフォークソングであるが、アコースティックな演奏ではなく、ロックバンドとしての演奏が主体である。普段はマンドリン楽部というビッグバンドの一員としての演奏であるが、本同好会においては、ロックバンドとして、それぞれの楽器の特性を更に引き出しながら演奏できることが、会員にとって大きな魅力なのである。

活動は東雲祭での発表に限られており、邦楽のコピーが中心である。更なる発展を期待したい。

(文責・木村 孝康)



平成13年度 会 員

## 陶芸同好会

顧問 嘉村 英子



陶芸同好会の制作活動自体は、地味で目立たない個人的なものであるが、各自の計画のもとに、東雲祭、そして、総合芸術祭出品を目標に、この十年、地道に活動を行っている。コーヒーカップや、湯呑み、大皿、壺等、それぞれ作りたいたものを自由に制作することを通して造形意識を磨き、共通の趣味を土台にした人間関係を育んでいる。ただ、残念ながら、近年、入会希望者が減少の傾向にある。陶芸には、土の温もり、釉薬の深い色合い、又、気の遠くなるような長い年月を耐えて生まれた土の息づかいが感じられる、そして土との触れ合い、格闘の作業には語り尽くせない喜びがある。この楽しさを一人でも多くの生徒と分かちあえるようこれからも活動を続けてゆきたい。

(文責・嘉村 英子)

## 囲碁同好会

顧問 中山 俊彦・笹島 茂樹

囲碁同好会は平成四年に鈴木芳之助教諭と内田寛教諭を顧問として創設された。

高校生対象の囲碁大会は、五月の高校囲碁選手権千葉県大会と十一月の高校囲碁秋季大会の二回ある。五月の大会では、団体男女一チームと個人男子二名と女子一名が全国高校囲碁選手権大会に出場する。また上位者の中から全国高校総合文化祭囲碁部門の千葉県代表として男子二名と女子一名の団体戦メンバーと個人戦男女一名が選抜される。十一月の大会では、男女各一チームと個人戦に男女二名が一月に開催される関東

大会に出場する。

生徒たちには囲碁の経験者は少ない。そのため、同好会に入ってから初心者として碁の打ち方を学ぶ生徒がほとんどである。本を読みながら学び、互いに碁を打ちながら学び、そして指導者に打ってもらって学んで行く。運動系の全国高校総合体育大会にあたる高校囲碁選手権を目指して放課後互いに切磋琢磨して碁力の向上に励んでいる。校内に指導ができる段位者がいないため、指導を受ける機会が少ないことが今の悩みである。

部員数の移り変わり

年 度	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五
部員数	5	7	5	4	0	3	6	5	7

顧問 問 平成四年度から平成十二年度まで 鈴木芳之助 内田 寛  
活動場所 地学実験室

顧問 問 平成十三年度から 中山俊彦 笹島茂樹

活動場所 物理実験室

近年の活動の記録

最近の成績では、原田裕丈君が二年連続で全国総合文化祭囲碁部門に千葉県代表として団体戦に出場した。団体戦は男子二名女子一名計三名でメンバーが構成される。メンバーの一人として原田君も活躍し千葉県チームは三勝三敗の成績を上げることが出来た。

平成十三年度

高校囲碁選手権千葉県大会 五月二十六日に教育会館で開催

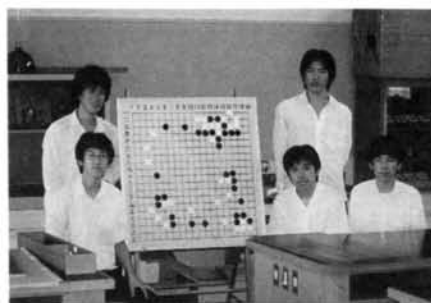
団体は一回戦で千葉敬愛と対戦し一勝二敗で惜敗する。

個人は、高椋（十級）君は三勝一敗、林（十三級）君は四勝〇敗、

瀬戸（十六級）君は二勝二敗の成績であった。

平成十二年度

高校囲碁選手権千葉県大会 五月十四日



個人で原田裕丈（三段）君が総合四位で

全国高等学校総合文化祭囲碁部門団体戦千葉県の代表となる。全国総合文化祭囲碁部門は八月七日八日に静岡市で開催され、三勝三敗の成績を上げる。

千葉県高校囲碁秋季大会

個人に四名参加し、全員二勝二敗の成績

平成十一年度

個人で原田裕丈（二段）君が好成績を上げ全国高等学校総合文化祭囲碁部門団体戦千葉県の代表となる。全国総合文化祭囲碁部門は八月二日三日に山形市で開催され、三勝三敗の成績を上げる。

千葉県高校囲碁秋季大会

個人で原田裕丈（二段）君が二勝二敗の成績。

以前の成績は紙面の都合によりカット。

（文責・中山 俊彦）

### ジャグリング同好会

顧問 谷島 直美・廣井 修司

平成十一年度二月に同好会設立。大田紳一郎先生に親しくジャグリングを習っていた仲間五人でのスタートであった。顧問は大田先生と梅井泰宏先生、会長は今瀬卓志（以後十三年度まで会長を務める）。

平成十二年度には、大田・梅井先生の下、会員十五名と増加し、互いに指導助言し合う中で技術的向上は目を見張るものがあった。九月の東雲祭においては、中庭にてス



テージ発表を行い、大好評を博した。この年より外部団体との積極的な交流も始まり、特に千葉大ジャグリングサークル「ポッサム」、市原ジャグリングサークル「Jug Jug」とはとても親しくしている。合宿の際には、技術指導に来ていただいた。また、公演活動も行うようになり、二月には桜ヶ丘養護学校の交流会に本校マンドリン部とともにゲスト出演した。さらに、ジャグリングの全国大会であるJJF（ジャパン・ジャグリング・フェスティバル）に会の代表が参加したことも画期的であった。

平成十三年度も会員は十五名。顧問は廣井修司先生・谷島直美先生に代わったが、前年度に引き続き旺盛な活動を展開している。東雲祭では、ステージ発表はもちろんのこと、中夜祭にも出演し場の雰囲気在大いに盛り上げた。公演依頼も増え、五月には南花園こども会に、七月には第二あやめ台こども会の夏祭りに招待されてパフォーマンスを披露した。前掲JJFにも再び参加し、研鑽を積んでいる。

演目としては、ボールやクラブやリングのトスジャグリング・シガーボックス・ディアポロ・デビルスティック・皿回し・けん玉等がある。いずれも手先だけでなく全身を使っている技術であり、一般のスポーツに劣らぬくらいの運動量を要し、ダイエツトにも効果的だとされている。集中力・バランス感覚を養う点においても長けている。また、多くの人の前で演技することを



平成13年度 会員及び顧問

通して精神的な強さ（度胸）を得たという会員もある。子供達との交流の中で「夢と希望」を伝えることの大切さを実感し、やり甲斐を感じている者も多い。

今後も各人の技能の向上を図るとともに、老人ホームや幼稚園訪問等の交流活動を徐々に拡大してゆく計画である。

（文責・谷島 直美）

### 空手道同好会

顧問 梅井 泰宏・住田 健司

空手道同好会の始まりは、平成四年である。私が本校に赴任してきて、千葉東高校にも空手道部を作ろうということで、はじめは必修クラブを作った。当時は、水曜の六時間目が必修クラブの時間であったが、部活動運動ということで生徒は五時間で放課であり、必修クラブのみで活動しているクラブは少なかつたが、希望を出せば容易にクラブを作ることができたのである。希望者は数名いて毎週水曜日に活動していたが、皆、部活動掛け持ちで、同好会を作ろうという者はおらず一年目は終了した。平成五年、この年に一年生のエグリ・ケン、梅沢雄一郎が必修クラブに入ってきた。エグリ・ケンは空手道の経験者であり、是非空手道同好会を作りたいと



いうことで、この二人を発起人として空手道同好会は誕生した。練習場所は当時、外の運動部の室内練習場であった小体育館一階の半面を使うことができた。また、活動の目的は、

- 空手道の基本（突き、蹴り）、組手、形を稽古し丈夫な身体を作る。
- 空手道の厳しい稽古を続けることにより強い精神力を身につける。
- 礼儀を重んじ、普段の挨拶等がきちんとできるようにする。

というものであった。

そして、平成九年には顧問として、住田健司先生（大学時代、日本拳法部に所属していた猛者である。）が加わってくださり指導も充実してきた。しかし、毎年数名の生徒が入部するのだが、長続きせず、この十年で最後まで部活動を続けたのは、エグリ・ケン、その弟のエグリ・ジン、飯田英邦、新見正樹、佐野高太郎の五名のみであった。中でもエグリ・ケンは組手で、もう少しで関東大会というところまで進んだ。また、佐野高太郎は非常に練習熱心であり、初心者ながら、一年生の頃より組手で常に県大会に進むなどいい選手も育ったが、なにしろ、武道系の部活の人気低迷期と重なり、部員の確保が難しく、なかなか、活発に活動できずにいた。特に、平成十一、十二年は部員がゼロとなり、あわや、廃部かと思ったが、平成十三年に一年生四名が入部し、夏休みまでは活発に練習を続けている。このまま、是非、部員が増え、空手道部に昇格してもらいたいと思う。そして、当初の活動目的を忘れることなく、空手道がこの千葉東高校に続いていく事を祈念している。

（文責・梅井 泰宏）





## 五分掌

### 総務部

#### 一、分掌細目の変遷と業務内容

平成十三年度の総務部の分掌細目は「行事・庶務」、「学力検査・推薦」、「PTA」、「国際交流」、「奨学金」、「職員会議・記録」となっている。平成九年度入学生から従来の学力検査による入学者選抜に新たに推薦による入学者選抜が加わり、平成十二年度から芸術鑑賞会の保護者への案内と当日の受付・資料の配布の係が加わったが、他は平成四年度の形を受継いでいる。

#### 行事・庶務

- (1) 式典（入学式・卒業式）
- (2) 記録・調査（職員連絡経路・学校基本調査）
- (3) 学校要覧・学校案内の作成
- (4) 入学許可候補者説明会
- (5) 芸術鑑賞会（保護者への案内・当日の受付と資料配布）

#### 学力検査・推薦

#### PTA

- 学力検査と推薦による入学者選抜
- (1) PTA総会・理事会・学年委員会
  - (2) PTA研修会（大学見学等）
  - (3) PTA懇親会
  - (4) PTA会報の発行

#### 国際交流

毎年三月に米国への短期留学・日本への留学生の受け入れ

#### 奨学金

奨学金全般の業務

#### 職員会議・記録 職員会議の議題の集約・職員会議等の記録

#### 二、総務部の職員

平成四年度からの十年間で三十名の職員が総務部の職務に携わっている。ここにその氏名（敬称略）と在任期間を記した。

桜井 久温（平成四年度・部長）	大迫 太（平成四年度）
坂井 幸夫（平成四と八年度）	林 久雄（平成四と七年度）
越川 芳雄（平成四と六と十年度）	富田 慶一（平成四と九年度）
池田 和夫（平成四と十一年度）	
平松 生夫（平成五と七年度、平成五と七年度・部長）	
大田紳一郎（平成五年度）	坂本 光雄（平成五年度）
津嶋 英也（平成五と九年度）	宮負 一昭（平成六と十一年度）
谷口 哲也（平成六と七年度）	
鈴木芳之助（平成七と九年度、平成八と九年度・部長）	
長野 一徳（平成八年度）	加藤ひで子（平成八と十三年度）
吉田 正（平成九と十年度、平成十年度・部長）	
栗原 剛（平成九と十三年度、平成十三年度・部長）	
布施 明人（平成九と十三年度）	高山 雅夫（平成十と十一年度）
橋本 真（平成十と十三年度）	
辻村 民雄（平成十一と十二年度、平成十一と十二年度・部長）	
大塚 好輝（平成十一年度）	小川 巧（平成十二年度）
竹林 靖浩（平成十二年度）	内田久美子（平成十二と十三年度）
林 一己（平成十二と十三年度）	藤田 勝美（平成十三年度）
宮崎 利久（平成十三年度）	平澤 憲彦（平成十三年度）

（文責・栗原 剛）

## 教務部

本稿は、平成四年からの十年間について記したものである。具体的には教務部の目標や業務内容等について十年間大きな変化はないが、内容的には大きな変化が加わったものがある。

### 一、分掌重点目標

- (一) 校務全般の円滑な運営を図る。
- (二) 授業時間の確保に努める。
- (三) 表簿類の適正な管理に努める。

### 二、分掌細目と業務内容

分掌細目は「企画」、「教育計画」、「学習指導・評価」、「学籍」、「庶務」と十年間変わっていない。平成七年の「企画」の中の学校説明会から中学校に案内を送り、本格的に学校説明会が行われるようになった。平成十二年度から中学校の学区変更と隣接受験可能により受験生徒の増加が予想され、全校上げての学校説明会を加えるようになった。もう一つ、十二年度に芸術鑑賞会のとしまとめという仕事に加わった。「学籍」においては、平成十三年度より学校外の学修として千葉大学と本校の連携が始まり、七名の生徒が火曜・水曜日の放課後、千葉大学で学習している。

企画画……………教育計画の立案、その他教務に関する事項の連絡調整、教育課程、新教育課程の広報活動、学校訪問への応対（中学三年生、中学二年生）、学校日誌の記入、学校説明会、芸術鑑賞会のとしまとめ報告、教育器械の配置計画（印刷室の印刷機の管

### 教育計画

理、教務用のコンピュータの保守管理）

時間割の編成、臨時時間割の作成（課題テスト、授業参観、修学旅行期間中）、年間行事計画の調整と作成、年度始めの計画作成、学期始め・学期末の行事の調整と作成（始業式、終業式、賞状伝達、新任式、対面式、離任式）、年間授業時間の配当

### 学習指導・評価

中間考査、学期末考査の成績処理、成績会議録作成、定期考査の問題・解答用紙の回収、学習指導計画表（指導案、重点目標）、定期考査時間割の作成、特別教室の配当、答案返却用時間割の作成、教科書・準教科書・教材の選定、教育実習

### 学籍

在籍数一覧表作成、退学・休学の取り扱い（原級留置、出校停止）、転出・転入の取り扱い、転入試験の準備・運営、留学の取り扱い、学校外の学修、指導要録

### 庶務

出席簿（管理、毎月の出欠統計）、生徒名表作成、諸表簿の管理（整理、印刷、発注）：指導要録、学習指導計画表、通知表、学席簿、教務手帳、公欠簿、生徒名表）、会議室黒板の管理（日程記入）、時報の管理、自習黒板の管理、行事日程黒板の管理（教務室、会議室、生徒昇降口）、教務室の教務消耗品の管理

### 三、教務部の職員

平成四年からの十年間で、二十六名の職員が教務部の職務に携わっている。現在の教務部の姿は、二十六名の創意工夫と努力によるとこ

ろである。ここにその氏名(敬称略)と在任期間を記した。

武田健之介(平成四年～六年度) 馬場 勇(平成四年～五年)  
 須藤 信夫(平成四年～七年度) 秋山 岩雄(平成四年度)  
 土屋 修(平成四年～六年度) 伊藤 毅(平成四・六・七年度)  
 辻村 民雄(平成四年～十年度) 内田久美子(平成四年～五年度)  
 玉上 玲子(平成四年～九年度) 田島 洋一(平成五年度)  
 大迫 太(平成五年～十二年度) 武藤 守夫(平成六年～十年度)  
 古水 裕之(平成六年～十三年度) 宇藤八重子(平成七年～十年度)  
 長谷川 充(平成七年～八年度) 田邊 義博(平成八年～九年度)  
 萩原 正男(平成八年～十三年度) 鈴木 宏(平成九年～十一年度)  
 勝又 邦夫(平成十年～十三年度) 丸田 一朗(平成十年～十三年度)  
 谷島 直美(平成十一年～十三年度)  
 佐藤 啓之(平成十二年～十三年度)  
 鶴沢 勝(平成十一年～十二年度)  
 細川 信(平成十一年～十三年度)  
 梅井 泰宏(平成十三年度)  
 芳賀 良治(平成十三年度)

(文責・萩原 正男)

## 管理部

管理部について十年間のあゆみを振り返る。

### 一、管理部の仕事内容

施設使用 セミナーハウスの使用管理、会議室等校舎の施設使用管理  
 教室備品 机椅子などの備品調整管理  
 防災 防災組織構成と防災訓練  
 環境美化 校内の清掃活動の指導

### 二、平成四年からの管理部構成員

部長 副部長

平成四年度 金沢 吉川 内田 外山 倉内 梅井 押塚 大田  
 五年度 金沢 内田 倉内 梅井 押塚 伊藤 栗原 中山 西田  
 六年度 内田 中安 梅井 押塚 栗原 中山 戸次 橋本  
 七年度 内田 中山 梅井 外山 橋本 戸次 栗原 向笠  
 八年度 内田 秋山 梅井 外山 橋本 戸次 北河 栗原  
 九年度 内田 中山 外山 戸次 吉村 古谷 橋本 北河  
 十年度 内田 中山 吉村 外山 富田 押塚 古谷 嘉村  
 十一年度中山 内田 武藤 鈴木 富田 押塚 嘉村 古谷  
 十二年度中山 内田 松村 武藤 鈴木 藤田 押塚 嘉村  
 十三年度中山 嘉村 武藤 押塚 鶴沢 植木 中川

### 三、委員会顧問

委員会	美化委員会	防災委員会
四年度	倉内 外山	なし
五年度	倉内 中山 西田	なし
六年度	中安 中山 梅井	梅井



七年度	中山	外山	橋本	梅井	栗原
八年度	梅井	栗原	橋本	外山	戸次
九年度	中山	吉村		外山	古谷
十年度	中山	富田	嘉村	外山	吉村
十一年度	内田	中山	富田	武藤	古谷
十二年度	中山	内田	武藤	藤田	嘉村
十三年度	武藤	鶴沢	中山	嘉村	中川

四、年間作業

職員用備品教室備品の移動計画

清掃分担割り当て

入学式会場設営

防災編成

五月 清掃用具点検

七月 大掃除指導 防災訓練

九月 東雲祭美化活動および後片付け指導、美化委員による教室カーテン洗濯

十月 廊下ワックスがけ

陸上競技会の美化活動

十一月 修学旅行中の清掃分担変更

十二月 大掃除指導 防災訓練

一月 センター試験会場設営

推薦入試会場設営

二月 清掃分担変更 教室ワックス

がけ、学力検査会場設営

三月 卒業式会場設営



平成十三年度  
◀前期美化委員会役員

五、活動内容

管理部は平成十二年度まで八名の構成で、平成十三年度からは七名の構成である。平成五年度には管理・特別教室棟大規模改修工事が行われ、事務の橋本さんと管理部長の金沢教諭が中心となり生徒を含めた全教職員の協力のもと無事終了した。

管理部員は次の五部門に係分担し管理部の作業を行ってきた。平成五年度より基本的にこの構成は変わっていない。

- ①施設係 施設設備、教室備品関係
- ②防災係 防災編成と防災訓練および暖房器具の管理
- ③美化係 清掃分担作成とワックスがけ指導および清掃用具管理
- ④会場係 学校行事の会場設営と撤収指導
- ⑤庶務係

管理部の大きな柱に美化活動すなわち日々の清掃活動があり、毎年全職員に協力をいただいている。管理部は作業場所の分担を行うのみであり、学校をきれいに保たれているのは毎日の清掃作業をしている教職員・生徒の努力の賜物である。

管理部が主体となっていく学校行事としては、防災訓練とワックスがけがある。

七月と十二月に実施している年二回の防災訓練は、常に地震や火災など自然災害の危険性とその対処を生徒に喚起させるように努めながら実施している。阪神淡路大震災の教訓を風化させてはならない。

ワックスがけは廊下、教室の床を六台のポリッシャーを使い実施している。十月に廊下を、十一月に三年の教室を、二月に一・二年の教室を対象に、約二時間の作業であるが教室を綺麗にをモットーに頑張ってもらっている。

また、管理部員ではないが用務員の方には校舎外の清掃や施設の修理をしていただき、よい教育環境を維持していただいている。

管理部管轄の委員会活動としては美化委員会と防災委員会がある。美化委員会は

- ①四名の役員による毎週月曜日と木曜日の清掃用具配布と貸出作業
- ②四月の清掃用具点検
- ③文化祭や陸上競技会での美化活動
- ④教室カーテン洗濯

などの活動を行っている。この六年ほど、役員は立候補により選出され、なかには三年間美化委員会役員として美化活動を支える生徒たちもいて、美化委員の意識の向上がみられている。また平成十年度から始まったセミナーハウスの洗濯機を利用したカーテン洗濯は、予算節約から始まったが、美化委員のクラスでの活動として定着している。防災委員会は、防災訓練時には委員長の見学や救助袋による脱出訓練を担当している。冬季の暖房器具の使用に際してもストーブ係として教室の危険防止に努めている。

清掃用具置き場として美化倉庫と外掃除用物置がある。美化倉庫は、平成十二年度末まで購買と共有していたが、平成十三年度からは管理部専用となった。また外掃除用物置は平成十年度に設置され、それまでは校内の美化倉庫に竹箒等用具を借りて来ていたが、外に用具置き場を設置されることにより貸し出し作業が非常に便利になった。毎週月曜日を外掃除の日と決め定期的に清掃作業を実施している。

廃棄物処理問題は地球温暖化と同様に重要な環境問題である。本校では、平成九年十月七日から焼却炉使用を中止し、ゴミはすべてゴミ処理業者に委託している。管理部として、リサイクル法やダイオキシン問題など環境に関わるゴミ処理問題や美化意識の向上、そして学校施設の危険管理などに力を入れ、安全な教育環境で地球規模の資源サイクルそして環境を考える人間の育成に努めていきたいと考える。

(文責・中山 俊彦)

## 生活指導部

まず初めに、六十周年記念誌の発行に際し、諸先輩方の御苦労と実績に深い敬意を表します。また、現在も七名の部員は、本校生徒指導の伝統を感じながら日々の諸問題に、正面から取り組んでいるところです。

平成十三年度、生活指導部の方針、及び努力目標。

- 一、発達に即した生徒理解を深め家庭、地域社会、関係機関との連携及び学校相互の連携の促進を図り、指導体制の確立に努める。
- 二、学校の教育活動全体を通じて、生徒理解を深め、教育相談活動の充実を図るとともに、好ましい人間関係を確立し、生徒の自己指導能力の育成に努める。

三、社会の一員としての自覚に基づき、自他の生命を尊重し、自らの責任を果すなど、人間としての在り方や生き方について自ら考え、自己実現を図る能力と態度の育成に努める。

以上、県の指導を受け、次の具体的内容を努力目標とした。

- 一、増加傾向にある不登校生徒の早期発見と教育相談の充実。
- 二、基本的な生活習慣の確立の中で永年実施されている遅刻指導の継続。

(生徒昇降口で八時三十分～四十五分まで遅刻生徒の把握と指導)

- 三、近年の社会現象にみられる少年非行の低年齢化や凶悪化・規範意識の欠如等を受けて、ルールやマナーの大切さを理解させる。

これらのことについて、年度当初、職員に共通理解を求め、担任、学年と連携しながら進めているところです。





平成四年度～平成十三年度〔生活指導部 部員名簿〕

◎印 部長

氏名 (敬称略)	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
博也	●									
義英	●									
智紀	●	●								
賢光	●	●								
雄樹	●	●								
巧樹	●	◎								
住人	●	●	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎
正裕	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ひろみ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
昭勝	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
勇人	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
明久	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
健久	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
雄勝	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
詩紀	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
りど	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
真司	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
規昭	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
浩靖	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

本校生活指導部に携わって頂いた先生方のお力添えに感謝申し上げます。

(文責・矢代 正人)

進路指導部

最近十年間の進路指導部関係の変遷について判る範囲でまとめたいと思います。

進路の行事については進路の記録の所に平成十三年のものを載せておきました。この十年間の変化について挙げておくと、進路指導部は十年前には基本的に様々な情報の提供に徹していたといえると思います。その利用は学年や担任に任されていました。しかし、生徒の質の変化もあって徐々に色々な行事が行われるようになってきました。

二年の保護者進学ガイダンスは平成六年から、三年生対象の夏季補習は平成七年から実施されています。また、平成九年には進路に回線を引きインターネットに接続できる環境を整え、生徒が大学のホームページを見ることができるようになりました。その他、隔週週休二日のために校内実力テストの回数の見直しをしたり、二年の校外実力テストの内一回をハイレベルなものに変えたりしてきました。

進路室前の廊下への大学合格者名の掲示については、平成八年までは短冊形の厚紙に筆ペンで書いて下げていました。平成九年からはコンピュータのプリントアウトを用いる様になりました。平成十一年からはさらに個別に掲示について確認を取って行っています。

進路の情報処理に関しては昭和五十七年からコンピュータが使われています。進路志望調査、校内実力テストの処理、評定平均の算出、センター試験の自己採点結果の処理、合否調査、進路のしおりのデータ部分の作成等コンピュータなしでは不可能な状況になっています。しかし、コンピュータの利用によって全体の仕事量が減った分、一部の人間に集中してしまうという問題も生じています。また、進路志望調査や、合否調査で利用している進研模試のコードの桁数が変わってしまい、プログラムを作り直さなければならなくなったりもしました。今後もこの様な

問題は生じてくると思われれます。「プログラムに完成なし」で、進路指導部にはプログラムの作成、修正できる人が必要です。

進路部のこれからの課題としては、校外模試をいつ行うかといった問題や、教育課程の変更に伴って進路指導をどう充実してゆくかといった問題など今後解決していかなければいけない問題も山積しています。また、東校生の（と言うよりは日本の高校生の）質も変化してきており、自分で進路を決められなかったり、他人から与えられるのを待っていたりと、昔の様に生徒自身に任せておけばすべて自分たちで何とかしていた時代とは大きく様変わりしています。しかし、だからといって手取り足取り何でも与えてしまつては、自分で出来る事も自分ではやらなくなつてしまいます。必要かつ十分な進路指導をするというバランス感覚こそが今後の東校進路指導部での最も重要な点であると思ひます。

進路指導部職員の一覧（○は部長）

平成三 〇渡辺 大谷 中安 長野 井辻 松本 古市 北河 成澤  
 平成四 〇渡辺 大谷 中安 長野 阿部 松本 古市 北河 上野  
 平成五 〇渡辺 大谷 中安 長野 阿部 松本 松村 田邊 上野  
 平成六 大田 〇大谷 田島 長野 阿部 松本 松村 田邊 倉内  
 平成七 大田 〇大谷 田島 高山 阿部 松本 松村 田邊 土屋  
 平成八 大田 〇大谷 田島 高山 阿部 松本 松村 須藤 中山  
 平成九 大田 〇大谷 田島 高山 阿部 松本 松村 梅井 勝又  
 平成十 大田 大谷 田島 長野 阿部 松本 松村 梅井 大塚  
 平成十一 〇大田 大谷 田島 長野 阿部 松本 松村 梅井 馬場  
 平成十二 〇大田 鈴木宏 田島 高山 阿部 松本 久保田 梅井 沢田  
 平成十三 小森 鈴木宏 〇田島 高山 阿部 住田 久保田 山口 沢田

（文責・田島 洋一）

生徒会指導部

平成四年度から十年間、生徒会指導部の職員は次のとおりです。

平成四年度 〇吉田（正） 長谷川 成澤 向笠 谷口 小出 宮負  
 平成五年度 〇吉田（正） 長谷川 成澤 向笠 谷口 小出 宮負  
 平成六年度 〇小川 長谷川 北河 吉村 向笠 小出 西田 坂本  
 平成七年度 〇小川 北河 吉村 長野 小出 柳橋 坂本  
 平成八年度 〇小川 吉村 細川 曾野 小出 嘉村 坂本 長嶋  
 平成九年度 〇小川 長野 細川 曾野 小出 嘉村 長嶋  
 平成十年度 〇津嶋 菱木 野村 細川 曾野 小出 小川  
 平成十一年度 〇野村 植木 曾野 小出 藤田 小川 小久保  
 平成十二年度 〇小出 笹島 植木 齊藤 曾野 小久保  
 平成十三年度 〇小川 笹島 廣井 曾野 木村 小出 小久保

（○印は部長）

小出先生には着任以来十年間、生徒会指導部を指導していただいております。曾野先生も着任以来六年間変わらず仕事を続けて下さっています。生徒会役員は次のとおりです。

年度	前期	後期
平成4年度	会長 計良剛 副会長 吹越剛毅 書記 杉原淳夫 書記 宇郷裕美 生方和美 松井龍之 大塚毅 大文字亮 永瀬正宏	会長 計良剛 副会長 栗林大 川端敏志 宇郷裕美 吹越剛毅 大塚毅 大塚毅 大塚毅 大塚毅 大塚毅

平成7年度	平成6年度	平成5年度	年度
会長 佐野祐亮 副会長 三平貴司 書記 寺澤まどか 書記 大野千枝 伊藤美津希 會計 工藤亮子	会長 遠藤聖巳 副会長 岩永武大 書記 原田智映 嶋田裕美 三上郁 吉岡めぐみ 影山浩司 佐野祐亮 松木直紀	会長 川端敏志 副会長 山田知輝 書記 平山幸子 水戸亜理香 瀨田円香 影山浩司	前期
会長 佐野祐亮 副会長 工藤亮子 書記 寺澤まどか 書記 豊田美和 塚田沙織 時岡邦昭 會計 田口亜希子	会長 田中稔子 副会長 岩永武大 書記 佐野祐亮 三上郁 島田拓 島田祐亮 高原佳奈 高原めぐみ 上野陽子 影山浩司	会長 田中稔子 副会長 片岡健司 書記 山田知輝 藤巻弥生 平山幸子 水戸亜理香 菊地広記 遠藤聖巳 影山浩司	後期

平成10年度	平成9年度	平成8年度	年度
会長 田島志乃 副会長 宇田川剛志 書記 廣田剛志 鶴田卓梓 伊藤佳世子 渡邊秀子 會計 青山明日香	会長 石井秀一 副会長 小池和央 綾部貴章 鶴田卓矢 折田茂拓 田島志乃 廣田志梓	会長 金子哲也 副会長 澤田美和 寺澤まどか 豊田梢 五十嵐友美 奥田紘子 時岡邦昭 時口亜希子 田涼子	前期
会長 時岡邦昭 副会長 梶原正嗣 書記 佐々木麻子 石井秀一 黒瀧慎子 武田真奈美 能仁美奈子	会長 石井秀一 副会長 田島志乃 小池和央 綾部貴章 鶴田卓矢 廣田志梓 津端恭子	後期	後期

平成13年度				平房12年度				平成11年度				前期														
会長	副会長	書記	会計	会長	副会長	書記	会計	会長	副会長	書記	会計		後期													
大武亮太郎	岡南明希	森井孝則	中山伊知郎	是枝俊悟	坂西宏美	西野千晶	高山勇人	原田真一	宮崎沙都	西岡優美	守時えりか	横山福子		坂西宏美	渡邊秀子	青山明日香	中村乙夫	高村儀容	宮崎沙都	横山福子	本宮純	村松衛	渡辺裕太	西岡優美	八木いずみ	坂西宏美

生徒会誌  
(平成四〜十三年度)



(文責・小川 巧)

## 図書部

### この十年の歩み

#### 一、図書部員の変遷

別表に示す。◎は部長、○は司書、年度の右行は図書係、左行は視聴覚係である。全員で運営した年度も多い。

#### 二、主な出来ごと

平成五年度の大規模改修により、カウンターや照明等の改装がなされ、エアコン四台が設置された。この年度は六ヶ月閉館した。七年度は七月にコピー機（昭和六十年に同窓会より寄贈を受けコピーサービス開始）を更新した。九年度にコンピュータ（管理ソフトはカーサ）を導入し、約二万冊を登録した。十年度は佐瀬先生が転勤（昭和四十四年より勤務）した。この年に残りの約一万冊をコンピュータに登録した。

九・十年度の二箇年に卒業記念品として書架が四台入った。十年度には、コピーサービスをコイン（自動）化した。十二年度は卒業記念品として書架四台を寄贈され、館内の書架の更新が



図書館内部

すすんだ。

十三年度は、(一)情報化に対応する合理的な図書館運営をはかるため、コンピュータ及び図書管理ソフトの更新を行う。(二)教科指導との連携をはかる。特に新教育課程で新設される「総合的な時間」に対処するために、蔵書点検と選書会議、図書の廃棄、配架基準の見直しを行う。(三)視聴覚教室を情報化に対応したものに再構築する。等に重点を置いて活動している。

### 三、委員会活動

図書部は、つぎの委員会を受け持ち、日常活動と「図書館広報」「千葉東高新聞」を定期的に発行している。

#### 図書委員会

大規模改修やコンピュータ導入時に偉大なる力量を発揮した。日常活動、蔵書整理など誠実に業務を遂行している。

#### 放送委員会

学校行事等の補助活動や、放送機器の管理等を行っている。機器の更新を計画的に実施したいものである。

#### 新聞委員会

六〇九年度、一〇一〇年度は休刊した。一〇一一年度復刊第一号から四号までは充実したものであった。一〇一三年六月に第五号を発刊した。

### 図書部員の変遷

◎印は部長、○印は司書  
年度の右行は図書係、左行は視聴覚係

年度	氏名		図書館広報発行No.
平成四年	◎石田三夫	清水攻○佐瀬八重子	八十・八十一号
平成五年	◎石田三夫	清水攻○佐瀬八重子	八十二・八十三・八十四号
平成六年	◎清水攻	上野一仁○佐瀬八重子	八十五・八十六号
平成七年	◎清水攻	上野一仁○佐瀬八重子	八十七・八十八・八十九号
平成八年	◎清水攻	上野一仁○佐瀬八重子	九十・九十一号
平成九年	◎坂井幸夫	上野一仁○佐瀬八重子	九十二・九十三号
平成十年	◎坂井幸夫	上野一仁○深山裕子	九十四・九十五号
平成十一年	◎秋山岩雄	上野一仁○深山裕子	九十六・九十七号
平成十二年	◎馬場勇	善養寺千秋○深山裕子	九十八・九十九号
平成十三年	◎林久雄	善養寺千秋○深山裕子	一〇〇・一〇一号

(文責・林 久雄)



## 保健厚生部

六十周年記念誌の作成にあたり、生徒、職員の健康にたずさわっていただいた保健厚生部、学校医の先生方には、心より感謝申し上げます。なお、保健厚生部は、保健指導、保健管理、組織活動、年間計画、保健事務、学年連絡、厚生に係から成っており、四名の職員で活動しております。

次に、平成四年度から平成十三年度までの保健厚生部の構成職員及び学校医の先生方を年度別に紹介させていただきます。(○印は部長)

平成四年度 ○鈴木富士夫 宍倉 健司 秋葉ひろみ 大石 恵子  
 学校医 茂手木直忠(内) 渡辺 勲(内) 山田 晴彦(外) 武本 吉浩(眼)  
 山口宗彦(印) 磯貝 豊(眼) 齊藤 暁(眼) 矢島 絹代(薬)

平成五年度 ○宍倉 健司 外山 貢 大石 恵子 宮川 若葉  
 学校医 茂手木直忠(内) 渡辺 勲(内) 山田 晴彦(外) 武本 吉浩(眼)  
 山口宗彦(印) 磯貝 豊(眼) 齊藤 暁(眼) 矢島 絹代(薬)

平成六年度 ○宍倉 健司 外山 貢 内田久美子 大石 恵子  
 学校医 茂手木直忠(内) 渡辺 勲(内) 山田 晴彦(外) 武本 吉浩(眼)  
 山口宗彦(印) 磯貝 豊(眼) 齊藤 暁(眼) 矢島 絹代(薬)

平成七年度 ○宍倉 健司 押塚 功明 内田久美子 大石 恵子  
 学校医 茂手木直忠(内) 渡辺 勲(内) 山田 晴彦(外) 武本 吉浩(眼)  
 山口宗彦(印) 磯貝 豊(眼) 齊藤 暁(眼) 矢島 絹代(薬)

平成八年度 ○宍倉 健司 押塚 功明 内田久美子 大石 恵子  
 学校医 茂手木直忠(内) 渡辺 勲(内) 山田 晴彦(外) 武本 吉浩(眼)  
 山口宗彦(印) 磯貝 豊(眼) 齊藤 暁(眼) 矢島 絹代(薬)

平成九年度 ○宍倉 健司 押塚 功明 内田久美子 大石 恵子  
 学校医 茂手木直忠(内) 渡辺 勲(内) 山田 晴彦(外) 武本 吉浩(眼)  
 山口宗彦(印) 磯貝 豊(眼) 齊藤 暁(眼) 矢島 絹代(薬)

学校医 茂手木直忠(内) 渡辺 勲(内) 山田 晴彦(外) 武本 吉浩(眼)

山口宗彦(印) 磯貝 豊(眼) 齊藤 暁(眼) 矢島 絹代(薬)

平成十年度 ○宍倉 健司 内田久美子 長嶋由美子 田上あゆみ

学校医 茂手木直忠(内) 渡辺 勲(内) 山田 晴彦(外) 武本 吉浩(眼)

山口宗彦(印) 磯貝 豊(眼) 齊藤 暁(眼) 矢島 絹代(薬)

平成十一年度 ○宍倉 健司 内田久美子 長嶋由美子 田上あゆみ

学校医 茂手木直忠(内) 渡辺 勲(内) 山田 晴彦(外) 武本 吉浩(眼)

山口宗彦(印) 磯貝 豊(眼) 齊藤 暁(眼) 矢島 絹代(薬)

平成十二年度 ○宍倉 健司 皆川 修一 長嶋由美子 田上あゆみ

学校医 茂手木直忠(内) 渡辺 勲(内) 山田 晴彦(外) 武本 吉浩(眼)

山口宗彦(印) 磯貝 豊(眼) 齊藤 暁(眼) 矢島 絹代(薬)

平成十三年度 ○皆川 修一

学校医 茂手木直忠(内) 渡辺 勲(内) 山田 晴彦(外) 武本 吉浩(眼)

山口宗彦(印) 磯貝 豊(眼) 齊藤 暁(眼) 矢島 絹代(薬)

学校医 茂手木直忠(内) 渡辺 勲(内) 山田 晴彦(外) 武本 吉浩(眼)

山口宗彦(印) 磯貝 豊(眼) 齊藤 暁(眼) 矢島 絹代(薬)

学校医 茂手木直忠(内) 渡辺 勲(内) 山田 晴彦(外) 武本 吉浩(眼)

山口宗彦(印) 磯貝 豊(眼) 齊藤 暁(眼) 矢島 絹代(薬)

学校医 茂手木直忠(内) 渡辺 勲(内) 山田 晴彦(外) 武本 吉浩(眼)

山口宗彦(印) 磯貝 豊(眼) 齊藤 暁(眼) 矢島 絹代(薬)

(文責・皆川 修一)



## 事務部

昭和十六年に開校して以来、六十年の歴史を持つ本校は、全日制課程の他、千葉県で唯一通信制課程があります。

事務室の業務には、授業料の徴収、予算の執行、環境整備、各種証明書の発行等、多岐にわたります。また、通信制独自の業務に報告課題（レポート）の受付があります。

施設設備の維持管理は日々の安全に直結する重要な業務であり、平成三年度以降、主な工事として、

平成四年度 屋外排水改修工事

平成五年度 管理・特別教室棟大規模改修工事、図書室冷房装置設置工事

置工事

平成六年度 屋内運動場天井改修工事

平成七年度 防球・防砂ネット改修工事、植栽工事（グラウンド東側）

通信教育棟床張替工事

平成八年度 電算機室冷暖房装置設置工事、屋内運動場庇改修工事

平成九年度 屋内運動場屋根等改修工事、窯場移設等工事

通信棟新校舎竣工

平成十年度 舗装補修工事（裏門）普通教室棟裏

平成十一年度 排水整備工事（トレーニング室周囲）

平成十二年度 テニスコート改修工事を行いました。

創立六十周年を迎える今年度は、耐震の為の校舎（普通教室棟大規模改造その一）第一期工事を夏季休業中を中心に行いました。

また、来年度も引き続き、第二期工事を行う予定です。

なお、教育用として平成十二年度には、コンピュータ室パソコンの更新が行われ、今後校内LANの整備も予定されております。

IT化が進み、本校でも業務用汎用パソコンが整備され、正確かつ迅

速な事務処理が求められています。

学校の窓口として来訪者に最初に接する事務室は、「心のある爽やかな対応」を心がけ、本校の生徒の皆さんが充実した高校生活を過ごせるよう、事務職員も日々研鑽し、一層の努力をしていきたいと思っております。

（文責・小安 弘子）



大規模改造工事 その一

## 六 教 科

### 国 語 科

応接室には歴代の校長先生方の肖像写真がある。いかにも時代を感じさせる写真から、その職員として仕えた先生方のものが掲げられている。東高の賑やかな校内にあって、ここだけ静かな時が流れているような気がする。

東高の来し方を諸校長先生方は静かに見守っていてくださるが、たいへん困難な時に、東高は産声を上げたと思う。長く続いた戦争の最後に始まった太平洋戦争の開始の年に誕生し、校名や市立、県立など何度か学校の印象を替えながら、長い間にわたりその存在意義を発揮してきた。これからもこの伝統を引き継ぎ、今まで来た道を歩み続けてもらいたいと思う。

創立六十年にあたり、この十年を振り返る意味でこの原稿を書き始めたが、いささかの困惑を覚えた。先生方の移動期と重なり、創立五十年目から空白の三年間が生じている。最長の宇藤先生で七年目、新顔の善養寺先生は二年目、装いも新たにの次の十年を歩み始めたと考えればよいのだろうか。

私(勝又)は東高に赴任して五年目。仕事を同じくした時期の長短はあるが、多少でも知れた先生方を紹介しておきたい。

私と入れ替わりが、現代文の精力的な読み手の長谷川充先生、同じ時に長期研修に出られた田邊義博先生。田邊先生は国語部会でも熱心に仕事を続けておられた。

犬田勝昭先生は学年主任や生徒指導部長として活躍され、北河(成澤)尚子先生は源氏物語を熱心かつ優しく読み込み授業を展開していた。

坂井幸夫先生は学年主任や図書部長として豊かな見識と力を発揮された。吉田正先生は学年主任や総務部長のみならず、長期間にわたり国語部会の事務局長として屋台骨を支えていらっしやう。それが同時進行なのがすごい。

上野一仁先生は図書部に在籍、ブラスバンド部の顧問。多忙な中であつての緻密な教材研究に何度も感心した。

今年、国語科の構成は男女四人ずつ。以前の記念誌を開いても、このような構成はなく、時代の流れがここに見られる。

宇藤・大塚両先生はそれぞれ三年・二年の学年主任を務め、生徒の個人理解と学年経営に全力を注いでいる。以下、笹島・菱木両先生は三年、谷島先生は二学年、渡邊・善養寺両先生は一学年の正担任、そして私は一年の副担任と今年度の国語科主任を務めている。

全員が学年付きとなる年もそう多くないと思うが、毎日の授業と、校務分掌や部活動など守備範囲も広い中で、それぞれの持ち場で奮闘している。保護者や生徒の要望に応えるべく、それこそ一生懸命に生徒と向き合っている。

担当する学年がどこにしろ、どこかあどけなさを残した新入生から、高校三年間ですべてをやり遂げた感のある、晴れ晴れとした顔の卒業生を見る。教えることと育むこと、いわば教師の楽しみを味わうことができる恵まれた環境にある、千葉東高校の今に感謝したい。

さて、創立以来の千葉東高校が少しずつ変化してきてように、これからの十年、どのように変わってゆくのだろうか。入学式に始まり、卒業式に終わる学校の毎日は、毎年が同じことの繰り返しのように見える。学習生活する場は同じであっても、時の流れやそこに集う人は決して同じではないと思う。長い伝統の中で培われてきた進取と勤勉さを受け継ぐ、新しい時代に学ぶ生徒たちに国語科のできることを伝え、これからの千葉東高校に期待したい。

(文責・勝又 邦夫)

「社会の変化」と「社会科の変化」

十年ひと昔とはよく言ったもので、十年たつと昔の事を忘れている。

ロンドンサミットがあり、湾岸戦争があり、朝鮮半島の二国が国連に動盟したのが、「九十一年」なのだが、そうとう昔のことのようにも思えてくる。パブルがはじけ、不況になり、……。そういえば、そんな事があつた気もしているが、めまぐるしく変化する中では、時として前後が混乱するだけでなく「本当にあつたのか？」と疑いたくなる事さえある。十年前には想像すらできなかった事が起り過ぎて、今、何を書いたら良いものか、考え込んでいる。「ポケベル」が「ケータイ」の出現とともに色あせてしまったように、何の話題を書いても、これが読まれるころには、色あせてしまっているのではないかと思えてくる。小泉政権の誕生も、えひめ丸の事故も、オサマ・ビンラデンも、センター試験が五教科七科目になることも。たぶん、もう十年たったら、「いつごろあつたのか？」と思ひ出すこともむずかしくなっているのではないか。いや、忘却のかなたに去ってしまっているのではないか。

社会科にもこの十年で「変化の波」がおとずれた。いやもう社会科という区分けすら存在しない。ベルリンの壁の逆を行くように、二つに分かれたのである。それは、「地歴科」と「公民科」の二つであるが、あい変わらず、研究室は一つであり、多くの先生方も生徒もまとめて「社会科」と呼んでいる。教育課程も変わった。一年生で履修していた「現代社会」にかわり、必修科目で「世界史」が履修されるようになった。二年では「日本史」と「地理」が選択必修となり、三年で「政治経済」と「倫理」の二科目が全員の必修となったのである。しかも、三年次には「選択地歴」の講座があり、三科目の中から一科目を選び、大学受験

に備えるシステムをとるという構成になったのである。生徒の社会科、いや「地歴」「公民」に対する意識もかわってきているように思える。知的好奇心を満足させたいという欲求が、生徒の中にあることは否定しないが、近年は「地歴・公民」に限らず、受験科目であるかどうかという視点が、生徒の心の中に強く存在しているような気がする。科目選択の時、自らが興味あることよりも受験で不利にならないことを意識して選んでいたりと、(当然、文系で地理選択の減少という状況を生む)授業中も、政治経済の授業に真剣に取り組むのは、理系の生徒であつたりしている。そうした状況に少しだけ、不安と不満をかかえながら我々の授業が続いているのである。

社会科の人数構成、そしてメンバーも大きく変わった。こう書いている私自身、教科の中では最古参でありながら五年前に転任して来たのである、それ以前の事は直接は知らない。しかも県の方針とやらで、十年目には皆転任するらしく、「学校の生き字引」のような先輩教師はいないわけで、こうした文章を書くのもひと苦労である。ただ、社会科は以前も、そして現在もメンバーにめぐまれてるせいか、個性が強いわりには仲良しである。こうした雰囲気は、以前から変わっていないであろうし、これからも、こうしていきたいと考えている。変わることを楽しめる心と変わらないことへのこだわりとを、バランスよく持ちあわせながら、互いを尊重しあえる教科であること、次の十年に向けて願っている。今度の十年史を書く「地歴」「公民」の先生も同じ感想を持って欲しいものである。

最後に、この十年で最も悲しかったことは、「九十九年」に我々の同僚松村謙先生が、急逝なさったことである。担任や進路指導部の中心として教育に情熱をかたむけておられた先生の姿、特にその笑顔は、教えをうけた生徒や同僚の心に深くきざまれている。ここに、つつしんで御冥福をお祈りしたいと思う。

(文責・鈴木 宏)

## 数 学 科

数学科は九名で、この人数はこの十年間変わっていない。ただ、十年条項が始まったため、見事に、五十周年までにいた人は一人もいない。私が一番古く今年で十年目である。

この十年の数学科の一番大きい変化は教育課程が変わったことである。左表が、数学の教育課程表である。

平成5年入学生まで

	1年	2年	3年	
			理系	文系
数 学 I	5			
代数・幾何基礎		3		
解析		3		3
微分・積分			3	
確率・統計			3	
合 計	5	6	6	3

平成6年度入学生より

	1年	2年	3年	
			理系	文系
数 学 I	4			
数 学 II		2		
数 学 III			3	3
数 学 A	1	1		
数 学 B		2		
数 学 C			3	
合 計	5	5	6	3

教科書に書かれていることは、いくら減っているのかもしれないが、千葉東高の生徒に教える量は全く変わらずに、第二学年の単位数が減ったのは大きな痛手である。

本校の数学の授業は、ほとんどの生徒が大学進学を希望しているので、それに対応して、授業の進度は速く、一年生の十一月中旬には数学Ⅰ・Ⅱの教科書を終え、二年生の二学期には数学Ⅱ・Ⅲの教科書を終えてしまいい、その後は、学年によって異なるが、受験問題集を購入して、演習をしたり、数学Ⅲ・Ⅳの授業に入ったりにしている。三年次には、文系はセンター試験対策の演習、理系は数学Ⅲ・Ⅳの教科書を早々に終わらせ、

本校職員玄関にて 平成13年9月5日撮影



栗原 田島 澤田 武藤 小森  
戸次 梅井 萩原 佐藤

(文責・梅井 泰宏)

	平成十三年	平成十二年	平成十一年	平成十年	平成九年	平成八年	平成七年	平成六年	平成五年	平成四年
栗原 剛								○	○	○
栗原 剛								○	○	○
栗原 剛								○	○	○
栗原 剛								○	○	○
栗原 剛								○	○	○
栗原 剛								○	○	○
栗原 剛								○	○	○
栗原 剛								○	○	○
栗原 剛								○	○	○
栗原 剛								○	○	○
栗原 剛								○	○	○

大学入試に対応した演習を行っている。それからこの十年の数学科のメンバー表は次のようになる。

○印は数科主任



平成四年からの十年間を通じて、大きな変化として特に取り上げられなければならないのは、平成六年度入学生から適用された新学習指導要領による、教育課程の変化である。それまでは、実質的に物理、化学、生物、地学の内容を一、二年で2単位ずつ学び、三年では、文系で3単位、一科目選択、理系で各4単位の二科目選択というものであり、物化生地のすべての科目を学ぶことができた。これが平成六年度以降では、多くの生徒が、高校で学ぶ理科の科目は物化生地のうちの二種類のみということになってしまった。これは、大学入試とも関係しており、多くの生徒が同一科目のIB、IIをともに選択せざるを得ないことによるものである。最近の生徒の履修状況だが、一、二年のIBの選択では、多くの生徒が一、二年いずれかで化学IBを選択する。残りの一科目については、選択の多い順に、生物IB、物理IB、地学IBである。三年では、文系が3単位の一科目選択、理系が各3単位の二科目選択となる。ほとんどの生徒はIIの科目を選択する。IIはIBの科目を履修してから学ぶものだから、結局、高校で学ぶ理科は化学と、あともう一科目生物または物理、という生徒が多くなるのである。このような状況はやむをえないのであるが、少々残念な気がする。

施設面での変化として大きかったのは、平成六年に、生物講義室がコンピュータ室に変わってしまった事である。平成十五年からの教育課程では、情報という教科が新設されるというように、将来的にみてコンピュータ室の設置はぜひとも必要であったわけであるが、最近での生物の履修希望者が多い状況では、生物講義室がなくなったことは、結果的に多少の不便を被ることとなった。

児童・生徒の理科嫌い、理科離れが進んでいるといわれるようになって久しい。また、このところの傾向として、学習指導要領の改訂のたび

に理科の重みというものが軽くなってゆくように感じられる。これまでに日本は科学技術立国として繁栄してきた。今後ともこの立場は堅持してゆく必要があるだろう。科学技術の発展なくして国の発展はないのではないか。このような意味から、二十一世紀を担う子供たちへの理科教育の重要性というものは大きい。

(文責・細川 信)

平成13年度 理科職員 (2001年11月 撮影)



丸田 木村 曾野 鶴沢 高山 鶴田  
阿部 中山 細川 林 芳賀

## 保健体育科

平成四年度から平成十三年度の十年間の体育科職員の変遷を左の表に書き記しておきたいと思います。

平成十二年度は写真の現本校職員八名で保健および体育の授業を担当しています。授業の特色としては、一・二年生では基礎体力の向上、基本的技能の修得を目指し、三年生ではそれを基に選択授業を展開していきます。また、一・二年生で柔剣道、ダンスを一単位ずつ一年を通して実施しています。

その授業の成果を発揮の場として、四月にスポーツテスト、五月に東雲スポーツ大会（男子はサッカーとバレーボール、女子はバレーボール、男女でチームジャンプ）、十月に千葉県総合運動場陸上競技場で校内体育大会陸上競技の部、二月には同競技場でマラソン大会を行っています。



	平成 4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年
穴倉 健司 (H.1～柔道)										
富田 慶二 (H.2～剣道)									皆川 修一 (剣道)	
津嶋 英也 (H.2～野球)								藤田 勝美 (野球)		
			西田 一幸 (柔道)		柳橋宏和 (サッカー)		加藤ひで子 (女子バレー)			
古市 純久 (S.53～陸上)			矢代 正人 (陸上)							
青柳伸一郎 (S.56～男子バレー)		小出 秀樹 (男子バレー)								
木村 香佳 (S.63～ラグビー)									張能 正和 (ラグビー)	
西村ひとし (S.56～バスケット)		押塚 功明 (バスケット)								

(文責・藤田勝美)

## 芸術科

### 【音楽】

音楽の授業での中心は、ここ十年変わらず歌唱です。前任者井辻教諭の熱心な歌唱指導の賜でしょう、男子生徒の豊かな歌声に驚かされて以来、何とか混声四部合唱を授業で経験しています。

合唱も含めて歌唱は、音楽Ⅰではイタリア古典歌曲、邦人作品によるア・カペラ合唱曲、ルネサンス期の宗教曲（ア・カペラ）を中心に、音楽Ⅱではドイツリート、イタリアオペラのアリア（レシタティーボ付）、邦人作品による合唱に取り組んでいます。数多くの名曲の中で、できるだけ得られるものの豊かな教材をじっくり指導したいと思います。しかしそのためには授業時数の不足も感じています。

歌唱以外では、リコーダーアンサンブル（アルト・テノール・バス）も取り入れています。またオルゴール製作をしていますが、毎年、優れた作品に出会い、生徒の音楽性に感心しています。

音楽Ⅱの最後に行う自由発表では、それまでの音楽体験を生かした熱演がビデオに収録されています。  
(文責・小川 巧)

### 【美術】

東高開設当時は、音楽・美術・書道の三科であった芸術科も、昭和六十二年度入学生より工芸科が新たに開設された。工芸教室がなく、教員の増設もない中で、当時の美術科担当、平松教諭の強い熱意と、森田校長や、多くの先生方の深い理解を得、中庭に窯場が設置されスタートした。しかし、平成十年に中庭に通信棟新校舎竣工により、窯場の移転を余儀なくされ、規模も縮小した。又、それに拍車をかけるように一年生の選択教科が複雑化し、その人数調整の困難さも増大し、工芸科の授業を成立させることができなくなってきた。そして、ついに平成十一年の

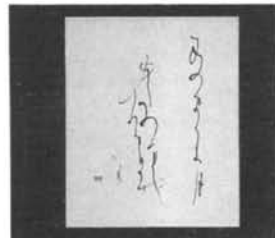
入学生より三科に変更された。しかし、工芸の必要性への思いは変わることなく、現在は美術の授業の中で、工芸の課題を積極的に取り入れている。  
(文責・嘉村 英子)

### 【書道】

本校書道科は、永く安塚旭洞先生が勤められ、その後をご子息が継がれ、そして宮負丁香先生、私と続き、ここ十年は主に宮負先生がご指導されました。

書道選択者数は、音楽、美術に比べやや少なく、この傾向が数年続いているが、選択者は書道に対する興味・関心は強く、また技術的にもレベルの高い生徒が多いようである。

書道Ⅰでは、基本的用筆、唐代の楷書、玉義之の行書作品の臨書、篆刻、平がなの单体、連綿を中心に、書道Ⅱでは六朝時代の楷書、唐代から宋代および平安の行書や草書、古筆等の臨書、半切による創作、漢字かな交り文を書くといった内容で授業をすすめている。書道Ⅲは、他教科との選択で一講座開設しており、半紙と半切による臨書および創作をするという事で、中国・日本の幅広い古典（時代・書体・筆者）の臨書、さらに各自一〜二の法帖を選び、それをより深く追求するという両面で展開し、そして、それを基盤に創作作品を創ることを実践している。  
(文責・林 一己)



英語科のこの十年間の課題として取り組んできた項目は、次の三点が挙げられよう。

- 一、新学習指導要領に基づく学習指導の確立
- 二、生徒の英語の学力向上
- 三、国際交流米国派遣の引率教諭の体制化

#### 新学習指導要領に基づく学習指導の確立について

平成六年度より新学習指導要領に基づく新教育課程がはじまり、オーラル・コミュニケーション・Bをはじめとする新たな科目が導入された。さらに、それまでの教育課程では、一学年の英語の単位数は六単位であったが、新教育課程では一単位減となってしまった。ほとんどの生徒が将来進学を希望する本校では、一学年の指導目標は英語の基礎事項の定着、家庭学習の習慣化であり、一単位減は、この目標の達成に大きな障害となるのではと懸念された。そこで、基礎事項の内容を先送り、及び、削減せずに英語Iとオーラル・コミュニケーション・Bの授業をいかに展開すべきか、その指導方法の確立に取り組んだ。

二、三学年においても同様に、新たな科目の指導方法を検討し、それまでの本校の指導方法を踏襲しつつ、生徒の進路希望実現のために英語の学力が低下しないように配慮し、指導してきた。

#### 生徒の英語の学力向上について

前述のとおり、本校は難関校と呼ばれる大学への進学希望の生徒が多い。中学の英語と大学入試のギャップが広がる中、生徒の進路希望実現のためにそのギャップを埋めることが進学校に課せられる。指導する側

としては、どの程度目標に到達しているか気になるところである。英語の学力の向上・維持・低下の一つの目安は、各学年で実施される模擬試験とセンター試験の結果である。過去のデータと見比べ、学年の英語科のスタッフは、その結果に一喜一憂するのである。ただし、目標点に到達していないと反省し、指導により一層の意欲を抱くことも事実である。幸いにして今までのところ、高い英語の学力を維持できているのは、スタッフ一同大いなる喜びである。

#### 国際交流米国派遣の引率教諭の体制化について

国際交流は、米国派遣、オーストラリア派遣、本校への受け入れ事業がある。特に米国派遣に関しては、それまでは科の中で誰が引率するかを年度内に決定していたが、引率職員が授業・その他の校務に支障をきたさないように検討し、担任以外で三学年を指導する教員が引率することにした。前年度末に見通しを立て、英語科として米国派遣が継続できるように体制を整えた。

平成十五年度には、新教育課程が実施され、また新たな課題に英語科は取り組んでいかなければならない。そして、これまでの十年間、国際交流に御尽力いただいた池田和夫教諭、学習指導の確立に御尽力いただいた辻村民雄教諭、最古参として英語科の流れを伝え、学年主任として御尽力いただいた菅野政敏教諭、進路指導担当で英語の学力向上に御尽力いただいた松本孝教諭に英語科一同深く感謝申し上げますと伴に先達の残された良き伝統を今後とも継続し、発展させていく所存である。

(文責・住田 健司)

## 家庭科

家庭科は平成六年度の新教育課程実施に伴い大きな変化がありました。それまで長きにわたって継続されてきた女子のみ必修という規程がはずれ、男女四単位必修へと変わったということです。

本校では、男女共に自立した一個人として、また、互いに支え合い、充実した人生を送ることを目標としたカリキュラムを考えました。中でも被服製作について、教材を何にするかが大きな課題となりました。製作するだけに留まらず、活用できるものということから、実習着(割烹着)を作成し、二年次の調理実習で着用することになりました。実施してみると、男女差はほとんどなく、あくまでも個人差ということから、従来女子のみ実施していたことに不自然さを感じさせられたスタートでした。

平成七年度より、一・二年生とも男女必修になり、家庭一般の全分野において必修が始まりました。一年生は、週二時間、家庭経済・家族・被服分野を中心に学習し、作品として割烹着を完成させています。二年生は、週二時間連続授業で、日常生活に必要な栄養・食品や健康についての知識を養い、調理実習で実践力や技術を修得しています。又、保育分野も基礎的な内容を取り上げています。このカリキュラムになってから数年経ちましたが、落ちついた状態で授業に取り組んでいる様子です。

男女共に、人として互いに尊敬し合い、「生きる力」を持った人に成長して欲しいと思います。

### 人事異動

倉内くに子 先生 平成 七年三月 京葉工業高校へ

秋葉ひろみ 先生 平成十一年三月 四街道北高校へ

(文責・長嶋・小久保)





## 七 P T A活動

全日制課程 P T A

### 【P T A活動】

本校P T Aは、昭和二十四年五月二十九日発足し、平成三年十一月九日、当時会長の乾奏宏氏を実行委員長に創立五十周年記念式典が挙行され、早十年の月日が流れた。平成十三年度会長の安井玲子氏に至るまで三十四代を数え、学校との協力のもと、活発な活動を続けている。この年初の女性会長であった。(別紙資料一)

現行のP T A会則は、五十周年記念誌にもあるように、昭和二十七年五月二十七日付で施行され、その後七回にわたって改正が行われ、最終改正は平成二年四月一日に行われている。以来同会則にて進められている。本校P T A組織の概要をみると、「保護者と教職員が一体となって生徒福祉の増進を図るとともに、協力して本校発展に資することを目的とする。」とあり、会長をはじめとする七名の役員と各クラス原則二名の理事を選出し、活動を行っている。総会は年一回、理事会は年三回、(毎学期一回)開かれている。また、会則の十四条にもあるように、事業遂行に必要な業務を担当する目的で総務委員会(広報・研修・国際交流)、進路委員会、生活指導委員会の三つの委員会がおかれ理事はどれかの委員会に所属することになっている。また、昭和六十三年度の改正で学年単位に学年委員会もおかれるようになり、各学年での懇談会や、進路講演会等の実施をしており、多数の出席があり、大きな成果をあげている。

最近の活動様子をも、会員の研修と親睦を図る事業等積極的に進められている。校外事業には千葉県や千葉市の主催する研修会をはじめ、関東高等学校P T A連合会大会・全国高等学校P T A連合会大会等、毎

年主催地を変えながら全国レベルでの研修会もあり、P T A役員・理事が参加している。校内事業としては、毎年十二月には、音楽・演劇・古典芸能のうちから一部門を輪番で招き、生徒、職員とともに鑑賞する芸術鑑賞会も催されている。そして、研修と親睦を兼ねた「大学巡り」が行われている。昭和六十二年から、講演会に代わり「大学巡り」が実施されるようになった。大学は、筑波大学・横浜国立大学・早稲田大学を年度毎に順番に見学する企画をとりながら進めてきた。平成四年度の大規模巡りから横浜国立大学に変わり、進路希望の多くなった慶應義塾大学にと変わった。そして、早稲田大学、筑波大学、慶應義塾大学の三大学をローテーションしながら現在では大学見学を行っている。会員の方々の参加も多く、なかなか好評である。また見学後の昼食時においても、会員それぞれが親睦を深める機会を持ち楽しい一時を過ごしている。(別掲資料二、参照)



慶應義塾大学



筑波大学図書館

P T A会報は昭和四十一年七月十五日に創刊号が発足されて以来、毎年三回、毎学期一回の割合で発行されている。平成十一年三月十日発行の会報がちょうど一〇〇号となった。その一〇〇号の中に、当時P T A会長佐々木伸行氏は、「夢」は人生の源、「夢」は心の源、「夢」は生きる源、「夢」はやさしさの源。子供達の「夢」はかなえてあげることができないかもしれないが、「夢」を育む手伝いはできるのではないのでしょうか。と述べておられる。また当時の校長、長妻孝治先生は、「学校と家族との連携を深め協力して思いやりの心、正義感や公正さを重じる心等が育まれるよう努めていきたい。」と述べられ、結びには、「学校と保護者とのふれあいを深めることを目的とするこの会報がこれからも末永く役目を果たすことを願っている。」と印されている。平成十三年度三月八日発行で一〇九号となるこの会報が、P T A関係だけではなく、広く生徒の生活全般、教育全般にわたり、家庭と学校を結ぶ太いパイプとして続いて欲しいと願っている。

年間三回の理事会の出席率も非常に高く毎回九〇パーセントを越えている。各種の研修会等への参加も積極的であり、会員・保護者の教育に対する関心はすこぶる高く、意欲的である。そして今年、平成十三年十一月十日には、現同窓会会長の井戸川浩氏を実行委員長に、創立六十年記念式典が挙行されたのをはじめ、各種の記念事業がとり行われている。内容は、当日の記念式典、祝賀会等をはじめとし、五十周年記念誌以降をとりまとめ「この十年の歩み」として六十周年記念誌発行、従来十二月に実施している芸術鑑賞会を拡大実施、校舎耐震改修工事後に廊下の壁面を三年計画でギャラリー風に装飾等の事業が行われる。

P T A活動もここ十年間大きな変化はないが、創間六十年という歩みとともに、P T A活動も、現会長安井玲子氏に至るまで、学校との協力のもと、活発な活動をしてきている。P T A活動の一端を紹介してきましたが、自己教育力や生きる力を育んでいくためには何ができるのか、

何をしなければならぬのか、同窓会や地域と連携しながら実践を積み重ねていきたいと思っている。

資料一 平成四十三年度 P T A会長・副会長一覽(敬称略)

年度	会長	副会長
平成四年度	岩坂 省三	山口 宏一・藤原 祥子
平成五年度	山口 宏一	永田恵美子・吉開 楯彦
平成六年度	吉開 楯彦	待井登美子・岩坂 省三
平成七年度	岩坂 省三	酒井 紀子・杉田 三男
平成八年度	杉田 三男	古元 秀子・小川 雄永
平成九年度	小川 雄永	古元 秀子・豆成真理子
平成十年度	佐々木伸行	中野 郁子・三宅 和子
平成十一年度	佐々木伸行	三宅 和子・木之内あや子・松本 俊一
平成十二年度	松本 俊二	吉田久美子・安井 玲子・堤 健一
平成十三年度	安井 玲子	吉田 妙子・吉田久美子・織田 文子

資料二 年表「P T Aの歩み」

平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
4・27	5・7	5・27	6・4	7・8	7・8
会報七十九号発行(特集 新任者紹介)	理事会	千葉県高等学校P T A連合会定期総会 (千葉市民会館)	総会	第三十八回関東高等学校P T A連合会大会 (千葉県・鴨川市)	会報八十号発行
第四十二回高等学校P T A連合会大会 (熊本県・熊本市)					

平成5年度										平成4年度									
11 ・ 25	11 ・ 18	11 ・ 12	10 ・ 14	9 ・ 16	8 ・ 26 ・ 28	7 ・ 20	7 ・ 7 ・ 8	6 ・ 8	6 ・ 3	5 ・ 6	3 ・ 10	1 ・ 28	1 ・ 22	12 ・ 24	11 ・ 27	11 ・ 20	11 ・ 19	10 ・ 15	9 ・ 12
千葉県高等学校PTA連合会定期総会 (千葉市民会館) 第三十九回関東高等学校PTA連合会大会 (埼玉県・浦和市、川口市) 会報第八十三号発行 第四十三回全国高等学校PTA連合会大会 (北海道・札幌市) 研修委員会 理事会 千葉地区高等学校PTA連合会研究集会(青雲閣) 研修会 筑波大学 千葉県高等学校PTA連合会研究集会 第一回 (総合教育センター)										研修委員会 理事会 研修会 早稲田大学見学 千葉県高等学校PTA連合会研究集会 第一回 (千葉県情報教育センター) 千葉地区高等学校PTA連合会研究集会 (千葉県職員会館) 会報第八十一号発行 千葉県高等学校PTA連合会研究集会 第二回 (千葉県職員会館) 理事会 会報第八十二号発行									

平成6年度													平成5年度						
3 ・ 10	1 ・ 26	1 ・ 20	12 ・ 24	11 ・ 24	11 ・ 17	11 ・ 10	10 ・ 3	9 ・ 17	8 ・ 25 ・ 27	7 ・ 28	7 ・ 20	7 ・ 7 ・ 8	6 ・ 8	6 ・ 2	5 ・ 12	3 ・ 10	1 ・ 27	1 ・ 21	12 ・ 24
研修委員会 理事会 研修会 慶應義塾大学見学 千葉地区高等学校PTA連合会研究集会(青雲閣) 千葉県高等学校PTA連合会研究集会 第一回 (情報教育センター) 会報八十七号発行 千葉県高等学校PTA連合会研究集会 第二回 (情報教育センター) 理事会 会報八十八号発行													会報八十四号発行 千葉県高等学校PTA連合会研究集会 第二回 (総合教育センター) 理事会 会報八十五号発行						

平成8年度					平成7年度														
8・27 28	7・19	7・4 5	5・31	5・29 9	3・8	2・7	1・25	12・22	11・17	11・15	11・10	10・12	9・16	8・25 27	7・20	7・7 8	6・7	6・1	5・11
第四十六回全国高等学校PTA連合会大会(新潟) 会報第九十二号発行 (山梨県・甲府市) 第四十二回関東高等学校PTA連合会大会 (千葉県教育会館) 千葉県高等学校PTA連合会定期総会 総会					理事会 千葉県高等学校PTA連合会定期総会 (千葉県教育会館) 第四十一回関東高等学校PTA連合会大会 (茨城県・水戸市) 会報第八十九号発行 第四十五回全国高等学校PTA連合会大会(岡山) 研修委員会 理事会 研究会 早稲田大学見学 千葉県高等学校PTA連合会研究会 第一回 (千葉県女子高校) 千葉県地区高等学校PTA連合会研究会(青雲閣) 会報第九十号発行 理事会 千葉県高等学校PTA連合会研究会 第二回 (千葉県女子高校) 会報第九十一号発行														

平成9年度											平成8年度										
3・10	2・3	12・24	11・28	11・12	11・7	10・9	9・13	8・27 28	7・19	7・10 11	6・3	5・29	5・8	3・10	1・30	12・24	12・	11・26	11・8	10・11	9・14
研究会 慶應義塾大学見学 千葉県地区高等学校PTA連合会研究会(京成ホテル) 千葉県高等学校PTA連合会研修会 (千葉県教育センター) 会報第九十六号発行 理事会 会報第九十七号発行											研修委員会 理事会 研究会 筑波大学見学 千葉県高等学校PTA連合会研究会 (千葉県教育センター) 千葉県地区高等学校PTA連合会研究会(青雲閣) 会報第九十三号発行 理事会 会報第九十四号発行										

平成11年度								平成10年度													
10 ・ 7	9 ・ 11	8 ・ 26 } 27	7 ・ 19	7 ・ 7 } 8	6 ・ 1	5 ・ 27	5 ・ 6	3 ・ 10	2 ・ 2	12 ・ 24	11 ・ 26	11 ・ 13	11 ・ 13	10 ・ 18	9 ・ 12	8 ・ 27 } 28	7 ・ 18	7 ・ 8 } 9	6 ・ 2	5 ・ 28	5 ・ 7
理事会 研修委員会 第四十九回全国高等学校PTA連合会大会（岐阜） 会報第一〇一号発行 （千葉県・鴨川市） 第四十五回関東高等学校PTA連合会大会 千葉県高等学校PTA連合会定期総会 （千葉県教育会館）								理事会 研修委員会 第四十八回全国高等学校PTA連合会大会（群馬） 会報第九十八号発行 （栃木県・宇都宮市） 第四十四回関東高等学校PTA連合会大会 （千葉県教育会館） 千葉県高等学校PTA連合会定期総会 千葉地区高等学校PTA研究会集會（京成ホテル） 千葉県高等学校PTA連合会研修会 （千葉県教育センター） 会報第九十九号発行 理事会 会報第一〇〇号発行													

平成12年度								平成11年度												
3 ・ 9	2 ・ 6	12 ・ 22	11 ・ 28	11 ・ 27	11 ・ 15	11 ・ 9	10 ・ 5	9 ・ 9	8 ・ 26 } 27	7 ・ 19	7 ・ 6 } 7	6 ・ 6	6 ・ 1	5 ・ 11	3 ・ 10	2 ・ 1	12 ・ 24	11 ・ 22	11 ・ 16	11 ・ 5
理事会 会報第一〇六号発行 会報第一〇五号発行 （千葉県教育会館） 千葉県高等学校PTA連合会研修会 全国高等学校PTA連合会五十周年記念式典（東京） 千葉県高等学校PTA連合会研修会 （ポートプラザちば） 千葉地区高等学校PTA連合会研究会 千葉県高等学校PTA連合会定期総会 （千葉県教育会館） 会報第一〇四号発行 （埼玉県・大宮市） 第五十回全国高等学校PTA連合会大会（東京） 研修委員会 理事会 研修会 慶應義塾大学見学								理事会 会報第一〇三号発行 会報第一〇二号発行 （千葉県教育センター） 千葉県高等学校PTA連合会研修会 千葉地区高等学校PTA連合会研究会集會 （ポートプラザちば） 千葉地区高等学校PTA連合会研究会 筑波大学見学 研修会												



平成13年度													
3 ・ 8	2 ・ 7	12 ・ 21	11 ・ 22	11 ・ 16	11 ・ 7	10 ・ 4	9 ・ 15	8 ・ 23 } 24	7 ・ 19	7 ・ 5 } 6	6 ・ 7	6 ・ 5	5 ・ 10
<p>理事会 千葉県高等学校PTA連合会定期総会 (千葉県教育会館)</p> <p>総会 第四十七回関東高等学校PTA連合会大会 (群馬県・前橋市)</p> <p>会報第一〇七号発行 第五十一回全国高等学校PTA連合会大会 (宮崎県・宮崎市)</p> <p>研修委員会 理事会 研修会 早稲田大学見学 千葉県地区高等学校PTA連合会研究集会 (ポートプラザちば)</p> <p>千葉県高等学校PTA連合会研修会 (千葉県教育センター)</p> <p>会報第一〇八号発行 理事会 会報第一〇九号発行</p>													

(文責・加藤ひで子)



演劇博物館



大隈重信銅像

早稲田大学



大隈講堂



正門

### 第三節 通信制課程の記録

通信制の高等学校が広く認められるようになり、施設の拡充、制度の整備、人的配置の強化、学校数の増加などがあり、また、特に高校中退者が増加したが、その人達が更に学び直す教育機関として通信制の学校を考えるようになって、平成十三年度の在籍者は、全国で約十八万人を越えるようになった。全国高等学校通信制教育研究会（全通研）のアンケート調査によれば、入学動機として「せめて高校卒業」が圧倒的に多いが、「上級学校への進学」、「就職の選択幅拡大」、「高卒の資格が必須」、「毎日の通学がイヤ」など、新入生、転編入生を問わず、共通の動機として挙げられる。生徒層の若年化、自分の意志で入学を決めている生徒数、入学の動機を総合してみると、「受け皿としての通信制」から「全日制・定時制・通信制の中から積極的に選択された通信制」へと生徒達の意識が変化しているのではないかと思われる。

各県に、通信制の学校が、次々と開校されている由縁だろう。本県でも、通信制の課程を置く私立高校が増えた。単独で、通信制の課程のみの学校もある。今後、通信制の課程を設置する学校は増加する傾向にある。全通研のアンケートによると、学校に満足している生徒の割合は、八十パーセントを越えている。その理由として、「マイペースの勤勉ができる」、「毎日通学しなくてよい」が挙げられている。が、不満の理由の中に、「内容が難しい」、「登校回数が少ない」があり、多様な要望を生徒達が持っていることを示唆している。「働きながら学ぶ通信制」から「キャリアアップを図りながら学ぶ通信制」や「自分のペースで学ぶ通信制」という、特色のある人間形成の場としての機能が求められている。また、多様な要望に柔軟に対処しうる学校システムの構築が望まれている。

本校は、千葉県に唯一の通信制課程の公立高校として、千葉県下の広い地域からの入学生があり、多くの在籍生を抱えている。（表4参照）志願者の増加、特に、若年層、転編入生の増加に伴い、様々な問題が出てきている。出席者増に伴うスクーリング時の教室の配分、車椅子の生徒への補助介助、スクーリング時の盗難の予防・未成年者への喫煙指導などの生徒指導上の問題、目に見えない何らかの問題を抱える生徒の対応など、出てきた問題に対し、一応対処しておくというのが現状である。平成十二、十三年に亘り、職員が微増した。教諭が一人増えた他に、スクーリングのみの講師、レポート添削のみの講師が配置され、本務教員の職務にやや余裕が出てきた。ただ、生徒の増加にかかわらず、職員の大幅な配置増、施設の拡充の困難さなど、課題は多い。

入学者選抜については、志願者の増加に伴い、出願期間と入試日を分けて実施するようになった。入試日として、新入希望者・編入希望者で四日間、転入希望者で二日間の日程を割り振っているが、六日間ともにぎりぎりの日程、作業量、後処理になっている。面接、作文による選抜方式を検討し直して、入学者を制限することを考えなくてはならないような時が来ている。（表2、3参照）

通信教育で一人でも多くの卒業生を増やすために、かつては、教育課程における多様なコースの設定、巡回スクーリング、出張学習会などいろいろな工夫と努力を続けたが、平成六年以降は、教育課程を一つにし、より多くの科目を選択できるようにした。継続履修の制度を活用した卒業生が徐々に増え、その所期の目的を果たしている。（表5参照）

平成十二年には、通信制の課程であることこそ、人間性の豊かな、調和のとれた人物を養成することを主眼に教育方針の改訂を行った。

#### 一、自己啓発

自学自習の精神の涵養に努め、生涯にわたって意欲的に自己啓発に努める、自主的・自律的な人物を養成する。

## 二、個性伸長

学力の充実を図りながら、生徒一人一人の個性と能力の伸長に努め、社会に貢献しうる、豊かな教養と社会性を身につけさせる。

## 三、自己敬愛

自らの生き方を積極的に追求するとともに、他者の人格を尊重し、思いやることのできる、豊かな人間性の育成に努める。

なお、情報機器の導入については、狭い部屋ながら、コンピュータを購入し、可能な範囲で処理を託している。将来的には、教職員の業務が校内ランを通して、組織的に一斉処理ができるようになればよいと思う。また、ホームページを開設して情報交換ができるようになってきているが、日常の他の教育活動に追われて、充分にはその機能を活用できていない。各年度毎のトピックスは次の通りである。

平成 三年度 県教育委員会表彰 団体部門受賞

千葉東高等学校創立五十周年記念式典・講演

平成 四年度 県定通体育大会で陸上部女子団体優勝

平成 五年度 新入生合宿研修（東金青年の家 これを最後に中断）

第一回進学相談会開催

平成 六年度 県立千葉商業高校と学校間連携事業開始

新教育課程、学年進行でスタート

全国定通体育大会で早川勇平君優勝（三段跳び）

平成 七年度 県定通体育大会で四部門で優勝

平成 八年度 県定通体育大会で二部門で優勝

平成 九年度 通定併修・協力校制度スタート

平成 十年度 通信棟新校舎竣工

平成十一年度 県定通体育大会で三部門で優勝

平成十二年度 県定通体育大会で女子バレー連続優勝

平成十三年度 県定通体育大会で五部門で優勝

表1 教育課程

1 組 生	単位	2 組 生	単位	3 組 生	単位	4 組 生	単位
(必修科目)		(必修科目)		(必修科目)		(必修科目)	
国語 I (1)	4	国語 I (2)	3	国語 II (1)	2	国語 II (2)	2
地理 B	4	世界史 B	4	現代社会	4	日本史 B	4
数学 I (1)	4	数学 I (2)	2	体育 (3)	2	体育 (4)	2
生物 I B	4	物理 I B	4	保健	2	オーラル・コミュニケーション A	2
体育 (1)	2	体育 (2)	2	家庭一般	4	流通経済	4
英語 I (1)	3	英語 I (2)	3				
		(選択科目)	2	(選択科目)	4	(選択科目)	2
		音楽 I		数学 II、化学 I B		数学 A、地学 I A	
		美術 I		英語 II、文書処理		音楽 III、美術 III	
		書道 I		(うち 1 科目)		書道 III	
		(うち 1 科目)				(うち 1 科目)	
				(選択科目)	2	(選択科目)	4
				音楽 II、美術 II		被服、食物、簿記	
				書道 II		商業法規	
				(うち 1 科目)		(うち 1 科目)	
6 科目	21	7 科目	20	7 科目	20	7 科目	20

注：3組、4組の芸術科目は同一科目の選択になります。

## 一 教育課程

平成六年度入学生からの教育課程は、左表の通りである。

留意した点は、次の四点である。なお、教育課程は、学年制での編成である。

- (一) 基礎的・基本的な科目を低学年に配した。
- (二) 発達段階に応じた科目配置を考えた。
- (三) 興味・関心に基づく科目選択ができるよう、選択科目に工夫した。
- (四) 専門科目である、家庭科の科目（食物、被服）や商業科の科目（流通経済、文書処理、簿記、商業法規）が履修できるように配置した。

## 二 在籍生徒数

全国的にみて、平成元年には、通信制在籍者数が定時制在籍者数を越えるようになり、以降、通信制の拡充期、伸長期を過ぎ、安定期、変革期を迎えようとしている。本校でも、徐々に入学者が増加しており、平成十二年からは、定員をオーバーする在籍者になっている。(表2)ちなみに、本県では、定時制十八校の平成十三年度の在籍者は、二九六八名である。

表2 在籍生徒数の変化(平成4年度から平成13年度)

	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度
男	526	510	559	553	597
女	677	646	672	613	638
計	1,203	1,156	1,231	1,167	1,235
定通併修生 および特科生				75	85

	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
男	619	639	640	675	654
女	653	697	736	770	800
計	1,272	1,336	1,376	1,445	1,454
定通併修生 および特科生	84	114	125	105	85

注1：平成4年度から6年度までは、定通併修生および特科生の数の記録がない。

注2：特科生には、県職生、市原刑務所の科目履修生の数は、含まれていない。

在籍者数の増加に伴い、スクーリングに支障をきたすことになった。日曜、平日スクーリングともに、受講生が教室に入りきれない状況が続くようになり、特に、調理実習では、全日制の実習教室が手狭になり、平成十年には、通信棟の新館が完成し、その四月から、使用できることになった。一階は、調理実習室、二階は、多目的な使用のできる普通教室、三階は、被服室と多目的教室である。日曜、平日のスクーリングに多様な使い方をしている。(右写真)



通信棟新館

表3 入学者数（平成4年度から平成13年度）

年度	男	女	計
4	211	274	485
5	176	228	404
6	218	252	470
7	231	229	460
8	240	263	503
9	296	275	571
10	275	312	587
11	256	311	567
12	310	334	644
13	260	315	575

注：平成6年度までの入学者数には、定通併修、特科生は含まない。

入学者数の変化は、表3に示す。中学校から直接本校に進学する生徒の中には、長期欠席だったり、精神的、あるいは身体的な悩みを抱えている者が多い。が、最近では、通信制の学校への期待を持ち、積極的に進学先として考える生徒も増えてきているのではなからうか。転入生は、前籍校での学校不適応が多いように思われる。編入生は、高校を退学したものの、社会に出て働いてみると、高校卒業の資格が現在の社会では必要だと気づいて入学してくるようだ。（表4にその他の情報を載せてある）

かつては、年配者の生徒の割合が大きかったのであるが、最近では、若年化が進んでいる。が、学習面、学校行事、クラスでの活動、部活動などにおいては、年配者の活躍・活動が目立ち、若い生徒達の牽引役となり刺激を与えている。若い生徒達の没社会的な行動・思考様式に危惧を持つ面を覚える。若年層への対応として、保護者会、保護者への学校説明会等の何らかの方策が必要な時代になっている。

表5の開学以来の卒業生の数の推移をみると、本校が果たした社会的役割は決して軽いものでないことがわかる。同規模の他県の学校に比べ、卒業生の多さは特筆すべきである。それぞれに、社会の中で、貢献する役割を担っていることだろう。

卒業までの在籍年数は、長短あるが、卒業式における代表の答辞には、感銘を受けることがある。仕事を持ちながらの勉学、子育てをしながらのレポート作成・試験勉強など、通信制ならではの苦労があったのだろう。卒業後、更に上級学校に進学し、勉学を続ける人、資格取得のための基礎固めができ、更なるキャリアアップを図る人など、前向きに生きていこうという意欲を感じる。私たち教員は、生徒から、いきるためのエネルギーを、吸収しているのかも知れない。



卒業式



表4 在籍状況

平成13年6月28日現在

年代別・男女別 在籍者数の推移（「学校要覧」による、各年度とも5月1日現在）

年代	平成13年度			平成12年度			平成11年度			平成10年度			平成9年度			平成8年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
15～19	420	552	972	445	527	972	445	487	932	434	451	885	407	440	847	360	413	773
20～24	171	128	299	167	133	300	159	149	308	176	140	316	164	106	270	184	123	307
25～29	54	59	113	60	68	128	55	52	107	49	59	108	48	62	110	49	51	100
30～39	41	48	89	35	48	83	35	42	77	27	31	58	29	25	54	27	33	60
40～49	10	24	34	13	17	30	13	19	32	13	32	45	10	27	37	12	31	43
50～59	4	22	26	6	21	27	5	32	37	5	24	29	5	28	33	3	29	32
60～	5	2	7	4	6	10	3	5	8	4	3	7	3	2	5	1	4	5
合計	705	835	1,540	730	820	1,550	715	786	1,501	708	740	1,448	666	690	1,356	636	684	1,320

男女別 在籍者数の内訳から見た推移（全通研提出資料による、各年度とも5月1日現在）

在籍状態	平成13年度			平成12年度			平成11年度			平成10年度			平成9年度			平成8年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
本科	655	800	1,455	675	770	1,445	640	736	1,376	635	699	1,334	619	653	1,272	597	638	1,235
科目履修	5	2	7	8	3	11	8	2	10	9	7	16	9	8	17	8	9	17
併修			0			0			0			0			0			0
合計	660	802	1,462	683	773	1,456	648	738	1,386	644	706	1,350	628	661	1,289	605	647	1,252
通定併修	45	33	78	47	47	94	67	48	115	64	34	98	38	29	67	31	37	68
総計	705	835	1,540	730	820	1,550	715	786	1,501	708	740	1,448	666	690	1,356	636	684	1,320

※ 全通研提出資料は、平成12年度から「併修」は「自校在籍者のみ」となったため、平成11年度以前についても同様の扱いとしてある。

組織・男女別 在籍者数の推移（「学校要覧」による、各年度とも5月1日現在）

学年	平成13年度			平成12年度			平成11年度			平成10年度			平成9年度			平成8年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1組	117	165	282	136	161	297	116	143	259	115	150	265	121	119	241	107	121	228
2組	245	283	528	245	251	496	250	269	519	245	249	494	222	237	459	229	218	447
3組	130	148	278	136	180	316	123	136	259	96	132	228	115	126	241	107	155	262
4組	163	204	367	155	178	336	151	188	339	179	168	347	160	171	331	154	144	298
5組	50	35	85	55	50	105	75	50	125	73	41	114	47	37	84	39	46	85
計	705	835	1,540	730	820	1,550	715	785	1,501	708	740	1,448	666	690	1,356	636	684	1,320

男女別 入学者数の内訳から見た推移（全通研提出資料による、各年度とも5月1日現在）

在籍状態	平成13年度			平成12年度			平成11年度			平成10年度			平成9年度			平成8年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
一般	64	110	174	98	125	223	88	118	206	88	121	209	87	96	183	80	100	180
科目履修	1	1	2	3	1	4	4	1	5	4	4	8	4	4	8	3	4	7
併修			0			0	39	32	71	46	24	70	31	19	50	18	20	38
転・編入	168	185	353	181	183	364	125	160	285	137	163	300	174	156	330	141	138	279
合計	233	296	529	282	309	591	256	311	567	275	312	587	296	275	571	242	262	504

※ 全通研提出資料は、平成12年度から「併修」は「自校在籍者のみ」となったため、平成11年度以前についても同様の扱いとしてある。

表5 通信制課程の卒業生数の推移

卒業年次	卒業生		計
	男	女	
昭和31年度 (第1回)	2	1	3
昭和32年度 (第2回)	4	5	9
昭和33年度 (第3回)	8	5	13
昭和34年度 (第4回)	8	3	11
昭和35年度 (第5回)	8	14	22
昭和36年度 (第6回)	12	13	25
昭和37年度 (第7回)	14	12	26
昭和38年度 (第8回)	17	23	40
昭和39年度 (第9回)	41	34	75
昭和40年度 (第10回)	40	40	80
昭和41年度 (第11回)	26	33	59
昭和42年度 (第12回)	46	88	134
昭和43年度 (第13回)	17	70	87
昭和44年度 (第14回)	57	104	161
昭和45年度 (第15回)	16	96	112
昭和46年度 (第16回)	35	146	181
昭和47年度 (第17回)	25	152	177
昭和48年度 (第18回)	22	121	143
昭和49年度 (第19回)	41	150	191
昭和50年度 (第20回)	38	176	214
昭和51年度 (第21回)	33	142	175
昭和52年度 (第22回)	32	170	202
昭和53年度 (第23回)	36	324	360
昭和54年度 (第24回)	25	247	272
昭和55年度 (第25回)	30	226	256
昭和56年度 (第26回)	37	152	189
昭和57年度 (第27回)	47	90	137
昭和58年度 (第28回)	59	85	144
昭和59年度 (第29回)	41	67	108
昭和60年度 (第30回)	27	76	103
昭和61年度 (第31回)	35	75	110
昭和62年度 (第32回)	29	61	90
昭和63年度 (第33回)	31	63	94
平成元年度 (第34回)	40	71	111
平成2年度 (第35回)	43	84	127
平成3年度 (第36回)	49	84	133
平成4年度 (第37回)	64	90	154
平成5年度 (第38回)	62	88	150
平成6年度 (第39回)	81	110	191
平成7年度 (第40回)	57	101	158
平成8年度 (第41回)	79	115	194
平成9年度 (第42回)	74	133	207
平成10年度 (第43回)	82	114	196
平成11年度 (第44回)	95	147	242
平成12年度 (第45回)	99	148	247
計	1,773	4,339	6,112

### 三 相互交流事業、外部との連携

定時制高校との相互交流事業として、定通併修、協力校制度、通定併修、学校間連携がある。

定通併修制度は、定時制に在籍している生徒が本校に通い、スクーリング、テストを受け、単位を修得する制度である。県下の十四校の学校からの希望者を受け入れている。三年間で卒業を目指す生徒が多く、学習意欲があり、熱心に講義を受けていて、本校の在籍者にもいい影響を与えている。本校の生徒会活動に加わったり、体育祭に参加したりとダブルスクールの楽しみを見いだした生徒もいた。平成十二年からは、本校の在籍者の増加に伴い、施設・設備の関係で希望者の制限をしている。そのせいか、平成十三年には、希望者が減少しているが、単位修得が簡単にはできないということに気がついたからかも知れない。途中での挫折者、辞退者がいたりして、全員が単位修得に至らないのは残念である。

協力校制度は、定通併修をベースにして、在籍する定時制でスクーリング、テストを受け、単位を修得する制度である。千葉東高校に通う負担がない分、生徒には楽なはずである。平成九年度から開始されたが、野田高校、佐倉東高校、館山高校の三校で実施している。生徒のレポートの進捗状況、理解度などが在籍校の職員が把握することが容易になり、生徒にとっては、都合のよい制度である。また、平成十二年からは、レポートの添削を在籍校の担当者が携わることになり、さらに生徒への指導がきめ細やかに行われるようになった。定通併修に参加している全ての学校で、協力校制度が導入されるようになれば、生徒の学習支援、単位修得に、今まで以上の成果が得られるのではないだろうか。

通定併修制度は、本校の生徒が定時制の学校に通学して単位を修得する制度であるが、自宅近くに定時制高校がないこと、夜間にほぼ毎日通学する負担が大きいことなどにより、希望者は少ない。平成十三年度は、

三名の生徒が、船橋高校、千葉商業高校、館山高校で学んでいる。学校間連携は、千葉商業の定時制の課程の特別授業に、本校の生徒が通学する制度で、平成六年からスタートしたが、法規上の関係で、平成十三年からは、廃止し、通定併修の形で通うことになった。外部との連携では、市原刑務所の受刑者の教化、県職員の研修ということ、簿記の出張授業を積み重ねている。

表 6 平成13年度の相互交流事業

定通併修	県立千葉、千葉商業、県立船橋、葛南工業、行徳、東葛飾、野田、佐倉東、佐原、匝瑳、東金、長生、館山、木更津
協力校	上記の内 野田、佐倉東、館山
通定併修	船橋、千葉商業、館山

注1：定通併修は、定時制に在学する生徒が本校のスクーリングを履修する制度。

注2：協力校は、定通併修の内、在籍校でスクーリングを受講する制度。

注3：通定併修は、本校の生徒が定時制の科目を履修する制度。

#### 四 学習会について

生徒が自発的に集まって、お互いに励まし合って、レポートを作成したり、情報を交換したりしている。学習を主体としているが、友人と一緒に様々な話題を語り合う場面もあり、高校生活をより効果的に送るための発信・受信ができる集いであると思われる。

面接指導の回数が少なく、自宅で孤独な学習を強いられたいたり、生徒間の横の連絡がほとんどなかった時代は、佐原、東庄、千潟、白子、勝浦、木更津、市川など県下十九箇所地域の公民館を借りて開かれていた。スクーリングが強化された現在は、衰退して、茂原学習会、船橋学習会、千葉学習会の三箇所で開催されている。(写真は千葉学習会の様子である。)

今後の課題としては、多くの地域での学習会を開催したいのであるが、責任者のなり手がいないのと、教職員の参加が少ないことである。

地区別学習会出張指導計画表 7/14～9/30

地区別学習会名	月	日	曜	出張者	教科
千葉 千葉東高セミナーハウス1F ☎043-251-9223 PM 6時30分～9時	9	7	金	越牟田 大澤	理科 社会
	9	14	金	越牟田 大澤	理科 社会
	9	21	金	越牟田 大澤 山下	理科 社会 理科
	9	28	金	越牟田 大澤 内垣	理科 社会 理科
茂原 茂原市総合市民センター ☎0475-24-9511 PM 7時～9分	9	6	木	内垣	理科
	9	13	木		
	9	20	木	内垣	理科
	9	27	木		
船橋 船橋中央公民館 ☎047-434-5551 PM 6時30分～9時	7	27	金		
	9	4	火		
	9	7	金		
	9	11	火	内垣	理科
	9	14	金		
	9	18	火		
	9	25	火	内垣	理科
9	28	金			

#### 学習会だより

#### 千葉学習会

二E 古川 範子



学習会に参加したのは一組生の時その時の印象は、学校では見られない心のある会話を交わしている男子達がとても新鮮で、耳がダンボになり、何か分からないが嬉しくて嬉しくて一人で下を向いて勉強していた自分の顔が、ニコノとしたままその男子達を目で追ったのを覚えています。「こんな子達も参加してるんだあー」と思ったら年齢差は別として学習会という空間を共有出来ていることが心地良く感じられ、ちょっとワクワクしました。

一組生になり代表のお話が、ぐるーっと回って私にきたとき私は、責任者でも、代表でも苦痛関係でも何でもなくてもいいか、若い人達が実質的には前へ出て活動して欲しいという希望を出し、お受け致しました。学習会はこれといって特別な活動や大変な事はありません。むしろそんな条件を出した私を、サポートしようとしてくれる子達の、多い事に密かに感謝感激して、とても得した気でいます。これもこの場を与えて戴けなければ味わう事のないことです。

学習会を通して私は一度に二度、学生気分を満喫していると思っています。スクーリングでは仲間と勉強、家族の話題に花が咲き、自分の生き方の確認をしてみたり、反省したりしながら次へのステップに、そ

して学習会では、三組生、四組生の先輩方からいろんなアドバイスを戴いたり、また御協力くださる先生方の姿は、今は欠く事のできない道しるべになっています。もしかしたら、私が一番頼っているのかも知れません。

学習会を利用している人達は皆が皆、勉強目的だけではないのです。その日によって皆の顔を見たくて来る人・誰かとお話したくて来る人・先生に単位の相談・空間の共有・勉強……と様々です。

だからそこに少しい思いやりを持ちながら、他の人の目的の妨げにならない様、学習会という場所を利用出来たら、最高の空間だと思います。今たくさん悩んだり、迷ったりしている人：私にはそんな貴方が光って見えます。どうでも良くないから不安なのでしょうか？ 自分の才能に気が付くのももう少し時間が必要なだけ。

そんな人達に接することが出来た私も沢山の事を教えて戴いたように思います。そして私もいい意味の刺激、影響力になれるようにもう少しこの貴重なお役の中で、楽しみながら成長してみたいと思います。

## 五 夏季合宿研修

平成二年から、それまでの合宿研修の形を変え、夏香合宿研修として、夏休みに入る前に、宿泊の形の研修旅行を実施するようになった。これには、体育の出席時数で三時間分、特別活動の出席時間三時間分が加算されることになっている。飯ごう炊さん、山登り、名所旧跡の見学などを通じて、交友関係を拡大したり、友情を確認したり、自然と触れ合うことにより、日常の活動とは異なる体験をしている。

ほぼ毎年、異なる場所へ出かけているが、平成十三年は、群馬県鹿沼高原休暇村にての研修であった。一日目は、飯ごう炊さん（カレー）、二日目は、湯ノ丸山登山で、夜は、参加者の方の大道芸、絵付け教室、

三日目は、小諸市の「懐古園」の見学と充実した研修が行えた。平成二年からの研修場所、参加者は次の通りである。

平成二年	白樺高原（八十二名）
平成三年	菅平高原（五十名）
平成四年	尾瀬高原（六十四名）
平成五年	猪苗代湖（六十八名）
平成六年	白樺高原（七十七名）
平成七年	富士五湖（四十二名）
平成八年	菅平高原（二十六名）
平成九年	裏磐梯（四十三名）
平成十年	馬籠宿（四十五名）
平成十一年	富士五湖（四十五名）
平成十二年	裏磐梯（三十五名）
平成十三年	鹿沼高原（四十二名）

## 六 体育祭

毎年十月初旬に開催している。夏季合宿と同様に、体育二時間分、特別活動三時間分の出席が加算されるが、その目的以外にも、体を動かして、仲間と一日を過ごすための参加者が多い。また、写真にあるように、子供連れの参加者がいるのは通信ならではの風景である。





## 七 本校通信制の今後

近い将来、「通信制独立校」として、場所の移転、内容の充実、制度の改革などが、考えられる。本校に寄せる県民の期待、生徒の多様な要望に応えるためには、次のような観点での検討が必要かと思われる。

### 一、通信制に通う生徒のニーズに対応した進路指導の充実

キャリアアップを目指す生徒達のために、進路希望に応じた学習機会の提供、資格修得のための支援、大検受験のサポートなど通信制を積極的に選択してくる生徒達のニーズに応える。

### 二、より広がりのある学びの場の設定

個に対応できる時間・空間・形態の設定・確保が望まれる。生涯学習の一つの形態として通信制高校を選択している生徒がかなりの数いるものと思われるので、スクーリングの設定、形（一斉授業か、一対一か、複数教員か）など可能な限りニーズに応えるべく対処する。

### 三、何もしていない生徒の把握に努める

入学はしたが、あるいは転編入したが、登校しない、スクーリングに出席しない、レポートの提出がない生徒の状況を把握し、取り扱いを検討する。

平成十二年には、新教育課程の検討に先立って「制度検討作業部会」を発足させ、「二学期制」、「三修制」、「単位制」の検討を行った。卒業率の高さ、特別活動の活発さなど本校の特徴を生かしながら、さらに、経済的・学力等の面で公立の通信制を選択する生徒の受け皿的役割、できる範囲での生涯学習社会への対応などを加味して、新しい千葉東高校の通信制の存在価値を高めしめる提議をした。

平成十五年からは、「二学期制」、「一部三修制」での制度によるこ

とが決まった。「単位制」については、施設・設備・教員数の制限のため見送られたが、生徒の科目履修上の制限をできる範囲で取り除き、学習の自由度を高めることで、より単位制に近づける努力をすることは了承された。

なお、新教育課程については次のような観点での検討が行われた。

### (一) 基礎学力の定着・学習習慣の確立を図る

レポートの内容・題材の吟味、出題の方法を工夫する  
スクーリングの充実をより一層促進する。

### (二) 発達段階に応じた教科・科目の配置を工夫する

各教科・科目の特性を考慮しつつ配置する

### (三) 自己の在り方生き方を考察できる教科・科目の開設を努力する

将来の進路設計に対応できるよう教科・科目を開設する

### (四) 生涯に亘る学習のための自己教育力の醸成に努める

レポートの作成において情報機器、施設などの活用を勧めるなかで学習環境・学習場所・資料・教材などの存在に気づかせる

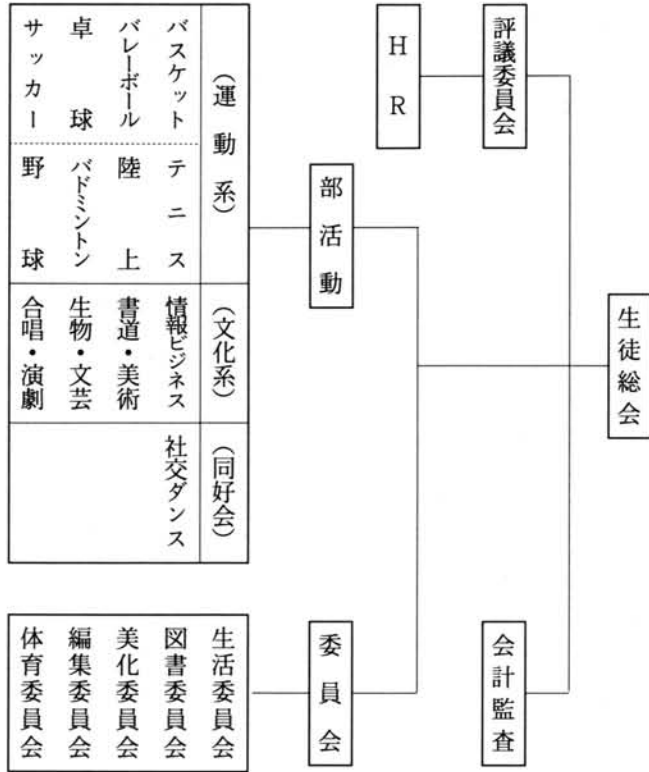


## 八 特別活動

### (1) 生徒会活動・部活動

少ない出校日数の中ではあるが、生徒会も健全な発展を示し、体育祭や合宿研修等に見事な活動を見せている。部活動は時間的に余裕がないため全員に強制はしていないが、現在、運動系八、文化系七、同好会二を持ち、定通大会等にも参加して立派な成績を残している。

### (2) 生徒会組織（平成十三年度分）



（平成十三年四月一日現在）

### Ⅱ 帽章の由来 Ⅱ

「千」の文字と数葉のオリイブの葉でわが郷土「千葉」をかたどるとともに、その若葉は、生々伸長してやまない本校の意気と栄光とを象徴する。

CCは Correspondence Course（通信教育課程）の略である。



### (3) ホームルーム活動及び学校行事

#### 【生徒会活動について】

#### 一、生徒会ホームページ開設

生徒会では、平成十年に、本校に通う生徒相互のコミュニケーションをより活発なものにするための生徒会ホームページを開設した。

#### 二、生徒会メーリングリスト

平成十一年度発足。このことにより、生徒会役員相互の連絡が非常にスムーズになり、打合せも効率よく行われるようになった。メンバーは徐々に増えつつある。

#### 三、一組研修（毎年五月中旬に実施する学校行事）

生徒会が中心となって研修会の企画運営を行っている。毎年生徒会役員がアドバイザーとして、オリエンテーションを実施、好評である。

#### 四、校内体験発表会のためのワークショップ

生徒会が主催、平成九年度からスタートした。毎年六月下旬と七月上旬の二回にわたって実施している。ワークショップに参加することによって、積極的に体験発表をしようとする生徒が増加。今では、生徒にとって欠かせない交流の場となっている。

## 五、家族懇談会実施

平成十二年十二月三日、生徒会が主催して実施した。これは本校始まって以来初めての試みであった。生徒会役員とその家族が出席、その内容を、ホームページと生徒会機関誌に掲載した。

## 六、定通文化大会への参加

平成十二年、体験発表のCDを作成、会場校（長生高校）で配布した。この年の体験発表の部では、本校の中島祥君が銀賞を獲得。

## 七、生徒会機関誌「雑草」

平成十一年度から生徒会が積極的に編集委員会の活動をバックアップするようになった。平成十二年度からは千葉東高通信制のホームページアドレスを掲載。生徒会が作った「通信制ホームページ」「webしゃろん」を紹介した。

（文責 口澤 弘）

## 【部活動の記録】

### バスケットボール部

バスケットボール部は、過去十一年間においても地道な活動が見られる（それ以前の活躍については『五十周年記念誌』をご覧ください）。平成三年から十三年にかけて、男子部は定通体育大会で二度の全国大会出場を果たし、女子部も県大会三位の記録を残している。

平成十三年七月現在では、男子部員十一名、女子部員六名（マネージャー



顧問 飯塚 恵一・鳥飼 芳子

を含む）で活動している。日曜スクーリングの放課後、体育館ではドリブルする音やキックキックとシューズを鳴らしながら走る音、部員同士がお互いに掛け合う声が聞こえている。毎日練習をすることができないこともあり、毎日の日曜スクーリングの放課後の練習には熱が入る。六月に行われた定通体育大会県大会においては、男子部は準決勝進出を決め、毎日練習をすることができている定時制高校のチームにも劣らない程の大変見応えのある試合をした。そして、秋の新人戦では、二年ぶりの優勝を果たした。来年夏の大会へ向けて、更なる活躍を期待したい。

（文責 鳥飼 芳子）

### バレーボール部

顧問 大澤 昌嘉・口澤 弘

千葉東高通信制バレーボール部の、平成四年度からの公式戦の記録は別表の通りです。平成六年から男子バレー部は、新人戦を三連覇し、平成七年からは四大大会連続で県大会優勝し、平成九年には、男女アベックの全国大会出場を成し遂げています。その後、人数不足により不出場が続いていましたが、平成十三年の定通大会に久々に参加することが出来ました。

女子については、平成九年に十二年ぶりの全国大会に出場しています。私が本校に赴任したのは平成十年ですが、男女ともメンバーは大きく替わっていました。男子は人数不足で出場することすら出来ない状態でしたが、女子はメンバーが集まり、定通大会に出場しましたが、練習不足の為、あえなく一回戦で敗退。ここから雪辱を期しての練習が始まりました。全日制に比べると、練習量はひじょうに少ないです。日曜スクーリングの放課後など年間でも三十回ほどしか出来ません。それも全員揃ったの練習となると、さらに少なくなります。団体競技ゆえにチームワークが求められ、チーム練習が不可欠なのでしょうが、短時間で効率良い

平成4年度～平成13年度 公式戦記録

年度	女子公式戦成績	男子公式戦成績
平6		県新人体育大会優勝（初）
平7		県新人体育大会優勝 （2年連続2回目）
平8	県新人体育大会優勝（初）	県定通体育大会優勝 全国大会出場（初） 県新人体育大会優勝 （3年連続3回目）
平9	県定通体育大会優勝 全国大会出場（12年ぶり6回目）	県定通体育大会優勝 全国大会出場（2年連続2回目）
平10	県新人体育大会優勝 （2年ぶり2回目）	
平11	県新人体育大会優勝 全国大会出場（2年ぶり7回目） 1回戦 千葉東 $\begin{cases} 20-25 \\ 25-18 \\ 16-25 \end{cases}$ 長岡明德 1 2 （新潟） 県新人体育大会優勝 （2年連続3回目）	
平12	県定通体育大会優勝 全国大会出場（2年連続8回目） 1回戦 千葉東 $\begin{cases} 25-3 \\ 25-11 \end{cases}$ 西条（愛媛） 2回戦 千葉東 $\begin{cases} 23-25 \\ 25-15 \\ 15-4 \end{cases}$ 刈谷東 （愛知） 3回戦 千葉東 $\begin{cases} 24-26 \\ 25-20 \\ 15-11 \end{cases}$ 佐賀北 （佐賀） 準々決勝 千葉東 $\begin{cases} 8-25 \\ 10-25 \end{cases}$ 別海（北海道） 県新人体育大会優勝 （3年連続4回目）	
平13	県定通体育大会優勝 全国大会出場（3年連続9回目）	

合理的な練習が、つねに望まれるのでした。女子チームの強みは年齢層です。皆十代の部員だけだと、困難が生じた時にどうしていいかわかりません。それが二十代から四十代までいろいろな経験の部員と一緒にまじっていると、困った時にチームの中でお互いにカバー出来るのです。みんなが勝利へ向けて一丸となった時、女子バレー部は変身しました。その年の新人戦で優勝することが出来、そこから六大会連続で県大会優勝、全国大会へは三年連続で出場することが出来ました。

平成十二年夏の全国大会では、幸いにしてベスト8に入ることが出来、良い思い出をつくる事が出来ました。前年、フルセットながら一回戦で惜敗したことがバネになっていました。一回戦を突破してからは、苦しみながらもフルセットで二回戦、三回戦を勝ち抜き、二日目に優勝候補と準々決勝で当って砕けました。一日目が三試合八セットを戦い、終わったのは午後七時すぎでした。部員の中には家庭の主婦もいて、何とその後銚子まで帰って洗濯など家事をし、次の日朝三時に起きて、東京



平成12年全国大会にて“作戦タイム”

の会場まで来た人もいたのです。みんな家庭あり、仕事あり、大変多忙な中をやりくりしての全国大会だけに、思い入れは相当なものでした。バレー部では、部員だけでなく、OBやOG、さらに家庭の人達に支えられ、励まされて活動しています。祝勝会や卒業生を祝う会も行っており、和気あいあいとした雰囲気です。今年も夏も全国大会にて、楽しい思い出をつくらうと、皆張り切っています。

(文責 大澤 昌嘉)



平成13年 全国大会出場メンバー



平成12年全国大会 準々決勝進出

## 卓球部

顧問 長谷川 綾子・青木 正吾

### 【卓球部の記録】

平成 四年	佐藤 孝之	県大会個人優勝	全国大会出場
平成 五年	土屋 保子	県大会個人優勝	全国大会出場
平成 六年	高師 由美	県大会個人優勝	全国大会辞退 (大検)
平成 七年	高師 由美	県大会団体優勝	全国大会出場
平成 八年	高師 由美	県大会個人三位	全国大会出場
平成 九年	加賀屋保子	県大会個人三位	全国大会出場
平成 十年	安藤 明美	県大会個人優勝	全国大会出場
平成 十一年	二宮 栄子	県大会個人二位	全国大会出場
平成 十一年	湯浅友紀子	県大会個人三位	全国大会出場
平成 十一年	秋田 秀雄	県大会個人優勝	全国大会辞退 (大検)
平成 十二年	友杉 太亮	県大会個人三位	全国大会出場
平成 十二年	二宮 栄子	県大会個人三位	全国大会出場
平成 十三年	中山 博憲	男子団体準優勝	全国大会出場
平成 十三年	新井 貴絵	県大会個人三位	全国大会出場





## サッカー部

顧問 若林 伸彦・越牟田 哲朗

三位入賞

週一回、日曜日の午後から練習している我がサッカー部は、部員同志が顔を合わせる機会が少なく、時間・場所等においても相当の制約を伴っている。しかし、サッカーに対する情熱は濃く、この不利な状況を乗り越えて、今まで輝かしい戦績を残してきた。特に平成十一年度定通サッカー大会に於ける千葉県大会優勝、全国大会出場はこの最たるものである。以下平成三年度から分かる範囲でこの戦歴を綴っていく。

### 【平成三年度】

◎定通大会 一回戦 対千葉工業高校 2 対 0 勝  
二回戦 対葛南工業高校 3 対 5 負

### 【平成六年度】

◎定通大会 一回戦敗退

### 【平成十一年度】

◎定通大会 一回戦 対匝瑳高校 2 対 2 勝  
二回戦 対船橋高校 Pk戦 勝  
三回戦 対千葉商業高校 Pk戦 勝  
四回戦 対行徳高校 Pk戦 勝

### ◎新人戦

一回戦 対佐倉東高校 2 対 0 負  
に於いて岡山県立鳥城高校と対戦、1対0にて惜敗

### 【平成十二年度】

◎定通大会 一回戦 対長狭高校 3 対 0 勝  
二回戦 対行徳高校 5 対 0 負

### ◎新人戦

一回戦 対千葉工業高校 PK戦 負  
準優勝 二位

### ◎定通大会

一回戦 対東葛飾高校 2 対 1 勝  
二回戦 対行徳高校 2 対 1 勝  
三回戦 対船橋高校 3 対 0 惜敗

### 【平成十三年度】

ALL JAPAN

## Teitsu High School Soccer Tournament



平成11年 第9回



平成11年8月10日(火)～14日(土)

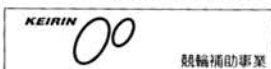
会場 日本平運動公園球場・静岡県清水市宮グラウンド・ナショナルトレーニングセンター  
松塚スポーツグラウンド

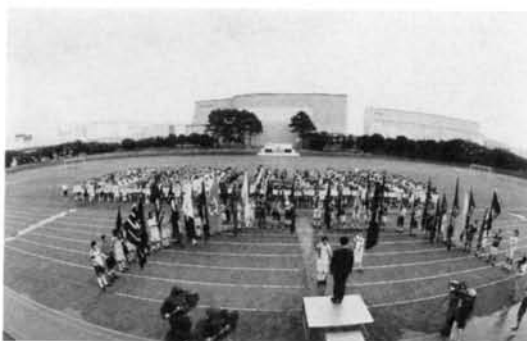
主催 全国高等学校体育連盟・(財)全国高等学校定時制通信制教育振興会

後援 文部省・労働省・清水市・(財)日本体育協会・全国高等学校定時制通信制校長会  
全国高等学校定時制通信制教員協会・日刊スポーツ新聞社・(財)静岡県サッカー協会  
清水サッカー協会・静岡朝日テレビ・静岡新聞社・SBS静岡放送・NHK・(株)モルテン

主管 静岡県高等学校体育連盟定時制通信制部会  
全国高等学校体育連盟定時制通信制部会サッカー専門部

協賛 大塚製薬株式会社・ブーマ(コサリーベルマン(株)・セトユニオン(株))・株式会社モルテン





千葉県

出場回数/初出場

代表 県立 千葉東高等学校

所在地: 〒263-0021 千葉県千葉市稲毛区轟町1-18-52

TEL 043 (251) 9223

FAX 043 (255) 6575

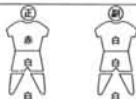
学校長: 豊川 定雄 コーチ:  
 教頭: 岡田 博 主 将: 藤原 輝和  
 引率職員: 若林 伸彦 マネージャー:  
 監督: 石野 武男

初出場

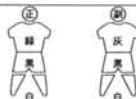
背番号	位置	氏 名	学 年	年 齢	生年月日	身長 cm	体重 kg
1	GK	舟 藤 健一	2	17	56.6.17	170	60
2	DF	小 川 秀 樹	3	21	52.9.19	172	61
3	DF	石 崎 平	3	18	56.1.10	170	60
4	DF	小 林 肇	3	17	56.9.10	168	59
5	MF	舟 藤 光 純	2	17	57.1.31	164	60
6	MF	岩 淵 茂	2	18	55.10.25	172	60
7	MF	杉 田 幸	2	18	55.7.25	169	58
8	MF	牧 野 進 亮	2	29	45.4.27	172	62
9	FW	土 塚 祥 雄	2	18	55.12.14	168	58
10	MF	竹 山 博 司	3	25	49.3.4	169	60
11	FW	藤 原 輝 和	4	24	50.2.21	166	62
12	MF	若 原 広 典	2	18	55.9.2	168	60
13	DF	舟 藤 剛	2	26	49.5.3	170	65

- ◆チームの特色  
 通信制高校ということで部員同志つも顔を合  
 せている訳ではありません。その分練習の時には  
 意気投合練習ができます。この大会には持っている  
 技術・体力の全てを使って一生心に残る試合を心  
 懸けたいと思っています。
- ◆この大会に対する抱負(監督)  
 一人一人の選手能力・体力を信じ、立派な試合を  
 してもらいたいと思っています。
- ◆この大会に対する抱負(主将)  
 私達は目標の達成を最優先し、サッカー精神に  
 貫いたプレーをしようと思っています。又、一生残る  
 思い出試合をして何かを得、今後の生活の糧にしてい  
 たいと思っています。

ユニフォーム  
(フィールド)



ユニフォーム  
(G K)



ALL JAPAN



平成11年度 第9回

全国高等学校定時制通信制サッカー大会



全国大会識者評

鳥城(岡山) 1-0 千葉東(千葉)

千葉東は竹山を中心になかなか  
 良くまとまったチームだが、多少  
 デイフェンダーがもろく、鳥城に  
 支配されていた。前半両チーム無  
 得点、後半立上がり、鳥城の赤堀  
 が浮き球をめぐりに決めた。その  
 後、一進一退の攻防が続いたが、  
 千葉東の攻撃を集中力を切らさず  
 に守り切った鳥城に軍配が上がっ  
 したが、全体的には五分五分の試合  
 であった。

(文責 若林 伸彦)



テニス部

顧問 内垣 和男・涌井 良幸・小關 ゆかり

テニス部の十年間

平成三年度	女	地引・鈴木 (全国)	
平成四年度	不参加		
平成五年度	不参加		
平成六年度	男	齊藤・佐藤 (全国)	佐藤・柿沼 (新人)
	女	田中・竹下 (県全国・新人)	
平成七年度	男	佐藤・柿沼 (新人)	
	女	田中・原岡 (県全国)	
平成八年度	不参加		
平成九年度	男	県大会出場	
平成十年度	男	行木・松村 (県全国)	松村・川野 (新人)
	女	市原・川野 (県全国)	市原・荒井 (新人)
		新人戦出場	
平成十一年度	男	松村・市原 (県全国)	市原・北見 (新人)
	女	荒川・川野 (県全国)	菊池・秋元 (新人)
		松本・山口 (県全国)	二見・松本 (新人)
平成十二年度	男	菊池・荒川 (県全国)	
	女	市原・北見 (県全国)	
		石毛・秋元 (県・新人)	

(文責・内垣 和男)



練習の合間に

全国大会



陸 上 部

顧問 生駒 斌明・八角 憲男

平成四年度以降の活動状況を紹介させて頂きます。  
部員数は十名前後登録されて来ましたが、実際には、一部の熱心な部員によって支えられてきたのが実状です。

そのような中での努力が実り、県大会や全国大会では、団体、個人を通じて、左記のような成果を挙げてきました。県大会の優勝者、全国大会出場者のみ紹介します。  
(文責・生駒 斌明)

記

	県大会	全国大会
平成 四年度	女子総合優勝	佐野二美、橋本泰子、藤平秀樹、堀江洋子、須藤るり子、宇田川祐香の六名出場
平成 五年度	女子総合優勝	須藤るり子、橋本泰子、早川勇平の三名出場
平成 六年度	河野陽介(5km優勝)、早川勇平(走幅跳、三段跳各優勝)	須藤るり子(四年連続出場で表彰)、早川勇平、河野陽介、前田昌俊の四名出場
平成 七年度	早川勇平(100m、走幅跳、三段跳各種目で優勝)	早川勇平、菊地喜久男の二名出場
平成 八年度	男子総合優勝、千六百mリレー優勝、早川勇平(三段跳で大会新記録)、今井義明(四百m優勝)、神田(四百m優勝)、早川勇平(県高体連優秀選手表彰)	早川勇平(四年連続出場で表彰)、前田昌俊、今井義明の三名出場



平成13年度 部員



平成8年度 県大会優勝

平成 九年度	今井義明(100m三位)	今井義明(出場辞退)
平成 十年度	今井義明(400mハードル優勝)	後藤清治、早川幸子の二名出場
平成 十一年度		後藤清治(5km) 出場
平成 十二年度	後藤清治(三段跳、砲丸投各優勝)、南部ゆかり(100m第二位)	後藤清治(5km) 出場、南部ゆかり(出場辞退)
平成 十三年度	後藤清治(三段跳優勝)、石井和雅(400m優勝)、木野咲百合(100m優勝)	後藤清治(三段跳出場)(四年連続出場で表彰)、石井和雅、木野咲百合(各出場辞退)

バドミントン部 顧問 下山 浩一・荻島 美夕紀・大塚 健生



定通体育大会において長くバドミントン種目はなかったが、平成十一年度に初めて全国大会が開催された。千葉県では、この年の新人大会からバドミントンが設けられ、田口純子（四組）、松村宗一（三組）、矢田部彩子（一組）が出場した。平成十二年度の体育大会では、松村が優勝、森佑介（二組）と柑本真澄（二組）が準優勝とすばらしい成績であった。松村と柑本は八月に行われた全国大会に出場し、柑本は三回戦

まで進んだ。平成十二年度の新人大会では、柑本が優勝をはたした。平成十三年度の体育大会では、矢田部、柑本、森の他、関恵理子（三組）、木村友一（三組）、塩野康昭（二組）、染谷英一（一組）の計七名が出場し、柑本が優勝、森が準優勝であった。柑本は二年連続の全国大

会出場であった。現在は部員数も増え、スクーリングの放課後、体育館ではシャトルを打つ音が響いている。

（文責・大塚 健生）

野 球 部

顧問 石野 武男・下永 義明

野球部の活動は昭和五十三年頃始まり、五十八年になると活発に活動した。昭和五十九年、六十年と連続で全国大会に出場、平成二年・三年と県で優勝。全国大会に出場し、数々の輝かしい成績を残し栄冠を勝ち

とってきた。指導者には管原武先生、中村裕之・渡邊哲諸先生方であり、部員たちのそれぞれの努力により、その時代が築かれて来ました。（創立五十周年記念誌より）

本校のエピソードを「定通部の歩み」（千葉県大会の四十二年）の回顧には、対戦相手を決める監督会議で、千葉東校の監督が「すみませんが一番強い学校と対戦させてください」と言う場面が



平成 8 年 定通野球大会準優勝



しばしばあった。へんな事を言うものだと思ったが、勝ってしまおうと、次の日曜日がテストなので出られない、ということだった。選手は勿論監督もやりたいだろうにと、気の毒なおもいにつつまれてつらかった。と思い出しておられます。

部員数が減少したが、平成八年決勝戦は行徳高校。九回2アウト満塁6対3一打同点まで追い詰めたものの、あと一歩及ばず敗退、準優勝に終わってしまった。敗けはしたが、選手のどの顔にも満足感と、最後まで全員でプレーできた安堵に満ちていた。

(文責 石野 武男)



## 情報ビジネス部

顧問 八角 憲男・下永 義明

スクーリングの放課後になると、部員のほか授業の提出物が完了していない生徒が集まり、自由に機械を操作しています。

集まる数は、毎回、五名から多いときで十五名くらいになります。

コンピュータのある特定の分野についてかなり詳しい生徒もおり、それぞれが知っていることを「お互いに教えあう」という雰囲気定善しています。

クラブとしての目標は、個々の判断で設定しておりますが、おおよそ以下のとおりです。

- 一、文字入力の上を向上させるための練習  
(一〇分間で四〇〇文字の入力が目標)
- 二、アプリケーションソフトの操作を深く追求する
- 三、情報処理関連の検定試験の合格を目指す
- 四 簿記の授業の補習

(やがて検定試験を目指すようになる)

部活動に参加することにより、一年後には、それぞれが一定の成果を上げています。

また、卒業後も卒業生が来校して、ビジネス関連の最新情報を伝達してくれることも楽しみの一つです。

(文責・八角 憲男)

定通文化大会結果

平成4年度	林森小久目澤吉佐藤小岡坂植吉小高前	田川我黒井野藤井川村井草野澤下師澤村田上井谷師藤野島谷木	ユミ子(銅賞) 賢正(銅賞) 秀正(佳作)	子一子朱幸幸江美幸子(銅賞) 子一子朱幸幸江美幸子(銅賞) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作)	臨牛檄造像記 臨蘭亭序 臨曹全碑	4 D 3 A 4 C 4 C 3 A 2 A 2 D 1 B
平成5年度	澤小岡坂植吉小高前	井川村井草野澤下師澤村田上井谷師藤野島谷木	秀正(銅賞) 秀正(佳作)	子一子朱幸幸江美幸子(銅賞) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作)		3 C 4 B
平成6年度	岡坂植吉小高前	村井草野澤下師澤村田上井谷師藤野島谷木	紀代子(金賞) 文津子(佳作) 裕雅由己(佳作)	子一子朱幸幸江美幸子(金賞) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作)	創作 仮名 創作 漢字 臨高野切第一種	1 B 3 A 4 D 4 C 4 C 4 D 3 B 2 D
平成7年度	岡品最坂菅高佐矢平加鈴	村野島橋谷田田村澤澤島戸	紀子(金賞) 子一子朱幸幸江美幸子(銅賞) 文花由初アゆ保範(佳作)	子一子朱幸幸江美幸子(金賞) 子一子朱幸幸江美幸子(銅賞) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作)	創作 仮名 臨九成宮禮泉銘 臨孔子廟堂碑	2 F 3 A 2 E 4 A 4 B 4 C 4 D 4 E 3 A 3 C 2 B
平成8年度	岡丹平高加品飯	村野島橋谷田田村澤澤島戸	紀子(金賞) 秋子(佳作) ゆき子(佳作)	子一子朱幸幸江美幸子(金賞) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作)	臨蘭亭序 臨十七帖 臨曹全碑	3 C 4 A 4 D 4 B 4 C 4 C 1 A
平成9年度	飯岡相相永松	田村澤澤島戸	松代子(金賞) 喜代子(銀賞) 喜祐子(佳作) 三子(佳作)	子一子朱幸幸江美幸子(金賞) 子一子朱幸幸江美幸子(銀賞) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作)	臨蘭亭序 臨蘭亭序 臨蘭亭序 創作 仮名 創作 漢字 創作 漢字	2 A 4 A 4 F 4 F 3 A 4 D
平成10年度	飯佐久松	田藤保本政	松枝子(金賞) 愛栄子(銀賞) 栄子(佳作) 政子(佳作)	子一子朱幸幸江美幸子(金賞) 子一子朱幸幸江美幸子(銀賞) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作)	創作 漢字 臨高野切第三種 臨高野切第三種 創作 漢字 臨屏風土代	3 C 3 A 4 B 4 F 3 D
平成11年度	藤飯国佐橋金田	井田藤本浦口	千江子(金賞) 松政子(銀賞) 藤愛子(佳作) 橋千有(佳作) 金葉子(佳作)	子一子朱幸幸江美幸子(金賞) 子一子朱幸幸江美幸子(銀賞) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作)	創作 仮名 臨風信帖 臨高野切第三種 臨高野切第三種 創作 漢字 臨蘭亭序 臨曹全碑	1 D 4 C 4 A 4 A 5 B 4 D 4 E
平成12年度	藤曆橋並西深	井本木橋澤橋内井藤山田井須崎	千江子(金賞) 美智子(銀賞) 江子(銅賞) 久美子(佳作) 典由美子(佳作) 真由美子(佳作)	子一子朱幸幸江美幸子(金賞) 子一子朱幸幸江美幸子(銀賞) 子一子朱幸幸江美幸子(銅賞) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作)	創作 仮名 臨曹全碑 臨蘇孝慈墓誌銘 臨蘭亭序 臨孔子廟堂碑 創作 漢字	2 G 4 A 5 A 4 A 3 D 2 C
平成13年度	西竹村後外石藤三藤	竹村後外石藤三藤	典由美子(金賞) 江子(佳作)	子一子朱幸幸江美幸子(金賞) 子一子朱幸幸江美幸子(佳作)	臨曹全碑 臨曹全碑 創作 千字文 臨孔子廟堂碑 創作 漢字 創作 仮名 臨孔子廟堂碑 臨孔子廟堂碑	4 D 4 C 4 A 4 D 3 C 3 C 3 D 2 G 2 G

書道部 顧問 稲岡やよい・菅生 淑江・鳥飼 芳子

スクーリングの日曜日、放課後、書道室では墨の香を漂わせ、さまざまな年齢層の生徒達が書に親しんでいます。毎年部員は、七・八名前後で、その顔ぶれも仕事の都合でいろいろですが、それぞれが自分の目標を持って地道に活動しています。主な作品発表の場は、定通文化大会、県高等学校芸術祭、校内展で、定通文化大会では、八年連続金賞受賞で活動も定着してきたように思われます。

(文責 稲岡やよい)



平成12年度 校内展



## 美術部

顧問 秋葉 紀美子・花田 伸・白相 和子



美術部の活動は、毎スクーリングの放課後美術室で行っています。毎年新入部員が入り、数は少ないですがそれぞれ創作活動にはげんでいます。しかし、画材を置いておくことが出来ないため、部員は通信棟から生徒棟四階の美術室までエッコーラ、ヤッコラ、油絵具だのキャンバスだの運んでいます。そしてまた活動を終わると、エッコーラ、ヤッコラ、重い荷物をかかえて通信棟にもどって来ます。

平成十二年度、はじめて校外スケッチ旅行を実施しました。場所は神奈川県の鎌倉です。北鎌倉に集合し、スケッチをしながらお寺めぐり、楽しく有意義な一日でした。途中、県立近代美術館に立ち寄り、内外のすばらしい作品にふれたこともいい思い出です。今後このような活動を続け、積極的に外に出て行こうと思っています。自然にふれたり、美術館に行くことも感性をみがく重要な活動のひとつではないでしょうか。

(文責・花田 伸)

## 生物部

顧問 越牟田 哲朗・大塚 健生

平成九年以前の活動はよくわからないが、平成十年度からは千葉東高校の校庭に生えている「雑草や野草」の調査をした。生徒会の機関誌が

「雑草」なので、それに因んで、顧問の着任の最初の活動として実施した。幸い、熱心な生徒の入部があり、二人三脚で調べることにした。通常の校庭に棲息する雑草の他に、アマチュズル、アカザ、ヘラオオバコなどを見いだし、写真に収めた。四月から撮影に入ったが、用務員さんの清掃活動が徹底していて、草があまり生えていない学校なのだと思っ

た。月に一、二回の調査であり、生徒が生徒会の活動に携わることになり、名称の同定に手間取り、校内展への発表は平成十二年度になってしまった。

今後は、千葉東高校に降る雨の酸性度の調査、校庭の樹木調査、ハツカダイコンの発芽実験、ものづくり(豆腐、こんにゃく、竹とんぼ、紙づくり、簡易ラジオ)、など「生物分野」だけにとられない活動を考

(文責 越牟田 哲朗)

◀ アマチュズルか栄養失調のヤブカラシ

◀ ヒルガオ



## 文芸部

顧問 口澤 弘・鳥海 輝久・市川 宏子

部員が集まる機会は、年数回と極めて少ないが、それぞれ日頃書き溜めた原稿を持ち寄り、毎年欠かさずことなく文集を発行している。

文集名は現在「Words」で、B5判。内容は詩・小説・随筆・イラストなど様々である。例年秋に実施される校内展会場で、本校生徒を対象に配布しており、好評を得ている。

文集の中核をなす小説は、純文学的なものが多く、ここ数年来内面を深く掘り下げた本格的な作品が発表され続けてきた。最近は特に小説の分量が増えつつある。

部員の中には、本校通信制の先輩である作家、宮崎和雄氏を目標として、懸命に創作に励んでいる者もいる。

現在部員数五名。

(文責・口澤 弘)



## 演劇部

顧問 花田 伸・市川 宏子

演劇部の活動は、毎スクーリングの放課後美術室で行っています。限られた活動動時間のなかで、無理のない方向で何か出来ないものかと考え、平成十二年度は、朗読劇を中庭で実施しました。作品は宮澤賢治の「猫の事務所」という童話をテキストにしました。スクーリングの放課後、じっくり時間をかけて読んで来たものです。演劇部ですから、発声練習もやりましたが、具体的な作品を読むということのなから、いろいろなことを学ぶことが出来たのではないのでしょうか。中庭で発表という、いわば野外劇という形式だったので、天候に左右される心配がありました。木のざわめきなども適度な効果音になり、公演は成功でした。



語り手 風間璃穂・佐々木直美・小川美鶴

(文責・花田 伸)

## 九 振興会活動の記録、役員表一覧

### 通信制 振興会

千葉東高等学校通信制の振興会は、昭和四一年九月一七日に発会した。前年度より、月二回のスクーリングを実施し、入学する生徒が四百名を越えて、いよいよ本校の通信制が本格化する時期でもあった。

設立当初は、通信制で学ぶ生徒は、有職者が多く、仕事と勉強を両立させなければならなかった。年齢的には、成人した生徒が多く、学校としては保護者のほか、生徒の雇用主の理解と協力が必要であった。振興会の発会時の規約には、次のように書かれている。

#### 通信制振興会

##### (一) 設立

昭和四一年九月一七日

##### (二) 目的

- 。本校通信教育の拡充、教化並びに啓蒙宣伝
- 。生徒の福利厚生
- 。本校の設備の拡充

##### (三) 会員

- 。県内市町村および地方教育委員会関係者
  - 。生徒の保護者
  - 。生徒の雇用主など
  - 。卒業生
  - 。その他本校通信制教育を理解し、協力するもの
- 現在では、通信制で学ぶ生徒の実態が多様化し、年齢も若年化している。発足時とは、大きく違ってきている。

しかし、振興会としての役割が終わったのでは決してなく、通信制の

教育活動を側面から支えるものとしてその役割は大きい。

振興会の役員は、千葉市長、企業の代表、元本校校長等を顧問として、卒業生、同窓会役員を中心として理事が運営し、毎年六月に総会を開催して事業をすすめている。

振興会が助成している主なものは、夏季合宿研修等の諸行事、部活動での全国大会出場等や「進路のしおり」の発行等である。

また、年に一回「振興会会報」を発行し、通信制教育の現状を報告している。

過去一〇年間における振興会役員は次のとおりである。





平成5年度 振興会役員

役名	氏名	役職
会長	花島 弘 昌	国際女子ビジネス専門学校顧問
副会長	長谷川 直 和	卒業生・同窓会役員
〃	嵩 田 侑 児	本校校長
理事	川 上 泷	千葉刑務所長
〃	西 実	市原刑務所長
〃	榎 智 光	小中台歯科矯正クリニック
〃	井下田 博	元高校長
〃	大 木 進	卒業生・同窓会役員
〃	石 橋 康 郎	〃 ・ 〃
〃	手 塚 真	卒業生
〃	宇佐美 茂 男	〃
〃	屋 代 貞 夫	通信制教頭
〃(会計)	高 浦 昌 洸	本校事務長
監 査	中 島 敦	中島書店
〃	瀧 澤 龍 一	都賀文化服装専門学校
顧 問	松 井 旭	県定通振興会会長・千葉市長
〃	山 下 頼 充	NHK千葉放送局長
〃	安 田 敬 一	扇屋ジャスコ(株)会長
〃	諸 川 芳 雄	元本校校長
〃	村 田 泰次郎	〃
〃	畠 山 一 郎	〃
〃	相 川 勝 衛	〃
〃	須 田 義 男	〃
〃	森 田 章	〃
〃	斎 藤 志貴雄	〃
〃	高 橋 浩 司	前本校校長
〃	秋 山 利 雄	元通信制主事
幹 事	成 瀬 博 道	通信制職員
〃	川 崎 寛 子	〃

平成4年度 振興会役員

役名	氏名	役職
会長	中 山 麗 子	船橋女子専門学校長
副会長	長谷川 直 和	卒業生・同窓会役員
〃	嵩 田 侑 児	本校校長
理事	川 上 泷	千葉刑務所長
〃	梶 野 繁 生	市原刑務所長
〃	榎 智 光	小中台歯科矯正クリニック
〃	井下田 博	元高校長
〃	大 木 進	卒業生・同窓会役員
〃	坂 田 貞 司	〃 ・ 〃
〃	石 橋 康 郎	〃 ・ 〃
〃	手 塚 真	卒業生
〃	宇佐美 茂 男	〃
〃	瀧 澤 龍 一	都賀文化服装専門学校
〃	屋 代 貞 夫	通信制教頭
〃(会計)	高 浦 昌 洸	本校事務長
監 査	中 島 敦	中島書店
〃	花 島 弘 昌	国際トラベル&モード専門学校長
顧 問	松 井 旭	県定通振興会会長・千葉市長
〃	吉 田 稔	NHK千葉放送局長
〃	安 田 敬 一	扇屋ジャスコ(株)会長
〃	諸 川 芳 雄	元本校校長
〃	沢 田 繁 二	〃
〃	村 田 泰次郎	〃
〃	畠 山 一 郎	〃
〃	相 川 勝 衛	〃
〃	須 田 義 男	〃
〃	森 田 章	〃
〃	斎 藤 志貴雄	〃
〃	高 橋 浩 司	前本校校長
〃	秋 山 利 雄	元通信制主事
幹 事	成 瀬 博 道	通信制職員
〃(会計)	川 崎 寛 子	〃

平成7年度 振興会役員

役名	氏名	役職
会長	井下田 博	元高校長
副会長	長谷川 直和	卒業生・同窓会役員
〃	荒川 昇	本校校長
理事	佐久間 芳久	千葉刑務所長
〃	小山 登	市原刑務所長
〃	榎 智光	小中台歯科矯正クリニック
〃	大木 進	卒業生・同窓会役員
〃	石橋 康郎	〃・〃
〃	手塚 真	卒業生
〃	宇佐美 茂男	〃
〃	板垣 信明	国際女子ビジネス専門学校副校長
〃	安田 武男	専門学校安田女子学院理事長
〃	新橋 シゲヲ	市川ドレスメーカー専門学校校長
〃	秋山 和意	通信制教頭
会計	近藤 公壽	事務長
監査	中島 敦	中島書店
〃	瀧澤 龍一	都賀文化服装専門学校
顧問	松井 旭	県定通振興会会長・千葉市長
〃	山下 頼充	NHK千葉放送局長
〃	安田 敬一	扇屋ジャスコ(株)会長
〃	諸川 芳雄	元本校校長
〃	畠山 一郎	〃
〃	相川 勝衛	〃
〃	須田 義男	〃
〃	森田 章	〃
〃	斎藤 志貴雄	〃
〃	高橋 浩司	〃
〃	嵐田 侑兒	前本校校長
〃	秋山 利雄	元通信制主事
幹事	成瀬 博道	通信制職員
〃	田中 千香	〃

平成6年度 振興会役員

役名	氏名	役職
会長	花島 弘昌	国際女子ビジネス専門学校前顧問
副会長	長谷川 直和	卒業生・同窓会役員
〃	嵐田 侑兒	本校校長
理事	堀内 清治	千葉刑務所長
〃	高橋 義博	市原刑務所長
〃	榎 智光	小中台歯科矯正クリニック
〃	井下田 博	元高校長
〃	大木 進	卒業生・同窓会役員
〃	石橋 康郎	〃・〃
〃	手塚 真	卒業生
〃	宇佐美 茂男	〃
〃	板垣 信明	国際女子ビジネス専門学校副校長
〃	安田 武男	専門学校安田女子学院理事長
〃	屋代 貞夫	通信制教頭
会計	近藤 公壽	事務長
監査	中島 敦	中島書店
〃	瀧澤 龍一	都賀文化服装専門学校
顧問	松井 旭	県定通振興会会長・千葉市長
〃	山下 頼充	NHK千葉放送局長
〃	安田 敬一	扇屋ジャスコ(株)会長
〃	諸川 芳雄	元本校校長
〃	畠山 一郎	〃
〃	相川 勝衛	〃
〃	須田 義男	〃
〃	森田 章	〃
〃	斎藤 志貴雄	〃
〃	高橋 浩司	前本校校長
〃	秋山 利雄	元通信制主事
幹事	成瀬 博道	通信制職員
〃	川崎 寛子	〃

平成9年度 振興会役員

役名	氏名	役職
会長	井下田 博	元高校長
副会長	長谷川 直和	卒業生・同窓会役員
〃	長 妻 孝治	本校校長
理事	小 池 安積	千葉刑務所長
〃	伊 藤 嘉明	市原刑務所長
〃	榎 智 光	小中台歯科矯正クリニック
〃	大 木 進	卒業生・同窓会役員
〃	石 橋 康郎	〃 ・ 〃
〃	手 塚 真	卒業生
〃	宇佐美 茂男	〃
〃	中 島 浩	中島書店代表取締役
〃	岡 田 博	通信制教頭
〃(会計)	国 吉 従子	事務長
監 査	瀧 澤 龍一	瀧澤学園千葉専門学校理事長
〃	新 橋 シゲヲ	市川ドレスメーカー専門学校校長
顧問	松 井 旭	県定通振興会会長・千葉市長
〃	岡 野 輝男	NHK千葉放送局長
〃	安 田 敬一	扇屋ジャスコ(株)会長
〃	諸 川 芳雄	元本校校長
〃	畠 山 一郎	〃
〃	相 川 勝衛	〃
〃	須 田 義男	〃
〃	森 田 章	〃
〃	斎 藤 志貴雄	〃
〃	高 橋 浩司	〃
〃	鳶 田 侑兒	〃
〃	荒 川 昇	前本校校長
〃	秋 山 利雄	元通信制主事
幹 事	下 村 國生	通信制職員
〃	渡 辺 弘	〃

平成8年度 振興会役員

役名	氏名	役職
会長	井下田 博	元高校長
副会長	長谷川 直和	卒業生・同窓会役員
〃	荒 川 昇	本校校長
理事	藤 川 益輝	千葉刑務所長
〃	伊 藤 嘉明	市原刑務所長
〃	榎 智 光	小中台歯科矯正クリニック
〃	大 木 進	卒業生・同窓会役員
〃	石 橋 康郎	〃 ・ 〃
〃	手 塚 真	卒業生
〃	宇佐美 茂男	〃
〃	板 垣 信明	CIB国際ビジネス専門学校副校長
〃	安 田 武男	安田学園理事長
〃	新 橋 シゲヲ	市川ドレスメーカー専門学校校長
〃	秋 山 和意	通信制教頭
会 計	近 藤 公壽	事務長
監 査	瀧 澤 龍一	瀧澤学園千葉専門学校理事長
顧問	松 井 旭	県定通振興会会長・千葉市長
〃	久保田 芳彦	NHK千葉放送局長
〃	安 田 敬一	扇屋ジャスコ(株)会長
〃	諸 川 芳雄	元本校校長
〃	畠 山 一郎	〃
〃	相 川 勝衛	〃
〃	須 田 義男	〃
〃	森 田 章	〃
〃	斎 藤 志貴雄	〃
〃	高 橋 浩司	〃
〃	鳶 田 侑兒	前本校校長
〃	秋 山 利雄	元通信制主事
幹 事	下 村 國生	通信制職員
〃	永 野 美保子	〃

## 平成 11 年度 振興会役員

役名	氏名	役職
会長	井下田 博	元高校長
副会長	長谷川 直和	卒業生・同窓会役員
〃	曾川 定雄	本校校長
理事	高橋 義博	千葉刑務所長
〃	吉岡 忍	市原刑務所長
〃	大木 進	卒業生・同窓会役員
〃	石橋 康郎	〃・〃
〃	手塚 真	卒業生
〃	宇佐美 茂男	〃
〃	中島 浩	中島書店代表取締役
〃	石田 定雄	卒業生
〃	岡田 博	通信制教頭
会計	古川 博則	本校事務長
監査	瀧澤 龍一	瀧澤学園千葉専門学校理事長
〃	新橋 シゲヲ	市川ドレスメーカー専門学校校長
顧問	松井 旭	県定通振興会会長・千葉市長
〃	岡野 輝男	NHK千葉放送局長
〃	安田 敬一	扇屋ジャスコ(株)会長
〃	諸川 芳雄	元本校校長
〃	畠山 一郎	〃
〃	相川 勝衛	〃
〃	須田 義男	〃
〃	森田 章	〃
〃	斎藤 志貴雄	〃
〃	高橋 浩司	〃
〃	嶋田 侑兒	〃
〃	荒川 昇	〃
〃	長妻 孝治	前本校校長
〃	秋山 利雄	元通信制主事
幹事	八角 憲男	通信制職員
〃	金子 純一	〃
〃	佐々木 桂子	〃

## 平成 10 年度 振興会役員

役名	氏名	役職
会長	井下田 博	元高校長
副会長	長谷川 直和	卒業生・同窓会役員
〃	長妻 孝治	本校校長
理事	野中 好男	千葉刑務所長
〃	吉岡 忍	市原刑務所長
〃	榎 智光	小中台歯科矯正クリニック
〃	大木 進	卒業生・同窓会役員
〃	石橋 康郎	〃・〃
〃	手塚 真	卒業生
〃	宇佐美 茂男	〃
〃	中島 浩	中島書店代表取締役
〃	岡田 博	通信制教頭
〃(会計)	国吉 従子	事務主幹
監査	瀧澤 龍一	瀧澤学園千葉専門学校理事長
〃	新橋 シゲヲ	市川ドレスメーカー専門学校校長
顧問	松井 旭	県定通振興会会長・千葉市長
〃	岡野 輝男	NHK千葉放送局長
〃	安田 敬一	扇屋ジャスコ(株)会長
〃	諸川 芳雄	元本校校長
〃	畠山 一郎	〃
〃	相川 勝衛	〃
〃	須田 義男	〃
〃	森田 章	〃
〃	斎藤 志貴雄	〃
〃	高橋 浩司	〃
〃	嶋田 侑兒	〃
〃	荒川 昇	前本校校長
〃	秋山 利雄	元通信制主事
幹事	下村 國生	通信制職員
〃	永野 美保子	〃

## 平成13年度 振興会役員

役名	氏名	役職
会長	井下田 博	元高校長
副会長	長谷川 直和	卒業生・同窓会役員
〃	曾川 定雄	本校校長
理事	知識 優憲	千葉刑務所長
〃	山口 昭夫	市原刑務所長
〃	大木 進	卒業生・同窓会役員
〃	石橋 康郎	〃・〃
〃	手塚 真	卒業生
〃	宇佐美 茂男	〃
〃	中島 浩	中島書店代表取締役
〃	石田 定雄	卒業生・旭高等技術専門学校副校長
〃	湯目 千津	通信制教頭
会計	小安 弘子	本校事務長
監査	新橋 シゲヲ	市川ドレスメーカー専門学校校長
〃	岩本 達雄	卒業生・イワフジ代表取締役
顧問	鶴岡 啓一	県定通振興会会長・千葉市長
〃	秋田 敏彰	NHK千葉放送局長
〃	安田 敬一	安田教育振興会理事長
〃	畠山 一郎	元本校校長
〃	相川 勝衛	〃
〃	須田 義男	〃
〃	森田 章	〃
〃	斎藤 志貴雄	〃
〃	高橋 浩司	〃
〃	鳶田 侑兒	〃
〃	荒川 昇	〃
〃	長妻 孝治	〃
〃	秋山 利雄	元通信制主事
幹事	八角 憲男	通信制職員
〃	下永 義明	〃
〃	白相 和子	〃
〃	中村 一恵	〃

## 平成12年度 振興会役員

役名	氏名	役職
会長	井下田 博	元高校長
副会長	長谷川 直和	卒業生・同窓会役員
〃	曾川 定雄	本校校長
理事	高橋 義博	千葉刑務所長
〃	林 一夫	市原刑務所長
〃	大木 進	卒業生・同窓会役員
〃	石橋 康郎	〃・〃
〃	手塚 真	卒業生
〃	宇佐美 茂男	〃
〃	中島 浩	中島書店代表取締役
〃	石田 定雄	卒業生・旭高等技術専門学校副校長
〃	湯目 千津	通信制教頭
会計	古川 博則	本校事務長
監査	新橋 シゲヲ	市川ドレスメーカー専門学校校長
〃	岩本 達雄	卒業生・イワフジ代表取締役
顧問	松井 旭	県定通振興会会長・千葉市長
〃	岡野 輝男	NHK千葉放送局長
〃	安田 敬一	安田教育振興会理事長
〃	諸川 芳雄	元本校校長
〃	畠山 一郎	〃
〃	相川 勝衛	〃
〃	須田 義男	〃
〃	森田 章	〃
〃	斎藤 志貴雄	〃
〃	高橋 浩司	〃
〃	鳶田 侑兒	〃
〃	荒川 昇	〃
〃	長妻 孝治	〃
〃	秋山 利雄	元通信制主事
幹事	八角 憲男	通信制職員
〃	若林 伸彦	〃
〃	佐々木 桂子	〃



## 第四節 同窓会の記録

### 一 近年の同窓会活動

本校の同窓会は、小西一三氏が昭和四十七年より平成六年までの二十二年間その発展に務めてまいりました。小西会長の勇退に伴い、平成七年より井戸川浩（高校十一回生・昭和三十四年卒）氏がその重責を担うことになりました。副会長の小林美代子、高橋一郎、長谷川直和の三氏は昭和四十二年よりこの任に当たられています。

活動としては、月一回（一月・八月休会）、校長先生、全日制及び通信制の教頭先生、事務長先生、同窓会係の先生方を交えて、役員会が開かれています。同窓生に教員が多いせいか、母校に例年同窓教員が十名近くおり、その中から同窓会係の先生が選ばれています。

同窓会総会は毎年五月第四日曜日に開催されることが恒例となっておりますが、平成十三年度総会はブライダルシーゾンのため会場の都合で第三日曜日に開催されました。平成八年度より毎年一回同

窓会報「シャロンの花」が発行の運びとなり、同窓会活動を同窓生はもとより、在校生、PTA、学校関係者に広く知らせることができるようになりました。この会報発行を期に創設された「同窓会活動維持基金」及び「創立六十周年記念事業基金」への募金活動が順調に行われています。それぞれの基金の充実により、母校への支援活動がますます盛んになってきております。

支援の内容としては、卒業生による実業界報告等の進路講演会への協力、在校生の全国大会出場への援助、定期演奏会・発表会等への祝い、海外交換留学引率者への餞別、卒業式・入学式等学校行事参列・参観等、様々な場面に及んでいます。

また、各事業所・地区等における同窓会活動の一層の活性化を目指し、支部発足支援活動も行っております。

常任幹事

石井 ゆかり

（昭和五十一年卒）



丸山房子さん



宮崎かおるさん

## 二 同窓会報「シャロンの花」が発行されるまで

小西会長からバトンタッチされた井戸川新会長は、かねてから同窓会報発行の必要性を感じていました。一般の卒業生からは見えにくい同窓会そのものの活動が良く見えるようにすること。母校の先生や生徒の現状、卒業生の動向などの情報を、卒業生はもとより在校生、PTA、教職員等関係者全員が共有することで、母校の一層の発展を期する、という思いを長く温めていたからです。そこで、会長2年目の平成八年夏、会計の石橋康郎氏と私・石井に対して、会報発行に関しての打ち合わせに出席できるかどうか打診がありました。初めての会合は、井戸川会長、石橋さん、事務局の佐瀬八重子先生、石井の四人で母校図書室で行いました。

その席では、会報の名前をいくつか検討し、なんと編集長は私が引き受けすることになってしまいました。以降、責任の重さに身を引き締めながら、他校の同窓会報も参考に内容を研究することになりました。

九月の役員会で、会長から次のような提案がありました。会報発行、同窓会活動の活性化及び在校生の対外試合・海外研修等への援助の目的を持つ「同窓会活動維持基金」の創設と平成十三年に六十周年を迎える母校支援のための「創立六十周年記念事業基金」の創設です。これにより会報発行に向けての経済的基盤が確立しました。

また、会報名については、いくつかの候補の中から「シャロンの花」を全員一致で選定しました。これは、皆様もご存じの通り、校歌の歌い出しの部分です。創立十周年記念の折に、当時教頭でいらした澤田繁二先生が作詞されたこの校歌は、他校には見られない美しい響きを持つ詞で綴られており、卒業生にとって懐かしい言葉であると思います。もちろん、この校歌をご存じでない世代の卒業生もいらっしやるわけですが、きっと好感を持って受け入れてくださるものと信じております。

会報名の決定の後、表紙のデザインについて検討が始まりました。校章を入れ、会報名だけをデザインしたごくありふれた会報にすることだけは避けたいと考えました。そこで、表紙デザインを卒業生のどなたかに依頼しようと思いつきました。初め、芸大の美術学部に入学した後輩を思い出し、彼女に電話で依頼しましたが、「先輩がたくさんいらっしやるのに、恐れ多い」と断られてしまいました。

次に思いついたのが、父の古い知り合いで東高出身のデザイナーでした。昭和三十五年卒業の北川広志さんを紹介してもらいました。北川さんは工業デザイナーで、「会報などのデザインは専門ではありません」とおっしゃいましたが、「母校のために何もしたことがないので、これも縁ではないか」と、面識がないにもかかわらず、快く引き受けてくださいました。「シャロンの花」の写真のコピーをお送りただけで、デザイン画とタイトル文字がしばらくしたら、送られてきました。

発行日は、卒業式当日としました。その年度の卒業生への郵送費を抑えられること、そして、五月下旬開催の同窓会総会のお知らせを兼ねて、四月下旬の発送としました。第3号からは、総会開催の案内は目立つように表紙に掲載しました。

デザインをお願いしている間に、会報の内容はだんだんと姿を整えてきました。名誉会長と会長の挨拶、総会の報告、母校の活動記録、クラス会や同期会の報告等。そして、目玉は何と言っても各界で活躍している卒業生の特集です。インタビュースるか、原稿をお願いするか、ご本人にお伺いして決めることにしました。

印刷は東高関係の様々な印刷物を扱っている宮坂印刷に決めました。宮坂印刷に挨拶に伺った時、東高では同窓会報を初めて発行すること、さらに、私自身、娘の小学校のPTA会報編集を一年経験しただけで、このような会報発行に関しては全く無知であることを正直に打ち明けました。宮坂社長は、自らが編集に協力することを約束してくださいまし

た。どんなに心強かったことでしょう。

次いで、卒業生の特集記事「千葉東高と私」の第一回候補者が決まりました。元NHKアナウンサーで当時、フジテレビでキャスターをなさっていた佐藤充宏さん（昭和四十五年卒業）です。佐藤さんとコンタクトを取るのも大変でした。卒業生名簿には住所が載っていません。テレビ局付で佐藤さん宛てに手紙を出しました。手紙が無事に届き、ご連絡をいただいた時にはとても感激しました。もちろん、すぐに依頼を引き受けてくださいました。そして、原稿よりはインタビュアーの方がよいとのこと、お休みの日に何と東高まで来てくださることになりました。青山先生と対談なさった佐藤さんはとても楽しそうでした。（内容は「シャロンの花」第1号をご覧ください。）

さて、依頼した原稿も集まり、届いたデザイン画とタイトル文字を持ち、宮坂社長に全ての原稿を見ていただき、全体の構成を決定しました。表紙については特に心を配り、相談の結果、すっきりとしたおしゃれな会報の誕生となりました。

現在、同窓会報「シャロンの花」は平成十三年三月発行の第五号まで数えており、同窓会活動維持基金への皆様からのご協力により、毎回二万通近くを郵送しております。同窓生は全日制、通信制を併せ、二万五千人を超えました。各界で活躍されているため異動も多く、住所不明の方が増えており、同窓生全員に会報をお届けしたいという願いがまだ達成されておられません。

ここで、参考までに「シャロンの花」第一号から第五号までの主な記事の紹介を致します。

**第一号** 母校及び同窓会の歩み。第九代校長・畠山一郎先生からの特別寄稿。校歌の譜面。「千葉東高と私」では前述の佐藤充宏さんを囲んでの座談会。

**第二号** 生徒会長からの現在の生徒会活動について。在校生の活動記

録。クラス会・同期会・OB会開催の報告。「千葉東高と私」では通信制を平成九年に卒業されて、第六十五回小説現代新人賞を受賞された宮崎和雄さんと同級生の乾亨さんとの座談会。

**第三号** 東雲祭（文化祭）の見学記。第一回卒業生の古稀記念同期会報告。「千葉東高と私」では男女共学一学期生で、千葉第三高等学校と呼ばれた時代に過ごされた日本舞踊師範の宮崎（字井）かをるさんへのインタビュー。この号から卒業生の皆様に広告の協賛をしていただくようになりました。

**第四号** 通信制体育祭の報告。ラグビー観戦記。同期会・クラス会等の報告。「千葉東高と私」では幕張プリンスホテル洋食料理長の山崎信男さんへのインタビュー。

**第五号** 若い世代（二十〜四十代）の卒業生を東高にお呼びして行われた一年生対象の進路講演会の報告。全国大会まで進んだ部活動（山岳部・美術部・囲碁同好会・通信制女子バレーボール部）より部員及び顧問の感想文。アメリカ短期留学に派遣された引率教諭の感想文。吹奏楽部定期演奏会の報告。野球部創立五十周年記念式典の報告。創立六十周年記念事業実行委員会報告。

今後、同窓会報「シャロンの花」の益々の充実をはかるため、会員の皆様のご協力を切に願っております。また、同窓会名簿をご覧ください。また、不明の方の連絡先をご存じの方は、是非、同窓会事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

初代編集長

石井 ゆかり

（昭和五十一年三月卒）



### 三 同窓会役員一覧(平成4年度～平成13年度)

役名	氏名	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
会長	小西 一三 (高6)										
	井戸川 浩 (高11)										
副会長	小林美代子 (高女2)										
	高橋 一郎 (高9)										
	長谷川直和 (通6)										
書記	小塚 興作 (高11)										
	木村 行幸 (高18)										
	上市 善章 (高31)										
会計	細川 悦子 (高8)										
	大木 進 (通4)										
	井戸川 浩 (高11)										
	石橋 康郎 (通21)										
	石井ゆかり (高28)										
	岩下 克世 (高16)										
監査	永江 栄 (高女2)										
	古市 純久 (高21)										
	石井 洋子 (高女4)										
	澤田 繁信 (高23)										
常任幹事	菅野 英夫 (高8)										
	長瀬 精一 (高12)										
	山口 政利 (通37)										
	林 ユミ子 (通37)										
	藤井 武彦 (高16)										
	須藤るり子 (通39)										
	木村 行幸 (高18)										
	大森 啓護 (高8)										
	中村千枝子 (衛1)										
	中村 英之 (高10)										
	岩網 敏雄 (高13)										
	石井ゆかり (高28)										
	吉橋 重夫 (高11)										
	山中 操 (高21)										
	布施 明 (高13)										
	市原 俊介 (高45)										

# 東高点描



登校風景



玄関ホールガラスケース



教務室のコンピュータ



会議室（教務部）コンピュータ



コンピュータ教室



校内LAN設置（印刷室のサーバー）



第四章 資料編



第一節 現況

一	全日制課程の部	187
二	通信制課程の部	201
三	職員一覧	214

# 第一節 現況

## 一 全日制課程の部

### 1 校章

#### 【校章の由来】

「千」の文字と数葉の月桂樹の葉でわが郷土「千葉」をかたどるとともに、その若葉は、生々伸長してやまない本校の意気と栄光とを象徴する。

### 2 総記

創立 昭和一六年四月一日  
課程・生徒定員

課程	全日制	通信制
学科	普通科	普通科
学級数	二七	二三
生徒定員	一、〇八〇	一、四〇〇

### 校地

校舎敷地	一六、三三二㎡
運動場	一七、二六三㎡
建物校舎	九、三一九㎡
体育館	一、四九三㎡
格技館	九九四㎡
セミナーハウス	五五九㎡
	三三、五九四㎡



### 3 歴代校長

代	氏名	在職期間	前職
1	滝熊之助	一六・二〇〇〇・八・九	県視学
2	楠原信一	二〇・八・二〇〇〇・三・二・二五	県立木更津高等学校校長
3	親泊朝晋	三〇・二・二五〇〇・四・三・三	本校教頭(三〇・二・二六まで校長事務取扱)
4	諸川芳雄	三二・四・五〇〇〇・三・三	都立城北高等学校教頭
5	石毛貞雄	三三・四・一〇〇〇・七・七・二〇	県立銚子商業高等学校校長
6	内藤貫一	三三・七・三〇〇〇・三・三・二〇	県立国府台高等学校校長
7	澤田繁二	三三・三・二〇〇〇・三・三・三	本校教頭(校長職務代理)
8	村田泰次郎	三三・四・一〇〇〇・三・三・三	県教育次長
9	畠山一郎	三三・四・一〇〇〇・三・三・三	県立佐倉東高等学校校長
10	相川勝衛	三三・四・一〇〇〇・三・三・三	県立東金高等学校校長
11	須田義男	三三・四・一〇〇〇・三・三・三	県立木更津高等学校校長
12	森田章	三三・四・一〇〇〇・三・三・三	県立木更津高等学校校長
13	齋藤志貴雄	三三・四・一〇〇〇・三・三・三	県教育庁高校教育課長
14	高橋浩司	三三・四・一〇〇〇・三・三・三	千葉市立千葉高等学校校長
15	高田侑兒	三三・四・一〇〇〇・三・三・三	千葉県総合教育センター所長
16	荒川昇	三三・四・一〇〇〇・三・三・三	県教育庁学校教育部指導課長
17	長妻孝治	三三・四・一〇〇〇・三・三・三	県立千城台高等学校校長
18	曾川定雄	三三・四・一〇〇〇・三・三・三	県立幕張総合高等学校校長

トレーニング室 一八八㎡  
 窯場 一三、〇五二㎡  
 倉庫 三四㎡  
 部室 一三二㎡  
 通信教育棟 一三三三㎡  
 一、六七五㎡

#### 4 教育方針

教育基本法及び学校教育法の趣旨に基づき、人間性の豊かな、実践力に富んだ人物を育成することをめざす。  
とくに、本校の実情にそって次の諸点に留意する。

##### 1 生活態度の確立助成

自律的、科学的な生活態度の育成に努め、幸福な人生を創造できる、心身ともに健康で積極性に富み、国際的視野を持つ人物を養成する。

##### 2 進路指導の強化充実

基礎学力の向上と個性の伸長をはかり、将来の進路を開拓し、社会に適応する能力を養成する。

##### 3 男女共学の長所発揮

親和と、清純なふんいきの中に、男女が互いに理解しあい、ともにその特性を生かして、社会の発展と福祉に貢献できるような資質を養う。

##### 4 努力目標とその達成

つねに理想的な在り方を探究し、教師、保護者、生徒ともに考え、ともに語りあって、学校全体および個人としての努力目標を定め、その達成に励みつつ、日々の向上進展をはかってゆく。

### 努力目標

学力の充実 自律的行動と責任 基礎体力の向上



# 5 教育課程

## 普通科

平成12年度改訂

教科	科目	標準 単位数	1年	2年	3年		計					
					A	B	A	B				
国語	国語 I	4	4					4	4			
	国語 II	4		4				4	4			
	国語代表文	2										
	現代語	4			4	3		4	3			
	古典 I	3										
	古典 II	3						3	3			
地理歴史	古典講読	2						0~2	15~17	0~2	11~13	
	世界史 A	2										
	世界史 B	4	4					4~6		4~6		
	日本史 A	2										
	日本史 B	4						0~6		0~6		
	地理 A	2										
公民	地理 B	4			(4)	※①		0~6	10~12	0~6	8~10	
	現代社会	4										
	倫理	2						2		2		
	政治・経済	2						2		2		
	数学 I	4	4					4		4		
	数学 II	3		2				※①	2	2		
数学	数学 III	3						(2)	3	3~5		
	数学 A	2	1	1				2		2		
	数学 B	2		2				2		2		
	数学 C	2						0~2		2		
	総合理科	4						※②	13~15	3	16~18	
	物理 I A	2										
理科	物理 I B	4						(3)		0~4		
	物理 II	2						(3)		0~5		
	化学 I A	2						※②				
	化学 I B	4			(4)			(3)	(3)	0~4		
	化学 II	2						(3)	+	0~5		
	生物 I A	2						※③				
	生物 I B	4			(4)			(3)		0~4		
	生物 II	2						(3)		0~5		
	地学 I A	2										
	地学 I B	4						(3)		0~4		
	地学 II	2								0~5		
	保健体育	体育	7~9	3	3				3		9	
保健		2	1	1						2		
音楽 I		2								0~2		
芸術		音楽 II	2								0~2	
		音楽 III	2								0~2	
		美術 I	2			(2)					0~2	
	美術 II	2			(2)					0~2		
	美術 III	2								0~2		
	工芸 I	2										
	工芸 II	2										
	工芸 III	2										
	書道 I	2								0~2		
	書道 II	2								0~2		
	書道 III	2								0~2		
	外国語	英語 I	4	3							3	
英語 II		4		2				2		4		
オーラル・コミュニケーション A		2										
オーラル・コミュニケーション B		2	2							2		
オーラル・コミュニケーション C		2										
ライティング		4						4		4~6		
家庭	ライティング	4		3				4		3		
	家庭一般	4	2	2						4		
	生活技術	4										
	生活一般	4										
	食物	2								0~2	4~6	
	教科単位数計		30	30		30		30		90		90
特別活動		1	1		1		1		3		3	
合計		31	31		31		31		93		93	

(注1) A・Bはそれぞれ文科・理科類型を、※印は○印の中から1科目選択。  
 (注2) 男子の体育実技には格技(柔道・剣道のいずれかを選択必修)が、ふくまれます。



## 6 年間行事計画と日課表

### (1) 年間行事予定表

学期	月	上 旬	中 旬	下 旬
1	4月	新任式、始業式（6日） 入学式（7日）、離任式（9日） 1年オリエンテーション	部活動入部願提出	健康診断 スポーツテスト（26日）
	5月	東雲スポレク会（2日） 生徒総会（9日） 第1回PTA理事会（10日）	創立記念日（15日） 遠足（16日） 前期生徒会役員選挙（11日）	生徒会役員認証式 中間考査（24～29日） 同窓会総会
	6月	PTA総会（7日） 教育実習（1日～16日）		教育相談研修会① 2・3年保護者面談
	7月	期末考査（6日～10日）	防災訓練（17日） 終業式（19日）	1年キャンプ（20日～22日） 学校説明会（30日）
	8月			転入試験（22日）
2	9月	始業式（1日）	東雲祭（15日～16日） 2・3年校内実力テスト （20日）	センター入試出願説明会（25日） 英語スピーチコンテスト（26日） 学校説明会（29日）
	10月	第2回PTA理事会（4日） 学校説明会（6日）	校内陸上競技大会（11日）	中間考査（19日～23日） 同和教育研修会 国際交流派遣生募集（米国）
	11月	3年出願手続き説明 PTA研修会 創立60周年記念式典（10日）	国際交流派遣選考 後期生徒会役員選挙（12日） 〃 認証式（16日）	2年修学旅行（25日～28日） 1年保護者面談
	12月	ストーブ使用開始（1日～） 教育相談研修会②	期末考査（7日～12日） 転入試験（12日） 芸術鑑賞会（13日）	防災訓練（19日） 終業式（21日）
3	1月	始業式（7日）	3年センター入試直前注意	推薦による入学選抜（31日） 3学年末考査（25日～30日）
	2月	3年自宅学習（1日～） 1年百人一首大会（1日～4日） 1・2年校内マラソン大会（6日）	3年自宅学習 1・2年校内実力テスト （12日）	学力検査等による入学者選抜（26・27日） 3年自宅学習 国際交流派遣（米国）
	3月	3年自宅学習 卒業式（8日）	1・2年学年末考査 （11日～14日）	終業式（22日） 転入試験（27日）

## (2) 日課表

職員朝会	SHR	1	2	3	4	昼休み	5	6	SHR 清掃	下校
8:20	8:30	8:45	9:45	10:45	11:45	45分	13:20	14:20	15:15	4月~10月 17:00
8:25	8:40	9:35	10:35	11:35	12:35		14:10	15:10	15:35	11月~3月 16:30

- 〔備考〕 1. 土曜日は2時限、清掃は10:40~10:55      2. LHRは火曜日第6時限  
3. 水曜日の6限目は、休業土曜日の1限目か2限目の授業

## 7 職 員 等 (平成13年6月1日現在)

## (1) 職 員

性別	職名	校 長	教 頭	教 諭								養 護 教 諭	小 計	実 習 助 手	事 務 長	事 務 員	用 務 員	合 計
				国 語	地 歴	公 民	数 学	理 科	保 体	芸 術	英 語							
男		1	1	4	6	2	9	9	7	2	7		48	1		1	1	51
女				4					1	1	3	2	1	12	0	1	4	18
計		1	1	8	6	2	9	9	8	3	10	2	60	1	1	5	2	69

○印は主任・主事または部長

職名	氏名	担任	教科等	校務分掌	部・同好会	委員会	着任年月日
校長	曾川定雄		地歴				H11.4.1
教頭	高野だいわ		地歴				12.4.1
教諭	宇藤八重子	○3年	国語		文学		H7.4.1
〃	大塚好輝	○2年	〃		書道・野球		10.4.1
〃	勝又邦夫	1-副	○	教務	コンピューター・バレーボール		9.4.1
〃	笹島茂樹	3-8	〃	生徒会指導	演劇・テニス・囲碁	応援・生徒会誌編集	11.4.1
〃	菱木みどり	3-5	〃	生活指導	茶華道・水泳	文 化	10.4.1
〃	谷島直美	2-8	〃	教務	文学・ジャグリング		11.4.1
〃	善養寺千秋	1-7	〃	図書	茶 華 道	新聞・図書	12.4.1
〃	渡邊都詩紀	1-1	〃	生活指導	水 泳	規 律	10.4.1
〃	鈴木宏	3-副	○地歴	進路指導	水泳・JRC		H9.4.1
〃	佐藤光男	2-3	〃	図書	陸上・漫画研究	放 送	11.4.1
〃	植木喜重	3-2	〃	管理	山岳・歴史研究		11.4.1
〃	廣井修司	1-4	〃	生徒会指導	マンドリン・卓球・ジャグリング	文 化	12.4.1
〃	宮崎利久	3-副	〃	総務	ソフトボール・歴史研究		13.4.1
〃	中川雅彦	1-6	〃	管理	野 球	防 災	13.4.1

職名	氏名	担任	教科等	校務分掌	部・同好会	委員会	着任年月日
教諭	藤平真	2-5	○公民	生活指導	ラグビー	応援	H11.4.1
〃	片岡勝規	3-副	〃	生活指導	マンドリン	文化	13.4.1
〃	沢田健		数学	進路指導	吹奏楽		H12.4.1
〃	萩原正男		〃	○教務	陸上		8.4.1
〃	戸次恒治	○1年	〃	〃	テニス		6.4.1
〃	栗原剛		〃	○総務	バスケットボール		5.4.1
〃	小森俊介	2-副	〃	進路指導	サッカー		13.4.1
〃	田島洋一		〃	○進路指導	コンピューター・物理		5.4.1
〃	武藤守夫	3-3	〃	管理	茶華道	美化	6.4.1
〃	梅井泰宏	1-8	○〃	教務	野球・空手		4.4.1
〃	佐藤啓之	2-6	〃	教務	E S S ・コンピューター		12.4.1
〃	林久雄		化学	○図書	化学・写真・剣道	新聞・図書	H4.4.1
〃	芳賀良治		地学	教務	地学・山岳		13.4.1
〃	中山俊彦		物理	○管理	バレーボール・囲碁	美化	5.4.1
〃	鶴沢勝	3-6	化学	管理	吹奏楽	美化	8.4.1
〃	細川信	2-9	○物理	教務	美術・写真		8.4.1
〃	高山雅夫	1-副	生物	進路指導	山岳		7.4.1
〃	曾野学	2-2	化学	生徒会指導	化学・写真	文化	8.4.1
〃	木村孝康	3-副	生物	生徒会指導	生物・マンドリン・フォークソング	選挙管理	13.4.1
〃	阿部雅人	3-9	物理	進路指導	物理・コンピューター		4.4.1
〃	穴倉健司		保健体育	保健厚生	柔道		H1.4.1
〃	皆川修一		〃	○保健厚生	剣道	保健	12.4.1
〃	藤田勝美	2-副	○〃	総務	野球		11.4.1
〃	加藤ひで子	1-3	〃	総務	バレーボール	保健	8.4.1
〃	矢代正人		〃	○生活指導	陸上		5.4.1
〃	小出秀樹	2-4	〃	生徒会指導	バレーボール	体育・応援・生徒会誌編集	4.4.1
〃	押塚功明	3-4	〃	管理	バスケットボール		4.4.1
〃	張能正昭	1-9	〃	生活指導	ラグビー	体育・規律・応援	12.4.1
〃	小川巧		音楽	○生徒会指導	音楽	選挙管理	H4.4.1
〃	嘉村英子		美術・工芸	管理	美術・陶芸	防災	8.4.1
〃	林一己	2-副	○書道	総務	書道・テニス		12.4.1
〃	古水裕之	1-副	英語	教務	ソフトボール		H5.4.1
〃	古谷成通		〃	図書	卓球	放送	9.4.1
〃	内田久美子		〃	総務	E S S ・漫画研究		4.4.1
〃	布施明人	3-1	〃	総務	サッカー		6.4.1
〃	橋本眞		〃	総務	卓球		6.4.1

職名	氏名	担任	教科等	校務分掌	部・同好会	委員会	着任年月日
教諭	住田健司	3-7	○英語	進路指導	J R C ・ 空手		H 6. 4. 1
”	平澤憲彦	1-2	”	総務	テ ニ ス		13. 4. 1
”	山口久美	1-副	”	進路指導	テ ニ ス		13. 4. 1
”	久保田信子	2-副	”	進路指導	吹奏楽 ・ J R C		12. 4. 1
”	竹林靖浩	2-7	”	生活指導	卓 球		12. 4. 1
”	長嶋由美子	1-5	家庭	保健厚生	食物手芸 ・ サッカー	保 健	H 7. 4. 1
”	小久保法子	2-1	○ ”	生徒会指導	音楽 ・ バスケットボール	文 化	11. 4. 1
養護教諭	田上あゆみ		養 護	保健厚生	J R C		H10. 4. 1
実習助手	丸田一朗			教 務	剣 道		H10. 4. 1
”	村上久美子						7. 4. 1
事務長	小安弘子	事務					H13. 4. 1
主査	何木美子	”	人事・給与				11. 4. 1
副主査	深山裕子	”	図 書	図 書		図 書	10. 4. 1
主任主事	岡崎直美	”	旅費・服務				10. 4. 1
主事	吉松さおり	”	文書・収入				12. 4. 1
”	細田義之	”	支出・管理				10. 4. 1
主任務員	福田昭雄	用務					S55. 4. 1
”	木村幸枝	”					53. 4. 1

(2) 非常勤講師

吉澤良子	家庭	H 13. 4. 1
鴫田忠雄	理科	H 13. 9. 1

(3) 委嘱講師

宮内美智子	茶華道	S 42. 4. 1
-------	-----	------------

(4) 学校医等

茂手木直忠	内科	S 57. 6. 1	斉藤 暁	歯科	55. 4. 1
渡辺 勲	”	41. 4. 1	磯貝嘉伸	”	H 7. 4. 1
山田晴彦	外科	47. 4. 1	砂川 孝	”	8. 4. 1
武本吉光	眼科	H 10. 4. 1	矢島絹代	薬剤師	S 58. 6. 1
山口宗彦	耳鼻科	49. 4. 1			

## 8 校務分掌組織

部	主任・主事等	分 担	人員
総 務	栗 原 剛	学校要覧、儀式、職員会議、入学者選抜、奨学金、渉外、国際交流	9
教 務	萩 原 正 男	行事計画、授業計画、教育課程、生徒異動	9
管 理	中 山 俊 彦	施設使用、教室備品、防災、環境美化	7
生活指導	矢 代 正 人	HR指導計画、規律、集会、同和教育、教育相談、交通安全	7
進路指導	田 島 洋 一	調査、統計、進路相談、模試、課外	9
生徒会指導	小 川 巧	庶務、審議・議決機関指導、執行機関指導、会計、会計監査指導 学校行事への協力指導、部活動の連絡調整指導	7
図 書	林 久 雄	購入計画、管理、読書指導、広報、視聴覚	5
保健厚生	皆 川 修 一	保健計画、身体測定、日本体育、学校健康センター、購買	4

名 称	構 成	人員
職 員 会 議	校長、教頭、事務長、教諭、実習助手、事務職員	69
運 営 委 員 会	教頭、事務長、各部長、各学年主任、各教科主任	22
学 年 主 任 会	教頭、各学年主任、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事	7
教 科 主 任 会	教頭、教務主任、各教科主任	11
「総合的な学習」検討委員会	校長の委嘱する委員長・副委員長（各1名）、各学年2名、（オブザーバー：教頭、各学年主任）	12
2学期制調査研究委員会	校長の委嘱する委員長・副委員長（各1名）、委員（4名）（オブザーバー：教頭）	7
教育課程検討委員会	教頭、教務主任、進路指導主事、各教科主任、教務部2名	14
将来構想検討委員会	教頭、各学年主任、総務部長、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、 生徒会指導部長、教科代表3名	12
同和教育推進委員会	教頭、教務、生活指導部各2名、生徒会指導・図書・地歴公民・学年各1名	8
コンピュータ委員会 (兼インターネット運用委員会全日代表)	教務2名、進路指導・総務（国際交流）各1名	4
入 試 検 討 委 員 会 (含 推 薦 入 試)	教頭、総務部長、教務主任、各教科主任、生徒会指導2名、コンピュータ委員会1名 総務・教務より	18
国際理解教育推進委員会	総務部長、教務主任、生徒指導主事、各学年主任、総務部担当者、英語科主任	10
留 学 委 員 会	教頭、教務主任、生徒指導主事、各学年主任、各教科主任、総務部留学係、教務部留学係	17
学 校 外 学 修 委 員 会	教頭、教務主任、生徒指導主事、各学年主任、各教科主任、教務部担当係員	16
セクハラ相談員	校長、教頭、事務長、校長委嘱2名	5
衛 生 委 員 会	校長、衛生管理者、学校医、教頭、親和会代表（全日制、通信制）	7
防 災 委 員 会	教頭、事務長、管理部、事務	6
全 通 打 合 せ	教頭、教務主任、生徒指導主事、生徒会指導部長、部活動顧問代表（通信：教頭、 総務部長、教務主任、生徒指導部：部長・生徒会担当）	5
P T A 校 内 理 事 会	校長、教頭、事務長、各学年主任、各部長、総務部2名、事務	17
同 窓 会 係	全日制3名、通信制3名	6
60周年記念事業 実行委員会事務局 (◎印は実行委員会に出席)	◎教頭（全・通）、◎図書部長、生徒会指導部長、進路指導部長、◎教務部長、 音楽担当教諭、生活指導部員1名、教務部員1名、◎総務部長、生活指導部長、 各学年主任、総務部員2名、通信制1名、◎管理部長、保健厚生部長、美術担当教諭 書道担当教諭、◎事務長、事務主査、（事務室）1名、通信制2名	22

## 9 生 徒

(1) 定員と現員（平成13年5月1日現在）

学 年	学 級	定 員	現 員		
			男	女	計
1	9	360	180	187	367
2	9	360	192	175	367
3	9	360	169	196	365
計	27	1,080	541	558	1,099

## (2) 受検状況等(推薦を含む)

年 度		平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
募 集 定 員		360	360	360	360	360	360
受 検 者 数 A	男	296	388	294	290	274	259
	女	218	315	289	309	258	267
	計	514	703	583	599	532	526
合 格 者 数 B	男	200	203	176	168	190	178
	女	168	161	186	197	176	188
	計	368	364	362	365	366	366
A / B		1.40	1.93	1.61	1.64	1.45	1.44

## (3) 出身中学校別数(入学時)

市	中 学 校 名	1 年	2 年	3 年	市	中 学 校 名	1 年	2 年	3 年
千 葉 市	加 曾 利	2	4	2	千 葉 市	み つ わ 台	2	2	2
	末 葛 城	3	1	1		緑 ケ 丘	9	8	5
	葛 樁 森	2	3	2		天 戸	0	2	2
	樁 緑 町	5	4	3		若 松 浜	6	7	5
	緑 小 中 台	2	3	3		高 磯 第一	1	1	3
	小 花 園	6	8	11		磯 辺 第二	2	8	4
	新 蘇 宿	10	5	9		磯 山 第二	3	2	3
	蘇 蘇 我	0	4	0		山 稲 王 浜	7	4	9
	蘇 蘇 我 橋	3	5	4		稲 朝 日 ケ 丘	3	5	3
	蘇 蘇 我 橋 張	2	1	3		朝 越 智 谷	7	9	7
	蘇 蘇 我 橋 張 浜	5	7	8		越 泉 大 附 属	5	1	11
	蘇 蘇 我 橋 張 浜 田	4	5	2		泉 千 葉 大 附 科	15	9	7
	蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町	5	2	5		千 更 幕 張 本 郷	16	13	19
	蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘	5	9	7		更 幕 張 本 郷 南	1	2	0
	蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井	3	1	0		幕 土 貝 打 有 大	7	8	4
	蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸	4	3	1		土 貝 打 有 大 計	6	4	13
	蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛	1	1	1		貝 打 有 大 計	1	1	4
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台	8	3	5	打 有 大 計	5	3	6		
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草	2	1	2	有 大 計	5	3	3		
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一	0	1	1	大 計	3	9	1		
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一 二	3	5	7	計	212	232	229		
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一 二 氣	3	4	2	第 一	1	1	2		
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一 二 氣 西	2	3	3	第 二	1	3	0		
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一 二 氣 西 喜	0	4	3	第 三	0	0	2		
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一 二 氣 西 喜 台	2	2	2	第 四	1	0	2		
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一 二 氣 西 喜 台 丘	0	4	2	第 五	0	0	1		
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一 二 氣 西 喜 台 丘 第 一	1	2	5	第 六	1	1	1		
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一 二 氣 西 喜 台 丘 第 一 二	0	4	0	第 七	0	4	1		
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一 二 氣 西 喜 台 丘 第 一 二 宮	3	3	3	計	4	9	9		
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一 二 氣 西 喜 台 丘 第 一 二 宮 野	4	5	7	船 橋 市	船 橋 市	1	1	0	
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一 二 氣 西 喜 台 丘 第 一 二 宮 野 第 一	4	6	0	船 橋 市	船 橋 市	3	1	0	
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一 二 氣 西 喜 台 丘 第 一 二 宮 野 第 一 二	4	7	7	船 橋 市	船 橋 市	0	1	0	
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一 二 氣 西 喜 台 丘 第 一 二 宮 野 第 一 二 西	1	7	3	船 橋 市	船 橋 市	0	3	0	
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一 二 氣 西 喜 台 丘 第 一 二 宮 野 第 一 二 西 南	5	1	1	船 橋 市	船 橋 市	0	1	0	
蘇 蘇 我 橋 張 浜 田 町 丘 井 戸 毛 台 草 第 一 二 氣 西 喜 台 丘 第 一 二 宮 野 第 一 二 西 南 賀	4	3	3	船 橋 市	船 橋 市	0	1	0	

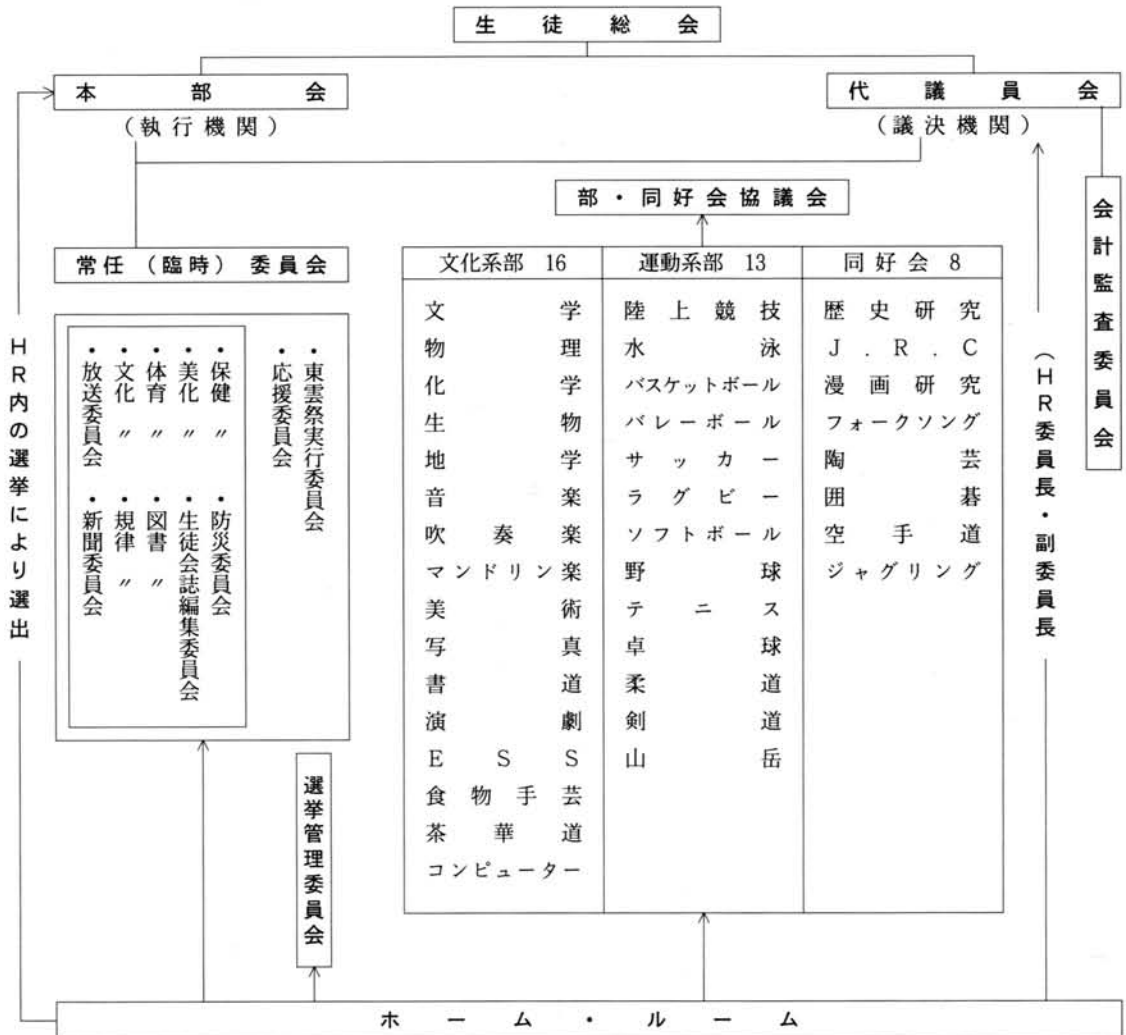


市	中学校名	1年	2年	3年	市	中学校名	1年	2年	3年	
船橋市	習志野台	2	0	0	原市	若葉	3	1	4	
	三田	0	1	0		双葉	2	4	5	
	七林	2	1	2		姉崎東	2	7	4	
	旭	1	0	1		国分寺	3	7	8	
	宮本	3	1	1		加茂	0	1	1	
	御滝	1	0	0		東海	1	0	2	
	海神	1	0	0		千種	3	0	0	
行田	1	0	0	国分寺台	0	4	4			
	計	15	11	4		計	57	70	67	
八千代市	阿蘇	0	0	1	市川市	第一	1	-	-	
	高津	0	1	0		第二	1	-	-	
	村上	0	1	2		第三	1	-	-	
	村東	0	0	1		第六	1	-	-	
	八千代台	1	0	0		計	4	-	-	
	計	1	2	4	印旛村	印旛	1	-	-	
	計	12	11	15			計	1	-	-
佐倉市	佐倉	2	2	1	大網白里町	大網	1	-	-	
	上志井	0	0	1		増穂	2	-	-	
	白南	1	1	0			計	3	-	-
	井野	0	1	1	木更津市	太田	1	-	-	
	井東	1	2	0		波畑	1	-	-	
	佐津	0	1	2			計	3	-	-
	西郷	0	0	1	栄町	栄東	1	-	-	
根	8	4	9			計	2	-	-	
	計	12	11	15	酒々井町	酒々井	2	-	-	
	計	4	3	8			計	2	-	-
四街道市	四街道	2	2	6	袖ヶ浦町	蔵波	3	-	-	
	四街道	5	6	3		昭長	2	-	-	
	四街道	4	5	2		平浦	2	-	-	
	旭	2	2	7		計	8	-	-	
		計	17	18	26	東金市	西東	1	-	-
	計	4	2	1			計	3	-	-
八街市	八街	3	5	2	成田市	玉造	1	-	-	
	八街	2	2	2		中成	3	-	-	
	八街	2	2	2			台田	1	-	-
	八街	4	1	1		西	1	-	-	
		計	13	10	6		計	6	-	-
市原市	八幡	2	6	3	茂原市	東	1	-	-	
	八幡	1	0	1			計	1	-	-
	八幡	1	2	2	学区外		-	1	3	
	辰巳	4	2	4		県外		3	2	0
	市原	0	1	0			合計		367	366
	五井	3	4	2						
	姉崎	3	2	1						
	湿津	1	5	1						
	南総	4	3	5						
	有秋	8	7	8						
ちはら台	13	11	10							
三和	2	2	0							
市東	1	1	2							

(4) 居住地

	1年	2年	3年	計		1年	2年	3年	計
千葉市	211	254	228	693	大網白里町	3	-	-	3
原市	58	65	66	189	木更津市	3	-	-	3
四街道市	17	11	28	56	栄町	2	-	-	2
習志野市	6	5	10	21	酒々井町	2	-	-	2
船橋市	15	10	4	29	沼南町	1	-	-	1
佐倉市	12	11	15	38	袖ヶ浦市	7	-	-	7
八千代市	1	2	5	8	東金市	3	-	-	3
八街市	13	8	6	27	成田市	6	-	-	6
市川市	5	-	-	5	茂原市	1	-	-	1
印旛村	1	-	-	1	その他	-	0	1	1
					計	367	366	363	1,096

10 生徒会



## 11 部・同好会生徒数

	1 年		2 年		3 年		計
	男	女	男	女	男	女	
文 学	2	1	0	3	5	4	15
物 理	0	0	0	0	0	0	0
化 学	1	0	2	4	0	0	7
生 物	0	0	0	0	0	0	0
地 学	0	0	0	0	0	0	0
音 楽	3	15	9	13	1	2	43
吹 奏 楽	4	12	3	10	3	17	49
マ ン ド リ ン 楽	9	43	6	23	10	16	107
美 術	0	4	0	8	2	2	16
写 真	0	2	0	6	0	0	8
書 道	0	1	0	8	0	2	11
演 劇	0	0	0	0	0	0	0
E S S	0	0	0	0	0	0	0
食 物 手 芸	0	1	0	6	0	2	9
茶 華 道	0	14	0	9	0	20	43
コ ン プ ュ ー タ ー	4	0	2	2	3	3	14
文化系部計	23	93	22	92	24	68	322
陸 上 競 技	8	5	11	7	9	12	52
水 泳	4	2	3	1	3	2	15
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル	18	11	19	17	8	12	85
バ レ ー ボ ー ル	9	15	7	16	4	16	67
サ ッ カ ー	13	2	22	2	10	2	51
ラ グ ビ ー	9	2	9	1	8	1	30
ソ フ ト ボ ー ル	0	7	0	3	0	10	20
野 球	10	1	14	1	15	2	43
テ ニ ス	27	24	35	14	20	14	134
卓 球	3	0	5	0	4	0	12
柔 道	1	0	2	0	0	0	3
剣 道	8	4	5	1	4	8	30
山 岳	11	4	5	6	1	4	31
運動系部計	121	77	137	69	86	83	573
歴 史 研 究	0	0	0	0	0	0	0
J R C	0	1	0	3	1	6	11
漫 画 研 究	0	1	0	2	3	2	8
フ ォ ー ク ソ ン グ	0	0	3	5	0	0	8
陶 芸	0	0	0	4	1	0	5
囲 碁	0	0	4	0	0	0	4
空 手	3	0	0	0	0	0	3
ジャ グ リ ン グ	3	0	7	1	3	1	15
同 好 会 計	6	2	14	15	8	9	54
総 計	150	172	173	176	118	160	949

## 12 図 書 館

- (1) 施設 閲覧室 242.5㎡ (82名収容) 司書室 38.2㎡ 書庫 9.0㎡  
 (2) 図 書 (平成12. 4. 1現在)

分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
冊数	3,884	1,624	3,876	2,703	2,439	758	292	2,341	978	9,882	28,777
%	13.5	5.7	13.5	9.4	8.5	2.6	1.0	8.1	3.4	34.3	100.0

### (3) 利用状況 (平成12年度)

開館日数 217日 閲覧者1日平均 200人 貸出冊数 2,240冊

(4) 書 架 510.4m

(5) 決 算 1,677,000円

(6) 購入雑誌 アエラ、アエラムック、アサヒカメラ、岩波ブックレット、栄養と料理、音楽の友、暮らしの手帖、蛍雪時代、芸術新潮、サライ、シンラ、新聞ダイジェスト、時刻表、ジュ・パンス、時事英語研究、世界、装苑、ソトコト、太陽、旅、ダ・ヴィンチ、中央公論、ニュートン、文芸春秋、山と溪谷、ラパン等

## 13 授業料と諸会費

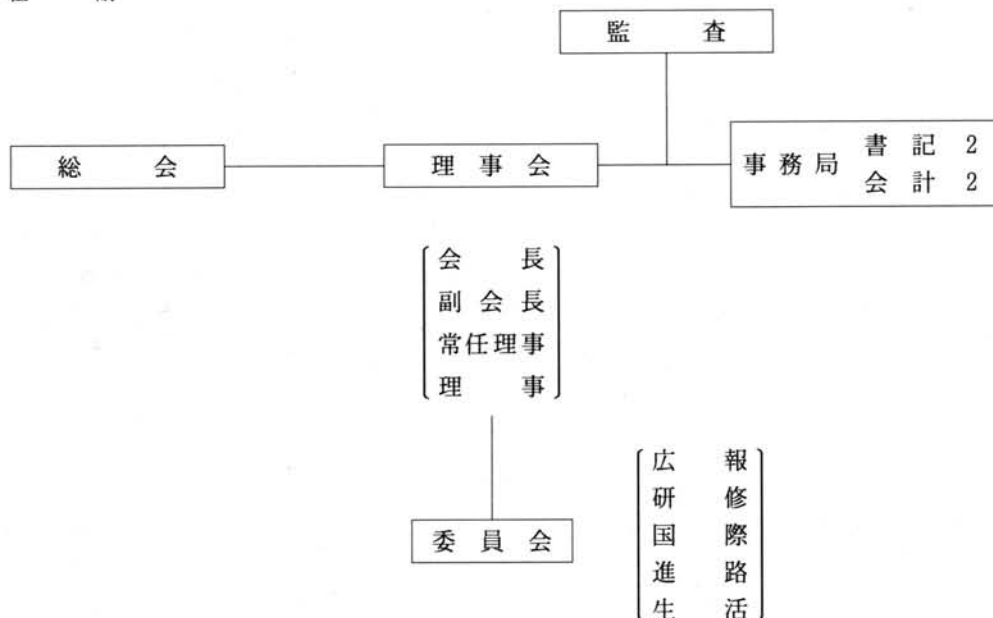
1月あたり

学 年	授 業 料	生 徒 会	P T A	教育振興費	計
1	9,000 円	300 円	550 円	250 円	10,100 円
2	9,000	300	550	250	10,100
3	9,000	300	550	250	10,100

(その他積立金等あり)

## 14 P T A

### (1) 組 織



## 15 卒業生（ ）の数字は女子内数

### (1) 概況

進路別 \ 年度	97	98	99	00
卒業生徒数	362	367	363	361 (186)
進学	200	192	199	177 (105)
就職			1	
家事家業				
その他	162	175	163	184 (81)

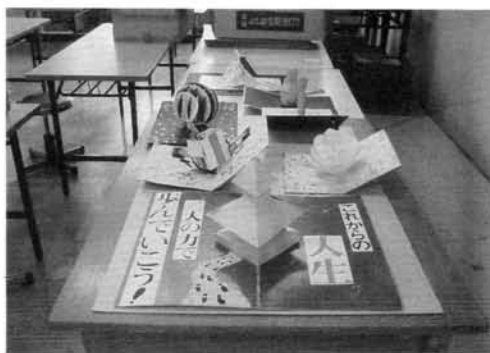
### (2) 進学状況 (合格者延数)

進路別 \ 年度	97		98		99		00	
	現	浪	現	浪	現	浪	現	浪
国公立大	50 (17)	56 (8)	56 (28)	56 (20)	63 (33)	46 (16)	42 (21)	39 (13)
私立大	410 (254)	548 (128)	353 (226)	377 (95)	343 (193)	387 (117)	333 (185)	346 (101)
準大		2		2			4 (3)	4 (2)
国公立短大			1 (1)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	3 (3)	
私立短大	13 (13)	2 (1)	8 (8)	1 (1)	5 (5)	3 (3)	7 (7)	
専門・各種学校	4 (4)	1	3 (3)	2 (1)	6 (3)	1 (1)	5 (4)	1 (1)

### (3) 卒業生数

	市立女子	市立女子高	千葉三高	千葉東高	合計
男	0	0	1,124	9,637	10,761
女	763	37	1,936	※6,581	※9,317
計	763	37	3,060	※16,218	※20,078

※印は衛生看護科680名を含む。



## 二 通信制課程の部

### 1 教育方針

教育基本法及び学校教育法の趣旨に基づき、人間性の豊かな、調和の取れた人物を養成することをめざす。とくに、通信制の課程であることにそって、次の諸点に留意する。

#### 1 自己啓発

自学自習の精神の涵養に努め、生涯にわたって意欲的に自己啓発に努める。自主的・自律的な人物を養成する。

#### 2 個性伸長

学力の充実を図ゆながら、生徒一人一人の個性と能力の伸長に努め、社会に貢献し得る、豊かな教養と社会性を身に付けさせる。

#### 3 他者敬愛

自らの生き方を積極的に追求するとともに、他者の人格を尊重し、思いやることのできる、豊かな人間性の育成に努める。





## 2 教育課程

### 普通科

	科目名	単位数	レポート	要出席数	試験回数	1組	2組	3組	4組	単位合計	備考
国語	国語Ⅰ(1)	4	12	404	3	④	③			4	
	国語Ⅰ(2)	3		302	3						
	国語Ⅱ(1)	2	6	2(8)	2			2	2		
	国語Ⅱ(2)	2		2(8)	2						
地理歴史	世界史B	4 (4)	12	602	3		④			4	
	日本史B	4 (4)	12	602	3				△	4	
	地理B	4 (4)	12	602	3	△				4	
公民	現代社会	4 (4)	12	602	3			④		4	
数学	数学Ⅰ(1)	4	12	402	3	④	②			4	数学Ⅱ 化学ⅠB 英語Ⅱ 文書処理 から 1科目選択
	数学Ⅰ(2)	2		2(6)	2						
	数学Ⅱ	4 (3)	12	406	3			4		4	
	数学A	2 (2)	6	2(8)	2				2	2	
理科	物理ⅠB	4 (4)	12	1606	3		△			4	
	化学ⅠB	4 (4)	12	1606	3			△		4	
	生物ⅠB	4 (4)	12	1606	3	△				4	
	地学ⅠA	2 (2)	6	8(8)	2				△	2	
保健	体育(1)	2	2	1000	1	②	②			2	数学A 地学ⅠA 音楽Ⅲ 美術Ⅲ 書道Ⅲ から 1科目選択
	体育(2)	2		1000	1						
	体育(3)	2		1000	1						
	体育(4)	2		1000	1						
保健	2 (2)	6	2(6)	2			②		2		
芸術	音楽Ⅰ	2 (2)	6	802	2		②			2	
	音楽Ⅱ	2 (2)	6	802	2			②		2	
	音楽Ⅲ	2 (2)	6	8(8)	2				2	2	
	美術Ⅰ	2 (2)	6	802	2		②			2	
	美術Ⅱ	2 (2)	6	802	2			②		2	
	美術Ⅲ	2 (2)	6	8(8)	2				2	2	
	書道Ⅰ	2 (2)	6	802	2		②			2	
	書道Ⅱ	2 (2)	6	802	2			②		2	
書道Ⅲ	2 (2)	6	8(8)	2				2	2		
外国語	英語Ⅰ(1)	3	9	1206	3	3	3			3	音楽Ⅰ・Ⅱ 美術Ⅰ・Ⅱ 書道Ⅰ・Ⅱ から同一科目のⅠ・Ⅱを選択
	英語Ⅰ(2)	3		1202	3						
	英語Ⅱ	4 (3)	12	1606	3			4		4	
	オンラインコミュニケーション	2 (2)	6	8(8)	3				2	2	
家庭	家庭一般	4 (4)	10	802	3			④		4	
	被服	4(2~12)	10	806	3				4	4	
	食物	4(2~12)	10	806	3				4	4	
商業	流通経済	4(3~5)	9	804	3				4	4	
	簿記	4(3~8)	12	1206	3				4	4	
	商業法規	4(2~5)	12	1206	3				4	4	
	文書処理	4(2~5)	10	806	3			4		4	
合 計						21 単位	20 単位	20 単位	20 単位	81 単位	
特 別 活 動						10 単位 時間以上	10 単位 時間以上	10 単位 時間以上	10 単位 時間以上	40 単位 時間以上	
備考	イ. 単位数の( )内は標準単位数、要出席数の( )内は面接授業時間を示す。 ロ. ○印は必修科目。△印は選択必修科目。(地理歴史は1科目、理科は2科目選択必修)										

### 3 年間行事計画と日課表

#### (1) 年間行事計画

月	日	曜	行 事	備 考
4	8	日	新任式・始業式・離任式	X線測定(役員選)
	15	日	入学式	教材配付 オリエンテーション
	22~24	日~火	第1回スクーリング	特活…LHR 年度始めに際して
5	6~8	日~火	第2回スクーリング	特活…LHR 避難訓練(クラス別)、写真撮影
	13	日	1組生研修会・健康診断	健康診断は1組および18才以上の転編入生のみ
	20~22	日~火	第3回スクーリング	特活…進路指導説明会(3、4組) LHR(1、2組)
	27~29	日~火	第4回スクーリング	特活…生徒総会
6	3~5	日~火	第5回スクーリング	特活…LHR 第1回試験の前に
	17・18	日・月	第1回定期試験(1週目)	4時限以降…追再試験
	22・23	金・土	千葉県定通体育大会	各会場
	24・25	日・月	第1回定期試験(2週目)	4時限以降…追再試験
7	8~10	日~火	第6回スクーリング	特活…LHR 壮行会
	15~17	日~火	第7回スクーリング	特活…LHR
	18~20	水~金	夏季合宿研修(2泊3日)	上信越方面
8	2~	木~	全国定通体育大会	種目により実施日は異なる
9	2~4	日~火	第8回スクーリング	特活…LHR
	9~11	日~火	第9回スクーリング	特活…校内生活体験発表会
	23~25	日~火	第10回スクーリング	特活…LHR
	30	日	千葉県定通総合文化大会	県立千葉工業高校
10	7~9	日~火	第11回スクーリング	特活…LHR
	14	日	体育祭	
	21・22	日・月	第2回定期試験(1週目)	4時限以降…追再試験
	28・29	日・月	第2回定期試験(2週目)	4時限以降…追再試験
11	9・10	金・土	千葉県定通新人体育大会	各会場
	11~13	日~火	第12回スクーリング	特活…LHR
	16~18	金~日	3・4組生修学旅行(2泊3日)	沖縄
	25~27	日~火	第13回スクーリング	特活…校内展
12	2~4	日~火	第14回スクーリング	特活…LHR 学習計画書作成
	9~11	日~火	第15回スクーリング	特活…LHR 予餞会 ※短縮45分授業
1	6~8	日~火	第16回スクーリング	特活…予餞会 ※短縮45分授業
	27・28	日・月	第3回定期試験(1週目)	4時限以降…追再試験
2	3・4	日・月	第3回定期試験(2週目)	4時限以降…追再試験
	17	日	特別追試験予定	各科目、あと1度の試験に合格すれば単位修得できる者のみ
3	5~11	火~月	継続手続き受付期間	11日(最終日)は12時で締切り
	10	日	終業式・卒業式	単位修得通知表、『雑草』等配付

◎ スクーリングは、日曜日の他に月曜日と火曜日も行う。

## (2) 日 課 表

### 日曜スクーリング

職員朝会	S H R	1	2	3	昼休み	4	5	6	S H R 清 掃	下 校
8 : 25	8 : 45	9 : 00	10 : 00	11 : 00	45分	12 : 35	13 : 35	14 : 35	15 : 25	17 : 00
～	～	～	～	～		～	～	～	～	
8 : 30	8 : 55	9 : 50	10 : 50	11 : 50		13 : 25	14 : 25	15 : 25	15 : 40	

〔備考〕 第4時限は特別活動

### 平日スクーリング（月・火）

職員朝会	S H R	1	2	3	4	昼休み	5	6	S H R 清 掃	下 校
8 : 25	8 : 35	8 : 45	9 : 45	10 : 45	11 : 45	45分	13 : 20	14 : 20	15 : 10	17 : 00
～	～	～	～	～	～		～	～	～	
8 : 30	8 : 45	9 : 35	10 : 35	11 : 35	12 : 35		14 : 10	15 : 10	15 : 25	

〔備考〕 第6時限は特別活動

## 4 運営の概況

### (1) 修業年限

4年を基準とし、個人の状況により、3年あるいは5年以上も認めている。

### (2) 入学者選抜

(イ) 中学を卒業した者またはそれと同等以上の学力のある者（但し、高校卒業以上の学歴を有する者を除く）で千葉県に居住または勤務している者を入学させる。

(ロ) 面接、作文等により選考する。

### (3) 卒業条件

(イ) 3年以上高校に在学すること。

(ロ) 必修科目の全部を含めて80単位以上を修得すること。

(ハ) 特別教育活動に40時間以上出席すること。

### (4) 単位修得の条件

科目毎に定められている(イ)面接指導（1単位当たり1～5時間）に出席し、(ロ)レポート（1単位当たり3通位）を提出し、(ハ)試験（3回、但し1・2回の科目もある）に合格することが条件となる。

### (5) スクーリング

授業（面接指導）の他に行事や試験を含めて月平均2回～3回のスクーリングを行う。平常は5時限の授業とS H R特別活動や部活動を8時45分～17時の間に行う。

日曜日に出校できない事情のある生徒のために平日スクーリング（月・火）も行う。

また、生徒間の友情を深めることを目的とした全校生対象の夏季合宿研修（2泊3日）も行う。

### (6) 添削指導

本校独自の報告課題集を作成して教科書・学習書と共に配付し、1単位当たり3通位の割でこ

の解答（レポート）を郵送させ、直ちに添削して返送する。科目毎にレポートの提出期限を定めて学習進度を揃えるようにしている。

(7) 試 験

年間3回定期試験を行う。受験資格は所定回数のレポートを提出し、すべて合格しているとき与える。不合格になった場合は再試験を行う。

(8) ホーム・ルーム

学年制はとらず、修得単位別に5組に分け、それを更に細分して現在23のホームルームを編成している。平均人数は70名になる。ホームルームの時間は、とかく孤独になりがちな生徒により友人を持たせるため非常に重視している。

(9) 学 習 会

生徒の自主的な活動として現在県内に2つの学習会があり、平日の夜間に月4回集まって学習や励まし合いを行っている。

(10) 特 科 生

県庁職員が研修の一貫として簿記を受講し、市原刑務所受刑者も簿記を受講している。その他、定通併修生も多くの科目を受講している。

5 職 員 (平成13年4月30日現在)

性別	職名	校 長	教 頭	教 諭								臨 任 講 師	小 計	事 務 長	事 務 職 員	用 務 員	合 計	講 非 常 師 勤
				国 語	社 会	数 学	理 科	保 体	芸 術	英 語	家 庭							
男		1		2	6	2	3	1		1		2	18	1		1	21	5
女			1	2				1	1	3	1		1	10		3	12	6
計		1	1	4	6	2	3	2	1	4	1	2	1	28	1	3	33	11

○印は主任・主事または部長

職名	氏 名	担任	教科等	校務分掌	部・同好会	委員会	着任年月日
校長	曾川定雄		地 歴				H11. 4. 1
教頭	湯目千津		国 語				12. 4. 1
教諭	花田伸	4 B	国 語	総務・教務	美術・演劇		H 7. 4. 1
〃	口澤弘	○1 A	〃	生徒指導	文芸・バレーボール	評議・編集	8. 4. 1
〃	小關ゆかり	3 D	〃	生徒指導・総務	テ ニ ス	編 集	12. 4. 1
〃	鳥飼芳子	2 B	〃	教 務	バスケットボール・書道		12. 4. 1
〃	足立健	○3 A	地歴・公民	総務・図書	合唱・社交ダンス	図 書	H 4. 4. 1
〃	大塚健生	2 D	〃	教 務	バトミントン・生物		6. 4. 1
〃	下永義明	2 G	〃	総務・生徒指導	情報ビジネス・野球		8. 4. 1
〃	飯塚恵一	4 E	〃	教務・生徒指導	バスケットボール	生 活	8. 4. 1
〃	鳥海輝久	5 A B	〃	○図 書	合唱・文芸	図 書	9. 4. 1

職名	氏名	担任	教科等	校務分掌	部・同好会	委員会	着任年月日
教諭	大澤昌嘉	1D	地歴・公民	教務・生徒指導	バレーボール		H10. 4. 1
〃	青木正吾	3B	数 学	教務・生徒指導	卓球・社交ダンス		H10. 4. 1
〃	涌井良幸	2H	〃	生徒指導	テニ ス		11. 4. 1
〃	内垣和男	4D	理 科	教 務	テニ ス		H 7. 4. 1
〃	下山浩一	1C	〃	教務・図書・ 生徒指導	バトミントン	評 議	7. 4. 1
〃	越牟田哲朗		〃	○教 務	サッカー・生物		10. 4. 1
〃	長谷川綾子	3C	保 体	生徒指導	卓 球	体 育	H 7. 4. 1
〃	石野武男		〃	○生徒指導	野 球	生活・体育	7. 4. 1
〃	稲岡やよい	2C	書 道	教 務	書 道		H 6. 4. 1
〃	菅生淑江	2E	英 語	生徒指導・総務	書 道	美 化	H 7. 4. 1
〃	若林伸彦	4C	〃	生徒指導	サ ッ カ		11. 4. 1
〃	市川宏子	4F	〃	生徒指導・教務	文 芸 ・ 演 劇		11. 4. 1
〃	白相和子	1B	〃	総務・生徒指導	美 術	編 集	13. 4. 1
〃	秋葉紀美子	○4A	家 庭	総 務	美 術		H 2. 4. 1
〃	生駒斌明	○2A	商 業	総務・生徒指導	陸 上	管 理	S61. 4. 1
〃	八角憲男	2F	〃	○総 務	情報ビジネス・陸上		H 8. 4. 1
講師	荻嶋美夕紀		数 学	教 務	バレー・バトミントン		H13. 4. 1
非常勤講師	鍛内信孝		国 語				H12. 4. 1
〃	山下迪也		地歴・公民				13. 4. 1
〃	小山真		理 科				9. 4. 1
〃	市川恵		〃				11. 4. 1
〃	門脇年宏		保健体育				12. 4. 1
〃	増子尚香		音 楽				5. 4. 1
〃	大堀郁子		美 術				7. 4. 1
〃	西東由美子		家 庭				2. 4. 1
〃	吉澤良子		〃				13. 4. 1
〃	大松勉		商 業				13. 4. 1
〃	野本まり子		養 護				13. 4. 1
事務長	小安弘子						H13. 4. 1
副主査	中村一恵						12. 4. 1
〃	長谷川文江						13. 4. 1
主 事	加藤美佐子						13. 4. 1
主任用務員	菊地奉文						S63. 4. 1

## 6 校務分掌組織

部	係	分 担	人 員
総務	総 務	儀式立案、学校要覧、職員会議録等	5
	渉 外	振興会、同窓会	2
	東 高 通 信	「東高通信」編集発行	3
教務	教 務	行事立案、教育課程、公簿整理、新入学転編入学、調査統計、コンピューター業務	8
	教 材 ・ 教 具	教科書、学習書、報告課題に関すること	5
	試験・単位修得	試験、単位修得に関すること	4
	スクーリング	面接指導に関すること、講師の連絡、使用教室等	2
	学 習 会	学習会に関すること	2
生徒指導	生 活 指 導	団体生活の心得、カウンセリング、同和教育、購買	6
	生 徒 会	生徒会、「雑草」に関すること	4
	特 別 活 動	夏季合宿研修・部活動・LHRに関すること	3
	進 路	進学・就職・奨学金に関すること	4
	健 康 管 理	学校保健に関すること、日本体育学校健康センター、美化清掃等	3
図書	図 書	生徒・職員の図書に関すること	2
	視 聴 覚	視聴覚に関すること	2

名 称	構 成	人 員
職 員 会 議	校長、教頭、事務長、教諭、講師、事務職員	32
運 営 委 員 会	教頭、事務長、各部長、各学年主任	10
インターネット委員会	教頭、教務部代表2名、各教科1名、視聴覚係1名、事務1名	6
協力校研究連絡委員会	教頭、教務部代表2名、関係教科の担当者	14
衛 生 委 員 会	校長、全日制職員、学校医、親和会代表1、衛生管理者1（3年毎）	6
管 理 委 員 会	各部代表1名、事務1名	4

※各係責任者は新年度当初に各係で協議して代表を決める。



## 7 生 徒 (平成13年5月1日現在)

### (1) 現 員

組	学級	男	女	計
1	4	117	165	282
2	8	245	283	528
3	4	129	148	277
4	6	163	204	367
5	1	50	35	85
計		704	835	1539
他に県職、刑務所の特科生がいる。				

### (2) 入学年度別内訳

年 度	男	女	計
平成3年度以前	17	4	21
平成4年度	2	2	4
5 "	6	4	10
6 "	7	3	10
7 "	14	7	21
8 "	12	7	19
9 "	27	29	56
10 "	71	90	161
11 "	96	145	241
12 "	192	227	419
13 "	260	317	577
計	704	835	1539

### (3) 生徒の年齢

年 齢	男	女	計
15 ~ 19	420	552	972
20 ~ 24	171	128	299
25 ~ 29	535	59	112
30 ~ 39	41	48	89
40 ~ 49	10	24	34
50 ~ 59	4	22	26
60 ~	5	2	7
計	704	835	1539

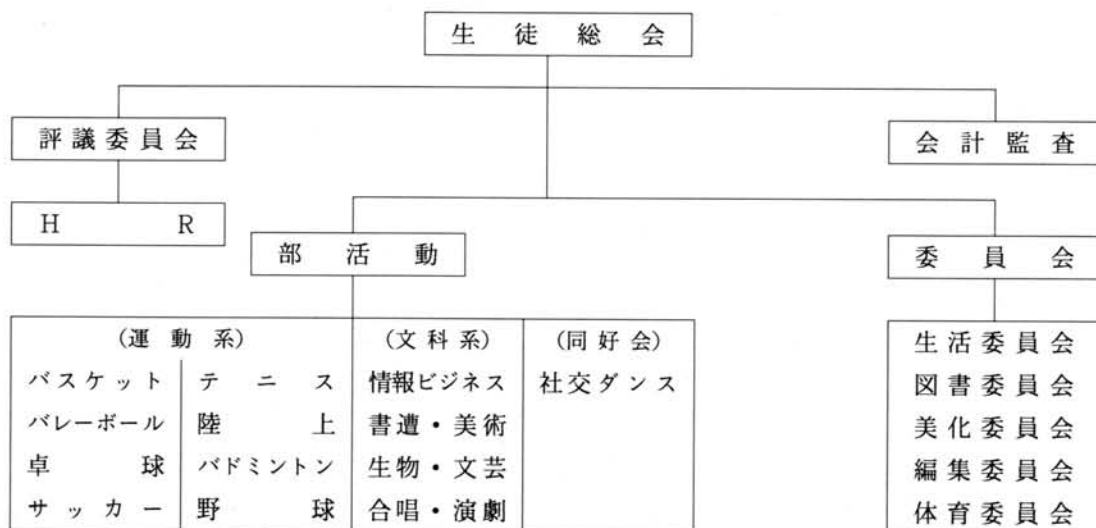


## 8 特別活動

### (1) 生徒会活動・部活動

少ない出校日数の中ではあるが、生徒会も健全な発展を示し、体育祭や合宿研修等に見事な活動を見せている。部活動は時間的に余裕がないため全員に強制はしていないが、現在、運動系8、文化系7、同好会2を持ち、定通大会等にも参加して立派な成績を残している。

### (2) 生徒会組織 H13年度分



(平成13年4月1日現在)

＝ 帽章の由来 ＝

「千」の文字と数葉のオリーブの葉でわが郷土「千葉」をかたどるとともに、その若葉は、生々伸長してまやない本校の意気と栄光とを象徴する。

CCはCorrespondence Course

(通信教育課程)の略である。



### (3) ホームルーム活動及び学校行事

「3 年間行事計画と日課表」参照

## 9 卒 業 生

年度	卒 業 生			卒業に要した本校での修業年数								
	男	女	計	3年 以下	4年	5年	6年	7年	8	9年	10年 以上	計
昭和 31～60	844	2,864	3,708	545	2,729	242	96	52	25	9	10	3,708
61	35	75	110	39	62	6				1	2	110
62	29	61	90	51	33	5	1					90
63	31	63	94	34	48	4	6		1		1	94
平成 元	40	71	111	42	55	8	2		4			111
2	43	84	127	51	60	9	2	1	4			127
3	60	73	133	62	56	7	6	1		1		133
4	64	90	154	74	60	11	6	3				154
5	62	88	150	75	63	5	2	4	1			150
6	79	112	191	104	70	7	2	3	1	1	3	191
7	57	101	158	77	68	7	2		2	1	1	158
8	79	115	194	99	68	10	4	2	6	1	4	194
9	74	133	207	132	67	1	3	1	0	2	1	207
10	83	114	197	116	58	10	6	2	2	2	1	197
11	95	147	242	118	85	14	13	4	1	1	6	242
12	99	148	247	149	78	10	4	2	1	1	2	247
卒業生 総数	1,774	4,399	6,113	1,768	3,660	356	155	75	48	20	31	6,113

# 東高点描



第一棟中庭側階段



体育館と格技館



野球グラウンド

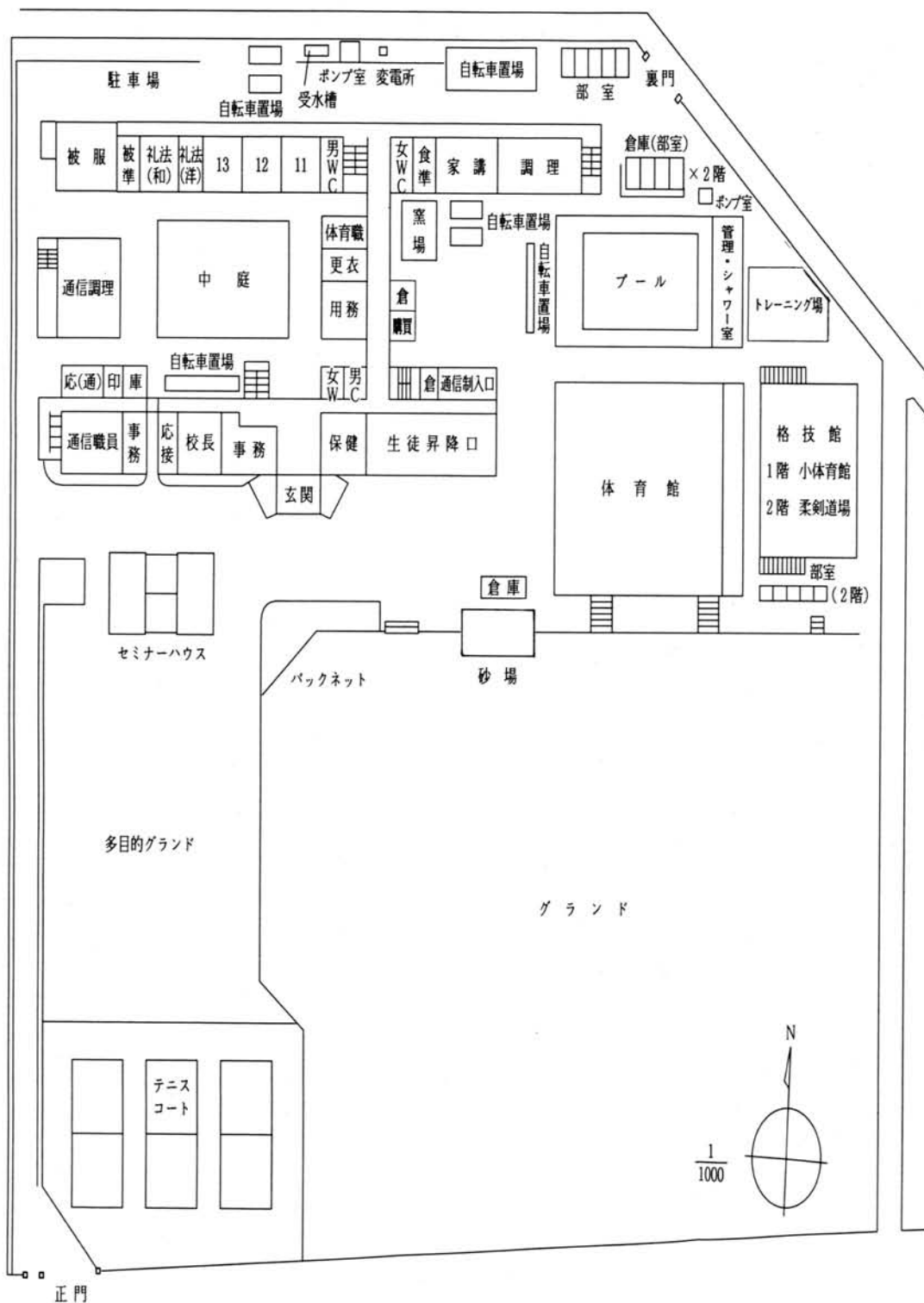


第二棟と第三棟

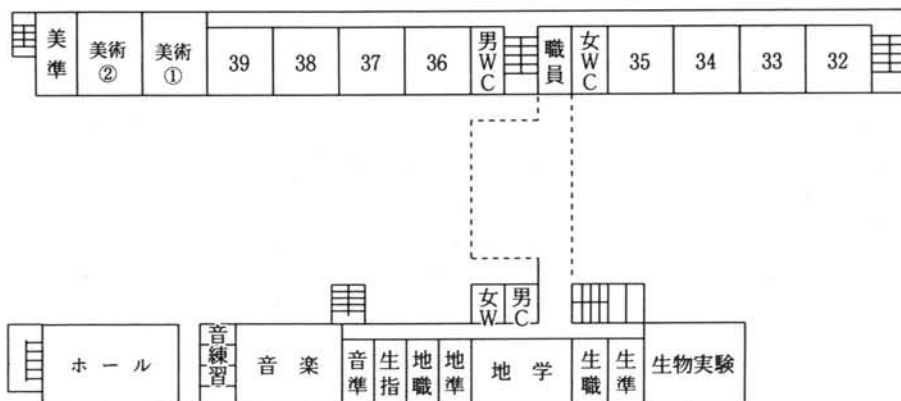


部室

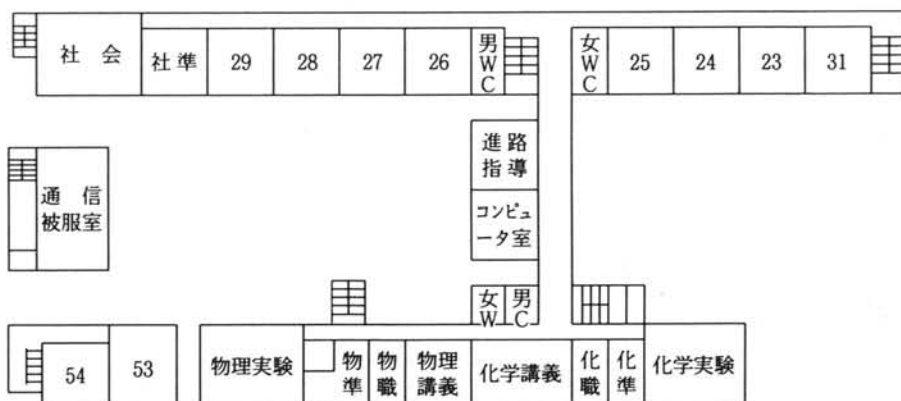
# 校舎配置図と平面図



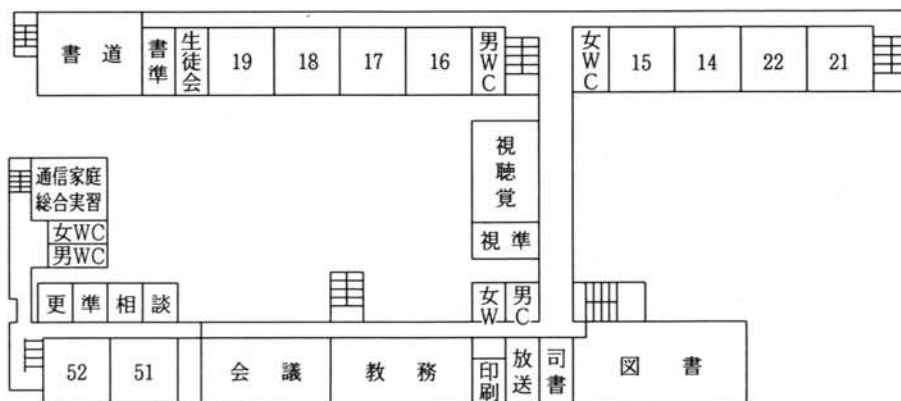
4 F L



3 F L



2 F L





### 三 職 員 一 覧

(1) 全日制職員名簿（常勤）

（平成4年度～平成13年度）

担当	氏名	旧姓	着任年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
校 長	嵐田 侑兒		平成 4	■	■	■							
	荒川 昇		7				■	■					
	長妻 孝治		9						■	■			
	曾川 定雄		11								■	■	■
教 頭	大島 起		3	■	■								
	下地 正信		6			■	■						
	須藤 武		8					■	■				
	樋口 眞孝		10							■	■		
	高野だいわ		12									■	■
国 語	武田健之助	成澤	昭和 59	■	■								
	坂井 幸夫		平成 1	■	■	■	■	■	■	■			
	犬田 勝昭		昭和 60	■	■	■	■	■	■	■			
	吉田 正		61	■	■	■	■	■	■	■			
	田邊 義博		平成 4	■	■	■	■	■	■	■			
	長谷川 充		昭和 62	■	■	■	■	■	■	■			
	上野 一仁		平成 1	■	■	■	■	■	■	■	■		
	北河 尚子		3	■	■	■	■	■	■	■	■		
	宇藤八重子		7				■	■	■	■	■	■	■
	勝又 邦夫		9						■	■	■	■	■
	大塚 好輝		10								■	■	■
	菱木みどり		10								■	■	■
	渡邊都詩記		10								■	■	■
	笹島 茂樹		11									■	■
	矢島 直美		11									■	■
善養寺千秋	12										■		
社 会	桜井 久温		昭和 52	■	■								
	鈴木富士夫		52	■	■								
地 歴	大谷 芳孝		平成 3	■	■	■	■	■	■	■	■		
	清水 攻		昭和 63	■	■	■	■	■	■	■	■		
	内田 寛		平成 3	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	馬場 勇		3	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	越川 芳雄		1	■	■	■	■	■	■	■	■		
	松村 謙		5		■	■	■	■	■	■	■		
	吉村 英和		6			■	■	■	■	■	■		
	鈴木 宏		9						■	■	■	■	■
	佐藤 光男		11								■	■	■
	植木 喜重		11								■	■	■
	廣井 修司		12									■	■
	宮崎 利久		13										■
	中川 雅彦		13										■
公 民	須藤 信夫		昭和 62	■	■								

担当	氏名	旧姓	着任年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度			
公民	外山 貢		昭和 61	[Bar]												
	野村 重夫		平成 9	[Bar]								[Bar]				
	藤平 真		11	[Bar]												
	片岡 勝規		13	[Bar]												
数 学	秋山 岩雄		2	[Bar]												
	金澤 正人		昭和 59	[Bar]				[Bar]								
	渡辺 陽		55	[Bar]				[Bar]								
	大田紳一郎		平成 4	[Bar]												
	高橋 勇雄		昭和 57	[Bar]				[Bar]								
	北河 貞治		58	[Bar]				[Bar]								
	向笠 勝也		60	[Bar]							[Bar]					
	長野 一徳		平成 1	[Bar]												
	梅井 泰宏		4	[Bar]												
	栗原 剛		5	[Bar]				[Bar]								
	田島 洋一		5	[Bar]				[Bar]								
	戸次 恒治		6	[Bar]					[Bar]							
	武藤 守夫		6	[Bar]					[Bar]							
	萩原 正男		8	[Bar]							[Bar]					
	沢田 健		12	[Bar]												
	佐藤 啓之		12	[Bar]												
小森 俊介		13	[Bar]													
理 科	吉川 哲		1	[Bar]				[Bar]								
	阿部 雅人		4	[Bar]												
	谷口 哲也		3	[Bar]							[Bar]					
	中山 俊彦		5	[Bar]				[Bar]								
	細川 信		8	[Bar]							[Bar]					
	林 久雄		4	[Bar]												
	土屋 修		昭和 59	[Bar]							[Bar]					
	伊藤 毅		平成 1	[Bar]							[Bar]					
	鶴沢 勝		8	[Bar]							[Bar]					
	曾野 学		8	[Bar]							[Bar]					
	中安 均		昭和 56	[Bar]						[Bar]						
	大迫 太		平成 1	[Bar]												
	高山 雅夫		7	[Bar]						[Bar]						
	木村 孝康		13	[Bar]												
	鈴木芳之助		1	[Bar]												
	芳賀 良治		13	[Bar]												
保 体	穴倉 健司		1	[Bar]												
	古市 純久		昭和 53	[Bar]				[Bar]								
	木村 香住		63	[Bar]												
	津島 英也		平成 2	[Bar]												

担当	氏名	旧姓	着任年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
保体	富田 慶一		平成 2										
	小出 秀樹		4										
	押塚 功明		4										
	矢代 正人		5										
	加藤ひで子		8										
	藤田 勝美		11										
	皆川 修一		12										
	張能 正昭		12										
芸術	平松 生夫		昭和 54										
	宮負 一昭		平成 2										
	小川 巧		4										
	嘉村 英子		8										
	林 一己		12										
英語	石田 三男		2										
	吉田 秀樹		昭和 55										
	辻村 民雄		平成 4										
	池田 和夫		1										
	菅野 政敏		1										
	先田賢紀智		2										
	内田久美子		4										
	松本 孝		2										
	坂本 光雄		4										
	古水 裕之		5										
	布施 明人		6										
	橋本 眞		6										
	住田 健司		6										
	古谷 成通		9										
	久保田信子		12										
	竹林 靖浩		12										
平澤 憲彦		13											
山口 久美		13											
家庭	倉内くに子		昭和 59										
	秋葉ひろみ		平成 4										
	長嶋由美子		7										
	小久保法子		11										
養護	大石 恵子		昭和 60										
	田上あゆみ		平成 10										
実助	玉上 玲子		昭和 55										
	丸田 一朗		平成 10										
	村上久美子		7										
事務長	高浦 昌洸		2										

担当	氏名	旧姓	着任年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
事務長	近藤 公壽		平成 6			■	■	■					
	国吉 従子		9						■	■			
司書	古川 博則		11								■	■	
	小安 弘子		13										■
事務	佐瀬八重子		昭和44	■	■	■	■	■	■				
	深山 裕子		平成10							■	■	■	■
用務	橋本 尚美	緑川	3	■	■	■							
	長谷川好美		7				■	■	■	■			
用務	何木 美子		11								■	■	■
	佐久間好美		4	■	■	■							
	田中 千香		3	■	■	■	■	■					
	青木 啓子		2	■									
	宮崎 寿文		5		■	■	■						
	松島 美香		7				■	■					
	渡部 美京		8					■	■	■	■		
	山田 真也		9						■				
	岡崎 直美		10							■	■	■	■
	細田 義之		10							■	■	■	■
	吉松さおり		12									■	■
	福田 昭雄		昭和55	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	木村 幸枝		53	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

(2) 全日制職員名簿（非常勤）

担当	氏名	教科	着任年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
非常勤	宮川 若葉	国語	平成 5		■								
	西田 一幸	保体	5		■	■							
	柳橋 宏昭	保体	7				■						
	斉藤 暁史	公民	12									■	
	上林 美恵	英語	1	■									
	小出 和昭	国語	3	■									
	千葉紀維子	家庭	4	■									
	海寶 洋造	社会	5		■	■							
	加藤久美子	養護	11								■	■	
	山下 迪也	地歴	11								■	■	
委嘱講	吉澤 良子	家庭	13										■
	宮内美智子	茶華道	昭和42	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	榎本 潤	音楽	平成 5		■	■	■	■					
臨任	波々壁和子	事務	3	■									
	永島 和子	事務	3	■									

## (3) 通信制職員名簿

(平成4年度～平成13年度)

担当	氏名	摘要	着任年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
校長	嵐田 侑兒			■	■	■							
	荒川 昇						■	■					
	長妻 孝治								■	■			
	曾川 定雄										■	■	
教頭	屋代 貞夫			■	■	■							
	秋山 和意						■	■					
	岡田 博								■	■	■		
	湯目 千津											■	■
国語	藤形 友香		平成元	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	金子 純一		平成2	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	行木 康夫			■	■	■							
	花田 伸						■	■	■	■	■	■	■
	口澤 弘							■	■	■	■	■	■
	小關 ゆかり											■	■
	鳥飼 芳子											■	■
	中山 博子	非常勤	平成3	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	海保 みつ子	〃				■	■						
釧内 信孝	〃										■	■	
社会	成瀬 博道		昭和63	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	佐々木 清一		平成3	■	■	■							
	足立 健			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	倉部 信一			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	大塚 健生					■	■	■	■	■	■	■	■
	下永 義明							■	■	■	■	■	■
	飯塚 恵一							■	■	■	■	■	■
	鳥海 輝久								■	■	■	■	■
	大澤 昌嘉									■	■	■	■
	鶴沢 謹爾	非常勤	平成3	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	山下 迪也	〃											■
	数学	平野 正明		昭和63	■	■	■	■	■	■	■	■	■
下村 國生			平成元	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
青木 正吾									■	■	■	■	■
涌井 良幸										■	■	■	■
萩嶋 美夕紀		講師											■
山田 力三郎		非常勤	平成元	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
子安 良一		〃		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
池田 有美子		〃				■	■						
理科	恒吉 謙一		昭和56	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	渡辺 哲		平成3	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	入村 信博		平成3	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

担当	氏名	摘要	着任年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度		
理科	澤田 一成	非常勤													
	内垣 和男														
	下山 浩一														
	越牟田哲朗														
	斎藤正一郎														
	子安 昌信														
	斎藤 勇														
	小山 真														
	市川 恵														
保健体育	中馬加奈子	講師 非常勤	平成 3												
	長谷川綾子														
	石野 武男														
	中村 裕之														
	松崎 光余														
	山崎 昌聡														
	渡辺 大三														
	加賀美 誠														
	福島 康介														
渡邊 秀樹															
門脇 年宏															
英語	倉本宏一郎	講師	昭和 60												
	秋山 久子		平成 元												
	鎮守 敬次		平成 3												
	菅生 淑江														
	若林 伸彦														
	市川 宏子														
	白相 和子														
	山本 学														
家庭科	秋葉紀美子	非常勤	平成 2												
	西東由美子		平成 2												
	吉澤 良子														
商業	生駒 斌明	非常勤	昭和 61												
	川内 浩二		平成 元												
	三好 哲也														
	八角 憲男														
	大松 勉														
書道	佐野 恵子	非常勤	平成 3												
	稲岡やよい														
音楽	田淵真奈美	非常勤	昭和 63												
	増子 尚香														
美術	依田 鏡子		昭和 62												



担当	氏名	摘要	着任年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
美術	大堀 郁子	非常勤											
養護	野本まり子	非常勤	平成 3										
事務	高浦 昌洸	事務主幹	平成 2										
	近藤 公壽	〃											
	国吉 従子	〃											
	古川 博則	〃											
	小安 弘子	事務長											
	川崎 寛子	副主査	平成 3										
	小高久美子	主 事	平成 3										
	地引由紀子	〃											
	磯野美由紀	〃											
	渡辺 弘	主任主事											
	田中 千香	主 事											
	永野美保子	〃											
	中川 映子	〃											
	佐々木桂子	副主査											
	永嶋 和子	臨任主事								10月		12月	
中村 一恵	副主査												
長谷川文江	〃												
加藤美佐子	主 事												
主任用務員	菊地 奉文		昭和 63										



## 編集後記

年表「東高この10年」全日制の部は、主に総務部の書棚に収蔵されていた「学校要覧」「PTA新聞」と教務部が作製した「行事日程表」そして小生が毎日記録した教務手帳をもとにして、年度毎に本校の最も重要な出来事や社会的に問題になった事柄などを抽出し、編集したものである。

この十年で施設設備面では、校舎の改修や耐震工事、トレーニング場の建替等が行われた。紙面に表すことが難かしかつたが、情報化も進んだ。特にパソコンやそのソフトの進歩は革命的で、校務や授業の有様も多大な影響を受け変容した。平成十三年度には、LANが校内に配線されノートパソコンが教室に設置されて、校内の情報化も新たな段階に達したことを私達に示した。その他に取り上げなかったが、少子化や私学進学校の台頭などの影響も大きいと思う。

写真を多用した記念誌にするという方針は、多くの先生方の協力を得て、部活動の記録や国際協力の記録の部分で顕著である。また、年表「この10年」の章では、本校のアルバムを製作して頂いているイトウ写真館が、十年間のアルバム中の写真を接写して、あるいは手持ちの保存用写真を提供して下さったりして編集委員の要求に応えてくれた。口絵は生徒を中心に、すっきりとしたものに仕上げた。校舎の表情は東高点描の頁に、また生徒の活動を表わす写真も余白を生かして掲載した。この記念誌は平成十一年度から立案され、年度毎に引継がれて製作されたものである。次にその経緯を示す。

### 記念誌の編纂に関わる経緯

平成十一年度に創立六十周年記念事業の準備委員会が組織され、教頭

を中心に五十周年記念事業を参考にして、六十周年記念事業の原案が検討された。記念誌はその中で骨子が固った。次に平成十一年以降年度毎に記念誌関係の活動を述べる。

### 平成十一年度

(委員会の名称と委員) 六十周年記念準備委員会、(委員長) 鈴木芳之助(副委員長) 全日制・大塚好輝、通信制・八角憲男(委員) 全日制教頭・樋口眞孝、通信制教頭・岡田博、事務長・古川博則、総務部・高山雅夫、通信制・金子純一、教務部・細川信

(記念誌のねらい) 最近十年間の記録誌とする。(予算) 二〇〇万円程度。(記念誌を担当する組織) 同窓会、PTA、振興会、全通教職員から、創立六十周年記念事業実行委員会を組織する。その中に事務局を置き、業務を担当する専門委員会を設置する。記念誌を担当する専門委員会を「記念誌編纂委員会」とし四名の委員を充てる。

### 平成十二年度

(記念誌編纂委員会) 代表(図書部長) 馬場勇、(生徒会指導部長) 小出秀樹、(進路指導部長) 大田紳一郎、(通信制) 若林伸彦、以上四名。(記念誌の仕様) 主旨と予算から記念誌の仕様をつくり、印刷業者を決定し、原稿依頼の人選と記念誌作りの日程の原案を作成した。次にその内容を示す。

(発行時期) 平成十四年三月、(判型・装丁) B5判、軽装丁、(頁数) 百五十〜二百頁、(発行部数・頒布対象) 千二百冊、県教委、県立学校、同窓会、振興会、PTAの役員、現旧職員、以上無料頒布分六百冊、一般同窓会員、PTA会員、その他の有料頒布分六百冊(編集内容・構成) 東高この10年「平成四年度から十三年度まで」の歩みを、正確な記録の保存、整理と、写真を多用した構成で編纂する。(回想の執筆者) 平成

四年と十二年の歴代校長と旧職員とする。(業者の選定) 仕標書を作成して見積りを取り、比較検討して原案を作り実行委員会に提案し決定した。(原稿用紙) 割付け用紙と共に発注し入手した。

### 平成十三年度

記念誌編纂委員が人事異動等で全員交替した。委員を次に示す。

代表(図書部長) 林久雄、(生徒会指導部長) 小川巧、(進路指導部長) 田島洋一、(通信制総務部長) 八角憲男、以上四名。

(引継) 実行委員会の事務局長・高野だいわ教頭から、前年度までの決定事項を受け継ぎ、新委員で編纂の方針、内容を確認し具体的な作業に移った。(日程表) 宮坂印刷と打ち合わせをもち、製作の日程を策定した。(原稿依頼) 原稿は十一月に挙行される記念式典、祝賀会、十二月実施予定の芸術鑑賞会を二次原稿とし、その他を第一次原稿と区分した。第一次原稿を依頼するに当り、記念誌編纂の主旨、内容と構成、日程表を明らかにして執筆者に原稿依頼した。一学期末までに原稿依頼を終え、九月上旬にはほぼ予定した原稿が宮坂印刷に入稿できた。(追加した内容) 記録の章に校務分掌の部と各教科の部を加えた。生徒会の委員会の活動は紙数の制約のために加えることができなかった。(校正等) 第二次の原稿も含めて、校正作業は三次まで全職員で実施した。

その他多くの事項があるが割愛させて頂く。この記念誌は前述のとおり、平成十一年度に企画し、十二年度に準備し、十三年度に具体化されたもので、多くの関係者が力を合わせて創り出したものである。本校を愛する人達の想いが結晶化してこの記念誌になったように思えてならない。

最後に、編纂委員を代表して、お世話になった関係者に御礼を述べさせて戴くとともに深く感謝申し上げます。特に宮坂印刷様及びイトウ写真館様には、優れた技術と経験をこの記念誌に注いで戴きました。有難うございました。

(文責・林 久雄)

記念誌編纂委員



前列(写真右から)

後列

田島 洋一  
林 久雄  
八角 憲男  
越牟田 哲朗  
小川 巧

記念誌



十年誌	昭和二十六年十一月二日	A 5版	二五頁
二十年誌	昭和三十六年九月一日	A 4版	四二頁
三十年誌	昭和四十七年三月十日	A 5版	二四六頁
四十年誌	昭和五十七年五月十五日	A 5版	三七四頁
五十年誌	平成四年三月二日	A 5版	四五八頁

創立六十周年記念誌

平成十四年三月一日 発行

編集 千葉県立千葉東高等学校

〒263-0021 千葉県千葉市稲毛区轟町一―八―五二  
電話 ○四三(二五二) 九二二一

題字 林 一己

カット美術部 藤平 早紀

山内ひとみ

写真提供 イトウ写真館

印刷 南宮 坂 印 刷  
千葉市稲毛区轟町一―八―十六  
電話 ○四三(二五二) 四五三七